

伊藤理くんのお母様

【入試結果】

今回の受験では、以下の結果となりました。

1月10日	開智所沢中学校（一般入試）	⇒	合格
1月11日	開智所沢中学校（算数特待）	⇒	不合格
2月 1日	武蔵中学校	⇒	不合格
2月 2日	桐朋中学校	⇒	不合格
2月 3日	都立大泉高等学校附属中学校	⇒	合格

合格・不合格の両方を経験する受験となりましたが、最後まで諦めずに走り切ることができました。

【入塾のきっかけとスタート】

5年生の7月上旬に行われた小学校での個別面談で、担任の先生から中学受験を勧めていただいたことがきっかけでした。

本人も意欲を見せたので、塾を早急に探さなければ…と考えていた時、子どものかかりつけ医で順番待ちをしていたことがありました。病院に置いてあった雑誌（中学受験・狂騒曲というテーマでした）をふと見たら、アントレが載っておりました。かかりつけの先生からその雑誌をいただいて、家でその雑誌と、アントレのホームページをじっくり読み、心に残りました。受験を考え始めた時に、偶然出会えたご縁も感じ、アントレの門をたたきました。

5年生の夏期講習から入塾し、Cクラスからのスタートでした。夏期講習前に算数の教材（四谷大塚の予習シリーズ）をひと通り解いてくるように言われましたが、最初はほとんどわからず、毎日泣きながら、夫と問題に向き合っていました。泣いてはいましたが、泣き言は一言も言わなかったことが、とても印象深く残っています。

夏期講習前は不安になることも多く、決して順調なスタートとは言えませんでした。両親ともに中学受験の経験はありましたが、時代も変わり、我が子の受験となると勝手も違い、戸惑うことばかりでした。

【成績の推移】

5年生の後半にBクラスへ上がり、6年生からはAクラスとなりました。目標にしていたSクラスにはなかなか届きませんでした。

四谷大塚の合不合格判定テストでは、6年生を通して4教科偏差値は、おおむね50前後を歩き来する状態が続きました。大きく崩れることはありませんでしたが、目に見えて伸びているという実感もなく、本人ももどかしさを感じていたと思います。

算数は、家では解けているような問題が、模試になると解けなくなることも多かったので、長男は凄く悔しがっていました。実力不足であったことは否めませんが、本番特有の緊張感や時間配分の難しさに、親子共々課題も感じていました。

【6年生夏の転機】

6年生の夏期講習1週目が終わった頃、算数の力をもう一段引き上げるために、演習量を増やしてみないかと本人に提案しました。アントレでの勉強が楽しかったはずの長男が、しんどそうにしていたからです。意外にも前向きな反応があり、「やってみたい」と意欲を見せてくれました。

アントレでの勉強を疎かにしないことを約束して、夏にまず、『算数プラスワン問題集（東京出版）』に取り組みました。面白かったようで、こちらは1週間かからず、やりきることができました（ミスした問題も少なかったです）。

プラスワン問題集が終わってからは、「中学への算数」に取り組みました。最終的に1年分取り組み、特に苦手としていた場合の数、2年分解きました。「中学への算数（東京出版）」はまた一段と気に入

ってくれ、凄く意欲的に取り組んでくれました。「今日、解いた問題はこういった問題で、こうやって解くんだよ」という解説も、日々、楽しそうにしてくれました。

「中学への算数」はミスする問題も多かったのですが、夏以降は、間違えてしまったことをイライラせず受け止めて、どこで躓いたのかをきちんと自分自身で考察していました。その姿を見て、長男の成長を感じました。

図形分野ももっと勉強したいと長男から言われたので、「カードで鍛える図形の必勝手筋」にも取り組みました。

これらの問題集は、すべて長男と話し合いながら、本人が選んで決めて、購入しました。長男の中で、「自分で選び、決めて、取り組む勉強」という姿勢が芽生えたことが、この夏の大きな変化だったのかな、と思います。

【冬期講習でのSクラス入り】

6年生の冬期講習から、お試しという形でSクラスに入る機会をいただきました。これまで何度も目標にしながら届かなかったクラスであったため、本人にとっても大きな挑戦でした。

実際に授業を受けてみて、Sクラスの内容についていけると認定していただき、1月もそのまま在籍することができました。念願だったSクラスで受験直前期を過ごせたことは、何よりも長男の自信に繋がったと思います。

【志望校変更と不安の中での挑戦】

受験校を最終的に決定したのは12月でした。受験校の変更に伴って土曜日の入試演習も、それまでの男子上位から武蔵へ変更しました。しかし、4回の演習すべて不合格判定となり、不安を抱えたまま本番を迎えることになりました。

長男も気にはしていましたが、「今、できることをやる」と、淡々と机に向かい続けていました。

【ミスへの向き合い方】

1月に受験した開智所沢の算数特待入試では、準特待まであと5点という結果でした。不合格という結果を見て、すぐに解き直しをした長男。単位の読み違いにより、大きな失点をしていたようです。ミスをミスのままで終わらせるのではなく、どうしたらこのようなミスを防げるか、自分で考えてみるよう長男に伝えました。そして、自分なりの対策を考えた長男は、「明日タケノコに、これでいいか話してくる!!」と笑顔で言い、気持ちを切り替えていました。

点数だけではなく、ミスとどう向き合うべきかを受験本番で学べたことは、大きな成長に繋がったのだと思います。

【本番三日間】

2月1日、第一志望の武蔵中学校を受験しました。

試験後は多くを語らず、帰宅してからは、布団をかぶって静かに泣いていました。それだけ、この日にかけてきた思いが大きかったのだと思います。

2月2日の桐朋中学校では、「今日は解けた!!」と笑顔で試験会場から出てきました。しかし、結果は不合格。手応えと結果が結びつかない難しさを、改めて感じました。

そして、2月3日の都立大泉高等学校附属中学校。「簡単だった!!」と、また笑顔で出てきました。前日の経験があったため、親としては不安の方が大きく、正直、半信半疑の気持ちで結果を待ちました。2月9日まで、長かったです…。

【都立対策について振り返って】

都立対策は、十分にできていたとは言えません。12月中旬から3日に一度くらいの頻度で作文を書き始め、適性検査ⅡとⅢは、冬期講習が終わってから、1日1問ずつ解く程度。適性検査は、本人が自分から取り組むタイプではなかったため、私が声をかけながら進めました。作文の添削は夫、適性検査ⅡとⅢは、私と一緒に話しながら取り組みました。過去問は3年分くらい解きました（長男曰く、適性検査Ⅰの小問①と②は、アントレで国語の勉強をしていれば点数が取れるそうです）。

12月からの受験勉強の中心は、あくまで武蔵対策でした。特に記述問題には時間をかけ、考えを言語化する練習を繰り返していました。冬期講習からは、睡眠・食事・お風呂以外は1日中、勉強していました。1月は、Zoom自習室にもかじりついていました。

結果として都立中学に合格できたのは、この記述対策の積み重ねが土台になっていたからではないかと感じています。努力は形を変えて実を結ぶこともあるのだな、と思いました。

都立中学の受験となると、報告書の方も気になってくると思いますが、長男の小学校での成績は決して良いものではありませんでした。5年生の頃は「3」よりも「2」の方が多く、6年生になってから努力して少しずつ上がりましたが、それでも副教科は「2」の方が多かったです。都立中高一貫校は成績が重視されるとよく耳にしますが、成績だけで可能性が決まるわけではなく、努力の積み重ねや本番の適性検査で発揮した力は、きっと評価していただけるのではないかと個人的に思いました。

【受験を終えて】

親としては、都立大泉に合格できたことを心から嬉しく思っています。しかし長男にとっては、武蔵中学校に届かなかった悔しさの方が大きいようでした。

アントレの合格速報を見て、「すごいな。いいな。」と嬉しそうに話す一方で、自分が合格できなかったことを心から悔しがる姿もありました。その姿を見て、この受験にどれだけ本気で向き合ってきたのかを改めて感じました。

親としては、「もっと早く塾に通わせてあげていたら違ったのだろうか…」など、考えてしまうこともあります。それでも、限られた時間の中で、全力を尽くしてくれた長男に、心からありがとうと伝えたいです。小さな弟妹がいるにぎやかな家庭環境の中での受験勉強でしたが、その中で本当によく頑張ってくれたと思います。思うように結果が出ない日も、悔しさに涙した日も多々ありましたが、それでも逃げずに挑戦し続けました。その姿は、親にとって何よりの誇りです。

この一年は、どこにも連れて行ってあげられなかった下の子たちも、文句ひとつ言わず、兄を応援してくれていました。家族全員で乗り越えた受験でした。

第一志望には届きませんでしたが、本気で努力した経験、努力しても手に入れないものがあるという悔しさを知った経験は、これからの長男の人生の大きな糧になるはずです。

そして、最後まで長男を支えて下さったアントレの先生方に、心より感謝を申し上げます。

試験当日、アントレの先生方がZoomで応援の時間を作ってくださいました。緊張していた息子にとって、先生の顔を見て声を聞いたことは、大きな安心に繋がりました。不安でいっぱいだった息子の表情が、先生たちの姿を見た瞬間にやわらいだことは、忘れられません。最後まで寄り添い、支えて下さり、本当にありがとうございました。

内田小春さんのお母様

【入塾のきっかけ】

小3の夏からお友達の後を追う形で栄光ゼミナールに通っていましたが、5年生になり宿題が4科目とも結構多く、コツコツタイプではない娘には向いてなさそうだなと思いはじめたこと、算数が苦手なので、算数重視のカリキュラムのほうがいいのではないかと思ったことから、いろいろ探した結果アントレにたどり着き、GW明けに体験授業を受け、本人もアントレがいい！とのことで転塾しました。実は4年生のときにも体験授業を受けたのですが、そのときはなぜか娘にハマらなかったようで、母としては後ろ髪をひかれながらも見送りとなったため、三度目ならぬ二度目の正直の転塾となりました。

【志望校選びについて】

ミュージカルや演劇に興味があり、演劇部に入りたいという夢があったため

- ・演劇部が盛ん
- ・家から近い
- ・制服がかわいい

という娘の要望を叶えられるかつ、レベル的に頑張れば手が届きそうな学校ということで、最終的に日大二中、富士見、日大豊山女子が候補になりました。特に日大二中は夫の母校でもあり、演劇部の公演を見に行ったり、学校見学に訪れた際に気さくな先生に話しかけていただいたりと、おおらかな雰囲気がとても気に入ったようでした。

【入塾後のクラスや成績】

最初に入ったのはBクラスでしたが、直後のまとめテストの算数が9点という衝撃の結果を見て「授業中も白板の問題に答えられずつらそうにしているので、Cクラスのほうがいいのではないのでしょうか」というお電話をいただき、本人とも話し合い夏期講習からCクラスに（算数以外はBクラス）。よく見てくださっているなどありがたい対応でした。

6年生の最後のまとめテストで良い成績をとり、Bクラスに移動しました。入試演習は志望校のレベルに合わせて中堅クラスを取りました。安定して合格を取っていましたが、過去問が進んでいなかったこともあり、お休みすることも多かったです。冬期講習後の最後のクラスは、本人の希望でCクラスにて受講しました。

また、合不合の結果ですが、5回通してあまり大きな変動はなく平均4科偏差値は50.1でした。

【勉強の仕方について】

算数：白板の解き直しを中心にやっていました。授業でやった白板を次の日に解き直し、まとめテストの直前は範囲になっている白板を一通りやり、間違えたものを解き直す、ということを繰り返していました。6年生になってからは「4科のまとめ」が宿題にもなっていたので取り組み始め、3回は繰り返したかと思いません。

国語：文章を読むのが好きなせいかわりにあまり躓いたことがなく、漢字・語句に絞ってやっていました。

社会：授業でやったコアプラスまとめテストの解き直しを直前までひたすら繰り返していました。極度の面倒くさがり、コツコツ暗記をするのが本当に苦痛なタイプだったのですが、クイズ形式にするとまだマシ、ということで早押しボタンを買ったりして一緒に覚えるようにしました。

理科：本人いわく一番苦手で、親としても不安を感じていた科目でした。後期から先生の勧めで個別を受講しはじめ、苦手な分野はそこで補講してもらいとても助かりました。日々の取り組みとしては社会と同じく、授業プリントを繰り返していました。後期にいただいた中堅校にしばった計算分野の対策プリントもありがたかったです。

【過去問について】

夏休みから過去問に取り組み始めました。

娘は過去問をするのが本当に嫌だったようで「過去問やるよ」というと険悪なムードになるのでなかなか進まず焦りました。一緒に解いて点を競ったりしてなんとか2026年度の過去問1冊（5年分×2回分＝合計10回分）をやるので精一杯でした。

当初第2志望にしていた富士見ですが、なかなか志望度が上がらず、かつ算数の過去問を解いてみてその難しさに心が折れたのか、富士見が志望からはずれ、とにかく日大二中が本命、抑えとして日大豊山女子という受験方針がかたまりました。

ほぼ第一志望しか受けない受験に不安はありましたが、この嫌がりようでは過去問対策を2校、3校と走らせるのは不可能と判断しました。

1月には算数と理科の過去問の解き直しを行ったのですが、1回目を上回ることもあれば20点も下回ることもあり、大変ハラハラしました…。

過去問の結果→合格者最低点を上回った回：6/10

【直前期について】

前受けとして1/10に西武学園文理中を受けました。事前に過去問を一度解いたところ、算数が若干クセがある問題なこともあり、あまり点数が取れず焦りましたが、無事合格をいただきホッとしました。

1/19～感染対策もあり小学校をお休みしました。

とにかく算数と理科に関しては穴である単元をプリントや過去問を解きながら探し、基礎に戻ってやる、国語と社会は覚えていることを忘れないように漢字や語句をひたすら繰り返すという方針にしました。

1日の予定表を私の方で朝用意し、それにそってやってもらうという形式で、午前中は計算、算数4まと、漢字、社会、理科の授業プリントの解き直し、午後は算数・理科の過去問の解き直しという内容でした。

もちろん、やることをやったら好きなことをしていいよという約束でしたが、本番1週間前に突然小説を書き始めたり『呪術廻戦』のアニメを見始めたりしてこちらは発狂するかと思いました。

今までずっと、「過去問や入試の結果からも合格する力は十分あるから、油断しなければ絶対受かるからがんばろう」と前向きな言葉をかけていましたが、本番3日前に思わず「結構、崖っぷちだと思うよ」と言ってしまいました。

直前にネガティブなことを言ってしまった…と後悔しましたが、それからの3日間は本当に集中して、わからない問題や解き直しが発生してもふてくされてしまうようなこともなく、受験生生活を通して一番真剣に勉強していました。

【受験当日について】

2/1の日大二中の試験ですが、国語は手応えあり、算数が難しくて絶望、社会と理科はまあまあという娘の感想でした。引率した夫によると、試験が終わって出てきた子どもたちが「算数 難しかった…」と言っていたとのことだったので、もしかしたら算数以外の科目の出来で合否が決まったのかもしれない。

問題を見てみると、理科の問題で直前の3日間で必死に解き直した入試演習の問題と似た問題がでており、偶然ではありますがやってよかった…と思いました。

娘は本番に強く、楽観的で切り替えの早い性格でしたので、当日のメンタルの心配はそれほどなかったのが幸いでした（それでも当日は緊張したようでした）。

【最後に】

娘の受験は、偏差値が足りている学校のみを受け2/1に順当に合格をいただくという、結果だけに目を向ければ波乱のない受験のように見えるかと思いますが、本来勉強が好きなタイプでは全くない娘が、お友達と遊ぶことを我慢して勉強を続けるのは大変だったかと思います。

親としては、もう少し高い目標を設定して、そこに向かって限界まで頑張る、という経験をさせてあげられたほうがよかったかな？という後悔もあるのですが、本人が自分で目標を見つけ、その気にならなければ意味がないとも思います。現時点での精一杯で第一志望の学校の合格を掴み取った娘は本当に頑張ったと思いますし、これからの学校生活で新たに頑張る意味を見つけてくれたら…と思い、見守ることにします。

改めまして、2年間大変お世話になりました。

アントレに通うのは楽しかったようで、おかげで娘もなんとか最後まで走り抜けられたのかなと思います。楽しい授業をありがとうございました。そして、心配性が限界を迎え「受かる気が全くしません…」と相談した際には、落ち着く言葉をかけていただき井手先生には大変感謝しております。

今後のアントレの発展を心よりお祈りしております！

奥山紘くんのお父様

【受験結果】

1月10日	午前	西武学園文理中学校	合格 (A 特待)
	午後	西武学園文理中学校 (特待)	合格 (A 特待)
2月 1日	午前	中央大学附属中学校 (第一志望)	合格
	午後	明治学院中学校	合格
2月 2日	午前	芝浦工業大学附属中学校	合格

【入塾】

3年生まで通っていた学童をやめるタイミングで、学童の時間を埋めるために、塾に通わせることにしました。また、当初から中学受験を視野に入れていたため、学習塾ではなく進学塾を選びました。いくつかの塾を体験しましたが、アントレは予習がメインであることから、受験後の学校生活でもその習慣を生かすことができると考え、アントレに入塾することにしました。

【4年生～5年生】

家庭での学習は、保護者会で配られるプリントに記載の項目を基本にして1日のノルマを決め、学習させることにしました。しかし、ノルマを決めてしまうと、それ以外は学習をしないデメリットもあるかと思えます。入塾当初はCクラスからスタートし、その後Bクラスに上がりました。当面はBクラスで基礎学力の向上を図ることになるのではと考えていましたが、早い段階でAクラスへあがる話をもらうことができました。Aクラスへの上がることについて、本人も親も授業について行けるか心配でしたが、第一志望が中央大学附属中学校であったことから、いずれはAクラスに上がる必要があると考えていたので、この機会にAクラスに上がることにしました。しかし、授業にはついていけないものの、まとめテストで思った成績が出ず、まとめテストの成績は常に下の方でした。そのため、先生に相談したところ、一度環境を変える事で状況が変わる可能性もあると助言をいただいたので、再びBクラスに下がることにしました。

【6年生】

Bクラスではある程度成績を残すことができてきたので、再度先生に相談したところ、志望校を考えるとAクラスで授業を受けた方がよいとの事であったため、夏期講習前までにはAクラスに戻れるように、まとめテストに向けた学習を進めることにしました。その結果、夏期講習からAクラスに上がることができました。先生の助言のとおり、一度Bクラスに下がったことが良かったのか、その後はAクラスのまとめテストでも、一定の成績を残す事ができるようになりました。しかし、四谷大塚の合不合テストでは中央大学附属中学校は最高でもB判定、最後の結果もC判定でした。

【冬期講習～受験前】

家庭学習では、塾で出たテストや白板の復習を中心に進めました。また、中央大学附属中学校を含む過去問も取り組み、中央大学附属中学校は2周行い、2回目では7割程度取れるようになりました。しかし、年が明けても本人のモチベーションが上がらず、机になかなか向かえない状態が続きました。そのため、隙間時間を含め、学習内容を決めることで、机に向かう時間を増やしました。さらに、年明けからは、毎日朝早く起きるようにし、受験本番へむけた生活リズムを整えていきました。

【最後に】

終わってみて感じたのは、第一志望の学校に入りたいという気持ちを本人に持ってもらうことが、いかに重要かということでした。本人が最初から決めた学校であれば問題ないと思いますが、我が家は子どもの希望(付属校・共学・自由な校風など)を踏まえ親が提案して学校を決めた経緯があるので、本人に「絶対に第一志望の学校に合格したい!」と思ってもらうために苦労しました。学園祭や学校見学に連れて行くなど、勉強以外でも受験に対するモチベーションをあげることが必要だと感じました。そのモチベーションが特に家庭学習を進める上では大切になると思います。

結果として、第一志望を1日目に合格できて本当に良かったです。本人が努力してつかんだ結果だと思えますが、その頑張りをどう引き出すかは、やはり親として大切な役目だと感じました。

おかげさまで、思っていたよりもスムーズに合格をいただくことができました。ここまで支えてくださった塾の先生方には、心より感謝しております。本当にありがとうございました。

佐久間亮翔くんのお母様

0. はじめに

わが子の受験を振り返ってみると、一言でいえば母と子の青春でした。子供は1ミリも思っていないですが、(家族構成)

子：精神的に幼い、落ち着きがない、野球大好き、友達との遊び大好き、算数好き、ロングスリーパー

母：ずぼら、Kpopアイドル好き、旅行好き

弟：兄大好き、隙あらば兄と遊ぼうとする

父：受験にはほぼ関与しない、子供たちと野球する、たまに算数だけ教える

1. 入塾のきっかけ

初めての受験で右も左もわからず色々調べました。アントレは塾選びの段階でかなり興味がありましたが、結局大手が安心だと思い4年生は大手塾で授業を受けていました。

ただ、わが子の場合、算数好き、国語まったくできないタイプで総合点数でクラス分けされると、算数は持て余してしまう状態に。さらにその塾は3時間座りっぱなし、友達を作る機会ほぼなし、家庭学習がメインなので親子の性格にはまったく合わない。と入ってから気づきました。

同じ小学校の子がアントレに通い始めたことをきっかけに、アントレ入塾を真剣に検討し5年に上がるタイミングで半ば強制で転塾してもらいました。子供は最初こそ名残惜しそうにしていたのですが、あっという間にアントレに馴染み、友達にも恵まれました。

2. 母と子で意見が割れた志望校選択

(子供の推し学校)

■城北(第一志望校)

子供：野球を校庭と隣接した大きな公園を使ってみっちりやれる。

母：幼さが残るまじめな子が多い。

■早実(最後の伸びで試験うけれるかも!と思ったけど時すでに遅し。出願期間過ぎてた)

子供：甲子園出場の有名校。憧れ

母：偏差値がうちの子にはまったく見合わない。華やかな雰囲気気後れしてしまう。

(母の推し学校)

■北里大学付属順天中(受けなかった)

子供：まあダメじゃない

母：生徒さんが明るく爽やか、共学、学校の教育理念、サポートが気に入った。

学校に求めることが全然ちがいで、迷いましたが、**6年間通うのは子供**。我が子の推し学校を志望校として私が納得できるような情報を集め、友達に相談し、子供の意思に寄り添えるように心がけました。

3. 学習への心構え

(4年生)

母は伴走初心者、子供はまだ4年生。塾がある生活に慣れる期間と思って、**どんな成績をとっても取り乱さないように**(子供の前では)全力で意識しました。

あとは、5、6年になると、まともに野球や遊びに時間を取れなくなると思い、しっかり遊ばせ、しっかり野球に時間をさきました。

(5年生)

詰め込み時期。インプットする量が多いので、毎回しっかり予習、しっかり復習は無理。

大変な学年でしたが、予習もテスト対策もできなくても、**塾で友達と楽しく弁当食べてくればいいや**、と思いつつ送り出しました。

土日祝は、野球でかなり体力を奪われるので、睡眠を優先させ、あまり復習に時間をさきませんでした。

健康第一なので、それでもいいと思いました。

(6年生)

受験生として一番、勢いがつく時期。だけど、スタートを切つてすぐに、得意だった算数が得点源にならなくなりました。算数の不振が気になり、らっきょに相談。個別をお願いすることにしました。

そこで気づかされたこと。原因は得意だから。図を描かなくても、式を書かなくても解けてしまっていた。でも入試問題レベルになるとそうはいかない。らっきょ先生、個別の先生のお陰で最終的には試験の得点源科目になりました。

また、仕上がっていない単元が山積みの状態でどう攻め込んで行けばいいかわからず、らっきょに相談。「**苦手得意、気になるけど、まず今週の単元をしっかりと押さえる**」とのこと。

これとっても大事でした。あれもこれもやらせようとしません。

特に苦手単元は本人に任せてもやらないです。理由は苦手だから。なのでここは親の出番です。

子供の抵抗がない勉強方法で、やさしいものからスタート。YouTube でもいいし。漫画でもいいです。テキストを読むのが嫌そうなら、親が読んであげればいい。ほぼ答えを言っているようなクイズ形式で問題を出したり。子供から問題を出してもらってもアリです。

それでその単元に抵抗がなくなればラッキー。だいたい最後まで苦手なので得点源にはならないと思ってください。

親が平常心でいられる範囲でサポートすればそれでじゅうぶんです。

4. 困った行動の受け止め方

(字が雑)

塾の先生、学校の先生からも指摘を受けています。

本人も字が雑すぎて、数字を勘違いし間違えてしまう。

自分でもわかっているけど、できないだけです。親がわざわざ本気で指摘し続ける必要はないです。

ある時、勝手にわかる字で書き始めます。

その時が必ずくると信じて、**きれいにかけている時に褒めてあげればそれで OK。**

(すぐ寝る)

とにかく寝るのが大好き。

塾帰って少しでも復習してほしい → 気づけばソファで爆睡

朝勉を習慣化してほしい → あらゆる方法を試しましたが、登校時間ギリギリまで起きない

勉強に取り組んで、妙に機嫌悪い → 眠い

移動時間に単語 1 つでも確認してほしい → 移動時間は寝る時間

勉強方法について物申したい → 説教中いつの間にか寝てる

寝れば寝るほど頭がよくなると本気で思い込むこと。

(一人で勉強できない)

仕事や用事で子を 1 人にさせることがあると思います。無理な内容ではない、課題を子に託します。

帰ってきて確認すると、ほとんど進めてないです。

一人にさせる時は、遊んでいい時間とすること。

(漢字を書くのが面倒)

漢字は画数が多いという理由で、日常的にあまり使わない。英語圏の国で生まれていたらこの事で悩まずにすんだらうに。と不憫に思うレベル。

国語の読解問題、知識はそばにいて**口頭でやりとり**。

漢字テスト対策は嫌がっている時は**読みと意味を中心にクイズ形式**で。

漢字かけなくても読めて意味がわかれば何とかなる。

読解、記述、知識 ポイントがわかっていたら良しとする。

(学習がスケジュール通りにいかない)

スケジュール通りにいくことが奇跡です。

最低限これだけは、というものをピックアップしてできれば OK。

それすらもできない事も当たり前のようにあります。

そして全てを網羅できないままで試験を迎えることになります。

気にしない！

(誘惑に弱い)

目の前にテレビのリモコンがある → 押したくなる
冷蔵庫がある → 開きたくなる
弟がいる → 遊びたくなる
布団がある → 寝たくなる

ありとあらゆる誘惑が家にはあります。我が子は誘惑を断てるほど成熟してないです。これは**本人が悪いのではなく誘惑のある環境を改善**すればいいだけです。

最後の1月に有料の自習室を利用しました。完全に勉強するためだけの空間。

ここで開花しました。1人でも勉強に集中していたようです。なのでこの時期の平日は家でほとんど勉強しませんでした。

5. 受験結果

埼玉校

1/10 開智所沢(第1回) 合格

校舎までの見送りは母のみ。

行きの道中で zoom 応援してもらおう。母緊張。子やや緊張。

1/10 城北埼玉(特待) 合格

校舎までの見送りは母のみ。

母子ともに緊張ゼロ。

東京校

2/1 城北(第1回) 不合格

校舎までの見送りは家族全員(母・父・弟)

行きの道中で zoom 応援してもらおう。その時先生から「緊張してない?」と言われてた。

母緊張ゼロ。寒さに気をとられ子供の緊張にまったく気づかず。子は大緊張(後日打ち明けられた)

2/2 城北(第2回) 合格

校舎までの見送りは母のみ。

Zoom 応援あえてしない。城北から OK でていた飴も持ち込まず、とにかく「いつも通り」を意識するように声かけ。

母、腹をくくる。子やや緊張。

6. 最後に

試験当日は 100%メンタルでした。誰もが合格だろうと思っていた城北1回目試験で、緊張のあまり、まさかの不合格。

親ができることは慌てずドンと構えて、安心させてあげること。今までの成長を振り返り、自信を取り戻してあげます。そして、2回目は背水の陣で挑むよう送り出します。

中学受験、色々ありましたが親として成長させてもらえました。また弟の受験が待っています。弟の受験はどんな事になるのか楽しみです。

アントレの先生方、個別の先生大変お世話になりました。

初めての受験で不安が多かったですが、きめ細かく支えてくださり感謝しています。

島田慶汰くんのお父様

【中学受験のきっかけ】

慶汰が4年生の10月頃に中学校に入ったら部活を何にするか聞いてみた所「体操部」という思ってもいないキーワードが出てきて、区立中学には「体操部」がほぼないため、中学受験・私立を目指す必要があるよと確認した所、中学受験をするという回答が出てきて、そこから中学受験を考えるようになりました。11月頃、学校見学を初めて行いました。年明けに再度確認した所、「体操部」に入りたいとの意思が強かったため、本格的に中学受験用の塾探しを行い、アントレの体験授業が楽しかったようで、新5年生になった2月の途中位に入塾を決めました。

【クラス変遷】

- ・5年生の夏前に国語Bクラス
- ・5年生のお正月以降に算数Bクラス
- ・6年生の9月以降に理社Bクラス

【勉強について】

当初は家で勉強なども特に行う事はなく、塾に行っているもので、そこでの勉強で大丈夫かと思いつたらかしていましたが、初めて受けたまとめテストの結果を見て、塾以外での勉強が必要だと感じ、4月以降からはきちんと毎日系(計算・漢字)や、週末に予習・復習を行うようになりました。当初は復習について(特に算数)「まだ習っていない」と言っていました。細かく教えながら進めていくうちに、1か月もすると、自分一人で進められるようになり、親としては勉強の進捗確認を行うだけになりました。

5年生からの入塾という事もあり、5年生の夏休み中が一番勉強したと思います。4年生時代の教科書も購入し、4年生分の勉強と、これまで実施した5年生の復習などを行いました。

目指している志望校から出来ればAクラスに上がってほしいと考え、理社の勉強を新6年生になった事から力を入れましたが、これが本人には負担だったようで、日に日に疲れていく様子が見て取れたため、理社の勉強は抑え、また国語、算数もある程度できたら自由時間を設けてあげるようにしました。

【志望校について】

本人の意向としては「希望する部活」がある。「できれば大学付属が良い」。の2点が主でした。その為、5年生時代は「体操部」がある学校、通学時間は極力1時間以内をベースに探し、学校見学等実施しましたが6年生の合不合格判定の結果から選択肢を増やす可能性がある感じ、「体操部」以外にもやりたい部活がないか確認し「弓道部」にも興味があるとの事だったので6年生以降は「弓道部」がある学校も探し始めました。最終的には「希望する部活」「大学付属」の優先順位はあまり関係なくなりました…。志望校順位は、法政大学中学校、城北中学校、國學院大學久我山中学校の3校に大きく絞りました。

(※)「弓道部」法政大学中学は高校、國學院大學久我山中学校は中学3年から入れます。

【合不合格判定の結果】

	4教科(500点)		3教科(400点)		2教科(300点)	
	点数	偏差値	点数	偏差値	点数	偏差値
1回目	240	48.2	212	50.4	169	54.0
2回目	246	45.4	206	47.5	172	52.7
3回目	316	54.8	266	57.1	219	61.7
4回目	254	47.3	214	49.5	160	49.1
5回目	304	52.6	274	59.1	216	60.4
6回目	280	50.6	234	51.6	189	54.6

※全受験者の数値

【過去問】

6年の夏休み明けから開始しました。最初は安全校を受け、問題なく合格点を取れたため、志望校の学校の問題に進める感じで進めていきました。

12月上旬に実施した法政大学中学については社会の問題に合っていないと感じ城北中学を第一志望に切り替えるための判断材料としても活用しました。

【直前期の対策】

1月は始業日だけ、学校に行き、あとは埼玉受験や志望校の過去問に取り組みました。

〈国語対策〉

6年生の12月中旬より国語の文章問題に出題されそうな本を30冊程度購入し、1か月ほどで全部読み終えていました。読んだ本より出題されることはありませんでしたが、沢山の本を読んだことで、国語のテストの問題のみならず、全ての教科で完了する速度が上がったと思います。

〈城北対策＝算数対策〉

12月には城北中学に絞ったため、算数の過去問について平成21年度～平成30年度(第一回)の10年分を実施しました。4教科分ある過去問については全部で2019年度～2025年度10回分は実施しました。城北の過去問題については、学校が点数配分をきちんと載せているため、出版社の推定配点ではなく、正確な合格点を見極めることができ、ある程度の安心感をもって受験当日を迎えることができました。※国語の記述問題については実際の点数より採点をかなり厳しくして採点行うなどもしました。

〈理・社対策〉

コアプラスを最初から最後まで何度か繰り返し読み進めました。

※こちらの対策より9月以降のアントレでの居残り勉強で知識が定着したと思います。

【受験結果】

埼玉受験は当初する予定はありませんでしたが開智所沢と大宮開成については合否のみならず、点数開示がされるということでしたので、直前の実力を測るには最適だったと思います。

開智所沢の1/11の午前中のテストでは算数の回答欄が裏面にもあったとの事でそこについてテスト後に裏面にも問題がある事に気づくなど痛恨のミスをしたましたが、本番に向けて良い経験にもなったと思います。

〈埼玉受験〉

- 1月10日(土) 開智所沢中等教育学校 AM 第1回 合格
- 1月11日(日) 開智所沢中等教育学校 AM 創発クラス(特待A) 不合格
開智所沢中等教育学校 PM 算数特待 不合格
- 1月12日(月) 大宮開成中学校 AM 特待生選抜入試 合格(T合格 特待なし)

〈東京受験〉

- 2月1日(日) 城北中学校 AM 第1回 合格 [進学先]
國學院大學久我山中学校 PM ST第1回(男子) 合格(一般クラス)
- 2月3日(火) 法政大学中学校 AM 第2回 合格

【受験を終えて】

受験結果については十分すぎる成果を出してくれたと思います。

本来付属志望だったため、法政大学中学の合格が出た場合は、そちらに進むと思っていましたが城北中学を選択したのは驚きましたが、今回のように大学受験でも大きな結果を出してくれると信じて、本人の意向を尊重しました。

【最後に】

アントレでの勉強はとても楽しかったようで、一度も「行きたくない」と言われることもなく、通塾できました。また帰り道なども友人たちと歩いて帰るなど楽しみながら通塾できていたと思います。アントレの先生方の指導並びに友人たちに恵まれ学力だけではなく大きく成長したと思います。この経験が慶汰の自信となり、今後の人生の糧となることを願っています。親として、これからもそっと背中を押し続けていきたいです。皆様本当にありがとうございました。

嶋田桃菜さんのお母様

【はじめに】

娘の受験は、娘の努力×資質×運×気持ち。そして経験豊かなアントレの指導員の皆様のご指導。ただこれに尽きると感じております。

【性格】

幼い頃からパズルなど黙々とやるタイプ。本が好き。頭を使う系のボードゲームやカードゲームが好き。始めるまでに時間がかかるが、やり始めると深く長く集中できる。納得しないと動かない、我が家では唯一イヤイヤ期に道路に寝転がった頑固…否、自己の考えが主張できるこだわりタイプ。勉強は割と好き。

習い事歴：スイミングとテニスは4年2月まで、ピアノとゴルフは息抜きも兼ねてゆるっと継続。

女子特有の体の変化や思春期も相まって情緒の起伏がジェットコースター。

最後の1年、私が考え・しなければいけないことは体調管理。そして、難関校に合格させることではなく最後まで挑戦を諦めないために情緒を壊さないこと、絶対に許せない事以外今は責めないことだと自分に言い聞かせていました。妹への八つ当たりもひどく、注意すれば3倍キレてくる。(受験が終わり、妹に八つ当たりしているのは分かっていた。と白状し謝った。)リビングが学習スペースだったため、言い合いになるなら物理的に離れるのが一番だと私が寝室に引きこもること数知れず。お互い最後までよく我慢しました。

【アントレ入塾について】

2つ上の兄が楽しそうに通っていた為、3年時は夏期・冬期と講習のみ参加させて頂き、2月から本科へ。兄の時に某大手Sからの転塾を経験しており、毎回のテスト結果でクラスが変動するところではなく、数回のテスト結果と授業での様子で本人にあったレベルでご指導頂けるのが親として安心◎。

(3人目も受験予定なので兄妹割引があるのが非常にありがたい決め手。)

【志望校について】

当初の娘の希望は「女子校でお弁当のところ」。3年生まで好き嫌が多く給食が嫌だった事から、富士見がこの距離(徒歩圏内)のも相まって難なく受験することに。5年になってから、念のため共学校も含め、通えそうな距離の学校へ見学などに行きましたが、女子校は絶対条件と確定。その上で、話し合い、

- ① 距離(朝弱い。遠くなればなるほど明らかにテンションが虚無化。出来れば乗り換え無し希望。)
- ② 自由な校風・開けた広大な校舎より、ある程度分かりやすい目標が持てる校風・広すぎない校舎。
- ③ この学校だとどんな友人が出来そうかを想像しやすい。

3点を軸に決めました。しかしながら、どこに見学に行っても最後には徒歩で通える富士見でいいのではないかと立ち戻ること。親としては、楽しそうに塾に通えている今、勉強の手を止めてしまうのはもったいない? いざ過去問を解いたら物足りないと思うかもしれない。という思いから、難しいと分かりながらも見学に行った豊島岡が思いの外本人も気に入りチャレンジ校候補となり、6年の合不合を受けた辺りからじわじわと本人の意欲が上がっていきました。

とはいえ両校のレベル感が違いすぎて、たけのこに「この受験計画は果たしてどうなのだろうか」と相談したところ、「本来ならばその間が適正校と考えおすすめしますが、本人が行きたいところであればいいと思います。」と言ってくれたので、本人の意思を確認し、『豊島岡・富士見』の二本立てに決定。

母の目には漫画は読むし、アニメは見るし、妹と遊んでいるし、で本当に豊島岡受験するのですか? と見えていたため、内心は「やっぱり富士見がいいよね」と最後まで本命校で有り続け、行かせたいと思える学校が近くにあったことがどれほど私の精神を保ってくれたか計り知れません。

【学習への取り組み】

4年生：B→Aクラス **5・6年生**：Sクラス

思春期も相まって口を出すと機嫌を損ね逆にやるまでにかなりの時間を要する事、宿題などはやっていないと恥ずかしいのが嫌なのか言わなくてもやるタイプだったので、1週間の学習予定の目安の紙を作成しただけで基本的に自走となりました。

6年後期にやはり過去問の直しを本人の力だけでやるのは難しそうだと、たけのこから個別利用の提案もありましたが、本人があまり乗り気では無かったため、本人のペースと意思でやりきり受からなかったらそこは娘の咲くべき場所ではないと思う事にし、富士見に受ければ良しという気持ちで、個別は利用しないことにしました。(12月以降はずっと「やっぱり行かせれば良かったかも…」と思い続けましたが。)

～いざ直前対策(ほぼ1月)～

算数→6年後期に予習がなくなりやること迷子になっていた頃、たけのこに相談したところ豊島岡対策プリ

ントについて助言頂き、たけのこから本人面談時に宿題として提案してもらうことに。これが非常に効果を発揮し、このプリントをやりきったら合格できるかもしれない。と奮起するきっかけとなり自信に繋がったようでした。

自宅では、過去問の不正解問題については大問ごとにルーブリーフに問題（裏解説）を張り、コピーして何度も解き直しできるように準備。何度かやると苦手なものだけ残っていく為「もうヤダ！やりたくない！」となり、そこで役立ったのが“左だけに書いた白板”でした。

主に6年夏期を中心に全てのノートをチェックし、頻出単元/苦手単元で○ではないのに復習すらしていないものから、○だけど苦手だからやった方が良さそうなものに付箋を貼りまくり、これをやりきったら合格できると信じてかなりの数の解き直しを行いました。過去問が伸び悩みやる気が低下していた為、過去問の解き直しよりは気軽に取られる事、短時間で区切れる事、付箋を縦から横に張り替えて目に見える“これだけやった！感”が意欲を取り戻してくれ、落としたくない大問1・2の一文問題への対策にもなったように思います。

国語→もともと本が好きでな子だったので国語はできるだろうと基本塾でのみの学習となっており、直前になっても漢字・知識がなかなかひどい有様のまま迎えてしまい、ひたすら漢字と知識のチェックプリントの解き直しを行いました。

もう一つの課題として、時間内に解き切れず、その結果自信の無い記述が白紙になることが多かった為、初見の文章を早く読み選択問題を早く正確に解くことを意識（別学校の過去問も使用）、とにかくなにかしら書いて3点は絶対にもらうという目標を決めました。

また、母も同じ過去問を解くことで選択肢の選別の仕方、記述の要素を確認するようにしたのですが、満点取れるわけもなく（笑）この結果「ママも間違えるならしょうがないか！」と、“自分が分からない問題は周りも分かってないから引きずるな！”が実感でき？試験時にも良い意味で諦めが付けられたようで結果として解答欄を埋めることができた要因にもなった気がします。

理科→算数同様、豊島岡対策プリントをやる。コアプラスが上手く使えず、知識の抜けも多かったため知識テストや単元ごとの確認テストを中心に苦手なところは授業プリントを丁寧に見返しました。

社会→最後まで悩みの種となった社会。授業でやったチェックテストをひたすら繰り返す。幅広く全てを細かくやるのが難しいため、最終的に公民で確実に5点アップを狙う作戦に賭けようという結論に至る。そして忘れられない1/29。「憲法をノートに書くわ」と言い出す。本人は思いの外楽しかったようで最後3日間ほとんどの時間を公民に費やしました。ここでも授業プリントをベースにまとめるようにしました。満足そうに「こんなに書けた！そして結構覚えた自信がある！」と見せてくる姿に、こうやって自分でどうにかしようと考え、ノートにまとめるという形にできたことは、これだけでも受験した意味にもなったのだと自分を納得させました。

【テスト結果など】

まとめテスト

平均してC評価、社会だけEもあったり…。

夏期の先輩の点数と進学先一覧をみると豊島岡も可能性0ではない。がかなり厳しい状況。

合不合テスト

後半3回分の4科平均偏差値は60.9。最高でも63。豊島岡の判定は最高でC（50%）。

圧倒的に社会が足を引っ張り続ける（50を超えたのが1回だけ）。

算国2教科だけだと最高値で72、算国理3教科だと69.5と出せていた為、模試はあくまでも参考に過ぎないと思ながらもうっすら期待しながらとにかく社会だけは復習を頑張る。

学校別サピックスオープン豊島岡

11月9日実施。結果は判定50%。「受験者」の真ん中辺り。

結果に記載されてた“想定合格点まであと「1点」”。現実の厳しさを改めて痛感。

【過去問】

豊島岡は土曜講習も含めて12回（2周したのは5回）。富士見は1回のみ（社会だけ3回）。

前受け校として決めた開智所沢2回、浦和明の星1回。

豊島岡は土曜講習で1回合格を取ることができ非常に喜んでいたので、家では最低点を上回ることではなく最高で-11。ほとんど-30、40ばかりの結果。明の星についても最低点に至らず、2回目は拒否。本人曰く「家だと集中出来ないだけ」と言い張るものの、スプレッドシートが埋まれば埋まるほど（厳しい戦いだ。やはり彼女は富士見が合っているのだろう。）という気持ちは強くなる。

【受験結果】

埼玉→1/10 開智所沢（一般）：○ 1/11 開智所沢（S 特待）：○ 1/14 浦和明の星：○
東京→2/1 富士見：○ 2/2 豊島岡：○ [進学]

驚くほどの人の多さに圧倒されながらイベント気分ワクワクしていた娘。結果を見て「やっぱり社会がやばいよね、どうしよう。不安になってきた」と言いながら眠りについた初日の開智所沢。

翌日にはケロッと「まあ一般は受かってますし。」と模試気分を受けた開智所沢特待。

最低点をとれなかった事で「2 回目の過去問はもうやりたくない」と言い、それでも去年の S は全員合格したから受からなきゃと言い、プレッシャーにも耐え合格を掴んだ明の星。

2/1 本命ながらも不安はないはずだが、ここを落とすと豊島岡へ挑戦できない。とやや緊張していたものの、「気負わず、いつも通り！」と笑い合いながら向かった富士見。

2/2 ついに豊島岡。前日の富士見は特待合格を期待していたものの特待ではなく、万全に仕上がったと言う自信はない。最後の授業では「三回の中でどうにか補欠を勝ち取ろう！」という誠的確、異議無しのためこのアドバイス。当日朝、過去一番の緊張感で東池袋駅につくと受験生があまり見当たらず更に不安になる母子。そんな中、駅と豊島岡の間でたけのこの ZOOM を終えると、ふうーっと息を吐き「よし！！燃えてきた！！あとはやるだけ！行ってくる！」と自らマインドセットした娘。

本番に強い子だとは思っていたが、一段と強く凜とした姿にこの日ばかりは涙がこぼれそうになりました。

出てきてすぐ「結構埋められた。でも全然ダメだ。やっぱり難しかった。」と言い、あれこれ翌日の対策を考えたものの何も手に付かない時間を過ごし、明日の予定を確認して、いつも通りのバタバタな我が家の 19 時を過ごしている最中、おもむろに私の横に iPad を持ってきて画面を開きました。今までと違う発表方法（これまでは合格と表示されていたが、豊島岡は合格者番号一覧での発表）に「え？なにこれ番号？番号なんだっけ？」と戸惑ったものの、「受かってる…」と番号を見つけ驚きと共に何度も確認しました。

娘らしく最後までやりきったことをとても誇らしく思います。

【最後に】

入学手続きに行き、入学説明会に行くまで親子共々「本当に受かってるよね??」と言い合うほど驚きの合格でした。運良く苦手単元がでなかったであろう事とサンデーショックの恩恵もあるかもしれません。

最後までかなり苦しいチャレンジ校に迷い無く挑戦させることができたのは、娘自身があきらめず勉強に意欲を持ち続けたことと、富士見というお気に入りの学校が存在があったからだと思います。

そしてなんとと言っても 3 年間のアントレの指導員の皆様のお力無くして我が家の受験は成り立ちません。

とにかく授業！！白板！！授業プリント！！お声かけの数々！！それだけでここまでたどり着けました。

改めて心からの感謝と共に、拙いながら 2 回目の体験記をここに残させて頂きます。

少しでもどなたかの参考になりましたら幸いです。

武内晴輝くんのお父様、お母様

アントレの先生方、個別の清水先生、3年半の間本当にありがとうございました。

親子ともどもお礼を申し上げます。息子はアントレでの3年半を通じて、単に進学先を手に入れた以上に、精神的にもたくましく成長したと思います。

中学受験は、子供一人一人違うものであり、家庭の事情によっても違うものであると思うので、ここに記載することがどれだけ他のご家庭の参考になるかはわかりませんが、同じような悩みを抱えたり、手掛かりを求めたりした際に、何かの助けになれば幸いです。また、大人になった息子や娘（今から4年後に中学受験で今年からアントレにお世話になります）が振り返って何かの役に立つことがあればと思って、筆を執っています。

1. 結果（受験校・日程・合否・進学先）

合格した学校が良い学校！（合格した学校は向こうから来てほしいと願っている）
全部第一志望と思っておけば、合格した学校が第一志望になる！

日程	受験校	志望度	合否	進学	備考
1/10(土) AM	開智所沢(第1回)	☆	○		開智中(併願)も○
1/11(日) AM	開智所沢(特待A)	☆	×		
1/11(日) PM	開智所沢(算数特待)	☆	×		
1/12(月) AM	開智所沢(第2回)		受験せず		
1/15(木) AM	開智所沢(特待B)	☆	○(準特待)		開智中(特待B併願)も○(準特待)
1/25(日) AM	立教新座(第1回)	☆☆	○	進学	
2/1(日) AM	早大学院中学部	☆☆☆	×		
2/2(月) AM	明大中野(第1回)	☆	×		
2/4(水) AM	明大中野(第2回)	☆	×		最後までやりきるために受験

2. アントレでの学習と志望校選び

進学するのはあくまで子供。子供が希望する学校をできるだけ増やしておきたい
説明会・学園祭は早めにたくさん見た方がよい。できれば両方行った方がよい
子供だけで勉強を続けるのは、はっきり言って無理。ペースメーカー必須

志望校を選んだ軸は、最終的に息子が希望した学校かどうかでした。中学受験を目指したきっかけ自体は父親の強い意向と、それに乗る形で公立以外の道を求めた息子の考えが一致したことでした。とは言っても、最初のころは息子の学力がどの程度であるか、どこまで伸びるかがわからなかったため、志望校については広め、緩めに考えていました。息子は3年生2学期からアントレに入塾し、当初はBクラスからスタートしました。最初のフンちゃんとの面談で、息子の授業での様子を見たフンちゃんから、頑張っていけばAクラス、場合によってはSクラスも目指せるというかなり前向きな(笑)お言葉をいただいたので、やればできるかな、アントレでAとかSだと進学校だろうな、と父親は思いました。同時に、その時点で母親は大学付属がよいなと思ったそうです。見事に意見が割れていますね。

志望校を選ぶにも見学しないと始まらないだろうということになり、また6年生になったらのんびり見学に行っている時間はないだろうという父親の判断から、4年生のうちから通学圏（基本1時間以内を想定。長いと通うのが大変だから、せいぜい1時間圏内が良いだろうというのが両親二人の一致した考え）の目ぼしい学校の説明会、学園祭を見て回りました。武蔵、本郷、桐朋、巣鴨、海城、城北、早大学院、立教新座、中大付属、青山学院、明大中野、開智所沢、これらは5年生の秋までにすべて見学しました。スケジュールの都合で見学できなかった学校もありますが、見学して息子が気に入った学校を軸にしていくという方針が概ね5年生の夏前には固まっていました。説明会、学園祭は両方を絶対に見た方がよいです。片方では理解が不十分になると思います。子供の思い入れも変わります。

学校を見学していくうちに、またアントレや家庭学習が大変であったからか、息子の志望は大学受験がない大学付属がよい、やりたい勉強を自由に学べる学校がよいという方向に傾斜していきました。誤解を招かないように付け足しておくと、アントレに通うこと自体はものすごく好きで、勉強自体も嫌いではなかったそうです。ただ、受験はそう何回も繰り返したくないという思いだったようです。息子自身はアントレで学ぶことに熱意を強く持っており、コツコツと粘り強く勉強を続けていました。付属を受けようとして決めてからはさらに熱が入りました。その場合、Bクラスのままではまずいだろうと彼なりに思ったようで、なるべく早くAクラスに上がりたい、できれば最終的にSクラスに上がりたいと思っていたようです。その甲斐があり、5年生に上がる際にAクラスに上がり、夏期講習最後のテストの結果だけでSクラスに上がれるという約束をプーさんとし、夏にアクシデントから足を骨折したにもかかわらず夏期講習に通

い続けました。5年の夏期講習はよく頑張ったと思います。特に、算数は毎回すべて〇をもらっていたように思います。最後のテストも踏ん張り、8月26日の息子の誕生日の日にプーさんからSに上られるという電話連絡を受け、飛び上がって喜んでいました。このころ最終的に早大学院中学部を目指すことが息子の中で決まっていたように思います。

アントレの勉強は予習、復習が必須であるので、そのペースは親が作ってあげる必要があると思います。もちろん、子供だけでそれができるならば良いのですが、そんなことは稀でしょう。親が予習復習のカリキュラムを作る必要がありました。また予習はほぼ横について見る形でした。息子も辛抱強くよく付いてきたと思います。その意味で、両親のうちどちらかは教材の内容を教えられるのが望ましいと思っています。我が家の場合はそれが必要でした。また算数については白板問題を繰り返しやる必要があり、子供の字で書かれたノートの解説に時間をかけるわけにはいかないので、白板問題は親がノートに書き写して、それを復習させていました。けっこう大変でした。

Aクラスでは訓調であった息子も、Sクラスには相当でこずりました。AとSの差は結構大きいと思います。Aのまま頑張ったほうが結果良かったのか、Sに上がったほうが良かったのかはわかりません。また、Sの場合、最上位の学校を狙う子と、そこまでは到達していない子に理解度の差があるので、授業についていくのも結構大変だと思います。忍耐力が試されます。ただ、アントレは科目によってA、苦手な単元はAなどと柔軟な対応を認めてくれるので、迷う場合は担任のカッシーやプーサンによく相談したほうが良いと思います。適切なアドバイスをいただけるはずで、息子の場合、Sに上がったことで自分はSまで上がったという自己肯定感を高めることにつながったと思います。同時に上には上がいるという点も学んだはずで、ただ、これは早熟さ、素直さ、記憶力、興味関心などの様々な要素がミックスされたその時点での到達度によるものだと思います。長い人生ではいくらでも挽回は可能だし、成長の仕方は本人したいとも思っています。なので、家族の中ではSで踏ん張ってできるだけ頑張る、頑張った結果、受ける学校選びの最終決定権は息子本人に決めさせるという方針にしました。一生に一度しか受けられない学校があるからです。

第一希望を軸とした行きたい学校は子供に決めさせる 絶対（はないけれど）失敗しないバックストップを用意するのは親の仕事

Sクラスにあがった直後、6年に進級する直前の春休み、7月、11月にカッシーと面談をしています。2026年1月/2月度の場合、開智所沢中等教育学校が1回の出願で多数回受験することが可能であること、開智中学との併願が可能であったこと、複数回受験での30点加点があることから、開智所沢をバックストップとし、実力相応の学校、チャンレンジする学校を決めていくというのが最後まで変えない一貫した作戦でした。途中、四谷大塚の合不合格判定テストでは出来栄のブレはありましたが、トータルでみて大崩れもなかったため、1月受験の開智所沢、立教新座がうまくいった場合の作戦と、うまくいかなかった場合の作戦を考えてはいましたが、複数回のカッシーとの面談を経ても、先生方、家族の側でも受験校の方針に大きなブレはなかったように思います。

7月の面談の際には、難易度は高いけれど一生に一度のことでもあるし、チャレンジ校としては早大学院中学部、実力相応校として立教新座、明大付属中野、開智所沢（特待）、バックストップとして開智所沢（1回目、2回目）とする方針を概ね固めていました。付属でない進学校を受験する選択肢もあるにはあったのですが、日程の関係で設定が難しい状態でした。立教新座、明大付属中野がそれぞれ1回目の受験で合格できない場合、2回目の受験を2月3日、2月4日にする必要があったからです。半面、立教新座が1回目で合格していた場合の2月3日の受験校も設定するのが難しい状態でした。受験校選びはそういう難しさもありました。

息子にとっては早大学院中学部は憧れの学校、立教新座は説明会1回に、学園祭も2度ほど行き、どちらも男子高で男子が伸び伸び過ごせる点、校風、自律した自由さ、学習のスタンス、学校の広さ、設備など気に入る点が多々あり、どちらかに必ず行きたいという思いが強かったと思います。早大学院中学部は説明会のほか、中学部のみの学園祭はないものの、学習発表会、高校の学園祭を見ていました。立教新座も学校説明会、学園祭に2回行っています。学園祭に行けなかった学校はやや思い入れが少なかったのではと思いつく点もあり、その点は親の反省点です。ただし、気に入った学校は何度も見たがるものであり、その意味でも息子の行きたい学校は変わらなかったかもしれません。

3. 過去問・入試演習のやり方

過去問の進め方は試行錯誤の連続。やり切れたとは言えない 親中心に分析はしていたが、もっと先生を頼ってもよかったかも

過去問をいつから取り組むか、何回やるかについてはいろいろな考え方がありますが、基本的にはアントレの方針にしたがって進めていました。ただし、2学期になると、小学校、アントレの通常授業、土曜日の入試問題演習、日曜日の個別授業の算数と、通常のカリキュラムがあるため、過去問とその振り返りの時間をしっかりと確保するのが大変でした。そのような点からも、あまり傾向の違う学校を多数受けるのは、それ自体が試験対策の面で中途半端を誘発することになるため、避けた方がよいと思います。早大学院中学部はそもそも問題の難易度が高く、特殊である一方、立教新座はわりとオーソドックスな試験でありながら難易度が高めに維持されている、明大付属中野はさらにオーソドックスで高難易度の問題があるわけではないので比較的高得点勝負になってしまうという特色がありました。開智

所沢は入試問題説明会で各試験のテーマを発表してくれるのをご覧いただければわかるとおり、第1回、第2回と特待の試験は別物です。学校に合わせた対策はある程度必須であり、それぞれの学校に必要な点数をどう取るのかというのが勝負の分かれ目です。限られた時間の中では志望度に合わせたメリハリをきかせた過去問の取組みにせざるを得ませんでした。また、当然ですが、過去問をやるうえでは、過去問をやる状態になっている必要があります。つまり、4科目ともに一通り回せていて、概ねどの範囲も戦える状態になっているかということです。実態は、単元によるムラができてしまっているのが厄介な点でした。もちろん、それをあぶり出すのが過去問をやる目的でもあるのですが。

また、早大学院中学部の過去問は解き直しに大量の時間を取られるのが厄介でした。そのため、11月のカッシーとの面談において、過去問の取組みを各校の算数中心とするというアイデアをいただき、その方針を取り入れました。算数は一番差がつく科目であるので、失点をできるだけ防ぐ作戦です。この方針採用はよかったです。

そうしたことを繰り返す中で、1月の開智所沢（第1回）の直前には、どの学校も本番で戦えそうだという状態になっていきました。ギリギリ間に合った感じです。

過去問をどういう段階でやるのか、どれだけの量をやるのかという点については今でも正解はわかりません。悩んだらアントレの先生がリアルタイムで過去問の取組み状況を把握しているので、相談するのがオススメです。きっとその状況にあった対策を立ててくれるはずですよ。

また、子供だけで過去問を分析するのは無理なので、親も解いてみてよいかもかもしれません。

4. 入試当日の記録 当日朝～終了までの流れ

どこにピークを持ってこられるかは本当に難しい。小学生の緊張の糸がどこまで持続できるかが勝負
当日に思わぬアクシデントがあることもある。最後まで受けきったのは立派

開智所沢は、学校主催の入試問題説明会で教科ごとの出題範囲、テーマが事前に開示されるので、それを見て対策できます。逆に対策しないと本番で差が付いてしまうはずですよ。算数、理科はどの単元から出題されるかが明確に示されるので、その範囲の対策ができますし、出題されない範囲を直前に見直すことを避けることができます。また、特待の理科、社会で出題される開智らしい思考力を問われる問題、記述対策も何のテーマかが分かれば多少の安心感にはつながります。正直なところ開智所沢の過去問対策は十分ではありませんでしたが、入試問題説明会の内容を吟味し、必要なテーマの対策にしばったので、少なくとも第1回入試は落ち着いて受験することができていました。一方、特待A、算数特待は学校側が説明しているとおり難易度は高いものでした。ここは結構難しいと思います。今後も年々難易度が上がっていくはずなので、受験校のラインナップの中で特待A、算数特待をどう使うかは難しいところだと思います。息子の場合、特待A、算数特待には弾き返されました。しかし、それで難易度が分かったので、特待Bではそこまでの難易度ではないと割り切ることで何とか特待を取れたと思います。複数回受験できるメリットが出た形です。

開智所沢の受験が終わったところで、早大学院中学部、立教新座、明大付属中野の最後の対策を始めました。チャレンジ校である早大学院中学部と、試験に近い立教新座に重点を置いた対策になります。その中で、立教新座のあとの受験日程や志望度を考えると、立教新座はどうしても1月に合格しておきたい学校でした。これまでの過去問対策をもとに理解度が低い単元、ミスしがちな単元を、過去問から拾って対策するというを中心に、当日合格最低点を確実に超えるための対策を徹底しました。出題傾向をしっかりと把握したことで、当日も準備どおりにできたのでしょうか。試験後の息子の表情は明るかったです。できたときは表情やしぐりですぐわかるので十分な手ごたえがあったでしょう。結果もついてきました。

早大学院中学部については算数の出題範囲が限られているのですが、毎年、思考力を問いながら作業をさせる問題がでていました。ここで時間を取られるのが厄介なのですが、受験直前にはある程度本番を想定した解く順番の対策ができていたと思っています。しかし、当日は大問4問のうち大問3問が図形に関する問題が出題されるという予測しなかった傾向の変化があり、息子にとっては不運でした。国語、理科、社会は結構頑張れたとのことだったのですが、算数のアクシデントを取り返すところまではできなかったようです。

明大付属中野は問題の傾向がオーソドックスで、難問奇問はないですが、量をこなし、高得点勝負になるところが特徴です。これについては過去問の対策、アントレでの授業、入試問題演習クラスで十分に対策はできていたものと思っていたのですが、どういうわけか不合格でした。相性が悪かったのか、不合格の原因はよくわかりません。

明大付属中野の第1回入試の結果が出て、息子の中では立教新座に合格していたため、ある程度やり切ったという気持ちになっていました。家族の中でも、明大付属中野の第2回入試を受験するのかどうかは大きな課題でした。両親の間でも一度は意見が割れたため、フンちゃん、カッシーに電話し相談しました。ふたりとも強制はしなかったのですが、息子のおそらく明大付属中野に合格したとしてもそのまま立教新座に行くつもりであるという気持ちを尊重しつつ、2月の東京の学校はまだ合格をもらっていないという結果を考慮して、「やり切ろう」、「自分のプライドのために受けてみよう」、「最後まで頑張ったという成果を獲得しよう」という話をしてくださりました。息子も一度は受験終了の気持ちに傾いていた気持ちを何とか立て直し、2月3日にアントレで特別に先生方に最後の対策をしていただき、翌日の明大付属中野の第2回入試に臨むことにしました。アントレから自宅に戻ってきたときは戦う目をしていました。

さて、明大付属中野の第2回入試当日ですが、東中野駅に着いたときに、予定外のアクシデントが生まれました。途中

駅から体調がよくなかったらしいのですが、東中野駅で息子はトイレに行きたいと言い出し、具合が悪くなってしまったのです。集合時間までは大いぶ余裕があり、回復してから試験会場へは慌てることなく行くことができましたが、たぶんこの状態で全力を出し切るのは難しかったと思います。試験を受けただけでも立派でした。フンちゃん、カッシーと話した「最後まで頑張ったという成果を獲得しよう」については試験を受けただけでも達成されたと思っています。

紆余曲折はあったものの、1月25日の立教新座第1回目入試に合格していたのは本当に良かったですし、その前の開智所沢の特待に合格していたのも大きな安心材料でした。この2校には本当に感謝しています。どれだけ準備をしても予測不可能なアクシデントは起きるかもしれないですし、そうなったときでも別の手段が確保されているようにできるかどうかが重要です。

息子は立教新座に進学しますが、合格者の登校日に入学許可証をもらい、立教新座の先生方に入学後の質問をしているときは本当に晴れやかな顔をしていました。息子なりに存分にやり切ったということだと思います。

こうして息子の受験は完結しました。

5. 生活面

生活面は各家庭でそれぞれ万全の対策を取っていると思いますし、我が家でも特別な対策はしていませんでした。

- ・栄養のあるものを好き嫌いなくバランスよく食べる
- ・食べ過ぎないように注意する
- ・休みの日でも生活のリズムを崩さない
- ・風邪や感染症にかからないように、うがい、手洗い、鼻うがいを徹底
- ・1月は小学校を休ませる

インフルエンザの対策はしたほうが良いですね。我が家はインフルエンザの治療薬を自費診療で購入して予防薬として家族全員使用していました。興味がある方はおすすめいたします。

生活面ではないですが、アントレの最後の保護者会で先生方が言っていたエピソードが印象的でした。家族で受験を楽しい思い出にしようというものです。先生方がそれぞれの受験のときのエピソードを話してくれたのですが、我が家でも実践してみようとなりました。我が家では妹が受験日当日までの手作りのアドベントカレンダーを作成し、息子が毎日ひとつずつ開けると好きなお菓子が入っているというのをやりました。毎日の励みとなり、家族みんなで息子の受験を頑張ったという良い思い出になったと思います。

6. 最後に

第一志望は手に入れられなかったものの、見事に第二志望は手に入れて行きたい学校に入学できるのも、3年半頑張った息子本人の努力の成果であり、それを支えた家族全員の成果であり、関わっていただいたアントレのすべての先生方のおかげであると思います。アントレの先生はとにかく親身で、息子の、楽しく学ぶ、根気よく頑張る、くじけない心を大いに伸ばしていただきました。また、次年度からは娘がお世話になり、また息子とは異なった性格ではありますが、アントレでの学びを生きる力に変えて成長していつもらえたら、ありがたいです。

大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

田嶋弘丞くんのお父様

■本人プロフィール

兄、弟、妹の4人きょうだいの次男。小2で始めたラグビーから小4で野球へ転向、西東京市内大会優勝常連・都大会出場の強豪少年野球チームに所属し、土日祝は練習や試合に全力で取り組む。平日は週2回のペースで水泳と公文に通い、多忙な日々を送る。学校では友達も多く、風邪もめったにひかない、健康で明るくエネルギーに満ちた男子。

一方でゲームやYouTubeがなかなか辞められず、できないと暴れるなど気持ちのコントロールに難しさを抱える一面があり、最後まで対応に苦慮することに。また身体は大きいですが、心はとても繊細で傷付きやすく、何気ない親の声掛けで感情を爆発させることも日常茶飯事だった。

両親も共働きのため、十分なサポートができたとは言いが、それでも各所に相談しながら本人との向き合い方を模索し、親子で少しずつ一緒に成長しながら歩んだ2年間であった。

■受験校と結果

受験校	手応え	結果	備考
開智所沢 ①	◎	合格	人生で初めての合格をいただき、本人は非常に喜んでいました。
開智所沢 特待 A	△	不合格	前日の合格の余韻に浸っていたため、筆箱を持っていくのを忘れてしまった。運良くアントレの友達に筆記用具を借りて難を逃れた。
開智所沢 算数特待	○	不合格	↑※同日試験 自信があつたが不合格、感情が抑えきれずに暴れてしまう。
開智所沢 ②	◎	合格	算数は満点予想で、108/120点。特待まであと一歩の高得点であった。
開智所沢 特待 B	○	合格	準特待を頂き気持ちよく1月入試を終える。
城北 ①	◎	合格	最低でも算76国67理34社45 (MIN:222 MAX:239)との感想。19時の結果発表で歓喜の声を上げ、非常に興奮しながらアントレへ電話連絡を入れた。

※本人の希望により、行きのみ送り届け、帰りは1人で帰宅する形をとった。

※開智所沢は複数回受験しても受験料が一律のため、本試験の経験を積む目的で受験した。

※初回以外の開智受験は、往復とも本人ひとりで向かわせることで、経験を積み、自立心を育む機会とした。

※城北は第2回・第3回にもエントリーしていた。

※複数受験加点のある城北②がダメなら、直前にエントリーし2月3日に國學院久我山STを受ける予定だった。

■合不合格判定テスト結果 (男子のみ偏差値と第一志望校の判定)

実施日	算数	国語	理科	社会	4科目	城北 ①
2025/12/ 7	55.5	46.8	50.7	58	52.9	60%
2025/11/16	53.1	46.1	42.5	52.9	48.9	30%
2025/10/ 5	48.7	56.3	51	57.1	52.6	60%
2025/ 9/ 7	61.5	57.4	47.5	52.6	56.4	80%
2025/ 6/29	56.5	57.7	40	53.8	53.1	70%
2025/ 4/ 6	48.8	57.8	42.8	48.7	49.8	20%

※夏期講習で1度だけA判定が出たが、他は安定しない結果であった。

■志望校選定

野球を思い切りやりたいという本人の希望に加え、国立大学も目指しつつ、大学受験も経験させたいという私の思いがあったため、私立大学附属校ではなく、部活動にも力を入れられる城北に、私の気持ちは傾いていた。

見学に行った際、乗り換えがなく、駅から徒歩20分という環境も、基礎体力づくりに適していると感じた。あとは、本人が強く希望するように導くだけだった。

5年生のときに野球部の体験に参加し、低学年からレギュラーを狙える可能性が高いこと、そして広い人

工芝グラウンドの魅力に惹かれた。6年生でも再度野球部体験に参加し、先輩方から「すぐにレギュラーに入れる」「上手いね」と声をかけていただいたことで、本人の城北軟式野球部への入部への思いはさらに強まり、自然と第一志望、そして“ここしかない”という気持ちへと固まっていった。

■所属クラス

少年野球と受験を両立するため、土日に授業がないアントレを選び、4年後期にフンちゃんの体験授業を受けたところ、他の受験塾にはないアットホームな雰囲気が親子ともに気に入り、その流れで冬期講習から入塾した。

入塾時はCクラスからのスタートだったが、5年後期にはAクラスへ昇級。国語はSクラス、理社については志望校に対してオーバーワークと判断し、SクラスからAクラスへ戻していただいた。少年野球は、6年夏の市内大会で先発ピッチャーとして優勝したのを一区切りとし、以降は受験に専念することとした。算数は個別指導で白板復習や過去問演習に取り組み、入試演習クラスでは中堅上位校を選択して安定して合格判定を取れていた。

■家庭学習の試行錯誤

＜白板も切断する＞ 毎朝の予習シリーズ計算は、親子で「習慣化できた」と思っていた。しかし、解答欄に計算式がない日が続き、問いただすと「暗算でやった」との返答。ところがアントレのテストでは点が伸びない。思い切って問題と解答を切断して渡すと、途端に満点が取れなくなり、チートをしていたことが判明した。6年前期からは、計算の後半や白板教材の解答部分をすべて切断し、解答は親が管理する方式に切り替えた。「自分で解くしかない」環境を整えるところから、我が家の受験は始まった。

＜過去問との向き合い方＞ 夏期講習が終わると、日曜日は図書館や公民館、マンションのエントランスが“城北対策会場”になった。四谷の過去問DBは便利で、PDFをそのまま印刷可能。今年は国語の出題形式変更が発表されており、2009年頃の形式に戻ると予測して対策したところ、見事に的中した。1月入試が一段落すると、朝学習は大問1の計算と大問2の小問集合を過去10年分ひたすら回す日々。古い年度から最新まで3冊購入し、第3回は書籍掲載が無いため学校見学時に実物を買ひ足した。順調に見えていた夏の終わり、担任から電話が入った。

「過去問の点数が、その年の最高点を超えています。……“やってる”可能性が高いです。」監視下で解かせていたつもりでも、家庭での過去問管理が甘かったのだと気づき、以降はさらに慎重に扱った。この期に及んでまだやるのかと、正直がっかりした。しかし同時に、「自分が小学生だったら、同じことをしていたかもしれない」とも思った。だからこそ、落ち着いて伝えた。「今できなくて当たり前。写しても実力にはならないよ。」もしかすると、手も足も出ない過去問に、本人なりに絶望していたのかもしれない。そう思うと、責める気持ちはずっと消えていった。

＜直前期の追い込み＞ 学校には通常通り通わせた。生活リズムを崩したくなかったことに加え、家庭の事情もあり、できれば給食を食べてきてほしいという思いがあった。1週間前に数日休む。本人があまり苦としない暗記は仕上げフェーズへ。理社は、土曜演習後に駅前のサイゼリヤで“知識の抜け”を総点検するのが恒例になった。23時頃まで続くこともあり、年末以降は土曜以外も夜特訓を行った。本人はドリアとメロンソーダ、父はティラミスを楽しみに。

朝学習は、今までのシリーズ計算ではなく、夏季・冬期の白板、算数過去問、国語の記述を繰り返し、私はチェック表で正誤を記録し続け、本人が弱点を把握できるよう努めた。できるようになる問題が増える一方で、不思議なことに以前解けていた問題が解けなくなることもあった。最終的には1日で白板200問をこなすスピードと体力がついた。

＜1月31日(土) 試験前日＞ 城北の算数過去問を6年分解き終えた本人は、余裕の表情で言った。「何年分も解いたけど、一度も合格最低点を下回らなかった。算数は悪くても80点、100年の年もあったよ。」

調子が良さそうだったので、念のため確認した。今日でこの受験生活が終わると思っているのか、リラックスした様子。

「2021年の286点(担任から電話がかかってきた件)、実際どうだった？」と聞くと、「あれ、答え見た、褒められたくて。」と悪びれもせずあっさり認めた。私は思わず笑った。小学生男子らしいな、と思った。

＜2月1日(日) 試験当日＞ 前日は22時に布団に入ったものの、夜中にふと目が覚めてデジタル時計を見ると01:01。その後はなかなか眠れないまま朝を迎えた。子どもよりも自分のほうが緊張しているのだと実感した。

一方、本人はよく眠れたようだった。憧れの城北の校門の前で「最後まで見直して」と声をかけると、本人は「どんな問題が出るのか今から楽しみ」晴れやかな表情を見せた。かつては解答を盗み見ていた子が、未知の問題を楽しみにしている——その後ろ姿を見た瞬間、もうこの時点で“勝ち”だと思った。かつては難問から逃げて答えを見ていた子が、いまは勇ましく試験に立ち向かっている。結果はその先についてくる“おまけ”のようなものに思えた。

■アントレに感謝

志望校に合格させるだけなら、いずれは人間でなくてもできるのかもしれない。けれど、アントレにはそれ以上のあたたかさや誠実さがあった。担任の先生も親身に塾の後電話をくださり、常に寄り添ってくれた。

最後の保護者会でフンちゃんが語った「夫婦関係と一緒に、6割5分で十分合格です」という言葉が忘れられず、受験後にもう一度録画を見返した。迷いなくこう言える人が、心を込めてつくった塾に出会えたことを、本当に幸運に思う。アントレ進学塾に通わせて良かった。ありがとうございました。

槌谷奏助くんのお母様

◆ 入塾

我が家では長男が3年前に中学受験を終え、次男の進路をどうすべきか迷っていました。しかし、次男本人の「絶対に受験したい」という強い気持ちを尊重し、中学受験という道を選びました。長男と比べると精神的にやや幼く、勉強が得意なタイプでもなかったため、親としては不安もありましたが、「まずはやってみよう」と小学4年の春からアントレに入塾しました。

◆ 成績

入塾時はCクラスからのスタートでした。勉強を続けていればいずれクラスも上がるだろうと思っていましたが、結果的に最後までCクラスのままでした。幼少期から野球を続けていたため、当初は「野球80%・勉強20%」の割合で通塾していました。しかし成績がなかなか上がらず、小6の夏前には野球を休部し、受験勉強に専念することにしました。野球が大好きな子でしたので、小6という集大成の年に休部させるのは苦渋の決断でしたが、成績を考えるとやむを得ず、本人も納得の上での選択でした。

習い事と受験勉強を両立できる器用で優秀なお子さんもありますが、次男には当てはまらず、志望校合格を目指すなら野球を休む必要がありました。所属していた野球クラブは強豪チームで、土日は試合や遠征がほとんど。朝8時から夕方まで拘束され、自習時間が確保できない状況だったため、休部は必然でした。

次男は集中力が続かず、勉強へのモチベーションも長続きしないため、自宅学習には苦勞しました。しっかり勉強すれば良い点が取れるので本人も喜ぶのですが、ポジティブゆえに「やればできる」と油断して勉強が手薄になり、次のテストで成績が下がる…という繰り返しで、成績は常に低空飛行でした。それでも小5の終わりには個別指導も併用し、先生方の丁寧なご指導のもと、何とか受験勉強を続けてきました。

◆ 勉強方法

小6では算数の基礎固めのため、白板復習と『四科のまとめ』を繰り返し解かせました。国語は語彙力が乏しかったため漢字と言葉の強化を中心に勉強。理社は授業プリントの復習を徹底し、基本問題を繰り返し解かせました。

間違えた問題や苦手な問題は、忘れた頃に再度挑戦させました。「難しい」と感じるとやる気がゼロになってしまうため、基本より少し難しい問題は、本人のやる気がある時だけ取り組ませました。覚えたことをすぐ忘れてしまうタイプなので、理社は単語カードを作成し、コアプラスも併用して知識の定着を図りました。

小6夏の終わり頃から志望校の過去問に取り組み始めましたが、合格最低点に届かないことも多くありました。解けなかった問題は個別の先生に指導していただき、自宅でも『四科のまとめ』や予習シリーズ、白板問題から類題を探して解かせました。「合格最低点を上回る」という明確なゴールがあるからか、闇雲に問題を解くよりも過去問は好んで取り組み、解けなかった問題は自らよく復習していました。

◆ 志望校

志望校は小5の段階で決めていました。次男のレベルを踏まえつつ、野球ができる学校を軸に、教育方針・校風・進学実績・立地を考慮して選びました。長男が男子校に通っており、その良さを感じていたため、次男も男子校を希望し、佼成学園中学校を第一志望としました。野球部の練習体験にも参加し、説明会や学園祭にも足を運びました。

併願校としては、1月の前受に佐久長聖中を検討しました。野球が強い学校であり、家族で佐久・軽井沢を訪れる機会も多かったため、学校の存在は以前からよく知っていました。小6夏に佐久へ旅行に行った際、個別見学をお願いしたところ非常に印象が良く、案内してくれた野球部寮生の自立・自律した姿に感銘を受けました。さらに秋の面談で井出先生から「寮は絶対いいですよ」と言っていたことも後押しとなり、佐久長聖中が本命校の1つに加わりました。

佐久長聖中の野球部に入部するには、11月末の野球部セレクション（実技試験）と学校入試の両方に合格する必要があります。11月の本校入試は1月の東京入試よりやや易しいため、成績が安定しない次男には11月受験の方が適しており、11月の本校入試+野球部セレクションを受けることにしました。

最終的に選んだ志望校は、佐久長聖中・佼成学園中・状況に応じて聖学院中でした。

◆ 結果

11月に受験した佐久長聖中の入試と野球部セレクションは、どちらも無事に合格をいただきました。そこで、2月の東京受験を続けるかどうかを考えることになりました。

次男本人の意見を尊重することは大前提ですが、私と主人は、野球を続ける環境としては東京より佐久長聖の方が恵まれていること、次男の性格から寮生活を楽しめるタイプであること、人間的成長を考えても寮生活は良い選択であること、などを考えると佐久長聖中への進学が良いのではないかと考えていました。

次男は当初「東京の受験もする」と言っていたのですが、最終的には私たち両親・友人・先生に相談した上で「佐久長聖中に進学する」と自ら決断し、我が家の中学受験は早々に終わりました。

◆ あとがき

当初考えていた志望校とは異なる学校への進学となりましたが、早めに受験が終わったことで、小学生らしい生活をより多く過ごせたことを家族全員で喜んでいます。受験期間中は親子バトルが日常茶飯事でしたが、今は穏やかな日々が戻ってきました。

アントレの先生方には、出来の悪い次男を根気強くご指導いただき、感謝しかありません。次男にとって受験勉強は想像以上に大変だったと思いますが、この経験で得た学力と知識は今後の基礎として必ず生きていくはずです。

次男は佐久長聖中で「全中優勝」を目指して野球を頑張るそうです。勉強も頑張ってほしいですが…！

早川さや香さんのお母様

まずはじめに、アントレの先生方、3年間温かくご指導をいただき、心より感謝申し上げます。また、現高2の姉もかつてアントレにお世話になりましたが、アントレでの3年間が彼女にとって頑丈な土台となり、親の想像をはるかに超えた骨太な高校生活を送ることができていることも、重ねて感謝申し上げます。子どもの性格は千差万別、何が正解かいまだにわかりませんが、アントレでの3年間は子どもの人生の1ページに色鮮やかに刻まれると思います。

◆新3年生になり、初めてアントレへ

遊びに習い事に、やりたいことがたくさんあり、とにかく全力で日々を楽しんでいた娘、毎日ニコニコと富士見中学に通う姉を見て、アントレにも早く行きたいと高ぶる気持ちを抑えられない。

鼻息荒い娘を見たフンちゃん「あなたはもう1年、思いっきり遊んできなさい。それでも遅くはない」

◆新4年生、再びアントレへ

フンちゃんの言葉通り1年間思いっきり遊び、満を持してアントレへ入塾。姉にできることは自分にもできると信じていた自信家の娘、予習シリーズの洗礼を受ける。マルだけの白板ノートにしたい、わからない問題が許せない、そして早く終わらせて遊びたい、自分自身にイライラする毎日。『量より質』と呪文のように伝えました。せっかちで雑なのでケアレスミスがとにかく目立ちましたが、この頃は、算数はとにかくいていねいに、小学校生活もしっかり満喫することを大切に過ごしました。

フンちゃん「授業中の笑顔がとてもいい、とても楽しそう」

◆難問に手を焼く5年生

予習シリーズの量が増え、白板の復習の量も増え、難易度も高くなる。まだマルにこだわり、間違えた問題を消しゴムで消しては泣く。悔しさを感じることに、くじけずに必死にくらいつくところは立派だなと思いつつ、「間違えた問題こそが宝物なんだよ」とまた呪文。白板の復習は難しい問題が多くなり、直しきれないこともよくありました。塾のない日には友達と思いっきり遊び、帰って寝てしまうこともしばしば。マルが欲しい、でも遊びたい、のジレンマに悩まされる5年生。

フンちゃん「自分が正しいと思ったら曲げない子だから、国語は伸び悩むかもしれないね」

◆成長を見せ始めた6年生

6年生に入ると、白板の復習を短時間でできるようになり、予習復習にかかる時間が減り、心に余裕がでてきたようでした。また、「どのようにしたら自分のミスは減るのか、どこが苦手なのか」と、ここにきてやっとマルにもバツにも目を向けられるようになったことが大きな成長でした。遊びと勉強の配分も、自分で納得して決められるようになりました。私もフンちゃんの教え子なのですが、実はいまだに赤マルの嬉しさは記憶に残っていて、娘と二人でフンちゃんの赤マルを真似してニヤニヤすることも。

フンちゃん「あなたは富士見に入らないといけない人ですよ」

◆6年生後半、階段をのぼる！?

9月に入ると入試演習が始まり、名前が掲載されるので、毎週一喜一憂することになります。「夏期講習が終わるとぐっと伸びます、**すぐではありませんが**」というカッシーの言葉通り、9月に入ってすぐに取り組んだ過去問ではさんざんな結果が出てフンちゃんに泣きつきましたが、しばらくすると、過去問、入試演習ともに安定した結果が出るようになりました。『量より質』のていねいな復習の積み重ねが、突然結果に現れ始めるのを目の当たりにしました。スロープではなく、階段をのぼるような成長でした。

フンちゃん「ははは、過去問の点数なんてそんなものですよ。それよりお姉ちゃんは元気？」

◆年明けから受験までの過ごし方

大晦日と元旦しかのんびりできない受験生。家族の心配をよそに、本人はしっかりした足取りで冬期講習にのぞみました。この時期はいつも通りの生活が一番重要だとはわかりつつも、それが一番難しい。娘にとって、心身を健康に過ごすためにはどうしたらよいのか、悩んだ末、学校も休まずに登校しました。そのおかげなのか、持ち前の強さなのか、娘は受験当日を迎えるのが楽しみだったそうです。親は近づくにつれ緊張感が高まりましたが。

当日の zoom 応援では再びこの言葉「あなたは富士見に入らないといけない人ですよ」

◆志望校について

姉の通う富士見中学校を志望してアントレに入りましたが、そもそも娘は富士見しか知らなかったため、フンちゃんお勧めの学校を数校見学しました。共学校の活気に惹かれることもありましたが、一周回って富士見志望に戻り、大妻中野にも通いたいと思えたため、2校に絞りました。過去問も2校分にじっくり取り組みたいとのこと。1月の埼玉の学校は駅からの距離が遠かったため、またチャレンジ校は魅力的な雰囲気でしたがこれまた電車やバスの乗り継ぎが多く遠かったため、本人の希望で受験しませんでした。

フンちゃん「遠い？横着ですねえ」

備蓄などの災害対策が完璧であること、災害時にも安心の近さ、そしてもちろん先生方の指導力や人柄から富士見中学校を3年間推し続けてきましたが、何より姉の笑顔が一番の決め手でした。

◆最後に

2月1日の富士見1回目。とにかくお腹がすいたそうです。合不合で4教科受験は経験していましたが、本番という緊張感や集中力がより空腹にさせたようで、小腹を満たすチョコやグミを持っていきかかったと少し不機嫌でした。注意事項に記載がなければ、糖分補給に何か持たせてあげれば良かったです。

アントレでの勉強を通して何にも代え難い財産を手に入れた子どもたち、そして根気よく指導して下さった先生方には頭があがりません。フンちゃんの言葉には、多くの子どもたちを育ててきた経験値と深い愛情がつまっています。親にとっても悩みの絶えない3年間、面談のたびに支えていただきました。

ありがとうございました！

早川湊くんのお母様

<アントレ（入塾/クラス）>

■入塾

新3年生（2年生の2月）からアントレにお世話になりました。2学年上の友達がアントレに通っていたため、説明会&体験授業を受けました。複数比較する予定でしたが、本人が『ここがいい!』と希望したため、そのまま入塾を決めました。

■クラス

3年：Aクラス、4年：Aクラス、5年：Aクラス、6年：Aクラス

入試演習：男子上位クラス → 男女中堅上位クラス

⇒男子上位クラス的不合格が3回続いたため、本人の意向でクラス変更。（男女中堅上位クラスでは全て合格）

<各教科（状況/対策）>

■国語

苦手科目でした。勉強の優先順位が 算数>理科・社会>国語 となっていたため伸び悩み、6年夏期講習のまとめテストと過去問の結果に直面し（国語が平均点より数十点低い状況）、国語で落ちるかもしれない・・という状況になりました。薄くでも国語の対策をしておくべきだったと後悔。半年で底上げが必要と判断し、国語だけアントレ以外の個別指導を受けることを決断しました。6年9月以降は漢字・語彙と国語の過去問を徹底的に取り組みました。その結果、波はあるものの平均点前後の点数を取れる位までにはなりました。

それでも、2/1の数日前に第一志望の城北の国語の長文が読み切れない、どうしよう・・と本人から焦りの言葉。こんなに過去問をやってきたから大丈夫、と励まし、本人自身も自信を取り戻すため、最後の最後まで過去問をやり続けました。

2/1の城北では、『読解のスピードを意識して解く』と決めて本番に臨み、手応えを得て試験を終えました。

■算数

好きな教科でした。一番時間もかけていました。予習シリーズが終わるまでは、土日で予習→アントレ個別で白板復習の基本サイクルで取り組みました。6年前期は4科のまとめで基礎のおさらい・苦手分野の強化をし、後期は夏期白板復習を1周+α実施しました。4年以降の白板ノートは、表紙に単元の目次とインデックスを付けておきました。あの単元の白板出して！という要望にもすぐに対応でき最後まで大変役立ちましたのでオススメです。

埼玉受験の1月でも算数は手応えがあり、その自信が本人の精神的なお守りのような存在になっていたと感じます。

ただ、2/1の城北では得意の算数だけが手応えがなく。。でしたが、それでも総崩れせずには保てたのだと感じています。

■社会

地理は好きでしたが、歴史に興味を持てず苦戦しました。6年4月の合不合格判定模試の初回4月では18点という得点を取り、やるしかない・伸びしろしかないと前向きに切り替えその後の取り組みに力を入れました。

それ以降は地道にコアプラスと6年夏期講習のテキストで知識の底上げを進めました。どうなることかと思っていたのですが、6年12月くらいにはコアプラスの問題を出すと、概ね回答できる状態になっていました。6年後期のコアプラステストが非常に有効だったようです。

2/1の城北では過去に無いくらいの手応えを得て帰ってきました。直前に満州事変辺りが苦手と本人が気付き、弱点強化を実施した部分の出題があったようで、1月後半に最後の弱点強化（本番前に潰したいことをピックアップしてやり遂げる）をすることは大事だと感じました。

■理科

理系が好きで本人としては興味はあるが、分野によって波がある教科でした。社会と同様、知識のインプットは6年で強化となりました。知識はやれば成果が出ることもあり、コアプラステストに向けてインプットを繰り返しました。6年での分野別（生物・化学・物理・地学）のまとめテストの分析と結果も弱点強化に有効でした。4年以降のプリント整理は一番しておく必要がある強化だと感じます。最後の最後まで、この分野の授業プリントを見たい・復習したいと見直していましたので、分野別に授業プリントをファイリングするなりしておくことをオススメします。

<志望校（選択/対策）>

■志望校選び

【第一志望】

6年に入り具体的に志望校を考えたときに候補となったのが、**桐朋**と**城北**でした。当初は桐朋を第一志望に考えていましたが、説明会で校風の違いを把握し、本人としても自由とは何か（桐朋）、手厚い方が自分に合っているのでは（城北）と葛藤がありました。

桐朋を第一志望として10月までは過去問に取り組んでいましたが、本人としても桐朋の自由で主体的な校風と城北の手厚さと近さでの葛藤があり、デカッチョと本人との2者面談で第一志望を絞った方が良いとのアドバイスをうけ、城北を第一志望として10月末には第一志望として城北を一択にして対策を進めました。

【第二志望以下】

城北の日程と被らないこと、男子校、偏差値を踏まえ、**成城**を第二志望としました。ただし、最終的には、本人の志望度として開智所沢の方が上回り、受験はしませんでした。

【埼玉受験】

説明会等も踏まえ、**開智所沢**を埼玉受験校としました。新設校ではあるものの教育方針や通学時間を考えても選択肢として上位に置いていました。

日程としても受験可能な**立教新座**も学校の雰囲気も良く、受験校として選択しました。最終的には内部進学が多さから志望度は下がっていました。

■対策

【桐朋】

8月お盆～10月中旬までは、桐朋の過去問を中心に進めました。理科が特徴的で苦戦をしていました。それ以外は城北と傾向が似ている部分も多く、第一志望を城北に絞っても桐朋の過去問は無駄にはならなかったと感じていますが、城北の過去問を本格的に取り組んだのが10月以降になったため、本人としては焦りもあるようでした。

【城北】

桐朋を優先させていたことから10月中旬以降から本格的に過去問に取り組みました。相性としては桐朋よりもずっと良く、受験者平均や合格者平均の前後を取れる状態でした。過去問としては4教科としては6年分（×第1回・第2回）、国語は10年分程取り組みました。

11月下旬に城北で実施される入試説明会にも参加しました。各教科の傾向など丁寧に説明があるので、受験予定であれば参加をオススメします。

【成城】

過去問を購入したものの、一度も実施せず。

【開智所沢】

受験本番、良いスタートを切りたい&開智所沢の志望度も上がっていたので、過去問は5回分程実施しました。

11月下旬から配信される入試問題説明会（申込みが必要）では、各教科で出題予定の内容まで詳しく説明があるので、入試本番の初回に臨む上で、その内容の対策が出来たのは、精神的にも落ち着くことが出来よかったです。また、12月下旬には入試体験会として開智所沢の会場で入試本番と同じ形式で国語と算数の受験をし、判定まで出してくれる機会があるので、場慣れをするためにも有効だったと感じています。

【立教新座】

開智所沢修了後、3回分程実施しました。過去問の相性がよく、苦手な国語も点数が取れていました。

【その他】

西武文理と巣鴨（算数）は直前に2回分程実施しました。

明大中野と東京農大第一は過去問を実施せずに受験しました。（が、過去問対策無しでの合格は難しいと実感）

<受験（結果/各校の詳細）>

■結果

- 1/10AM 開智所沢① 合格
- 1/10PM 西武文理① 合格
- 1/11PM 開智所沢（算数特待） 合格（準特待）
- 1/12AM 開智所沢② 合格
- 1/15AM 開智所沢（特待B） 不合格
- 1/25AM 立教新座① 不合格
- 2/1AM. 城北① 合格 ☆進学
- 2/1PM 巣鴨（算数） 不合格
- 2/2AM. 明大中野 不合格
- 2/2PM 東京農大第一 不合格
- 2/3AM 立教新座② 合格

■各校の詳細

【全般】

合不合格判定模試は10月が最高の偏差値54で、その後の11月・12月は10程下がり、今でも忘れられないほど本人も親もどん底の気持ちとなっていました。それでも、12月中旬のデカッチョとの保護者面談で志望校の相談をした際に、模試の結果はそうだが、アントレでの出来具合や入試演習での結果を見ても城北を狙える位置にいますと言って頂いたことで、安心して城北に向かえました。

【開智所沢】☆合格☆

振り返ると、受験本番初日1/10は親も子も最も緊張していたと思います。親も前日あまり寝られず、本人も早朝5時には起床し、初日に臨みました。開智所沢の最寄り駅の東所沢駅は大変な混雑で改札を出るまで5分以上はかかったと思います。入試応援で励ましを頂き、見送り際には、頑張ってくるよと親よりも落ち着いて向かっていく姿に、これまでの日々を思い返し、思わず泣きそうになりながら姿が見えなくなるまで見送りました。

1/10で合格を頂きましたが、受験に慣れるという意味でも本人も継続して受験する意向だったため、予定していた試験は全て受験しました。算数特待で準特待を頂けたことは自信になりました。最後の特待Bで不合格となり落ち込む結果となりましたが、2/1まで気を抜かずに頑張る要素になったと思います。

【西武文理】☆合格☆

埼玉受験についても、デカッチョから開智所沢は問題無いと思いますよと言って頂きましたが、全落ちの不安と埼玉受験の合格の重要性を踏まえ、西武文理を受験しました。

【立教新座】☆合格☆

過去問の相性はよかったですのですが、1/25は算数が出来ずに引きずったのと、社会の出題形式の変更で手応えが無かったと出てきました。城北への進学は決めていましたが、受験最後にリベンジとして2/3の合格を頂いたことは、中学受験の良い締めくくりになり、中学生活に向けて本人の自信にもなりました。

【城北】☆合格☆

算数以外は出来たという手応えでした。得点源である算数の手応えが無かったのは心配ではありましたが、もしダメであっても2/2、2/4を受け続けることに迷いは無かったので、ポジティブな雰囲気親子共々過ごしていました。結果、2/1に合格を頂け、有り難いことに第一志望合格というゴールを得ることができました。

【巣鴨(算数)】★不合格★

開智所沢の合格を頂いていたので、巣鴨(算数)を受ける事にしました。過去問は2回分実施しました。過去問で手応えはありましたが、本番では手応えがありませんでした。

【明大中野】★不合格★

2/1城北合格後の受験についてよく考えられていませんでした。これまで頑張ってきたから他も受験したいという本人の希望があったので受験をしました。手応えとしてはありましたが不合格となり、過去問対策の大切さを感じました。

【東京農大第一】★不合格★

明大中野と同様、過去問対策無く臨み、撃沈しました。

<最後に>

フルタイム共働きのため、早めからの入塾・受験生活でした。本人としても気付いたら塾に行っていた・なぜ受験するんだという葛藤と、小学校の友達が遊んでいるなかで勉強をした時間を無駄にはしたくないという思いで頑張ってきました。親としても本人の気持ちは壊さない・親子関係は壊さないということは常に心に決めて臨んでいました。

中学受験は覚悟を決めて臨まなければ到底乗り越えられない壁だと思いますが、高い壁に立ち向かう経験は本人の今後の人生の糧になることと感じています。

1月のZOOM自習室も非常に有効で、お友達との頑張りや先生方の見守りを励みに最後まで頑張り続けられました。アントレ、先生方、一緒に頑張ってきたお友達に大変感謝しております。本当にありがとうございました。

堀籠円さんのお母様

はじめに、娘をここまで支えてくださった先生方に心から感謝申し上げます。

上の子もアントレにお世話になったため、当然のように3年生の2月から通塾しました。4年生のときに学校での友達関係のトラブルから心を痛め、アントレに向かう途中で引き返したり、行くも行かないも辛い…、涙、涙の時期がありました。私だけでは受け止めきれずアントレには「今のこの子はこういう状況です！」と全てをさらけ出してしまい、ご迷惑をおかけいたしました。

[1月受験]

*佐久長聖中学校

祖母が住んでいるため娘にとっては馴染みのある地域です。お守りのつもりで受験しました。

*淑徳与野中学校

通う可能性のある学校を受験した方がいいと考え、チャレンジしましたが結果4点足りず不合格でした。さいたまスーパーアリーナ会場を選択したのですが「トイレは済ませてくるように」と連絡を受けており、駅のトイレに並んでいる間に8:00過ぎてしまいzoom応援を受けられませんでした。これは私の痛恨のミスでした。

トイレは駅周辺の商業施設の至るところにありましたし、娘曰く足りなかった4点はデカッチョ先生の応援だったそうです。

[2月受験]

娘は山脇学園に憧れ計4回受験しましたがご縁はいただけませんでした。不合格が続いたあとの2月2日の富士見中の合格には、ただただ安堵いたしました。

学校説明会などで何うたびに、ホームのような安心する気持ちになるのが富士見中でした。他の学校では感じることもない感覚が姉のときにも、そしてこの4年後にも感じ、ご縁をいただけたことを心から嬉しく思っております。

何より満員電車に乗ることもなく歩いて通えます。通学の心配がないというだけで一つ肩の荷が下りました。

フンちゃんが保護者会のたびに聞かせてくださった山田五十六の言葉。

『 やってみせ、言ってみせ、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ 』

受験が迫ったある日、我が家の日めくりカレンダーにこの言葉が出てきました。私たちが全く伴走できず、娘任せにしてしまったため、もっとこうしてあげていれば・・・そんな思いもありますが、今からでも遅くない！ほめてほめて繊細なのに頑固者の娘とともに、新生活を楽しんでいこうと思います。

日々追われた生活をしていた娘は、暇—暇—と言って3年ぶりに公文に通い始めました。

これからも2月1日が来るたびに私の心はざわつき「がんばれ！」とすべての受験生にエールを送り続けることと思います。

先生方、大変お世話になりました。個別の小澤先生にはお姉様には上の子が、姉妹で2代に渡ってお世話になりました。

本当にありがとうございました。

アントレの益々のご発展を心よりお祈りしております。

(娘から「これ以上アントレが人気になると困るから誰にも勧めないで！」とされています。オススメいたします)

宮崎桜さんのお母様

アントレの先生方、個別の先生方、4年生から受験が終わるまでご指導を頂き大変感謝しております。なかなか算数が伸び悩みご心配をお掛けしました。一方、長い受験への道のりが終わり、肩の荷が下りたかのように本人は昼寝をし、友人とも遊び、ゲームをし、小学生らしい小学生の時間を過ごしております。

【進学先】

西武学園文理中学校

【中学受験へのきっかけ】

8歳年上の兄が公立中学→私立高校へと進み、公立中学の厳しさ（中野区でワースト3に入る中学です）、女子の高校受験の間口の狭さを肌で実感し、娘も感じとっていたのか、小学校2年生の冬に中学受験がしたいと本人が希望しました。

【アントレへの転塾】

新3年生になる前の2年生の冬期講習から早稲田アカデミーに通い始めました。早稲田アカデミー時代は成功体験を身に付けさせるために、まめに勉強を見てあげることで一番上のクラスをキープしていましたが、算数がなかなか身に付かないということにも気が付いていました。早稲田アカデミーは最終的には物量戦になります。受験のみならず勉強には物量戦が必要であるものの、ただの物量戦は本質的ではないと感じており、白板問題という特色を持つアントレへの転塾を3年生の冬期講習後に決めました。

【私自身の葛藤】

友人の子供が大学1年生で自殺しました。

彼女の子供は中学校も主席、高校も主席でした。大学も国立大学現役合格でしたし、彼女自身も伴走に伴走を重ねていました。そして、いつも出来るまで勉強に付き合っている、と子育ての先輩として言っていました。

私自身、中学から私立（女子校）に通っていましたが、中学時代からの友人であり子育ての先輩です。同じように伴走を考えていた私は本当に強い打撃を受けました。そして、中学受験に対する期待値はどこにあるのか見つめ直すことにしました。

また、会社では役職に昇格し、チームビルディング、プロジェクト推進、業務課題対応等、どんどん忙しくなり、子供たちと向き合う時間も削られていきました。

【中学受験への期待値】

1. 公立中学を回避すること
2. 娘自身が必要な勉強に気づき、課題形成し実践すること
3. できれば娘の希望する要件（私服OK）を満たし、楽しく通える学校に出会うこと
4. 時代の変化に対し柔軟な思考を持つ学校であること

4. は若干取ってつけた感がありますが、1. 2. を中心に掲げ、親は（たまに「中学受験なんて止めてしまえー」と喝？を入れ、娘は「絶対にやめないからー」と大泣きして気持ちを切替える）良い意味でも悪い意味でも常に伴走ではなく、見守る姿勢を方針としました。

【娘の希望の学校と現実のギャップとの闘い】

娘が希望する中学校は「私服がOKであること」でした。

そのような中学校は本当に数が少ないのですが、制服が可愛いにも惹かれず、ずっと「私服がOK」であることを譲りませんでした。

私服がOKな中学校は、女子学院、慶応女子、恵泉女学園、立教女子、成城学園、中央大学附属（高校からOK）と偏差値が高い学校ばかりが並びます。

一方、娘は算数が苦手なために、万年Cクラスです。（国語はできるのでBだけど）

何回もこのままではダメだよ、分からないところは塾で質問をしないといけないよ、と伝えてみたものの、頑固な性格の娘には声は届かなかったようです。

それでも、6年生の春くらいにエンジンが掛かれば少しは手が伸ばせるかも、と思っていましたが、何とエンジンが掛かり始めたのは10月に入ってからでした。

10月の第2週目くらいに

「白板問題が何をすれば解けるようになるのか、何となく理解した」と、私に呟き、そこから白板問題が少しずつ解けるようになっていき、カレンダーに何問中何問解けたかを

記入し、励みにしていきました。そのうち「ケアレミスをしなければ、、全問正解取れるのに」と呟くように報告をするようになりました。

10月に入ると過去問を解き始めていましたが、中央大学附属の過去問は苦戦を強いられ、土曜日の過去問演習は練馬校の中堅上位クラスでは付いていけず、ひばりが丘の中堅校クラスへ変更しました。

【志望校選びと12月の面談】

中央大学附属を譲らない娘に対し、親としてはどこを妥協点とするか考え始めました。到底受からないと理解しているものの、本人の気が済むように受験はさせてあげたい、となると、移動がネックになります。

午前受験、午後受験で午後受験が可能な学校で娘の手が届き、堅苦しい学校ではなく、と探しているうちに「東京電機大学中学校」が候補に挙がってきました。

理科実験が好きな娘を口説ける学校だなど思い娘に相談したところ、受験する方向になりました。

2月受験は東京電機、成城学園、中央大学附属と早々に見通しが立ちました。

ただし、前受として1月受験は考えないといけません。

12月、塾の面談でらつきよ先生に成城学園と中央大学附属を受験し、東京電機は午後受験の1科目受験にすることを伝えると

「成城学園と中央大学附属は譲らないのか」

と言われ、親も苦笑いをしてしまいました。良くも悪くも頑固な娘です。

その際に、1月受験のご相談をさせて頂いたところ、西武学園文理中学校を薦められました。

遠いから通うことは考えず合格を取る学校には適している、と言われました。その時に、通った子もいたけれど、仕上げてくる学校ですよ、と添えられました。

(中央大学附属以外は大学受験をすること、と私が娘に言っていたこともあります)

【受験校と受験結果】

受験日	受験校	受験科目数	合否
1/10 (午前)	西武学園文理	4科	合格 
2/1 (午前)	東京電機大学	4科	合格 
2/1 (午後)	東京電機大学	1科 (国語)	合格 
2/3 (午前)	成城学園	4科	不合格
2/4 (午前)	中央大学附属	4科	不合格

<1月受験>

・西武学園文理

1月受験は初戦であり流石に緊張していたようで、甘える時に腕を組んでくるのですが、べったりくっついていました。

朝、アントレの先生方からZoomで応援をして頂いているときも神妙な顔で頷いていました。

落ち着いたのか、少し笑顔で受験会場に向かっていきました。

西武学園文理は過去問の算数が12点しか取れないと苦しうでしたが、当日は苦手な問題が出なかった、と少し穏やかな表情をして受験会場から出てきました。

ひとつ合格をもらい、そこから更に、「4科のまとめは重要だからやり直しをやらないと。基礎は重要なんだよ」と言い、前向きに勉強をしていました。

<2月受験>

・東京電機大学

2月受験の東京電機は取りに行こう！と、娘と会話しており、過去問の出来もぎりぎりいけるだろうと思っていたこともあり、本人もある程度自信を持って受験をしに行きました。西武学園文理が合格していたこともあり、肩の力がいい塩梅に抜けていたように思います。

こちらも午前午後、両方とも合格をもらい、中学受験としての成果が出たことになりました。

一方、受験会場から出てきた娘からは「男子が多すぎて女子がほとんどいない」という言葉が。気が付かれましたか、と思った瞬間でした。

・成城学園と中央大学附属

「私服 OK」のチャレンジ校として受験しました。娘ともチャレンジはしよう、やるだけやろう、と話し合いをし受験しましたが、想定通りの結果となりました。

【受験期間の気遣い】

息子の大学受験も中学受験の期間と重なっていたため、受験期間は寒くても毎日換気、食事では生物は極力避け、お風呂はリラックスするように香りの良い入浴剤を用意していました。

体を温めるために、みそ汁には生姜とネギを必ず入れるようにしていました。

また、勉強の合間に食べられるように、大好物のオレンジピールのチョコレートを準備していました。

私も極力在宅勤務に切り替えていました。

【進学先の決定】

西武学園文理と東京電機大学、どちらかを選ばなければいけないのですが、実は後から色々調べてみて分かったことがありました。

西武学園文理は「私服 OK」ということです。

(私は12月の塾の面談で、らっきょ先生は私服 OKであることをご存じでご提案されたのではないかと思います)

受験が終わるまで娘には伝えず、最後まで走りきるために隠していました。

娘は東京電機大学の方が西武学園文理より偏差値が高いことを気にしていましたが、最終的に「男女比率が同等であること」「私服 OK」「遠いけれど自分の希望が叶う」「どちらを選んでも大学受験はする」という観点から西武学園文理を選びました。

【最後に】

中学受験は人生の通過点でもありますが、今を生きている娘には大きなチャレンジであり経験だったと実感しています。中学受験という上澄みの世界では小学校3年生、もしくは4年生からずっと勉強を続け、合否の先に進学があります。ともすると本人の受験ではなく親の受験になってしまい何かを見失いそうになります。

娘は気が付くのが遅くなってしまいましたが、小さなことかもしれませんが、親が望んでいた、課題形成(See/Think/Plan/Do)をすることを自ら出来たと思っています。

そして、初心貫徹「私服 OK」の学校に進学することも掴み取りました。

良くも悪くも頑固者の娘ではありますが、ここまで成長した娘を誇りに思っています。

(尚、2/22時点で、同じく頑固者の息子が2浪から抜け出せておりません。参考になるか分かりませんが、大学の一般入試は学部学科単位で受験料が掛かるため、1学部3学科を受験しようとする、1日の受験日で軽く受験料が10万とか吹っ飛びます。大学を5つ受験したら軽く40万とかいきますので、娘には推薦で大学受験はお願いしようと思っています)

宮里康生くんのお母様

1. 結果（受験全体の振り返り）

【1月受験】

- 1/10 午前 開智所沢 ➡×不合格、午後 城北埼玉（特待） ➡×不合格
- 1/11 午前 城北埼玉 ➡○合格
- 1/12 午前 開智所沢 ➡×不合格
- 1/15 午前 開智所沢 ➡×不合格

【2月受験】

- 2/1 午前 城北 ➡×不合格、午後 東京電機 ➡×不合格
- 2/2 午前 東京電機 ➡×不合格
- 2/4 午前 獨協 ➡○合格【進学先】、午後 東京電機 ➡○合格

途中、5連続不合格が続き、2/2の時点で家庭内は「お通夜」のような空気でした。しかし最後の最後（いずれも倍率6倍以上）で結果につながり、あきらめずにやり抜く大切さを親子ともに痛感しました。この体験記が同じ偏差値帯のお子様や苦しい時の参考になれば幸いです。

2. 家族構成・家庭の状況

- 父 ➡ コロナ禍以降、在宅ワークが中心
- 母 ➡ 正社員（残業30時間/月程度）
- 姉 ➡ 3学年上。私立の中高一貫女子校。大手の塾（I予備校）に通塾経験あり。

3. アントレを選んだ理由

姉が通うI予備校では親の介入がほとんどなく、6年生で模試結果が崩れた際に「もっと早く手を打てたのでは」と後悔が残った。康生の中学受験では、本人の特性に合わせて伴走できる塾を探していたところ、ネットでカッシーのインタビュー記事を読みアントレの存在を知る。フンちゃんからの説明で感銘を受けたこと、康生も体験授業が楽しかったとのことで入塾を決意。

4. 志望校選び

男子校希望（大学受験をする進学校） ➡ 城北（第1志望）、成城・獨協
滑り止め ➡ 城北埼玉
通学利便性 ➡ 開智所沢
工学系が好きで手先が器用な康生に合いそう ➡ 東京電機

5. 各教科の状況と取り組み（親の関わり）

全体としては、気分のムラがあり成績が安定しないタイプ。初めての環境で緊張しやすく、模試は力を出し切れないことも多く、合不合格判定は厳しい結果が続いた。

① 国語（父親担当）※最大の課題

4年上期は、国語テストで漢字と選択問題以外がほぼ白紙のこともあり、本人も「国語ができない」という苦手意識が強い状態（いわゆる「酷語」状態）。フンちゃんとの面談を機に勧められた参考書（論理エンジンなど）を導入し、毎朝6:30に起きて国語というルーチンを開始。第1回合不合格判定の結果を受け「酷語」が足を引っ張ると判断し、週1回国語の家庭教師も併用。最終的には、国語の大崩れを防ぐことが合格の鍵だと感じる。

② 算数（母親担当）※好きだが波がある

立体、平面図形が得意で、粘り強く考える力は長所。一方で気分のムラがあり、出来不出来が大きいことが課題。直前期は、難問に当たった際に「途中で崩れる」ことをどう防ぐかを意識して声掛け。

③ 理社（6年夏まで父親担当、以降は母親担当）※覚えるが忘れやすい

「覚えるのに時間がかかる割に忘れるスピードが速い」タイプ。回転数で補う。
▶理科：コアプラス3周。計算分野が伸びずに12月に「魔法の理科」を3周し得点源になった。
▶社会：6年生6月からコアプラスに着手。母も歴史が得意ではなく、親子で「どちらが早く覚えるか」競う形で継続。最低7周は回した記憶あり。漢字に苦戦しながらも平均点以上がとれるようになった。YouTubeの「ドグマくん」は歴史の流れがわかりやすくお勧め。

6. 過去問（方針と工夫）

9月以降に開始。方針は一貫して「合格最低点ではなく、合格者平均点を目指す」。最低点ギリギリよりも平均点付近を安定して取れる状態を作る方が、当日のプレに耐えられると判断したため。

- ▶城北埼玉⇒数回で合格点を超え、一定の手ごたえ
- ▶開智所沢⇒12月に合格最低点を超えたが、落とす回もあり不安材料
- ▶成城⇒国語（抜き出し問題）が相性悪く、国語で崩れると算数にも影響する懸念があり、出願はしたが受験せず
- ▶東京電機⇒合格最低点が高く、合格者最低点と平均点との差が小さい印象。少しのミスが命取りで、当日のメンタルに左右されると予想
- ▶獨協⇒国語との相性がよく、初回で合格最低点を超えたが、城北優先で2/2までは1回のみ取り組んだ【城北の取り組み（最大の勝負どころ）】

12月末までに1日目の問題を5~6年分。1月中旬以降は、2日目の問題（難易度が上がる）を毎日。合格者平均点を超える回が続き「全日程受験できる」と判断。しかし本番4日前、算数が難しく途中リタイアし大崩れ。メンタルの立て直しのため、翌日と翌々日は一度解いたことのある1日目の過去問を解かせ、平均点を大きく上回る成功体験で自信を回復させた。1/31は初見の2日目の問題に挑戦し、合格平均点を確保できたため、精神的な安心を得た状態で2/1本番に臨む。

7.その他

反抗期がなく比較的素直で、言われたことはやる一方（親が近く座っていればやる）、自分から始めるタイプではなかったため、親の声掛けと学習の段取り作りが不可欠であった。ゲーム機は持たず、5年生からはマイクラを封印し、学習リズムを崩さない環境作りを意識。

8.1月受験~1月下旬（戦略の揺れと決断）

開智所沢を押さえたかったものの合格が得られず意気消沈し、一時は「東京電機を本命に」と考える。フンちゃんに相談したところ、「本人が納得できるならそれも良い」という現実的な助言をいただき、同時に城北・成城・獨協の難易度が上がっていることも改めて認識。ただ、康生本人は「城北を受けたい」と強く希望。そこで「残り半月、城北2日目の過去問で合格平均点を安定して超えられなければ受験しない」という条件を共有し、ここで本人のスイッチが入ったように感じる。

9.2月受験（崩れてから立て直すまで）

2/1午前の城北はアントレのZOOM応援で先生方から言葉をいただき落ち着いて向かったが、不合格。国語の出題形式変更への不安もあり、算数・理科で凡ミスが目立つ。午後の押さえの東京電機も不合格。2/2は勝算のない城北よりも、合格確立の高い東京電機を受験したが、再び不合格。これにより、本人は号泣、親も焦りでいっぱいになる。ここで痛感したのは、城北対策に比重を置きすぎ、他校対策が不十分だった（親の戦略ミス）という点。

そこでアントレに連絡し「2月で必ず合格を取りたい」「家族だけでの応援では限界なので、先生方の直接指導で自信を取り戻してほしい」と相談。ここで東京電機対策の指導を引き受けていただいたことは、本当に救いだった。

【2/3~2/4の立て直し】

康生はまだ城北（2/4）を諦めきれず、2/3朝に城北過去問（国算）を条件付きで実施。結果が振るわず、本人が「受けない」と判断。ここで本人の納得感を得られたのは大きかった。次に獨協に切り替える根拠として①国語過去問の相性②土曜入試演習での得点状況③算数で得点できそう④理社の基礎力が付いており取りこぼさない自信、という点を本人と共有。そして、2/3午前に獨協国語の過去問をやらせたところ合格者平均点を取れたことが自信につながる。

2/3午後はアントレで東京電機対策（算数2回分+理科2回分）。フンちゃんとコバトの指導のもと、算数は9割以上の高得点、理科も8割超えという手ごたえが得られ、先生方から「今日感じなら大丈夫。普段通り受けてきてね。」と背中を押していただく。ここで康生の表情が一気に明るくなり、家庭も落ち着く。帰宅後、康生が「これが最後だから、残りの過去問（獨協算理社）は全部やる！」と自分から言ったことは、親として忘れられません。

※2/3は城北（国算）+獨協（国算理社）+東京電機（算×2+理×2）の計10回分の過去問をやった。

【2/4本番】

当日の朝、「昨日はフンちゃんたちに勇気づけてもらったからZOOM応援はいらない」と落ち着いた表情で出発。獨協、続いて東京電機を受験。

19:55 獨協合格。久しぶりに「合格」の文字を見て家族で涙

22:30 東京電機も合格

最後に2校とも〇となり、家族で歓喜！

進学先は、男子の成長に合わせた指導と、生徒中心の関わりを大切にしていると感じた獨協に決定。

10. アントレへの感謝

結果が出ず苦しい時期が長く続きましたが、アントレの先生方と仲間の存在が、康生の支えになりました。インフルエンザ罹患時と学校行事以外は休まず、3年3ヶ月通い続けられたのも、塾が「前向きに通える場所」だったからだと思います。

保護者会でのお話は非常に参考になることが多く、康生を支えるうえで大きな指針となりました。

特に最後の2日間、家族だけでは立て直すことが難しい状況でしたが、先生方の温かい声掛けと的確なご指導により「戦える状態」まで導いていただきました。このとき、困難に向き合い、自ら立ち直ろうとする姿に、精神的な成長をはっきりと見ることができました。

また、この受験を通して、親子で同じ目標に向かって本気で取り組むことができたことは、かけがえのない財産となりました。苦しいことも多くありましたが、親子で最後まで向き合い続けて本当に良かったと心から思っております。

この経験を通して、困難な状況であっても粘り強く努力を続けることの大切さを康生も身をもって学ぶことができたと思います。これから受験を迎える生徒・保護者の皆様にも、自分を信じて挑戦を続けていただきたいと願っております。

今後のアントレのさらなるご発展と、受験生・保護者の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。
3年3ヶ月の間、本当にありがとうございました。

横沢大地くんのお母様

「これでよかったのだろうか」と何度も思い試行錯誤した3年間でした。息子はご縁があって第一志望校合格という結果で終わることができました。我が家なりに乗り越えた体験を書かせていただきます。

【入試結果】

1/10	開智所沢中等教育学校(第1回)	合格
2/1	早稲田大学高等学院中学部	合格(進学)
2/2	城北中学校(第2回)	合格

【息子について】

落ち着きがなく、うっかりや忘れ物が多いことは常に悩みの種でした。鉄道やガンダム、ボードゲーム、読書が好きで素直で優しい子です。ものおじしない性格のため、5年生頃から一人で電車に乗って出かけることを楽しんでいました。学校の発表なども緊張することなく、普段通りにできることが強みだなと感じていました。好奇心旺盛で日々疑問に思うことが多く、一緒に考え調べる習慣がありました。勉強も同様でしたがすぐ脱線してしまうため、入試直前は「今ほとにかくそのまま覚えて」とやきもきする程でした。「塾が楽しい」という気持ちが最後まで受験勉強を続ける力になったと思います。

【入塾のきっかけ】

主人が中高大一貫校出身だったこともあり、少しでも良い環境で学んでほしいと考え中学受験を選択しました。塾選びは自宅から近いこと、体験授業が好印象だったことからアントレに決めました。同じマンションにアントレ生が数人いました。みんなで一緒に帰ってきてくれるため、送迎は一切しませんでした。

【クラスについて】

入塾時(3年生3月)Cクラス、4年生の途中でBクラスへ、5年生になるときにAクラスへ。6年生の時にSクラス(算数)の挑戦権をもらい約1か月頑張りましたが、難しさに圧倒されAクラスに戻ってきました。

【4~5年生】

土日の復習予習、一週間のリズムができるまではとても苦労しました。4年生までは私が一緒に勉強しました(算数)。二人で考えても分からない時は主人にお願いしました。5年生の算数は難易度が上がり私はついていくことができず、丸つけやプリント整理だけになりました。しかし、放っておいてはやらないため逐一「やったの?」「〇〇は?」と声をかけました。一緒に1週間のスケジュールを立て、失敗を繰り返しながらも流れを掴んでいきました。。

【6年生、志望校について】

模試が始まりましたが、いよいよ受験学年とは感じさせない日々を送っていました。志望校について息子は特にこだわりはありませんでした。精神年齢の幼い息子には男子校が合っているのではと思い、学校説明会や文化祭は男子校をいくつか回りました。その中で早大院が気に入り、目標は高いほうがいいねという気持ちでした。しかし、合不合判定テストの結果は目標には程遠い状況でした。第1~6回すべて第一志望を早大院にしましたが偏差値は51.5~58.1、最後までE判定でした。親としては第一志望の変更を何度も提案しました。息子は「やる、頑張る」と言うのですが勉強の取り組み方はなかなか変わらず、「やるって言ったよね」「そんなじゃ受験資格ないよ」と言ってしまうしていました。責め立てるような言葉で傷つけてしまったこともあったと思います。本当にごめんね。息子の性格だからこそ乗り越えてくれたのだと思っています。担任プーさんの「本人の意志が硬いのであれば受けさせてあげてください」という言葉で私たちも覚悟を決めました。第二志望は城北と巣鴨の2校で最後まで悩みました。第二志望は進学先などを考慮して親主導で城北に決めました。

【入試演習と各教科について】

男子上位校クラスを受講。プーさんからは合格プラス15点位を目標にと言われていました。2-3回は合格に届かず、それ以外は合格プラス10~20点位でした。極端な得意苦手科目はなかったと思います。算数は問題の読み間違い、字が汚いため計算ミスが多かったです。難しい問題の方が粘り強く取り組んでいたと思います。国語の文章題は内容が面白いとよく私に教えてくれました。社会は全般的に知識が曖昧で、漢字が書けず落とす問題も多かったです。理科はまとめテストの結果(4分野)を分かりやすい表にまとめてい

いただいたので、それを参考に組みました。理社はコアプラスを繰り返し解くのがよいと合格体験記などを読みアドバイスしましたが、単調な作業が苦手なのかあまり取り組めず。最後の1か月は過去問に時間をかけました。

【直前期】

共働きで日中家に誰もいないため、一人で勉強するのは難しいと判断(隠れてタブレットなど長時間動画視聴してしまうため)。感染症の流行もなかったため1/29までいつも通り登校と通塾。本人の希望もあり1/30のみ学校を休みました。運動不足は良くないと思い立ち、年末～入試が終わるまでほぼ毎日朝30分ほど近所を走っていました(走ると集中できるようでした)。睡眠が一番重視し、普段から22時頃までには寝かせるようにしていました。主人が自分の受験の時に頭が良くなるようにとタコを食べたと聞き、4日連続タコを食べました(アヒージョ、おでん、お醤油などで、笑)。

【1/10開智所沢中等教育学校(第1回)】

複数回の受験も検討しましたが、緊張をしないタイプの子でも思った以上に疲労感があったことから第1回のみ受験にしました。模試の際に長蛇の列で入場に時間がかかった経験から当日は早めに会場入り。受験者数が多かったため試験開始が15分程度遅くなりました。

【2/1早稲田大学高等学院中学部】

午後に面接があるためお弁当持参です。塾弁の定番お弁当(生姜焼き)にしました。服装は普段着でよく、無地のロングTシャツと黒いズボンにしました。着脱しやすいようにパーカー、ダウンコートで防寒。早めに到着しました。集まった人数が多くなったため、開門予定の7:30より早い7:20に入場できました。保護者は講堂が控室になります。講堂内の人数は少なく一旦学校から離れる人が多い印象でした。私は試験開始8:30まで講堂で待機した後一旦自宅に帰りました。面接終了時間は12:20頃Webサイトに掲載(受験番号と終了時間)。試験会場の教室ごとに面接の時間が割り振られていました(受験番号順ではありませんでした)。面接は1グループ15分、5人の集団面接でした。質問内容は「志望動機」「学院の魅力」「自己アピール」「入学後の抱負」「小学校の先生との関係」「最近気になっているニュース」「家の手伝いについて」でした。私は面接終了予定時間の少し前に講堂に到着。終了した順に受験番号が呼ばれます。呼ばれたら講堂から出て息子と再会しました。やりきった様子だったため一安心しました。結果は2/3のため、2/2の城北中に備えます。

【2/2城北中学校(第2回)】

模試の会場として何度か経験したため、普段通りに受けられたと思います。当日20時に結果発表。発表までがとても長く感じました。Webサイトで合格を確認し、家族みんなで飛び跳ねて喜びました。早大院はチャレンジ校だったため、城北の合格に安堵しました。

【2/3早大院結果発表】

発表は9:00のため息子はいつも通り学校へ登校。私たちもいつも通り仕事へ行きました。時間になり私がWebサイトで合格を確認。信じられない気持ちでしたが、各所に報告。息子が帰宅する時間に電話で報告しました。もちろん大喜びでしたが、息子も私たちも城北の合格が分かった時の方が喜びや安堵感が大きかったように感じます。

【最後に】

息子が最後まで第一志望を変えなかったこと、それを尊重できたことが良かったと実感しています。この三年間で「学習習慣」「失敗と成功を繰り返し自分にとって良い方法を考えること」「自分を信じ、諦めないこと」の大切さを学んだと思います。

息子の努力と成長を誇りに思います。合格おめでとう！

ご指導いただいたアントレの先生方、大変お世話になりました。この壮絶な受験生活を笑顔で終えることができたのはアントレの先生方、お友達、学校の担任の先生、義理の両親などすべての方の支えがあったからです。本当にありがとうございました。

A . N . さんのお母様

【中学受験～母の本音】

5年生からアントレに通い始めた娘・本人の中学受験は、当初、私にとって「向き合えない出来事」でした。当初の私にとって通塾は主人主導、本人に受験の意思はなく、何より私は公立育ちで「中学受験＝私には無理！」という苦手意識の塊。さらに地方勤務から戻った直後、新設部署での仕事に追われ、帰宅が翌日になることもある生活でした。通塾を決めた際、「私は中学受験には協力できない」と宣言していたほどです。今思えば、単純に考える余裕がなかったのだと思います。

【母ピンチ～第1回面談（5年生11月）】

そんな中、5年生の11月、娘が突然ひと言。「受験してみたい。」……え？今から？驚きましたが、本人がやりたいと言うなら応援したい。ただ、親としての覚悟も関わり方も分からず、初めて面談を申し込みました。フンチャン先生からは、「保護者の方は、ある程度の覚悟を持って通われていますよ」と、実に率直なお話。「現状では、娘さんは“ただ教室にいただけ”ですね」と核心を突く一言。さらに、「ご家庭でのサポートが難しければ、算数の予習・復習で個別指導を2コマつける方法もあります」と、現実的なご提案も。

家族会議の結果、「個別指導を希望するのであれば、まず本人が姿勢で示すこと」を条件にしました。一方、私が勉強を見ると親子喧嘩必至。そこで発想を変え、「一緒に勉強する母」になることに。TOEIC初挑戦を宣言し、娘と並んで机に向かいました。すると不思議なことに、娘の学習姿勢が前向きに。個別指導を2コマお願いすることになりました。上原先生・新妻先生のご指導のおかげで算数の理解が深まり授業でも成果が見え始めました。

【受験校選定】

学校見学を始めたのは、6年生直前。（今思うと完全に出遅れていました）その時点で娘は、女子中に興味を持っていたため、まずは私立女子フェスタへ。第一志望校（チャレンジ校のため、本人の希望でD校とします）を気に入った様子。その後も他校説明会などに参加しましたが、「本人が行きたい学校だけ受ける」を大切にしました。最終的に、①娘が希望しているD校、②通学の利便性と進学実績から富士見、③国際バカロレア候補校の開智所沢を受験校としました。

【娘の成長】

娘の大きな変化を感じたのは、6年生の夏休みでした。両親は出勤し仕事（合間に Alexa で励まし）、弟は学童（のちにファミリーサポート利用）。そんな中、娘は一人で通塾し、自宅学習にも主体的に取り組むようになりました。この頃、国語が伸び悩み、個別指導は国語1コマを佐川先生に、曜日変更で算数1コマを武井先生にご指導いただくことに。基礎を丁寧に積み上げていただき、夏期講習後にはCクラスからBクラスへ進級できました。また、モチベーション維持のため、勉強の合間の楽しみも重視しました。

蒲焼さん太郎や杏仁豆腐など“お気に入り補給”を常備し、集中力が切れたら「お風呂でリフレッシュ＝携帯解禁（※水没注意）」という独自ルールで乗り切りました。

【焦り～第2回面談（6年11月）】

進級後も模試の結果は伸び悩み、娘は「D校に全然届かない。」と落ち込み、私も「このままでは全落ちしてトラウマに…!」と焦り始めました。受験校を増やそうと面談をお願いしました。再びお会いしたフンチャン先生から「授業態度、とても良いですよ!」と言われた時は、驚きました。“ただ教室にいただけ”だった1年前からの成長を実感した瞬間です。また、「富士見・開智所沢は合格圏。本人が通う気のない学校まで無理に受けなくても」という言葉に、どれほど救われたことか。富士見に合格するまで、この一言が親子の支えでした。一方で、「D校をターゲットにするよりも、本人のレベルを鑑みて勉強プランを練るのも大切です。」との現実的なご助言もいただきました。娘の思いを尊重しつつ、最終的には「富士見合格を最優先。その後D校に挑戦する」という方針を決めました。現実と夢の折り合いをつけた選択でした。

【受験校対策】

過去問傾向や苦手分野を表にまとめていましたが、具体的な学習に落とし込むところまでは手が回らず学校の宿題、塾や入試演習の復習に思いの外時間がかかってしまい、あまり過去問を解けなかったのも反省点です。せめてもと、苦手分野の問題や解説、漢字、熟語等はトイレに、歴史年表や地図はお風呂に貼り、“生活動線学習”を実践しました。

◆**富士見**：過去問5年分実施。直前まで苦手な「国語」の過去問を読み込んで対策するようにとの助言をいただいていた。入試前日に受験 Q&A に国語の入試出題作品名が掲載されていたことを知り、「もっと早く確認すべきだった…」と猛省。学校からの情報収集の大切さを痛感。12/13 受験当日の流れ（集合場所や朝の案内の様子）がわかる「受験生のための事前準備会（6年生限定）」（動画視聴）もありました。テストに関しては、問題によっては部分点があるので、何か書けるものは書いて下さいとのアドバイスがありました。

◆**開智所沢**：過去問2年分実施。11/22 入試問題説明会（動画視聴）にて全試験4科ともどのような問題が出るか発表してくれました。アントレでも国語と理科の対策プリントを作成してくださりました。12/21 本番さながらの入試体験会もありました。（非常に多くの受験生が参加していました。）

◆**D校（チャレンジ校）**：まずは本人のレベルにあった基礎固めを優先すべきとのアドバイスをいただいていたため、過去問は1回分のみ。「何も対策ができない」と本人は最後まで焦っていましたが、「基礎あっての応用!」と説得し続け、塾のプリント等を中心に学習しました。

【体調面】

11月、インフルエンザA型に感染。予防接種をしていたにも関わらず、40度の高熱が出ました。小学校も学級閉鎖が相次ぐ状況で、無理をせず休養期間と割り切りました。1月に再度、インフルエンザが流

行した際には、「受験まではもうインフルエンザにかからないよ！」と励ましつつ、R-1を愛飲、手洗いうがいを徹底。ただ年末以降は風邪を引き続け、特に咳が酷く、眠れない日が続き、本当に可哀想でした。枕を高くし、就寝中も加湿を欠かさず、栄養面も気を付けましたが、本番まで続けました。

【受験期：1月・2月】

1/10 午前：開智所沢（第1回）：不合格 入試会場を大宮にしたかったのですが、申込時にはすでに定員越え。試験会場は開智所沢に。事前情報から、学校到着順に帰れるとのこと。7:20には学校到着。（7:45以降は大混雑だった様子）娘は「Zoom応援は大丈夫」と淡々と会場へ。後ろ姿を見送る親たち（私もその一人）。待機場所がないため、万々に備えて東所沢駅近くのファミレスへ行くも、受験生の親で大混雑。まさかの2時間待ち。混雑の影響で試験開始が15分遅れ、午後の試験に間に合うのかと冷や冷や。開智は試験が続くので、結果はタイミングを見ながら確認することに。

1/10 午後：星野学園（理数選抜特待）：特待生へ繰り上げ合格 利便性から、試験会場を大宮に選択。「まずは1校、合格実績を」（娘のトラウマ回避）で受験。本人は手応えを感じていたものの、当初は進学クラスでの合格。1月12日に特待生への繰り上げ合格の連絡をいただき、本人もようやく安堵した様子でした。

1/15 午前：開智所沢（特待B）：不合格 開智所沢の試験は、「後悔するくらいなら挑戦を」と全回受験しました。開智グループは合格基準点、希望すれば本人の得点も開示してくれるのですが、あと1点に泣きました。親は逃げずに受け切った娘の強さを誇らしく思う一方、本人は大きなショックを受けていました。今振り返ると、偏差値を踏まえ、特待生試験は見送るという賢い撤退も選択肢だったのかもしれない。

1月後半 「2/1は、富士見を受験。合格したら、2/2～2/4 D校受験。ただし、不合格だったら、合格するまで富士見を受験する」と、受験パターンを固め、親子で約束しました。

ある日、寝言で「すごいストレス溜まって！」と叫ぶ娘を見て、見えないプレッシャーの大きさを痛感しました。私自身も生きた心地のしない日々でした。

2/1 午前：富士見（第1回）：不合格 2/2 D校受験するためにも、2/1は合格を死守したいと親子共々考えていました。また、2/1の偏差値が他の日よりも低かったため、初日合格しなかったら、次の日受かるのはさらに難しくなるとの焦りもありました。結果は、「不合格」。「・・・なんで？」と娘は泣きながらも、「公立に進学するから、明日はD校を受験させてください。」と懇願してきます。この瞬間が今回の受験で一番つらかったです。これまで本人がD校を目指して頑張ってきたのを痛いほど知っているのので、本人の希望を叶えてあげたい気持ちがありました。が、主人は冷静に「富士見に合格してから、第1志望校に行く約束だったよね。」と。約束通り明日は富士見（第2回目）を受験することにしました。就寝前に娘がボソッと「私、どうしてダメだったのかな」と。「受験校選定間違ったのかな。模試の結果を

受け止めて受験校のレベルを下げたらよかったのかもしれないね」と話し合いました。

2/2 午前：富士見（第2回目）：合格 午後：富士見（算数一教科）：合格 D校（第1回）を受験できないことを悔やみつつも、富士見を受験することに納得して、午前中、学校へ向かいました。

「午後は受験したくない」と言い出しましたが、「明日D校を受験しに行くためにも、少しでも合格の可能性を上げていこう！」と励まし、午後も試験会場に向かいました。

受験後、最寄りである中村橋駅まで歩いていると、塾のお友達2人に会えました。友達と会話が出来て嬉しい様子の娘。久々の笑顔。その際、ママさんから「富士見の1日目は難しく、2日目がチャンスみたい」と伺い、希望を持てたのが救いでした。（後日、別塾のママさんも同じことを仰っていました。）偶然駅で富士見の先生や事務の方にお会いした際、受験生3人で手を合わせて「合格しますように」と祈っている姿に「3人とも本日ご縁がありますように」と祈らずにはいられませんでした。

富士見（第2回目）19時の発表と共に確認。「合格」の結果に、親子で叫んでしまいました！！今まで頑なにアントレの応援 Zoom も合否報告の電話も（親が電話することさえ）拒んでいた娘が「フンチャンに電話しよう！」と意気揚々と電話。20時からの富士見（算数一教科）も「合格」。本人は、こちらの合格をいただけたことは今までの頑張りが報われたように感じたそうです。「ようやくD校を受験しに行ける！」といそいそと、明日の試験に向けて持ち物準備をしました。

2/3 午前：D校（第2回目）：不合格 試験中、特に算数が難しすぎて、頭が痛くなったとのこと。それでも、途中で投げ出さず、きちんと4科受けきってきました。過去問も応用問題にも取り組みなかったのに、頑張った娘をとにかく「お疲れさま！」と精一杯労いました。結果は、「不合格」。本人も覚悟していたのか、淡々と受け止めて、明日最終日の準備に着手しました。

2/4 午前：D校（第3回目）：不合格 「昨日よりはできた」と言い切り、やり切った表情で帰宅。とにかく今は、受験が終了したことに安堵している様子でした。

本人の好きな夕食やケーキを用意し、家族で「一生懸命頑張った娘を労う会」を実施しました。会では、「私、頑張ったよね？」とよく言っていました。ただ、試験結果は「不合格」。当初、娘は静かに受け入れているように見えたのですが、その後、「もっと早く始めていれば…」と悔し涙の日々が続きました。

【おわりに】

結果として第一志望には届きませんでした。が、受験を通して得た「挑戦し続けた経験」は、娘にとって何よりの財産になりました。最後まで受けきった娘を、親として心から誇りに思っています。

学校見学の遅れや受験準備の進め方など、反省点も多いですが、親子にとってかけがえのない学びの時間でした。我が家は市のファミリーサポート制度を活用し、娘の塾への送りや下の子の学童へのお迎え、夕飯や見守りをお願いできたことが大きな支えとなりました。親が無理をしすぎず、頼れるところは頼る。その方が子どものためにもなると感じています。

また、娘は、「第一志望校への強い思いがあったからこそ最後まで努力を続けることができ、その経験が結果として富士見合格につながった」と振り返っています。富士見の入学説明会で校長先生より「卒業する時に、この学校に進学してよかったと思ってもらえる学校にしたい」というお話を聞き、この学校とご縁をいただけたことを心から嬉しく思いました。これも最後まで娘に真摯に向き合い、時に厳しく、時に温かく導いてくださったアントレの先生方、個別指導の先生方のおかげです。心より感謝申し上げます。この経験を胸に、娘が次のステージでも自分らしく学び続けてくれることを願っています。

A . N . さんのお父様

まず私がアントレひばりヶ丘校を知ったきっかけは、私の職場の先輩に、お子さんがアントレさんを卒業された方がいらっしゃったことでした。その方から、アントレさんの勉強の指導方法がとても素晴らしかったと伺い、私自身がアントレのファンになりました。

子供達には、決して“がり勉”ではなく、「勉強をする時はする」「遊ぶ時は遊ぶ」「運動する時は運動する」といった、はじめのある生活を送ってほしいと考えていました。土日に塾ががっちり入らない点も、私がアントレさんを気に入った理由の一つです。

また、常々子供達には、「勉強も大事だが、人間性が一番大切だ」と伝えてきました。人間性が欠けてしまうと、どんなに優れた才能やスキルを持っていても駄目だ。人間性が良ければ、どんな世界でも人に助けてもらえる。「ありがとうございます」「すみません」がきちんと言える人になろう、と話していました。

当初の私の目的は、中学受験に合格することそのものではありませんでした。予習や復習を通して、将来の高校受験や大学受験につながる「勉強の習慣」を身につけることでした。そのため、中学受験がうまくいかなければ、公立中学へ進み、高校受験をすれば良いと考えていました。

そのような考えから、最初からアントレさんにお世話になろうと決めていましたが、親の仕事の都合で、小学3年生と4年生の2年間、自宅を離れることになりました。娘が小学2年生の時、「2年後に5年生から入塾しても大丈夫でしょうか」と、当時アントレひばりヶ丘校の事務の方に問い合わせたところ、「5年生から入塾されるお子さんもいますので大丈夫です」と言っていただきました。

しかし、実際に転勤から戻り、5年生から入塾してみると、現実には厳しいものでした。我が家は共働きで、親の帰りも遅いため、塾への送りは市の援助を利用し、迎えは早く帰宅した方が行くといったものでした。また、親として予習・復習の内容も分からず、「中学受験は親の受験」と言われる中で、最後まで十分なサポートが出来なかったことを、今でも申し訳なく思っています。それでも娘は、本当によく一人で頑張りました。

5年生の11月、妻が村上先生との個別面談で相談したところ、「親が勉強をみられないのであれば、個別授業を取り入れてみてはどうですか」と提案して頂きました。私は以前から、「算数・国語・社会・理科のうち、1教科でもまとめテストで名前が載る、もしくはクラスが上がったら、個別授業を受けても良い」と娘に伝えていました。ちょうどその頃、まとめテストの社会で名前が載るようになり、12月から個別授業を受け始めました。

ちょうどその頃、娘は私立女子中学校フェスタに行き、受験したい学校も決まりましたが、第一志望校の偏差値は、当時の娘の偏差値を大きく上回るものでした。それでも、個別授業と本人の努力により、成績は徐々に上がっていきました。夏休み前には、「夏休みを制する者は受験を制する。ここが踏ん張りどころだ」と伝えたところ、親の想像を超える成績を取ってくるようになりました。ただし、それでも第一志望にはまだ遠い状況でした。

あとになって、下の息子の説明会で知ったことですが、カリキュラムが前倒しになっていて、上位校を目指すには、早い段階でそのレベルに到達し、その上で演習を重ねる必要があるということでした。当時は、「最後まで成績が伸びているから、可能性はあるかもしれない」程度に考えていました。娘の勉強の仕上がり状態は、夏休みの段階でようやく基礎が一通り身についた、という印象でした。

受験2か月前になると、当初の目的である「勉強習慣を身につける」という点では、父親として十分に満足していましたが、その時点でも娘自身は「第一志望に合格したい」と強く思っていました。私は合格の可能性は低いと考えていたため、2月1日・2日に富士見中学に合格した場合のみ、2月3日・4日に第一志望を受験する、という約束を娘にさせました。

結果として、2月2日に富士見中学に合格し、娘が悔いのない受験が出来るよう、第一志望にも挑戦しました。第一志望は残念ながら不合格でしたが、当初の目的は達成され、娘自身も悔しさを経験し、人間として大きく成長出来た受験だったと感じています。6年後、大学受験で第一志望校の生徒と互角に勝負出来るように、これからも親として娘の努力を支えていきたいと思います。

最後になりますが、村上先生、柏原先生をはじめ、本人に関わって頂いたアントレの先生方、最後まで応援して下さい、心より感謝申し上げます。また、個別授業の先生方、本当に娘のやる気を引き出して下さり、ありがとうございました。

A. S. さんのお母様

【家族】(中受コミット順で紹介)

母：中学受験の「狂気」担当のはずが仕事忙しすぎて放置。アントレでは「Sのお母さんは厳しい」という評らしい。

兄：大手S塾(笑)から武蔵合格。娘にとって最愛の兄でアントレの保護者会や面談にも出席。

中受時代は国社男子で算数弱者。小石川にも合格実績があるので、小石川対策を担当。

父：中学受験に無関心。「麻布と武蔵は両方受けられないの?」「巣鴨って都立?」と本気で口走るくらい無知。

塾帰りのお迎えで、娘にアイスやお菓子を買ってあげる係。

【中学受験をした理由】

兄妹ともにフリーダム過ぎ。地方の公立中高で過ごした両親のように真面目に内申点を稼ぐことは難しいと判断したため。また、出来るだけ早くから自由と責任を手渡せる環境で生活してほしいという願いもありました。

【アントレ入塾の理由】

兄の時にも入塾を検討しましたが、週3回の塾弁づくりは無理と判断。兄はコロナ禍の休塾の時期、武蔵算数をオンラインで受講するも算数過ぎてついていけず。

毎月のテストでクラスが上下する親のストレスと、頻繁なクラス変更のため先生や友達とのかかわりが作りにくいS塾より、先生や友達とかわりの中で学ぶアントレの方が娘には良さそう…また、先取りゼロで通塾を始めた兄が相当算数で苦勞したので、習い事的に3年生からアントレに通ってアドバンテージを取ろうという目論見も。

また、兄が武蔵で出会ったアントレ卒業生は数学に強く、主体的に勉強できる人が多いという印象を持っているということも決め手になりました。

【志望校について】

娘は兄の武蔵生活に憧れており、心の本命校は今でも武蔵。「大学は選びたい」という娘の一言で進学校中心に検討しました。

まず武蔵に似た自由な学校を中心に見学して憧れ校を作ろうと、3年生の初めての学校見学でJGへ。しかし「堅苦しそうなチャペルが無理」と一言。

武蔵や現在の小学校生活の延長線上にイメージできる学校から見せるのが良いだろうと共学の筑附、お茶の水、小石川を見学すると、小石川に一目ぼれ。理由はエントランスの様子が武蔵の赤の広場に似ていたこと、学園祭のパワフルさ。筑附やお茶の水は学園祭が中学単体の学園祭なので、どうしても見劣りしてしまうようでした。

都立専願というわけにはいかないので私立も検討しましたが、女子校の品行方正さに抵抗感が強く、JGのほか雙葉、吉祥女子、鷗友、東洋英和、恵泉を見学してもなかなか決めきれず、とりあえずJGを目指そうという感じでした。小6でやっとJGの学園祭を見学することができ、小石川と並列の第一志望ということに心が固まりました。そして、学園祭が一番パワフルだった吉祥女子ならやっつけようということでもこちらが第二志望校になりました。

【4年間の塾生活】

3年生 (Aクラス)

先取学習ゼロで体験授業に参加。自分から質問が出来るので、ABクラスどちらでもやれますよ、というアドバイスがありました。Bクラスからの方がいいかな?と思うも「妹は調子に乗ってるほうが力を発揮できる」という兄の一言で、Aクラスでスタートすることになりました。

3年生のうちにはテストもなく、とにかく楽しく通っていました。お友達として名前が出るのは男子ばかり。その後も白板の男女対決の際には「Sは男子扱いですか?」という質問が出るくらいだったと聞いています。

3年生の学びにはふたつの感動がありました。

ひとつは、予習の素晴らしさです。復習型の塾の兄の時には算数の授業を一度でも休ませると遅れに気が気ではありませんでした(実際に追いつくのは難しかったと思います)、アントレでは普段から予習で学ぶ姿勢が出来ていれば欠席分の白板ノートをいただければきちんと自分のものにできることに驚きと感動が。本来中学受験は、子どもを大人が引っ張っていくのではなく、自ら学ぶ姿勢を持てる姿勢を育てるべきであると痛感させられました。

もう一つの感動は、算数だけでなく国語が伸びたことです。読書好きの国語男子だった兄と対照的に、娘はこの頃ほとんど本も漫画も読まなかったのに、国語で苦勞すると思っていたのですが…アントレの記述中心の授業のおかげか、国語が算数と同じくらいできると娘が感じられるようになっていきました。

唯一の早期教育として、年中頃から絵日記を書かせていて文章を書くことに抵抗がなかったのもプラスに働いたと思うのですが、塾で国語を伸ばしにくいと考えていた母にとっては嬉しい想定外でした。

4年生 (Aクラス)

3年生の時ほど算数で点が取れず、夏休み前に初めての面談をタケノコにお願いしました。「ポテンシャルはあるのでクラスを引っ張って、全体のレベルアップのムードを作ってほしい」「でも、今からお尻を叩くと彼女はイヤになって投げ出しちゃうので様子を見守りましょう」と性格を知り抜いたアドバイスに感動しました。

一方で国語は安定的に点が取れていました。ただし、暗記が大嫌いなので漢字やことば系の問題は壊滅、理社も同じ理由で突き抜けた成績にはなりませんでした。

5年生 (Sクラス)

国算はSクラスをキープしているものの、自ら勉強するのは算数のみ。ただし、点数はパッとせず、1年間のまとめテストでAが取れたのはなんと1回(泣)

自宅での勉強時間は、塾がない日も超短時間。母がタケノコとの面談時にこぼすと、白板ノートのチェック欄にしっかり印が入り、出来なかった問題には付箋が貼られている様子をしっかりと見てくださっており、「想像よりちゃんとやっていますね」と頑張りを認めてくれました。

国理社の様子は4年時と変わらず…理社は時折Aクラスにお邪魔しているようでした。

また、5年生の冬期講習を海外駐在中の叔父一家を尋ねるため全欠席するという暴挙もありました(；) 半年ほど前にタケノコに相談したところ「それで何かが致命的になることはないのでは行かれましたらいいと思いますよ」というありがたいお言葉。「算数だけは自力でやっておいてください」と教材を購入させていただき、長いトランジットタイムにひたすら解いていたのも良い思い出です。

6年生 (Sクラス)

<夏まで>

いよいよ6年生。春期講習で算数白板5位という好位置につけていたのにはタケノコも意外だったようです。

ただ、志望校としたJGの壁は厚い。4科目同じ重みの配点なので理社の怠けは命取りになりますという指摘は当然のものでした。算数は確実性を上げてスピードアップを、国語は安定的な得点源なのでこの調子で磨き上げていこうという話になりました。

夏期講習前にはまずJG対策を盤石にしてから秋以降小石川対策をしていこうということで、過去のアントレからのJG合格者のデータをもとにかなり高い目標が提示されました。算数白板はそこそこだったものの、テストの順位が再下位という悲惨な状態で、理社も目標にはまったく届いていませんでした。

<秋から冬>

志望校演習を始める前に再度面談。やはり娘の中で小石川とJGどちらにより行きたいという気持ちが固められていなかったため、まずは志望校演習(女子上位)で吉祥女子対策を確実に固め、JGと小石川対策は自宅で頑張っていく方針を立てました。

ちなみに合不合の4科の偏差値は54→58→56→61→61→61という結果で、JGはすべてE判定、学校別サピックスオープンでも20%と30%。口が裂けてもJG志望とは言えないような成績でした。タケノコからは本人の気持ちが入ってくれば十分可能性はあると励ましていただきましたが、本腰はついに1月まで入らず、勉強するときは必ず音楽を聴きながら、休憩時間が勉強時間の2倍がデフォルト。親子バトルも頻繁でした。

11月頃から小石川の過去問をはじめ、高山先生をご紹介いただいて適性Ⅰの作文を何度か添削していただきました。個別指導も6年頭から担当していただいた牧先生から都立対策を新本先生に交代していただきました。適性ⅡとⅢは兄が採点、解説の上、新本先生に相談という流れになりました。11月にENAの模試を一度受けましたが判定はE。

11月の終わりころ兄にも面談に同席してほしいという娘の希望で、母、兄、娘、タケノコの4者面談をしていただきました。「かなり疲れているように見えます。今は好きな勉強だけをしてきたほうが良い」とタケノコから話がありました。武蔵ほど心惹かれる学校がなく、小石川とJGとどちらに行きたいかと問われても明言できない。その迷いから勉強に本腰が入ってこないことをタケノコは察していたと思います。ただ怠けているだけだととらえていた母も自宅での接し方を反省せずにはいられませんでした。

この時点でのタケノコの合格の見立ては、JGは五分五分よりも分が悪いくらい、小石川はうまく問題が合えば可能性はゼロではない、吉女は2回受ければまず合格、とのことでした。

12月の冬期講習が始まるまではタケノコのアドバイスをもとに「好きな勉強」の範囲で学習の計画を立ててもらいました。しかし、なかなかそれすら消化することが出来ないまま。母からも姿勢が変わったようには見えず、「冬期講習に入って頑張りが見られるようになりました」と言っていた抱いても不安なまま、1月入試に突入してしまいました。

ちなみに過去問の状況は以下の通り。吉女は9月の時点で合格最低点マイナス5点くらい、その後3年分すべて合格者平均が取れていました。JGは10年分解いて合格想定点(280点)を超えたのは1度だけ。ただ、12月が近づくにつれて合格想定までの距離は縮まっていく実感はありました。

<1月>

1月は栄東と浦和明の星を受験。

栄東で入試の感触をつかみ、明の星でJG挑戦権を確認する、という意識でした。栄東は東大コースに合格、しかし明の星では安定した得点源の国語で時間が足りないという想定外の状況にハラハラさせられました。

かなり気を揉みましたが何とか合格し、2月入試は1日吉女、2日JG、3日小石川、可否の状況よっては理社配点が低く娘に有利な豊島岡を4日に受験と計画していました。

明の星合格からは学校を休んでZoom自習室に入りながらJGの算理社の過去問をすべてやり直し、理社の演習力を上げていく計画で勉強していました。しかし、なんと1月22日に40度の発熱！

インフルか、コロナか、と焦りましたが結局どちらも反応が出ず。1月23日のタケノコ最終授業は熱が下がっていたのでマスクをつけて別室でZoomで授業を受けさせていただき、本当に最後までご配慮いただきました。

そして解熱後、入試まで1週間を切ったところでついに娘のスイッチが入りました。これまで母がファイリングしても一切手を触れられなかった理社の過去の授業プリントをひっくり返し、すべてやり切ると言い出し、一日中机にかじりついていました。これがもうひと月、いや、半月早ければと思う母でした(涙)

<2月>

2月1日：吉祥女子

学校見学会や学園祭、模擬試験でも通っていたので緊張感も少なく入試に挑むことが出来ました。ここで不合格だった場合2日の受験校をどうするか決められていなかったの(2日も吉女に出願していました)、合格できてホッとしました。

2月2日：JG

いよいよ本命の受験ということで、この日は母に加えて兄も学校まで付き添いで出陣しました。Zoom応援のあと、タケノコにもらった「たけのこの里」を食べて満を持して校舎に入っていました。

JGには面接がありますが、母が願順に手間取ったため、面接順はほぼ最終組。試験終了後2時間待たされてしまい、終わった後はクタクタ。午後受験がない2日の入試だったとはいえ、出願のタイミングはスタートダッシュが必要だったと反省しきりの母でした。

JGの試験後の本人の手ごたえは、算国社はそれなりに出来たけど理科が…というコメントでした。

2月3日：都立小石川

JGの試験からクタクタになって帰宅後、兄と一緒に付け焼刃の対策を話し合いました。憧れ校ではありますが、ここまでほとんど対策できていなかったの、とにかく受けるだけ受けるという感じ。母も3日目の入試ということで気が緩んでいたせいか、なんと上履きを忘れてしまうという大ピンチ。娘は平然とスリッパを借り、リラックスして試験に臨みました。

JGの合格発表は小石川の試験中の11時。合格発表は自分で確認したいという娘の気持ちを尊重し、親も小石川の試験の終わりを待ちました。そして、小石川の近くの路上で合格発表を確認するも…不合格。

微妙～な雰囲気のまま、「金魚の餃子が食べたい」という娘のリクエストに応じて池袋で飲茶の食べ放題を食べてから、アントレに寄り、挨拶をしてから帰宅。娘は「泣きたいと思うんだけど泣けない」と言っていました。

帰宅後、ネットに上がっていたJGの模範解答を確認。算国社はまずまずの出来。特に社会は今までで一番の出来でした。しかし、理科が…笑っちゃうくらいできていない！今年のJGにはアントレ生の得点源である物理系の計算問題の出題がなかった上に、娘の苦手な読み取り系の問題が満載。「これは落ちるわ～！」と笑い合いました。

とても残念な結果ではありましたが、模擬試験の絶望的な合格判定に反し、4科目のうち3科目は勝負になっていたことは娘の自信になったようです。

2月9日：都立小石川合格発表日

すでに吉女に入学金を払い込み、制服も発注したあとの発表です。対策ゼロなので親も子もまったく期待しておらず、娘はいつも通り登校。

そして、母は発表時間の9時を大分過ぎてからサイトを確認…お兄ちゃんの時につながりにくくて待たされた経験を生かしたのですが…なんと驚きの合格!!!母は父への電話連絡で号泣、合格が何かの間違いだと取り消されてはと気が気でなく、慌てて小石川に入学手続きに向かいました。合否が心配で電話をかけてきた兄も大喜びでした。

娘は学校から帰宅後、兄から合格を知らされました。やはり吉女進学は納得しきれいなかったところもあるので、喜びというよりも安心したという受け止めのようでした。

【最後に】

第一志望とした2つの学校で一勝一敗。これは娘の取り組み全体をみても、今後のプラスになっていく結果ではなかったかなと思っています。タケノコからは「(小石川は)ポテンシャル合格」というコメントがあり、入学後それを伸ばしていく頑張りや期待というお声をいただきました。

アントレは本当に頑張る子どもにできる限りの応援をしていただける塾だと思います。また、卒塾後に帰る場所(個別指導の先生として…というお声が早くもかかりました笑)が出来たということも親にとっては喜びの一つです(お友達が男子ばかりだった娘ですが、最後は女子友もちゃんとできました…笑)

今後のアントレの発展を心からお祈りして、お礼に変えさせていただきます。

A. S. さんのお兄様

アントレの特徴

私がかつてアントレ練馬校の向かいにあったSAPIX練馬校に通っていました。私の実体験と妹の様子を比較すると、いくつも違うところがあったと感じます。

まずアントレは先生と生徒、生徒どうしでコミュニケーションが活発で、とてもファミリアな塾でした。授業中の先生と生徒の会話はSAPIXでも盛んでしたが、生徒どうしはあまりなかったように記憶しています。頻繁にクラス替えをするSAPIXでは生徒どうしの関係値もほとんどなく、当然の事だと思います。その点、アントレは友人たちとの深い関わりの中で学習していくことに、妹も楽しさを感じていたと思います。

また、少人数だからこそ先生と生徒の密接な関わりが、妹の不安定だったメンタル面を支えてくださったと感じます。思春期真っ盛りで親子関係が難しい中で受験を乗り越えられたのはひとえに先生の手厚いサポートのおかげだったと思います。

一方SAPIXは理社への深い掘り下げが私の学習意欲を刺激したと感じています。また、多すぎるほどの試験が分野による大きな理解不足や進捗遅れなどなく学習できたことに繋がったと思います。何より本番に余裕を持って臨めたことはSAPIX生として最も大きな強みだったと思います。また、ファミリアなアントレに対してSAPIXは雰囲気としてフォーマル。そして上にはとことん上がいることを強く実感できる環境は学習に対して地に足をつけた態度や「やる時はきちんとやる」という向き合い方に影響があったと思います。

妹の勉強へのサポートについて

日々の学習においては解説を自分で読んでもわからない問題を解釈して噛み砕いて伝える、というふうに手伝っていました。また、自分からはなかなかやりださない暗記もこちらが問題を出して答えさせる形式で付き合っていたりやらせていました。正直私は自分からできていたので億劫に感じることも多かったのですが、今してみれば大事なことであったと思います。

6年生になると解説を読んでもわからない、ということは減り(私がウンウン悩むのが面倒くさくなったのもあると思います)、国語の記述や小石川の過去問の添削のウエイトが大きくなりました。妹は表面上何を答えれば良いかまでわかっていても(この点は塾のご指導で大きく成長したと感じます)、その問いが本質的に何を答えさせたいか、そしてそれを言葉にして表せるか、といったところまでは及ばないことが多かったため、その二点について解説するようにしていました。私が受験した時は思いが至らなかったところ、特に過去問を添削していると「この学校はここを答えられる子が欲しいんだな」というところまで気づけて、私自身としても面白い体験でした。

私も受験した小石川への対策ですが、「戦略的な回答」をアドバイスしました。私は主に適性検査II・IIIの添削をしました。問題に優先順位をつけて自分の得意な問題を優先して解くことをアドバイスしました。私は桁の大きな計算やそれを用いた図表の作成、算数的ロジックを求められるタイプの問題が苦手、そこに時間を割かれて全て解き終えられないことが多かったため、それらの問題を後回しにして解くのが最適解だという結論に至りました。ちなみにこれは受験日当日の道中で思い立ったようです(やはり本番慣れしていますね)。妹は、反面このような問題が得意で、むしろ論述系の問題を苦手としていました。論述系の問題に対しても論旨の前提となる事実をしっかりと書くことで理解をアピールすると共に部分点をもぎ取るようにアドバイスしました。

妹との向き合い方について

妹は我が強く、思春期の母への反発は相当ですぐに諍いが起きるような6年生からの一年でした。その中で私が妹とどう向き合ったかを書かせていただきます。親子と兄妹という立場の違いもあり、生意気を言っているのは承知の上ですが、中学受験において重要だと感じたことです。

妹は母の言うことを素直に受け取れなかったり、変に曲解したり、被害妄想のような受け取りをしたり、当てつけのような態度を取ったり…正直大変でしたが、その中でも私とはきちんと向き合ってくれたので、母の真意をきちんと伝え、妹が納得できるような言葉をかけました。一方で、より近い視線として、母には妹がなかなか言わない心情を代弁し、第三者として二人の緩衝材の役割になれるよう努めました。親に反発してしまいがちな年頃だからこそ、親子の間に立って、そして子どもの理解者となれる存在が第三者として必要だと強く感じました。

私と中学受験

中学受験を体験した身として、中学受験のメリットは早くから自立し、「大人」になることだと思います。しかし振り返ると、私自身はある意味親に引っ張られていた部分もあったと感じます。進路に悩む妹と向き合い、中学受験のその先を見据える中で、「未来の目標に向かって自ら努力する」体験を小学生の歳ですという中学受験の意義を自分なりに理解できた私自身としても貴重な体験だったと思います。

ここまでお見苦しい文をご覧いただき、ありがとうございます。この体験記が皆様のお力添えになること、そして全般的なサポートをしていただいたアントレの今後の発展をお祈りしております。

A.S.さんのお母様

【入塾の経緯】

中学受験は本人の希望ではあったものの、習い事などのスケジュールを調整するよりは自宅学習で行けるところまで頑張りたいとのことで、4年生までは通信教育のみで過ごしました。徐々に教材の分量が増えほとんど手につかない状況に自分で限界を感じ、「塾に行きたい」となり、新5年生となる4年生の2月より入塾しました。4箇所の塾の説明会や体験授業に参加する中で、体験授業がおもしろかったとのことで本人がアントレを選び、お世話になることになりました。

【娘の性格】

趣味は読書と謎解き。マイペースでのんびりしていて、落ち込むことがあっても引きずらないタイプ。入塾前は比較的勉強が好きな方だと思っていましたが、入塾後の様子を見てみると自分から進んで取り組むというよりは仕方なくやるといった雰囲気、特に知識の暗記等といった勉強は苦手なようでした。

【習い事について】

3歳から通っていた英会話は入塾のタイミングで辞めましたが、ダンスや水泳は5年生の時も塾と並行できるところまでは通い続けました。

4年生の始め頃に英検3級を取得していましたが、中学受験での英語資格の採用も増えているので、もう少し頑張るって上の級まで取得していたら選択の幅が広がったかしれないねと娘とは話しています。

【志望校選び】

4、5年生の頃は説明会やオープンキャンパス、文化祭に親子で沢山足を運びました。

娘は満員電車での通学には不安があるようだったので、なるべく近くて通いやすいところで検討しました。もともと共学に行きたいと言っていた娘でしたが、吉祥女子中学校を初めて訪れた日から、「ここがいい！ここにしよう！」と言って、2年間揺らぐことなく第一志望として掲げることになりました。

どこに行っても「楽しそう！好き！いいかも！」と気に入ってしまう娘なので行きたい気持ちがどの程度なのか判断しづらかったですが、吉祥女子のクイズ研究会に入りたいという気持ちは本物だったかなと思っています。

【過去問】

夏休み開始頃に解き始め、11月末までにおおむね1周するようなスケジュールで取り組み、間違えた問題は繰り返し解いて対策をしました。

吉祥女子 12回分（国算のみ+4回）

豊島岡 8回分

富士見 4回分+算数1教科3回分

浦和明の星 6回分

開智所沢 2回分

■ 吉祥女子

→解き始めた夏休み頃には合格点に届かない回があったものの9月後半以降はずっと安定して合格最低点を上回っていたので、合不合格判定テストの結果が悪くなくてもあまり悲観せず、合格を信じていました。

■ 豊島岡

→国語は安定して取れていたものの算数の得点がなかなか伸びず途中まで五分五分ではありましたが、1月に初見で解いたものが合格最低点を50点ほど上回り、相性は悪くない印象でした。本人も2/2の第1回ならいけると思う！と自信をつけて来てもしました。

■ 富士見

→初めて解いた時から合格点を大きく上回り、最高点も超えていたので、4教科受験であれば問題なさそうだなと感じました。算数1教科に関しては年度により解きづらい問題もあったようでしたが、他校の過去問や1月校の入試結果などからも算数の力がついて来ている実感があり、あまり心配はしませんでした。

■ 浦和明の星

→合格最低点に届いたのは6回中3回と半分程度で、本人も少し苦手意識を持っているようでした。

■ 開智所沢

→取り組んだ2回とも合格最低点を大きく上回り、あまり心配はしませんでした。

【合不合格判定テスト・入試演習】

合不合格判定テストでは思うように結果が出ず、第一志望の吉祥女子で80%をもらえたのは1度だけでした。

入試演習は女子上位クラスで受講し、合格点に届いたのは14回中10回でした。

過去問は比較的順調に進んでいましたし、模試の結果に一喜一憂し過ぎることのないようにと思ってはいましたが、できる時とできない時の得点差がかなりあったので、苦手な分野がけっこうあるのかなという認識ではありました。苦手を細かく把握し、そこを中心に対策する必要があると思いつつ、全ての範囲で不安をなくすというのは難しかったです。

【入試結果】

1 / 10	午前	開智所沢・開智	合格
1 / 14	午前	浦和明の星	合格
2 / 1	午前	吉祥女子	不合格
2 / 2	午前	吉祥女子	不合格

	午後	富士見（算数1教科）	合格
2 / 3	午前	豊島岡女子学園	不合格
2 / 4	午前	豊島岡女子学園	不合格

【受験を終えて】

学校もなるべく行きたいとの希望で、1月校は通常通り登校しながら受験し、感染対策として1月後半の2週間は欠席し自宅で過ごしました。本番直前や試験当日も普段通りリラックスしていたようには見えませんでした。

今年の受験はサンデーショックもあり難しいかもしれないと覚悟していたつもりでしたが、それでも過去の状況や1月入試の結果から自信をつけ合格を信じていたので、2月1日の不合格には動揺してしまいました。その動揺が娘にも伝わってしまったであろうことは親として反省すべき点かなと思っています。他にも親としてもっとサポートできることがあったのでは、もっと違った声かけをすればよかったかも、と自問自答する日々はもうしばらく続くかもしれません。娘はメンタルが強い方だと思っていますが、それでもたった1回の本番で全てを出し切るというのは本当に難しいことなんだとあらためて感じております。豊島岡の初日を受けさせてあげたかったなど、その点が少し悔やまれますが、受験校や受験日程について全て娘本人が決め、本人がこれで良かったと言っている以上、その気持ちを尊重し、今後も応援していきたいと思っています。この道が正解だったと胸を張って言えるよう、充実した6年間を過ごして欲しいです。

アントレでは先生や友達にも恵まれ、とても楽しい2年間が過ごせたようで、大変感謝しております。先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。

F . S . くんのお母様

中学受験経験者で都内中堅女子校出身、子供にも青春真っ只中の6年間受験を挟むことなく過ごさせたいと考えている母、「中学受験ってナニ?」「市立と私立」の違いも知らないくらい塾や勉強に関心のなかった息子。こんな親子がなんとか3年間の中学受験を完走することができました。私たちの「試行錯誤」が少しでも皆さんのご参考になれば幸いです。

【入塾から】

4年生はBクラスでスタートしました。最初は通塾そのものを嫌がっていたので、まず塾に慣れることを最優先にし、前期は2教科を受講しました。後期からは4教科に増やすことができ、楽しく通塾するまでになっていました。

5年生は最初Aクラスに所属し張り切っていたのですが、算数の難しさに大苦戦。まとめテストごとに点数が下がっていき、塾から帰ってくるたびにどんどん元気がなくなっていました。

3回目のまとめテストが終わり、ガックリと肩を落として歩いてくる姿を見て「クラスを変えてもらおう」と思っていたところ、先生からもクラス変更のお電話をいただきました。

本来であれば「残念な連絡」なのですが、この1か月の息子の様子をよく見ていただいていたことがわかり、やはりアントレにして良かったという思いを強くいたしました。

また、Bクラスになってからは白板で○をもらえることが増え、みるみる元気になっていく様子を見て、本人にとって適正なレベルで学ぶことがいかに大切か痛感いたしました。

(結局そのまま卒業までクラスが変わることはありませんでした)

【勉強に関して】

国語：得意 / 社会：得意 / 算数：苦手 / 理科：苦手

基本的には塾のカリキュラム、塾で指示を受けたことをしており、それ以外に手を広げることはありませんでした（とはいえ、予習・復習も決して十分に出来ていたとは言えず、なんとかギリギリ食らいつている状態でした）。そんな中でも「役に立ったな」と思えることをご紹介します。

<国語>

漢字や語句は、『小学4年生までに覚えたい語句シリーズ』は購入をしたのですが、なかなか取り組まず放置されてしまったため、『角川まんがシリーズのびーる国語』を揃え、トイレやリビングに置いておきました。漫画だからか息抜きがてら読んでいるうちに少しづつ身につけていたようです。

予習シリーズの音読も読む回数を減らしてでも必ず声に出して読むことは続けました。

元々はあまり本を読むタイプではなかったのですが、『成瀬は天下を取りに行く』を読んだことをきっかけにそれ以外の本もよく読むようになりました。読書習慣がついたことで、中附の長文を読む力をつけ

ることにつながったのかなと思っています。

<算数>

本人の希望で5年生の秋から週に1回個別授業を受けることにしました。

問題も難しくなり、授業後の質問だけでは間に合わなくなっていたので、週1回の個別授業は大変ありがたいものでした。個別授業の報告書は我が家では「お宝メモ」と呼ぶくらい大切なものになり、苦手分野の把握や復習に大いに参考にさせていただきました。

<社会・理科>

とにかく毎日プリントは欠かさず取り組みました。

特に5年生は理社に大きく時間を割く余裕は無かったので、毎日プリントで繰り返して知識を少しずつでも定着させることが出来たことは、6年生になってからの勉強に大いに役に立っていたと思います。

<都立対策について>

6年生の7月終わり頃から高山先生に作文添削をお願いしました。

月に1回、11月までに5回の作文添削をしていただきました。

大泉の過去問は12月後半から3年分こなし、適正Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの添削を高山先生をお願いしました。

作文に関しては余裕のあるペースでしたので、高山先生のきめ細かな添削を見直して復習する時間を取ることが出来たと思います。

過去問は私立で手いっぱいの時期であったため、3年分がやっとでした。

その他、公中検模試（自宅受験）を2回、早稲進のそっくり模試（12月会場受験）を1回受けました。

また、早稲進の直前通信講座を利用しました。

過去問以外にも私立と違う問題形式に慣れようと『銀本』も購入したのですが、どの問題を選ぶかの判断も難しく、さらに解説もないため扱いに困っていましたが、この直前通信講座は全7回で『銀本』から適切な問題を取りあげてくれ、時間差で解説を送ってくれます。またメールでの質問にも答えてもらえるので助かりました。

結果につながらなかったのどこまで参考になるかはわかりませんが、少なくとも最初は私立の問題との違いに戸惑い全く得点につながらなかったものが、最終的には十分手ごたえを感じることが出来るまでにはなりました。それでも都立対策に関してはどこまでやっても結果が読めない難しいものでした。

【6年後期以降】

入試演習が始まり、いよいよ本格的に受験生モードに突入です。（クラスは中堅上位）

ここで私が気負いすぎてしまって、入試演習の復習に力を入れすぎてしまいました。

間違えた問題を取りこぼしてはいけない、必ずわかるようにしなくてはならないと「復習」にとらわれてしまっていました。

すると最初調子が良かったものが、徐々に順位が下がり、不合格になり、四谷大塚の合判までも過去最低という見事な下降線をたどってしまいました。

慌ててファンちゃんに連絡をすると、「復習をしすぎたり出来ない問題ばかり解いていると『解ける自信』がなくなっていき、ますます出来なくなってしまう。少しのとりこぼしは仕方ない。難しい問題より、基礎（四まと）をしっかりと解いていこう」というアドバイスをいただきました。

そこから四まとを中心に取り組むようにしたところ、みるみる調子を取り戻すことができました。

5年生最初のA→Bクラスの時もそうですが、子供にとって「できる！」という自信がどれほど大切なものか思い知らされる出来事でした。

成績が不安定になると、他と比べてはいけないことは重々わかっている、他の子の「出来ていること」、我が子の「出来ていないこと」が目についてしまいます。

親の不安な気持ちは、子供に悪影響でしかありません。その不安な気持ちが子供に向くことの無いように、悩んだ時は迷わずアントレの先生方に相談をすることをおすすめします。

【1月休むかどうか問題】

我が家は始業式だけ出て、それ以降は欠席をしました。

これまで、遠足や研究授業など大事な場面で感染症に罹り参加できないことが何度かあったため、感染症で受験できなくなることは何としても避けたいと思い、本人の意思で全休を選びました。

授業のある時間帯は家にいるようにして、下校時間以降に散歩に出て息抜きをしてリフレッシュしていました。

こればかりはその子の性格含め各家庭ごとの判断になるかとは思いますが（ただ、、、お休みすることで過去問が扱ったこともまた事実です）。

ところが、1月ずっと休んだ影響か、アントレの最終授業が終わってからの1週間はかなり煮詰まった様子になり、これまで正解をしていた過去問まで出来なくなっていました。

2月が近づき焦る思いもありますが、思い切って勉強時間は完全に本人に任せ、私から口を出さないようにしました。

1月31日は午前中にバッティングセンターに行きました。ここでしっかり身体を動かしたことで、本番に向けてうまく頭の切り替えが出来たのかなと思っています（怪我にはくれぐれも注意が必要ですが）。

【志望校について】

息子は4年生の時に学園祭を見に行った時から中央大学附属が気に入っていました、夫と私も学校を訪れた際の印象がとてよく、素敵な学校だなと感じていました。ただ、私は今から大学まで決まってしまうことに躊躇があり、附属以外の学校も多く見学に連れていきましたが、息子の希望は3年間ブレずに中附のままでした。また、家から近く大好きな給食がある都立大泉は親子共通のもうひとつの第一志望でもありました。

大学附属とそうではない学校を志望校とした場合、どちらも合格した時に附属に決めてしまってもよいのか、

附属を選ばなかった場合に大学受験の時に後悔をしてしまわないか、これはずっと私を悩ませていました。結果的に悩むことなく附属に進学となりましたが、この点はしっかり覚悟を決めておかななくてはいけなかったと思っております。

【出願・受験結果】

- 1月11日 開智所沢第1回 受験（合格）
- 1月12日 開智所沢第2回 出願のみ
- 1月15日 開智所沢特待B 受験（一般スライド合格）
- 2月1日午前 中央大学附属 受験（合格）
- 2月1日午後 獨協第2回 受験（不合格）
- 2月2日 獨協第3回 出願のみ
- 2月3日 都立大泉 受験（不合格）

途中色々迷いもありましたが、最終的に一番行きたかった学校にご縁をいただくことができました。せっかく附属校に入ったからには受験にとらわれず、幅広い分野に関心をもって全力で取り組んでほしいと思います。

受験勉強の負荷が大きくなるにつれ、私が息子を無理やりひきずり込んでしまったことに「本当にこれだよかったのか？」という思いはずっと心の中に重く居座っていました。

そんな中でも「家での勉強は好きじゃないけどアントレは好き」と言わせてくれる授業・先生方、ともに切磋琢磨できる友達に出会えたことは息子にとって以上に私の救いになっていました。

2月3日の試験を終えたあと不意に、「お母さん、中学受験してよかったよ！ 受験させてくれてありがとう！！」と言ってくれました。この言葉でようやく3年間の重荷をおろすことができました。

アントレに関わるすべてのみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

F . S . くんのお母様

アントレには、3年生から4年間お世話になりました。
幼く、いつまでたっても受験生にはとても見えない息子、いつになったら変わるのかと待ち続けた4年間でした。そんな息子を最後の最後まで親身になり暖かく見守ってくださった皆様に感謝申し上げます。

【入塾のきっかけ】

中学受験を考え始めた時、ご近所の方が、アントレに通塾されており、体験授業に参加したのがきっかけでした。

その際にいただいた、「受験体験記」。6年生になったら、こんなにもしっかりするものなのだろうか…？

横にいる我が子を見ながら、疑心暗鬼？感心？したのを覚えています。

そして、入塾から、時が経ち、今度は書く番となりました…。

怒涛の2月が終わり、参考になるような受験生活を送れたわけではなく、何から書いたらよいのやら…となっています。

体験授業に参加し「楽しかった、通いたい！」となり通い始めた息子、4年間とても楽しく通いましたが、面談で6年生まで必ず各先生方から言われ続けた「幼い」が最後まで本人の課題でした。

勉強の習慣付け、通塾に慣れるため、3年から開始しました。

白板問題に慣れる等も含めて、幼い本人にとっては、良かったと思っています。

習っていた体操は、自宅近所という事もあり、受験直前まで週1回1時間、気分転換に行っていました。

【志望校選び】

志望校は、自宅から通いやすい範囲で多少は親の希望もこっそり埋め込みながら、共学、男子校、と見学に行きましたが、息子の希望は「男子校」。

保護者会でも何度も先生から伺っていた、男子は中堅が厳しい…選択肢が少ない、にまさに該当です。その中で、本人が気に入った学校は成城、獨協。

幼少期から続けている体操を続けたい！が叶うのは成城でした。

そのまま志望校となりましたが、合格圏に届かない学校…でも、気持ちはぶれないまま。

先生と相談し、体操部のある豊山も選択肢に入れては？となり、受験期直前に見学やら体験会やらに参加と、志望校選びも最後までバタバタでした。

【勉強について】

勉強に関しては、本人の「受験したい！」の発言が幻か聞き間違えかと思うほど、全く順調では無かったです。本人の「やった！」の完成度が低い。

比較的、すっと頭には入るタイプなのが仇となり、解ったつもり…復習も同様に。なので、定着力が弱く点数が取れない、の連続でした。（模試の結果は直視できませんでした。）

そんな参考にならない受験勉強ですが、唯一やって良かったと思っているのが、理社の毎日プリントや6年後半の確認テストを予習、復習として使用し、分からない忘れたところはシリーズに戻りと、毎朝一緒に何度も繰返した事でした。

（本人も体験記に書いており、良かったと思っていたのだと初めて知りました。）

短い時間で完結するので、あまり負担もなく、一緒にやる事で問題をただ解くだけではなく、色々な角度からも質問し、詰めが甘い事を本人にも実感させる事ができました。どの程度効果があったかはわかりませんが、理社が、足を引っ張る科目にならなくて、済んだのではないかとと思っています。

【1月】

冬期講習も終了し、あと数日で埼玉受験となっているのに、なぜか「なんとかなる！」と思っている息子。埼玉校は、2月の受験校を全て本人の希望の学校を受験するためには、確実に合格を頂ける学校を選択することとなりました。（受験に確実はないので、確率が高いですね）

相変わらず、共学拒否でしたので、通学時間等を考慮すると選択肢は少なく、本人が気に入った城西川越を受験。総合一貫、特別選抜の両方で合格。

この合格が、とても大きかったです。選抜クラスで合格をもらえた事が自信になり、通学しても良い学校

ができた事で、2月の受験校は、安全校はないですが、希望の学校を受験する事が可能になりました。ここからは、自分で計画をたて、今日はここを強化する！など、今までとは、顔つきも変わってきたな……と思うほどでした。

「スイッチ入るのが遅いよー」が、親の本音ですが、直前でも入ってよかったです。

【2月】

受験前からある程度覚悟はしていたものの、なかなか厳しい連続でした。手ごたえがあっても詰め甘さが原因だと思いますが、なかなか合格をもらえませんでした。

手が届きそうにない熱望校（第一志望校）は、第二志望校に合格をもらってからチャレンジしようとなっていたため、どうしても受けない、行きたい第一志望にチャレンジできるのが、5日のみに。

不合格の連続に、「もうどこを受けても受からないよ！」と弱気の発言も出ていましたが、でも、やっぱり挑戦したいと、4日、自らアントレへ電話し明日の対策を相談。早速アントレへ対策をしに向かいました。ふんちゃんに、2時間算数の対策をしていただきました。アントレへ迎えに行くと、「明日頑張る！」「やっぱり行きたい！」と。弱虫で甘えん坊と思っていた息子でしたが、結果が出なく落ち込んでいる中、自分の意志で挑戦する事を決め、気持ちを切り替えて最後まで諦めずによく頑張ったと思います。

5日、最後のZOOM応援。先生方総出で応援してくださり思わず「皆いる！」と息子と声を上げてしまいました。ZOOM応援を終えて、学校に入っていく後ろ姿は、どこか頼もしくも見え、親が気付かないうちに心も体も成長してんだと、胸が熱くなりました。

息子と何度も相談して決めた受験校。親は、2月校は挑戦になる事を覚悟して臨んだ5日間、息子の笑顔を見たく神頼みの毎日でしたが、苦しい辛い戦いでした。最後まで諦めずに前を向いて頑張り続けたご褒美のように、5日の試験中に第二志望校から繰り上げ合格の連絡がきました。早く本人に伝えたく、試験終了までの時間が一番長く感じました。

試験を終え出てきた息子は、「やっぱり難しかった…でも、受けることが出来てよかった」とすっきりした顔でした。学校から少し離れた場所へ移動し、繰り上げ合格の連絡が来た事を伝えました。路上で飛び上がり、声を上げ、抱きついてきた息子。そして直ぐに「ふんちゃんに電話する！」と、照れながらも、嬉しそうに電話している笑顔の息子を見る事ができました。「最後まで挑戦し続ければご褒美があるかもしれない」という先生の言葉が現実となり、波乱万丈だった本人の受験は終了しました。

【最後に】

幼く、優しく、童顔で、体格も2学年ほど小さく見える息子。

受験戦争に立ち向かうには気持ちが幼く、体力的にも本人には無理なのではないかと考える瞬間は何度もありました。

そんな息子の受験は、とても順風満帆といえるものではありませんでした。

そんな波乱万丈の受験体験でしたが、何度も何度も涙を流し、悔しい思いをし、その中で気持ちを切り替え、前を向き直し、諦めずに最後まで頑張った最後の5日間は、今後の人生においてとても良い経験になったと思っています。

息子の「やりたい！」「続けたい！」を信じ、最後までやり遂げて良かったです。親の焦りとストレスは想像以上でしたが……。

12歳の子供達にとって、中学受験は人生の中では単なる通過点かと思いますが、その通過点できたこの貴重な体験を今後の人生に生かして欲しいと思っています。

本人の受験は、体操を続けたいという本人の希望の叶う学校への進学が決まり、紆余曲折ありましたが、結果「終わりよければ全てよし！」となり、色々あった苦労した4年間の事を嘘のように忘れてしまいそうになっています。

最後になりますが、先生方には最後まで親身になり、息子を支えてくださった事に心から感謝申し上げます。そして、楽しい「アントレ」の時間をありがとうございました。

面談では、私の愚痴のようなお話にお付き合いいただき、私も支えていただきました。

今、本人は「アントレ」の無い生活がつまらないと、通塾している弟を羨ましがっています。

（そんなに勉強好きだった？と突っ込みたい気分です！！）

親子共々、4年間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

I . H . くんのお母様

本人は新4年生で入塾し、算数Aクラスでスタートしました。新5年生以降は算理社はSクラス、国語はほぼAクラスでした。

小学校の友達が何人もいた事もあり、始めから楽しく通っており、行きたくないと言う事は1度もありませんでした。

【学習面】

手探りで始まった塾生活。始めはなかなか慣れず、この先続けられるか不安に思った事もありましたが、基本的には3年間通して、アントレから例として挙げていただいていたスケジュールに沿った形で予習、復習をしていました。

算数はとにかく好きで、一番得意科目でした。

間違えた問題を繰り返し解き直す事をしましたが、答えを覚えてしまっている場合もあるので、カッシーから教わった方法で、正しい考え方が出来ているかを確認しました。

またカッシーによく、本人はちゃちゃっと解いてちゃちゃっと間違えるからね！と言われており、問題を解いている最中になかなか軌道修正が出来ない事が課題の1つだったので、そこは最後まで本人に意識させました。

国語は語彙力も読解力もなく、始めはとんちんかんな答えを連発するほど不安な科目でした。

面談でカッシーに相談した際に、銀本について教えていただき、5年生から6年生の前期までは、銀本を読む時間を朝学習に取り入れました。また、市販のテキストやYouTubeなども取り入れながら、合間合間で繰り返し要素出しの練習もしました。やっと国語が人並みになってきたかな？と感じたのは6年生も後期に入ってからです。

理社に関しては、本人は常識的な知識がそもそも無かったり、自分の興味の無い分野に関してはなかなか知識が定着しなかったため、なるべく一緒にテキストを読み込んだり、アウトプットが出来るか確認しました。

【習い事】

サッカーをしていたので忙しい日々ではありましたが、サッカーの日程ありきで勉強のスケジュールを組んでいたため、やるべき事をやらずに飛ばしたり後回しにする事は、基本的にはありませんでした。

本人はサッカーのおかげかもしれませんが、とにかく勉強の体力はありました。サッカーやお出掛けで疲れている事もありましたが、どれだけ疲れていても勉強だけは朝も帰宅後も必ず取り組みました。サッカーチームをやめる事はせず、大会には9月まで参加し、12月には1度息抜きで練習に参加する事もありました。

【内面】

本人は見た目も小柄ですが中身も幼く、父と勉強する時と違って母と2人の時は些細な事で突っかかってきたりへそを曲げたりしたためつい応戦してしまい、この調子で母と勉強していたらこの子はどこにも受からないのでは？と本気で悩みました。面談時カッシーにも話を聞いていただいた事があるほどです。

ただ彼が頑張っていたのは確かで、本人なりに様々なストレスを感じていたはずですが、最終的には、頭ごなしに否定するのではなく、これは大人と子供それぞれのホルモンのぶつかり合いだ！と思うことにして、こちらがもうあと一言言いたいのを我慢し、無駄な時間を長引かせないようにする事で、何とか折り合いをつけて過ごしました。

【結果】

1/10	開智所沢中、開智中(第一回)	合格
1/11 午前	開智所沢中、開智中(特待A)	S特待合格
1/11 午後	開智所沢中、開智中(算数特待)	S特待合格
2/1 午前	武蔵中	不合格
2/1 午後	巣鴨中(算数選抜)	合格
2/2	桐朋中	合格→進学
2/3	海城中	不合格

【最後に】

振り返れば、なんだかんだ言ってもまだ12歳。親としてもっと受け止めてあげれば良かったなと反省すべき点はたくさんあります。

第一志望だった武蔵が不合格だと分かった時も、もっとしてあげられた事があったのでは…と後悔の念が襲いました。

ですが救いなのは、本人自身がいま晴れ晴れとした表情で毎日を過ごし、桐朋へ進学する事を楽しみにしている事です。

結果として見たら残念ではありましたが、武蔵を目指して奮闘した時間は決して無駄ではなく、親子で成長するための時間だったと今はポジティブに受け止めています。

本人は卒業してからもアントレに遊びに行くのを楽しみにしているようです。帰れる場所が家や学校以外にもあるというのは、幸せですね。

ここまで導いてくださったカッシーを始め各教科の先生方、個別でお世話になった清水先生、本当にありがとうございました。

K . E . くんのお母様

◆はじめに

進学先の制服採寸予約や学用品の注文等を一通り済ませ、この体験記を書き始めました。中学受験を終え、とてもホッとしています。同時に、もうアントレに息子は通わないんだと思うときみしく、アントレロスになっています。息子はゲーム機を封印から解き、毎日のように友達と遊びのんびりと毎日を過ごしています。息子と我が家の3年間のアントレ生活について、何をしたか、どのような経過を辿ったのかを記したいと思います。息子のやる気UPへの働きかけ等については夫の体験記を参照いただければと思います。これから受験をされる方に少しでも参考になる部分があれば幸いです。なお、先生方のお名前はニックネームで書かせていただきます。

◆家族

本人 学年で1、2を争うほどのゲーム好き。人と話すのが好き。

父 在宅勤務で週1回入社。中学受験少しだけ経験（地方の国立のみ受験。中学は公立。高校でリベンジ。）

母 週4時短勤務。在宅勤務で週1回入社。中学受験未経験。

◆入塾

ネット検索でアントレを見つけ、3年の11月にアントレとひばりヶ丘にある大手塾の説明会・体験授業に参加。フンチャンとカッシーのお話に惹きつけられました。合格実績はもちろんのこと、楽しく通えそう、入試結果だけでなく過程や受験後の人生も大切にしている、受験で差が付く算数に力を入れている、予習型の学習効果の高さ、という点に特に魅力を感じました。息子は体験授業が楽しかったので「絶対アントレがいい」と言っていました。3年の冬期講習に参加し、新4年の2月から通い始めました。

◆所属クラス

4年：Bクラス→10月にAクラス（先に友達がAに上がり自分も早く上がりたかった。念願叶ってAに）

5年6年：Sクラス（国語はAクラス、一瞬Sクラス）

6年前期：武蔵算数受講 6年後期：入試演習は男子上位クラス

個別：9月末から1コマ(算数) 12月から2コマ(算数と理科)

◆入試結果

1月10日 開智所沢 第一回 合格（当日22:30発表）

1月11日午前 開智所沢 特待A S特待 合格（当日22:30発表）

1月11日午後 開智所沢 算数特待 S特待 合格（当日22:30発表）

2月1日午前 海城 合格（翌日12:00発表）

2月1日午後 巣鴨 算数選抜 合格（当日21:45発表）

2月2日 城北 合格（当日20:00発表）

◆志望校

<海城>5年の9月に文化祭に行きました。盛り上がりが凄く、来場者へのもてなしも感じました。息子は楽しそうな生徒の皆さんの様子や雰囲気が入りに、この時から海城に行きたいと言うようになりました。学校HPの動画を見て、オープンキャンパスにも参加。教育内容、最新設備のサイエンスセンターや、先生方と生徒との距離が近そうなことにも魅力を感じました。アントレから海城に行った子はあまりいないようで少し不安もありましたが、第一志望校としました。

<桐朋>文化祭には5年の1学期に行っており、こちらもとても楽しく雰囲気が良かったこと、先生方と生徒の距離が近そう、学校の敷地内に緑が多く、通学路の環境も抜群、プラネタリウムまであり施設が充実、本人も親も気に入り、第二志望校（かなり第一志望に近い）としました。息子は「海城か桐朋に行けたらいいな」と言っていました。

◆4年、5年、6年前期

アントレの保護者会での指示通りに予習復習を進めました。保護者会の資料を見て、本人に確認しながら曜日別にやることリストを作成し、学年や期が変わると作り変え、それに沿って勉強を進めました。

ゲームと YouTube は学年・期が変わる毎に少しずつ減らしました。6 年前期は平日 45 分、土日各 2 時間でした。

<算数>

4 年の頃から一番好きな科目で復習も算数だけは嫌がらずにやっていました。朝はシリーズ計算。予習は土日に、4 年の時は私が、5 年からは夫と一緒にに行いました。5 年後半からは息子が夫に教える形になりました。復習は、白板の間違った問題を翌日に、全ての問題を週末に、まとめテスト前にもう一回解き直しをしました。6 年夏期からは完全に 1 人でやりました。アントレのお陰で算数が好きになったのは本当に有難いです。また、解くスピードがついたことで、同じ勉強量でも勉強時間が短縮できたのも良かったです。

<国語>

朝は漢字。予習はシリーズの音読。小テストに合わせて漢字・語句を。復習は、選択や記述の出来なかった問題をできる範囲でやるようにしました。できないときも多々ありました。

国語だけ A クラスで、四谷合不合もあまり点数が取れなかったので、6 年前期にラクダに相談しました。銀本を読む（問題は解かなくてよい）こと、読解の問題を解く際の線引きや、選択肢の選び方について等、アドバイスをいただきました。銀本の文章を 1 つ読むことを朝のルーティーンに加え、授業での問題をアドバイスに従って解くようにしました。また、読書については、何ページ読んだらゲーム何分延長 OK というルールを決めて読むようにしました。5 年の時は人狼サバイバルや銭天堂のように読みやすいもの、6 年前期頃から入試によく使われる作家の小説（アントレのリストを参考にしました）を読みました。（時間のある 5 年の頃から入試に使われる作家の小説を読めていたら理想的でした。）

<理社>

「毎日プリント」がある時期までは、朝は「毎日プリント」をやりました。知識の定着にとても良かったと思います。予習はシリーズの音読と要点チェック。6 年からは、朝はできなかったのですがコアプラス（社会は白地図・年表も）を始めました。理社の復習は私が思うやるべき量より本人のやる量が非常に少ないのが悩みでした。集英社の漫画「日本の歴史」は、気に入った部分は繰り返し読んでいました。それに加えて、漫画「もし世界が一つのクラスだったら（上下巻）」を購入。息子は特にこれを気に入って何度も読んでいました。世界史の内容もありましたが近現代史の流れを把握するのに役に立ったと思います。

◆6 年夏期

夏期講習の課題表に従って予習をしました。授業(13:00~18:50)に行く前の午前中は勉強していましたが、帰宅後は思ったよりも勉強時間は少なかったです。息子は特に理社の復習時間が少なく「夏は中学受験の天王山だ」という言葉もよく耳にしていたので、不安になりましたが、毎日長時間授業を受けてきているし、もうそれでいいと割り切りました。

夏期講習のまとめテスト成績は 4 科総合で 301.9 点、17 人中 10 位。算数白板のカバー率（6 年夏期の正答率が 6 年春期に比べてどれくらい上がったかという数字）は 17.3% でクラス最下位。算数の力が伸びていないということで非常に心配になりました。カッシーに相談したところ、「あまり気にしすぎず、これから頑張れば大丈夫です。」と言ってくださり、少しホッとしました。この数字が出た事で、算数もっとやらなきゃと本人は身が引き締まったようです。

◆模試

<四谷合不合>

「海城の場合は（武蔵と違って）四谷合不合と親和性が無くはないので、少し気にしたほうがいい」とカッシーから聞きました。5 月の偏差値は 60。6 月は 53 に下がりました。9 月、10 月は 65 以上取れましたが、11 月は 58 に下がりました。原因は理社の勉強量不足かと思い、コアプラスの量を増やしました。コアプラスは小テストの範囲に合わせた部分のみをやっていましたが、それ以外の範囲もスケジュールを組んでやるようにし、算数白板復習の量も増やしました。12 月は 4 科では 59 で上がりませんでした。国語と社会が上がっており、算数は問題の相性が悪く仕方なかったと思い、引き続き、同じように勉強を続けました。

<Genius 海城オープン 11/23>

海城は SAPIX などの学校別模試がありませんが、ジーニアスの海城の模試を知り、受けてみることにしました。社会は苦手科目ではなかったのですが、この模試では社会が足を引っ張りました。

4 科 偏差値 50.9 71 位/139 人 合格可能性 30%（←この数字だけ本人に伝えませんでした。）

算数 偏差値 54.3 39位/139人 国語 偏差値 53.2 57位/139人
理科 偏差値 51.1 57位/139人 社会 偏差値 41.9 106位/139人

◆6年後期

<入試演習クラス>

海城を目指すのであれば男子上位クラスの入試演習で合格基準点 + 30 点が目安ということでした。初回は合格基準点 + 0 で 7 位。その後、合格基準点 + 20 点 ~ 30 点 で 3 ~ 6 位 ぐらい を 行き 来 し、10 月 末 頃、0 ~ + 10 点 で 8 位 ~ 10 位 ぐ ら い に 下 が り ま し た。理 社 コ ア プ ラ ス と 算 数 白 板 を 増 や し た 後、上 向 い て き ま し た。そ の 後、「匿 名」と 1 位 (+65 点) が 1 回 ず つ。最 終 回 は + 50 点 で 4 位 で し た。算 数 が 取 れ て い る と き は 4 科 の 点 数 ・ 順 位 も 良 か っ た の で、算 数 が 重 要 だ と い う 事 を 再 認 識 し て い ま し た。

<過去問>

アントレの指示通り、第一志望校の過去問をゴールデンウィークに 1 回、夏に 2 回、後期から本格的に解き始めました。日曜祝日は海城を 4 科目、平日でアントレがない日は桐朋を中心に 1、2 科目ずつ解きました。アントレの授業の復習や毎日のルーティーン(漢字、知識、銀本、算数白板、理社コアプラス等)もあり、後期は前期に比べてかなり勉強量が増えました。9 月のゲーム時間は平日 20 分土日各 50 分。解いた過去問は以下の通りです。

- ・海城 1 周目 21 回分 (① 11 回分 ② 10 回分)
2 周目 5 回分 (1 周目で点数が低かった回)
学校 HP から 16 回分 (8 年分 × 2 回) の問題、回答、回答用紙はダウンロードできました。
配点と解説は赤本を見ました。昔の赤本はメルカリで入手しました。
- ・桐朋 9 回分 (① 4 回分 ② 5 回分)
- ・城北 5 回分 (① 1 回分 ② 3 回分 ③ 1 回分)
- ・巣鴨 算数選抜 3 回分
- ・開智所沢 5 回分 (第 1 回 : 2 回分 特待 A : 1 回分 算数特待 : 2 回分)
開智所沢の入試説明会は会場とオンライン両方ありましたが、会場では赤本に載っていない特待 B と算数特待の過去問が販売されていました。

海城 4 科

最初は合格者最低点マイナス 70 点 ~ 20 点 を 行 き 来 し て い ま し た。本 当 に 点 数 が 取 れ る よ う に な る の か 心 配 で し た。11 月 に 初 め て 合 格 者 最 低 点 ジャ ス ト、そ の 後、2 周 目 も 含 め 数 回 超 え ま し た が、1 月 も マ イ ナ ス に な る 回 が あ り、点 数 が 良 か っ た 回 も 古 い 年 度 だ っ た の で 安 心 は で き ま せ ン で し た。1 月 29 日 に 2015 年①でプラス 3 点、1 月 30 日に 2025 年①(解くのは 2 回目)でプラス 39 点でした。

海城の配点は、国語 120 算数 120 理科 80 社会 80。年度によって多少の差があるものの、海城①は 4 科で合格者最低点が 240 ~ 250 点代 の こ と が 多 い で す。過 去 問 を 解 き 進 め て い き、息 子 と 一 緒 に 目 標 点 を 260 点代と決めました。科目別には、国語 80 点、算数 90 点、理社合計 90 点を目標にしました。

海城国語

最初は 120 点満点中、40 点代後半の時も多く、取れても 60 点程度でした。問題文、選択肢ともに文章が長く、時間切れになることも多かったです。再度ラクダに相談したところ、あと 15 点の上乗せを目指し最後まで解き切るためのアドバイス(時間配分、線を引く箇所、選択肢の選び方、問題を解くタイミングなど)をいただきました。それに従って過去問を解き続けたところ、120 点満点中、70 点代後半 ~ 80 点代が取れるようになりました。4 科で合格者最低点に達したのは国語の点数が伸びたことが一番大きかったと思います。

海城算数

算数だけは過去問を開始した時から割と取れていたのですが、途中、点数が取れなくなりました。算数で落とすとかなり厳しいと思い、白板の復習量を増やし、9 月末から個別をお願いしました。苦手意識のある場合の数や、出来なかった過去問を個別で見てくださいました。個別で解説してもらったら分からなかった問題が分かるようになった、と言っていました。11 月頃からまた 90 点前後取れるようになりました。

海城理社

理社共に、知識があるのが前提で、それを活用して解くというような問題。特に社会の記述が特徴的。リード文と複数の資料を読んで、指示された条件を満たしながら設問に答え 160 ~ 200 字程度の文章にまとめるという記述問題が約 2 題。(知識問題も数題。)当初、こんな問題できるようになるのかとも思い

ましたが、練習あるのみと思ひ、過去問をひたすら解きました。オンライン添削は3、4回していただきました。社会は最終的に50点ぐらいになりました。理科は、2周目にやった過去問の点数が1周目とほぼ同じで焦りました。12月から大問1(物理)と大問2(化学)の解き直しを個別で見てもらいました。入試本番までの個別の残り回数が少なかったため、大問3(生物)と大問4(地学)は自分でやりました。最終的には40点ぐらいでした。

桐朋

桐朋の国語は記述が難しく点数が思うように取れませんでした。算数も本人は問題が解きづらいと言っていました。桐朋①は取れていたのですが、桐朋②は10月~11月に4科合計でマイナス1桁~マイナス20点ぐらいを行き来していました。

◆志望校の決定

当初、2月1日は海城①、午後は巣鴨算数、2月2日は桐朋②、2月3日は海城②、2月4日は城北③、と考えていましたが、桐朋②の過去問の点数が取れていないこと、城北③は倍率がかなり高くなること、巣鴨算数は問題にもよると思ひ、どこも押さえにはならず、2月校全落ちの可能性があつてこわいと思ひました。2日を城北に変えることを考えましたが、桐朋は志望度が高かつたので迷いました。また、海城の合格は厳しいかもしれないと思ひ、2月1日は桐朋①、2月3日に海城②にする事も考えましたが、頑張ってきた第一志望の海城①はやはり受けることにしました。2日をなかなか決められずにいましたが、1月中旬に解いた桐朋②の過去問が合格者最低点に達しなかつた時、息子自身、桐朋を受けない決心をしました。問題の相性も良く合格者最低点+30点以上取れていた城北も4年の時から何度も足を運んだ好きな学校。1日は海城①と巣鴨算数、2日は城北②、3日は海城②に決まりました。そして残りの時間を海城の対策に回しました。

◆直前期、1月埼玉入試

冬休み開始から任天堂Switchを箱にしまって封印しました。YouTubeも1度完全にやめました、ご褒美がないと勉強に集中できずだらだらしてしまうため、やるべき事が終わったら1日15分見ていることにしました。感染症対策と勉強時間確保のため、1月は学校を休みました。大晦日の夜はテレビを見て年を越してから寝ました。元旦は祖父母、親戚と一緒に食事をした後、初詣に行き、その後はテレビやカードゲームを楽しんでゆっくり過ごしました。

冬期講習が終わると、4日後には埼玉入試。息子は1/10開智所沢①の前日もよく眠り、当日も特に緊張せずいつも通りの様子。東所沢駅7:33到着。駅の近くでZOOM応援を受け、学校に向かいました。駅も歩道も大混雑。学校に着くまでに時間がかかり、試験は遅れて開始になりました。

発表は当日夜10時半に親だけが先に確認したところ、合格でした。初めての入試での合格は本当に嬉しく、興奮してなかなか眠れませんでした。翌朝、息子にスマホ画面を見せ合格を知らせました。

1/11は開智所沢特待と算数特待。行きの電車でアントレの友達と会って楽しそうに話しながら行ったのでリラックスして受験が出来たと思ひます。お弁当持参の子が多かつたのですが、息子は一旦外に出たいと言っていたので、午前の試験の後さくらタウンで一緒にご飯を食べてから午後また受験会場へ。(再度受付が必要でした。昼食の席はタリーズにオープン前から並んで確保しました。)結果はこの日も息子が寝た後に親だけが先に確認。自信ないと言っており、国語は40点でしたが、合格していました。

埼玉入試を終えると2月入試まで残り3週間。毎日のように過去問を解き、その他のルーティーンとアントレの復習、理科を強化するために100題知識テストもやりました。私が予想していた直前期の受験生のイメージとは違い、緊張感はあまりなく、学校休めてラッキー、という感じでした。息子は頭痛持ちで体調を崩しがちだったので、体調管理、特に睡眠不足にならないように気をつけました。アントレの授業がない日は9時半過ぎ、授業がある日は10時過ぎに寝ることを心掛けました(息子はしゃべっていて就寝時間を過ぎることも多かつたのですが。)2月入試の5日前に酷い頭痛があり心配しましたが、その日はゆっくりしたら治り、翌日最後のアントレの授業には参加することができました。入試3日前に6:20、2日前に6時、前日は入試当日と同じ5時50分に起きました。1月31日は過去問を解かずに、コアプラス、夫作成の歴史の資料、理科の100題知識テストの見直しなど、軽めの勉強のみでゆっくり過ごしました。

◆2月1日入試当日~合格発表

ついに海城の入試当日。前日も良く眠れた様で、良い健康状態で当日を迎えることができました。新大久保駅7:14到着。学校近くの歩道の人通りが少ないスペースでZOOM応援を受けました。「いつも通りいい表情だね。君はメンタル強いね。問題を読み間違えなければ(読み間違えが多かつたので)、力はあ

るから大丈夫。難しいと思ったら他の子にとっても難しいから。」と力強い言葉をかけていただきました。試験中、息子を待つ間、もう一度ここに来ることはあるのかな、と壁の校章を見ながら思っていました。午前の海城、午後の巣鴨算数ともに、選挙カーが近くを通ってうるさいということも無く、無事に試験が終わりました。

2月1日の夜21:45に親だけで巣鴨の結果を確認。合格していてとても嬉しかったです。翌朝息子に伝え、親子ともにホッとして城北の入試に出発。小竹向原駅7:11到着。学校までの途中の公園でズーム応援を受けてから向かいました。試験終了後、行きにズーム応援を受けた公園で海城の結果を見ました。息子は「できた気もするし、ダメだった気もする」と言っていたので可能性は五分五分。私がなかなかスマホ画面のボタンを押せず息子が押したところ、ピンク色の画面が目に飛び込んできました。人生で2度目の嬉し涙を流しました（1度目は息子が産まれた時）。後で聞いたのですが、国語が出来たので残り3科目を安心して受けられたのが良かった、ということでした。そして本番では覚醒した、とも言っていました。その日の20時は城北の発表。3人で合格の画面を見て、これで息子の中学受験が全て終了しました。

◆終わりに

親子で同じ目標に向かって取り組む中学受験。大変でしたが貴重な経験が出来たと思います。最後まで走り切ることができたのはアントレのお陰です。受験勉強の指導内容が素晴らしいのは勿論の事、楽しく通えたという点がとても有難かったと感じています。息子はいつも「今日はヨイドンが〇位だった」「カッシーがこんなこと言っていた」と楽しそうに話しており、「アントレは塾じゃない。習い事、いや遊びに行ってるみたいだ。」とも言っていました。小学生にとって楽しく通えるのは大変重要だと思います。

ご指導くださったアントレの先生方、個別の森山先生、本当にありがとうございました。心から感謝申し上げます。仲良くしてくれたお友達の皆さんもありがとうございました。アントレの益々のご発展をお祈りしております。

K . E . くんのお父様

◆◆「息子本人の意識化・やる気化」に向けて ～やったこと、感じたこと～◆◆

アントレは入塾時に予習や復習や日々の学習内容検討など、親の参画が必要かつ非常に重要と言われますが、そのとおりでしかも勉強方法も方向性は塾から示されますが、具体的なやり方は各家庭に任されるため、常に考え続けることになります（結局、最後まで何が正解だったかはわからない感じでした）。

我が家での受験への取組みは、対応量で言うと妻：10に対して、私は1程度だったと思います。妻がガッチリ、息子とタッグを組んで進めてくれましたので、私はフォロー的役割を担いました（約3ヶ月に一回の保護者会は今の状況を知るために出ていましたが、私は大したことはやっていないです）。基本的には「息子が少しでも受験勉強を楽しく、興味を持って取り組めるようにはどうすればいいか」を目指してやってきたことを書きたいと思います。

【項目一覧】

- ・ 1. 学校見学、文化祭訪問で自分が行きたい学校を感じてもらいたい
- ・ 2. 本を自分から読みたいと思うにはどうすればいいか？
- ・ 3. 算数の理解を深めるにはどういう予習方法がいいか？ 難しい問題にも自分から取り組んでほしい
- ・ 4. 社会（歴史）の理解・記憶・維持の時短効率化に向けて
- ・ 5. テスト結果が良かった時、悪かった時の対応方法（声掛け）について
- ・ 6. ゲーム、Youtubeや休憩時間をどう調整するか？
- ・ 7. 本人自身が「本気」になって勉強するようになるためには？

1.学校見学、文化祭訪問で自分が行きたい学校を感じてもらいたい

4年、5年に学校見学、文化祭訪問を行いました。4年の頃は正直、本人はあまり興味がなく、妻が予約したからとりあえず行くという感じでした。この頃は人数制限で保護者1人だけというところもあり、息子と妻2人で行くケースが多かったです。5年生の頃から私も一緒に行くようになり、学校説明会や文化祭を見て、「校長や先生の話はどうだった？」「文化祭で面白かった部活はあった？」という会話をして、そのうち「話が昭和っぽかった」「今（令和）っぽい感じだった」という感想を言い合えるようになって、基本的に良いことしか言わない説明会でも学校の違いを感じられるように。ただ、やはり文化祭を見に行った学校の方が印象に残るので、志望度が高い学校は文化祭を見て学校や生徒の雰囲気を感じるのが良いと思います。

2.本を自分から読みたいと思うにはどうすればいいか？

国語力を上げるために読書をした方が良いといわれますが、なかなか活字を読む習慣を身につけるのは難しかったです。最初は学習漫画から始めて、そこから推理小説、一般小説へと進めていきました。ただ、

最初はゲームや Youtube 時間を増やすご褒美をつけて、20 ページ読んだら 10 分プラスとかをやりましたが、アメ作戦も読むきっかけになったので良かったと思っています。漫画は算数・理科や歴史に興味を持ってもらえそうなものを取り入れていきました。

漫画：もし世界が一つのクラスだったら（上下）【社会】、ありす宇宙までも【理科】、数学ゴールデン【算数】

※「もし世界が～」は日本の近代史（明治維新～終戦まで）の世界との関係を理解するのにオススメです

推理小説等：名探偵夢水清志郎事件ノート①～③、人狼サバイバル、やらなくてもいい宿題【算数】、きみのお金は誰のため【社会】

3.算数の理解を深めるにはどういう予習方法がいいか？難しい問題にも自分から取り組んでほしい

4 年生時は 4 科目全てを妻が見ていましたが、5 年生から算数だけ私が見るようにしました。ただ S クラス算数はかなり難しく、各単元をテーマごと（平面/立体図形、水量、速さ等）にやるので、例題・基本問題をやった後は自分もなんとか演習問題までは対応できるのですが、最難関は解説をみて“なるほど”と思うことも多いです。5 年生前半は自分が先に解いて、息子が解けない問題に切り口ヒントを出したりしましたが、5 年生後半からは息子さんの方が圧倒的に早く解き終わるので、解き方を解説してもらう方式に変えました。解説に突っ込みを入れると‘あれっ？’となることもたまにあり、理解の深度化につながったと思います。算数は教えるというより、一緒にやっている状況を維持することに注力した感じです。また、自らどんどん難しい問題に取り組むというのもできるものではなく、最難関が必須ではない頃には、ここでもご褒美で 1 問 7 分、4 問全部で 30 分のゲーム・Youtube 時間の追加施策をやりました。好ましくはないのですが一定の効果はありました。1 問最大 30 分で解けなかったら解説見ることにして、取り組むきっかけになりました。

4.社会（歴史）の理解・記憶・維持の時短効率化に向けて

歴史は 5 年生でほぼひと通り学習が終わって、6 年生で記憶した内容を定着・維持していきますが、内容を理解している前提で、予習シリーズなどのテキストを読み直すのは時間効率が悪いと考えました。そこで、年表形式に「政治・経済・文化」の出来事を全て入れて、古墳時代（ヤマト政権）～平成時代までを各時代ごとに 1～2 枚（A4 用紙）にまとめて、合計 20 枚のプリントを作りました。1 枚でその時代の出来事と起こった順番がパッと見で把握できるようにするためです。難関校の社会では「テーマごちゃ混ぜで発生順に並び替える問題」が出るので、その対策でもあります。息子には‘趣味で作っているでしょ？’と言われましたが、模試や本番時には必ず持って行って、空き時間で見てくれていたので作った甲斐はありました。

5.テスト結果が良かった時、悪かった時の対応方法（声掛け）について

良い結果の時は‘すごい、頑張ったね’と褒めつつも、「どこができたから点数が取れたのか」を確認する

ようにしました。逆に悪かった時はつい、なんでできなかったのと言ってしまうのですが、「問題自体が難しかった」「時間配分ミス」「計算ミス」「苦手領域が出た」などを本人に考えさせるようにしました。勉強時間を増やしてほしいという思いが親としてはあるのですが、'この点を改善するためにこの勉強時間を増やそう'と本人が少しでも納得してやってほしいと思って言っていました。（伝わっていたかはわからないですが）

「クラスの他の子はどうだったの?」とどうしても比較して聞いてしまうのですが、同じクラスの子を意識しつつも、そこから自分ごと化して対応していけるように意識して会話をしていました。

6.ゲーム、Youtubeや休憩時間をどう調整するか?

6年生になって、ゲーム・Youtube時間を減らしていきましたが、完全にゼロにはなりませんでした。6月にNINTENDO_Switch2を買って夏休み終了までは1日1時間程度やっていました。9月以降も勉強の合間に休憩は取るので、その時間をぼーっと過ごすのであれば、1日30分はゲーム・Youtube時間OKとして、メリハリでやるのならいい、としました。ただ、最後は気合いを入れる意味でも本人と合意の上で冬休み（冬季講習）が始まるタイミングで封印（ダンボールに詰める）を自らやりました。それ以降の休憩時間はひたすらけん玉をやっていましたが、結局その日のやることが全部終わったら、Youtube15分は1月も残りました。

7.本人自身が「本気」になって勉強するようになるためには?

最後は本人の目の色が変わって、本気になって勉強するタイミングが来ると言われていましたが、うちはそれが来たのかどうか正直わからなかった感じです。10月からホワイトボードに[埼玉受験（開智所沢1/10）]、[本番（海城2/1）]まであと〇日'というのを書いて、残り日数を1日ずつ減らしていきました。毎日やることを口頭で合意していても'次は何するんだっけ?'となってしまうので、その日のやることリストを紙に書き出して自分でチェックさせることをやりました。シンプルですが、紙に書いて見える化したり、自分で確認する作業は結構効果あります。私が見て本人の意識が変わったと感じたのは、埼玉受験が終わった後に本番受験の2/2を桐朋から城北に決めたタイミングです。かなり迷ったの決断でしたが、それまでなんとなく、海城か桐朋のどっちかでなんとかなると本人も思っていたところから、「海城一本」で絶対行きたいと感じたのではないかと思います。1月中旬以降の追い込み時は妻が考えたリストの中で、「これよりはこっちの内容に時間を使いたい」と自分から言うようになり、海城受験に向けての意識も変わったと思います。

【最後に】

6年生の夏休み前くらいに息子が「なんで自分から受験するって言ったんだろう」と呟いたことがあります。本人が当初想定した以上に、やるが大変だったからだと思います。中学受験は本人にとって、'自分のため'もちろんありますが、'親（が喜ぶ）のため'にやっている側面も正直あると思います（テストの点が悪いと「ごめん」と言ったりもしていました）。自ら意識を持って取り組める受験生もいらっしゃ

ると思いますが、自分だけで完全に自走できる小学生は少ないのではないかと感じます。特に6年生中盤以降の過去問を解く段階になると、なかなか一緒に取り組むことが難しくなりますが、我が家では最後まで妻が国語、社会だけでも過去問を解いて一緒に解説を読んで確認する、という伴走を続けてくれたことが、息子自身の最後の頑張りや試験当日の集中に繋がったと思っています。受験の成功は本当に妻の献身の賜物で、改めて感謝を言いたいです。受験の結果そのものは一発勝負であるため、その時の状況による部分がどうしてもありますが、アントレで身につけた知識や学習姿勢は将来に必ず生きてくる財産になります。不安は続きますが、最後まであきらめず信じ続けて親子一緒に進んでいくことが一番大事だと思います。我が家取り組んできた内容を書かせていただきましたが、中学受験に取り組む皆様に少しでもお役に立てれば幸いです。

K . H . くんのお母様

2月4日に最後の試験を終えて、2週間ほど経ちました。

受験直前期のすさまじいスピードから突然パッと手を離された様な、ふわふわとした、不思議な心持ちで日々を過ごしています。

息子はアントレで3年とすこしお世話になりました。こうして体験記を書いている、”ああ、もうアントレには通えないのか…どうして中学生の部がないのかしら”とってしまうほどに、アントレは素晴らしい塾です。

私の思うままに書かせていただきますので、分かりにくい箇所もあるかと思いますが、体験記にお付き合いいただけましたら幸いです。先生のお名前につきましては、敬意と愛を込めてニックネームで表記させていただきます。

【息子について】

のんびりマイペース、ひとつの事に集中すると周りが見えなくなります。

本が大好きで、読書を始めると自分の世界に入ってしまう。

幼稚園からバイオリンを習っていましたが、受験のために5年生からお休みして、受験の後再開していません。

【入塾のきっかけ】

3年生の秋にホームページを拝見して魅力的な塾だと思いましたが、家から遠く片道1時間もかかる為、難しいかなと思っていました。でも、やはり気になり体験だけでも受けてみて、息子の感想を聞いてみよう、となりました。タケノコの体験授業を受けた後、息子は”すごく楽しかった。ここがいい！”とその場で宣言しました。さらに、”難しい問題もあったけど、授業がすごく面白い！”との事。私は、”素敵な塾だと思うけど、家から遠いよ、往復2時間だよ。家から15分の所に塾がたくさんあるよ。そこも体験してから決めない？”と伝えましたが、絶対ここ、との事。改めて夫と話し合いましたが、受験のための塾でもこんなに楽しく通えるなら、本人の意思を尊重して良いのではないかと話がまとまりました。(片道1時間の道中は暗記系のプリントを見る時間にしていたのですが、これが気分転換になっていたようで、結果有効に時間を使えました。)

【3年から4年生】Aクラス

算国の2科のみ受講しました。4年生、計9回のまとめテストで、算数はA4回、B3回、C2回、国語はA6回、B2回、C1回でした。予習も復習も自分で楽しそうに進めていましたが、味わうように、のんびり楽しく勉強している…という様子でした。カッシーとの面談でも、”彼の問題はスピードです、授業中白板問題を書き写すのにとっても時間がかかるのが勿体ないなと思います”とアドバイスをいただいています。

家庭でも、字を早く書く様に気をつけようねと話していたのですが、本人のこだわりで、どうしても丁寧に書きすぎてしまう…という状況でした。

【志望校】

息子の志望校は明快でした。すごい図書館がある学校、です。

まず家の近くで調べ、中央大学附属中学校の学園祭に行きました。日本一の蔵書を誇る図書館で、尊敬する水木しげるさんの絶版本を何冊も発見、しばし読みふけた後、学食で大きなカツがのったカレーライスを平らげた息子は、“ここに決めました”と微笑みました。“え、もう決めちゃうの、早すぎない”と説得し、その後図書館と校風を参考に、武蔵と早稲田、城北の学園祭に行きました。

武蔵は素晴らしい図書館と生徒の皆さんの穏やかな雰囲気と惹かれたようで、武蔵も受けたい、と学園祭の帰りに即決しました。早稲田にも立派なガラス張りの図書室があったのですが学園祭では閉まっていた、残念ながら息子の中では「図書室に入れてくれない学校」になってしまいました。

城北はバイオリンの専科授業があり、学園祭での素敵な演奏にも感動していたのですが、図書室が小さめなのが気がかりな様子でした。私としては早稲田も城北も素敵だなと思っていたので、“急いで決めないで、ゆっくり考えればいいよ”と伝えて、本人の了承のもと日程も考えながら、ひとまず以下のように志望校を決めました。

(その後6年生秋に1月校を開智所沢に決めました。)

1/10 開智所沢(一般)

1/11 開智所沢(特待)

2/1 武蔵

2/2 城北

2/3 早稲田

2/4 中附

【5年生】Sクラス

5年生から4科に。このタイミングで、息子に伝えたことがあります。

“これから内容も難しくなって、どんどん忙しくなると思うけど、いちばん大切なのは、毎日ご飯が美味しく、よく眠れて、幸せだなと思える事だからね。受験はひとつの選択で、世界の全てじゃないから、5点でもしなないから、それを忘れないでね。その上で自分がやりたいと思うなら、納得がいくまで頑張ったらいいと思うよ。でも、もうやめたいと思った時は、理由をうまく言えなくても何でもいから、我慢せずにいつでも言うんだよ”と話しました。

大げさかな、とも思ったのですが、私も中学受験を経験していたので、これからの大変さを思い、きちんと伝えました。すると息子は、“僕は多分勉強が好きだから、もっと勉強して受験して、すごい図書館のある学校に行きたい。”と即答しました。そして、5点でもしなない、という言葉が気に入った様子で、

それ以来まとめテストの日には、“5点でもしなない、100点で生きたーい！”と小さな声で言ってからアントレの階段を登っていくのが習慣になりました。

算数 5年生の1年間、算数が停滞しました。まとめテスト9回のうちA0回、B3回、C6回でした。

予習、復習共に一番丁寧に取り組んでいたのですが、テストになると思うように点が取れず、ランキング10位以内にも入れない状況が続きました。後期になっても60点前後が続き、頑張ってもどうしても70点以上が取れない…と、モヤモヤしていました。

そこで、どうして思うように点が取れないのか、親子で検証しました。カッシーにもアドバイスをいただいた通り、まずスピードが遅い事が原因で、時間が足りなくなり焦る、焦るから後半の問題でケアレスミスをしてしまう、という悪循環が生まれていました。私からは、字にこだわりすぎず、早く書く事、そして計算を工夫してより早く解けるようにする事を改めて提案したのですが、息子はどちらも頑張ってる、と言います。確かに少しずつではありますが字を書くスピードも速くなっていて、計算の工夫についても白板ノートの復習を見ると理解できている様子でした。それでも好転しない中、カッシーが面談で、“計算の工夫を言われた時だけしている子もいますよ”とお話くださり、ハッとしました。

その後、算数の勉強をしている息子の前で本を読むフリをしながら長時間見てみた所、計算の仕方に大きなムラがある事に気づきました。本人に聞くと、“工夫した方がいいのは分かってるんだけど、本当は左端からゆっくり解きたいって思っちゃうの”との事でした。ここで、“受験はお楽しみの勉強じゃなくて、ある意味仕事だから決まったルールはきちんと守って結果を出さないといけない”という事を話し合いました。“すごい図書館のある学校に行くためには、その学校の先生が求める能力を発揮して、OKをもらわないといけないよ。ここがブレたら後がきつと思う”と伝えて、本人もここでやっとお楽しみから仕事へと、変化し始めた様に感じました。その後5年生最後のまとめテストで77点、久しぶりに70点を超えました。ここを境に算数は停滞から脱出できたと思います。

長い期間点が伸びずとても苦しかったのですが、“算数の成績は少しずつ変化していくのではなくて、横ばいの状態が続いて、ある日グッと伸びます。その横ばいのグラフは、一見何もしていない人と同じに見えるかもしれませんが、努力している人の横ばいには大きな意味があります”というカッシーの言葉を信じて、頑張ってた良かったね、と息子と話しました。

国語 国語は算数に比べると安定していました。まとめテストはA5回、B2回、C2回で、時々ガクッと点が取れない回については気がかりではありましたが、算数に気をとられてしまい、分析できずにいました。

理科・社会

算数と国語が終わってから、残った時間に慌てて予習復習…という状況でした。理科はA1回、B3回、C3回、D2回、社会はA4回、B2回、D2回、E1回で、社会のA4回は全て歴史で、歴史関係の本を読み漁っていたおかげでした。E判定のときは何と20点で、本人曰く、“大問2の所で全然解らなくて書けなくて、そこでやる気がなくなってしまった”そうで、この時初めて、プライドをくじかれる事自体が許せないのか…と気づきました。

【6年生前期】Sクラス

算数 4回のテストのうち3回目まで70点台、安定していました。Aが1回、Bが2回、Dが1回でした。

最後の回は体調不良で集中できなかった様子で49点でした。この時に”最後のまとめテストだったのに”と言って、帰りの電車で息子が初めて泣きました。あんなにマイペースでお楽しみ勉強をしていた息子が、今では悔し涙を流すまでに自分の事として受験と向き合っているのだな、と実感しました。

国語 国語はこの時期に変化がありました。全体的には安定していて、A2回、B1回、C1回、ただ、この時のC1回のような、ガクッと取れない回がある事は5年生の時から気になっていましたが、算数の大変さを言い訳にそのままにしていました。そんな中、S,Aクラス共通の記述テストでほぼ最下位を取った事を機に本人と話し合った結果、何と国語の文章題を解く際に、まず本文を楽しく読んでから、問いを見て、改めて本文を読みに行っていた事が判明しました。“いつもではないけど、あまりに面白そうな話だと、いけないと分かってもつい読み切っちゃうんだよね”と言われ、改めて、“お仕事だからきちんとしないといけないよね”と話し合いました。私は内心、好きな読書もほとんど出来ずに毎日勉強で、国語の問題が貴重な読書なんだろうな…と胸が痛みましたが、本人は納得して仕事と割り切った様子でした。

この時期ラクダにご相談した所、息子の場合は、“大切なルールや「べからず集」を目に見えるリストにした方が効果的だと思います”とアドバイスを頂き、気をつけることノートを作りました。この習慣が定着してからは、国語の点数がかなり安定しました。ラクダが息子の性格や癖を理解してくださり、最後まで国語の成績を引き上げてくださいました。

理科・社会

何とか平均点を取ろう、と親子でいつも話していました。

理科はB1回、C3回、社会はB2回、C2回でした。

あまりに点数が良くない時は、“ダンディとプーさんに申し訳ないね…”と2人でしょんぼりしていました。1回だけ社会で1位を取った時、答案に、さすがです！とダンディが書いてくださり、息

子はとても喜んでいました。理社は何とか平均点、国算で少しでも上に行く、というイメージでした。

【夏季～後期】

最後の総まとめ、悔いのないように頑張ろう、と本当に朝から晩まで勉強あるのみでした。

夏季講習が特にハードで、毎週のテストはトップから最下位までランキングが出るようになり、緊張感が一気に増しました。夏季の週テスト5回分の総合は7位、理科が毎週ほぼ最下位で足を引っ張り、秋から個別指導をお願いする事になりました。志望校は変わらず武蔵が第一志望、中附が第二志望でした。

【過去問】

9月から本格的に過去問を解き始めました。武蔵は10年分(点数が取れなかった年は2回)、中附と早稲田、開智所沢(特待)は3年分、開智所沢(一般)は1月に1年分解きました。

武蔵については演習でのテストもあったので、そちらをより丁寧に復習していました。

【武蔵演習】

全14回のうち合格10回、補欠2回、不合格1回、欠席1回でした。

【個別指導】

畔柳先生に理科を中心に見て頂きました。毎回授業が終わる度に、“はっきり分かった！すごい分かった”と興奮していました。”前にプーさんが言ってた事だった…”とも呟いていました。

畔柳先生に毎週頂いたコメント入りのプリントを、これからの理科の為に取って置くそうです。夏にはほぼ最下位だった理科は、中附や開智特待の過去問で7割取れる様になりました。誠にありがとうございます…！

【直前期】

1月に入り、武蔵演習に向かう電車の中で、息子は武蔵対策プリントをチェックしていました。私は中附から学校紹介のLINEが届いたので開いた所、それをチラッと見て息子が、“やっぱり中附も魅力的なんだよね。武蔵も行きたいけど、中附にもやっぱり行きたいって思っちゃうんだよね”と言いました。私は正直、こんなに武蔵の事ばかりしている毎日なのにそれでも気になるんだ、中附の事も本当に好きなんだな…と驚きました。“人事を尽くして結果が出たら、その時考えて好きにしたらいいよー”と言ったら、“そうだよー”と笑っていました。

この時期、本番が近づく緊張感の中で、さぞかし辛いに違いないと思っていたのですが、息子は“大変だけれど楽しいよね”とよく言っていました。その“楽しい”は、以前のお楽しみ勉強をしていた頃のそれではなく、

読書の誘惑に負けず、成績の停滞をあきらめず、自分の苦手に向き合った息子が手にした“楽しい”なのだと思います。2月の試験はまだ終わってもいないのに、この時に息子の事をすごいひとだな、と心から尊敬しました。

そして、この様な特別な学びの機会を頂けて本当にありがたいと思いました。アントレに通っていたから、息子は最後まで楽しく受験勉強をできたのだと思います。

そしてこの時期私が特に考えていたのは、もし武蔵も中附もご縁がなかったら、という事です。

正直、武蔵演習の結果を見て期待している部分もありました。中附の過去問も合格者平均をかなり上回っていたのできっと大丈夫、という気持ちもありました。でも、中学受験は何があっても不思議ではないとも知っていたので、もしもの時に息子が今までの自分の努力を否定する事だけは無いように、どんな風に接したら良いかをぐるぐると考えていました。

【試験当日】

・1/10 開智所沢(一般) 合格

驚くほど落ち着いていました。Zoomでカッシーと話す様子がぎこちなく、“緊張してる？”と聞かれて、“試験よりも、カッシー様と話す方が緊張します”と答えていました…

学校に入る前にとても小さな声で、“5点でもしなない”の合い言葉を一緒に言いました。合い言葉は“試験の前に毎回言ってね”と息子がリクエストしてきました。当日22時に合格発表でしたが、明日の特待の為に21時には就寝、翌朝合格を確認しました。本人は“過去問と同じくらい出来たから大丈夫だと思った”との事でした。

・1/11 開智所沢(S特待) 合格

こちらも緊張していない様子でした。試験の後、やはり“過去問位できた”との事でした。

翌朝結果を確認。昨日よりは嬉しそうでしたが、“本番は2月だから”と落ち着いていました。

・2/1 武蔵 不合格

試験の後すぐに、“算数は合ってる自信があるのは60点分位。国語はいつもの演習位できたと思う。解きやすかった。社会は歌舞伎が出たからいつもより書けたと思う。理科がすごく難しかった”と話しました。その後、

“力は尽くしたから、悔いは無い”と言いました。私の直感なので何の根拠も無いのですが、全てを聞いて、“良くてギリギリだな、どっちかな”と思ってしまいました。

2日後に結果を見たとき、一瞬からっぽになった息子を見ました。しばらく私にもたれかかった後、“カッシーに電話しないといけない。でももう少ししてからでもいいかな”と聞いてきました。“もちろんだよ”と答えてしばらく隣に座っていたのですが、段々と息子の目に力が戻って来るのがわかりました。そして、“絶対に中附に行く、合格する”と言いました。

その後アントレにお電話した所、時間が早すぎてカッシーは離席されていて、ラクダが出てくださいました。

息子が報告したその時に、ラクダが伝えてくださったまっすぐな言葉に親子で救われました。そして驚いたことに息子が、“力が及ばず申し訳ありません”と言いました。親ばかなのですが、かっこいいなーと思ってしまいました。少ししてカッシーともお話し出来ました。カッシーから励ましを頂いて、息子のスイッチは完全に切り替わった様子でした。

これは後で話して分かった事なのですが、息子も私も意外なほど武蔵に未練を感じていませんでした。何とも清々しい気持ちで、もし武蔵が人だったら、“ありがとう、元気でね”と声をかけたくくなるような感覚でした。武蔵に行きたい、と思わなければ得られなかった学びがたくさんあるので、“受験して本当によかったね”と2人で話しました。

・城北 受験せず

開智特待に合格した時点で、息子が城北はもう受けないでいいかな、と聞いてきました。やはり図書館の規模が理由の様でした。

・2/3 早稲田 不合格

早稲田については、12月まで過去問にもさわらずに、夫ともギリギリまで受験をやめようか、と話していました。ただ、過去問を解いた際に、“すごい難しいけど解いてみたい”と本人が言ったので受験する事になりました。結果は不合格でしたが、“難しかったけど面白かった”と、落ち込む様子もありませんでした。

・2/4 中央大学附属 合格

前日に25年の過去問を解いたところ、算国とも9割ほど、理社は7割取れていました。

本人も自信がついた様子で、夜もぐっすり寝ていました。

翌朝のZoomでは、カッシー、ラクダ、カピバラが待っててくださいました。カッシーの“いつも通り行けば大丈夫、合格者最高点を目指しておいで”との言葉に、“はい、行ってきます”と答えた息子は涙みを感じるほど落ち着いていました。試験の後は、“過去問位できた、受かってる”と言い切りました。

翌日の朝、合格の通知を見た瞬間、息子が私に抱きつき背中をバンバンバン、と強く叩きました。その時に、

この数日間、彼なりに一人で抱えて、堪えてきたものがあつたのだなと改めて感じました。あの手の感触はこの先も決して忘れないと思います。

【個人面談】

最後になりますが、個人面談についてお話しさせてください。

4年生からの3年間、カッシーに何回面談して頂いたか分かりません。私の拙い質問やくだらな愚痴に、いつも優しくお付き合いくださいました。

同じ事を伝えてくださっていたのに私の理解が遅すぎて、後で膝を打つような事が度々ありました。

親子で多くを学ばせて頂きました。誠にありがとうございます。
そして、アントレの全ての先生方に心より御礼申し上げます。

とても長くなってしまいすみません。ここまでお読みくださりありがとうございました。アントレにいらっしゃる皆さまの受験が素晴らしい経験となりますよう、心から応援しています。楽しく頑張ってください…！

K.M.さんのお母様

中学受験の三年間は、決して順風満帆ではありませんでしたが、娘にとっても私たち家族にとっても、かけがえのない時間になりました。何より、アントレという温かい居場所に出会えたことは、娘の受験生活を大きく支えてくれました。我が家の歩みかどなたかのお役に立つかどうかはわかりませんが、拙いながら筆を取らせていただきます。

【アントレでのクラス】 4C→5B→6B **【進学先】** 富士見中学校

【娘と中学受験】

受験については、まず夫婦で方針を話し合いました。娘は少しうっかり屋で自己管理が得意とは言えず、公立中で内申点を安定して取ることに不安がありました。一方で、東京には中高一貫校が多く、娘に合った環境を選べる魅力があります。思春期の6年間を安心して過ごし、好きなことにも打ち込んでほしいという思いから、中学受験を選ぶことにしました。メリット・デメリットを本人に伝えて相談したところ、「やってみる」と前向きな返事をもらい、受験を決めました。

【アントレとの出会い】

知人から「のびのびしている塾」と聞いて興味を持ち、父娘で説明会・体験会に参加。娘は「楽しかった、ここがいい」と即決。

夫から勧められたアントレは、まず説明会でのフンちゃんのお話に惹きつけられました。カッシーのブログ(現X)のウィットに富んだ文章にも魅力を感じ、料金体系が明確で営業的な勧誘がない点も信頼につながりました。入塾テストがないにもかかわらず高い合格実績があることも決め手でした。一方で親は予習への付き添いや電車通塾の安全面、体力面に不安がありましたが、まずは1年間通ってみて様子を見ようと入塾を決めました。

【4年生】

体力面を考えて算国2科でCクラスからスタートし、秋から本人の希望で4科に変更しました。週2日の通塾でも、学校との両立やお弁当、弟の世話など生活の様相が大きく変わり、親子ともに予習・復習のサイクルに慣れるまでが大変な時期でした。

勉強は内容を教えるというより「何をいつやるか」を伝えて確認する程度で、本人が自分の力でよく頑張っていたと思います。

白板は○が半分取れるかどうかで、ノートの使い方や字の読みづらさなど、まず勉強環境を整えるところからのスタートでした。

計算への苦手意識が残ってしまったことは親として少し心残りですが、工夫や暗記を早めに身につけられたら楽だっただろうと感じています。まだ素直な4年生の時期に、理社のテキストと一緒に読むなど、もっと一緒に楽しめたらよかったという思いもあります。

【5年生】

アントレが楽しかったこともあり、本人は迷わず受験継続を選び、進級とともにBクラスへ。6年でAクラスに上がりたいという目標もでき、意欲的に取り組んでいました。一方で夏頃から算数の予習が難しくなり、動画や講座も検討しましたが、負担が増えることを嫌がり受講せず。フンちゃんから「予習は例題に絞る」「復習は分からない問題を残さない仕組みを」と助言をいただき、質問にも行くようになりました。夏期講習で試した個別指導が合っていたため、秋から定期的をお願いすることに。

ラクダ先生からは「国語を強みにできる」と励ましをいただきましたが、説明文の読書はなかなか進まず、無理強いせず物語文を中心に読書環境を整えました。

生活面では疲れが目立ち始め、学校の6時間授業と週3日の通塾で時間に追われる日々に。少しでも休ませるために迎えに行ったり、遅刻・早退で体調を優先したりと調整を続けました。帰宅後は早く寝させることを最優先にしたため、白板の当日解き直しは難しい状況でした。また、プリントを持ち帰らないことが多く、GCでデータをいただいて対応することもしばしば。お弁当箱を忘れてくることもありましたが、受け取りに行くとき先生方が洗っておいでくださることもあり、その心遣いに親として何度も励まされました。

【6年生】

クラスはBのままでしたが、友達に恵まれていたこともあり、落ち着いて受験に向かう姿勢が整っていきました。親子ともに覚悟が固まり、大型プリンターを購入して家庭学習の環境も強化しました。

合判が始まると理社の得点に焦り、理科のコバト先生、社会のダンディ先生にも相談。授業での様子を丁寧に伝えてくださり、具体的なアドバイスをいただいたことが助けになりました。一方で保護者会では「全単元が終われば楽になる」と聞いていたものの、なかなか楽にならず不安が募る時期でもありました。6年生では約2か月に一度フンちゃんに面談をお願いし、次々湧いてくる不安を受け止めてもらいました。面談後は気持ち軽くなり、娘にも穏やかに接することができるようになるほど、精神的な支えでした。保護者会でも各クラスの先生方から直接お話を伺い、力をいただいています。

秋からは入試演習が始まり、個別も含めて週5日の通塾に。忙しさは増しましたが、体力もついてきたようです。それでも疲れが溜まった時は睡眠を最優先し、学校や塾を調整して対応しました。

【勉強のサポート、プリントの管理など】

視覚優位の娘に合わせてホワイトボードで毎日の勉強計画が見える化。4科のチェック欄を作ることで進捗が一目で分かり、無駄な口頭確認が減り、親子の衝突も少なくなりました。白板ノートの解き直しには大きめの付箋を使い、間違えた問題に貼って管理。勉強に使うプリントやテキストも分かりやすくまとめおきました。

プリント類は四谷のテキストの色（算：青、国：赤、理：黄、社：緑）に合わせてクリアファイルや二穴ファイルを色分けし、科目が一目で分かるように整理しました。過去問への取り組みが始まるとプリント類が急増したため、A4サイズを立てて収納できるドキュメントスタンドも活用。特に直前期は過去のプリントを引き出したり、同じ年度の過去問を繰り返し解いたりするため、日頃から整理しておくことが役

立ちました。

【合判テスト/過去問の解き直し】

娘は解き直しに前向きではなく、特に赤本の解説を自分で探して読むことが負担だったため、算数は間違えた問題を1~2問だけルーズリーフに貼り、裏に解説を貼って「取り掛かりやすい形」にして渡しました。ファイリングしておいたことで直前期の2周目にも役立ちました。

理社は問題文が長いので、本人の解答用紙の一部を表に、解説を裏に貼る形で対応。解説量が多いので、重要箇所にはマーカーを引きながら読むよう促しました。

国語は主に漢字・知識の直しのみでしたが、余裕のある時は私も読解問題を解き、娘の答案にコメントを入れて返すこともありました。物語文の感想を語り合う時間は良い思い出になっています。記述対策として、私の答案を娘に添削させることもあり、客観的に自分の書き方を見直す機会になったようです。

合判テストの直しでは、正答率の高い問題を優先し、正答率の低い問題は気にしないようにしました。

【志望校と対策】

4~5年生の間に多くの女子校・共学校を見て回りましたが、娘は疲れやすく乗り物酔いもあるため、「近さ」が最も重要だと分かりました。文化祭やオープンキャンパスに連れて行っても反応が薄く、途中からは母が説明会に参加し、受験候補を絞ってから娘を連れていく形に。娘の希望は「土曜授業がない」「少人数」「先生が良い学校」でした。

6年の夏休み明けには方針が固まり、第一志望を富士見と都立大泉、第二志望を大妻中野、埼玉は開智所沢のみとしました。富士見と都立大泉には一緒に足を運び、どちらも通うイメージを持てたようです。なお、都立大泉は「富士見に合格をいただけたらチャレンジする」という位置づけにしました。

・富士見

校長先生が変わってから説明会の雰囲気が大きく変わり、「食と農の探究(米)」「金融」「芸術」という3つのテーマは、娘の興味や家庭の教育方針とぴったり合いました。「ここなら娘を伸ばしていただける」と感じた熱望校です。土曜授業はありますが、アクセスの良さが十分に補ってくれると考えました。オープンキャンパスでは、理科の先生が娘の話(オオミズアオの成虫を見たというマニアックな話題)に興味を持ってくださり、娘は「こういう先生がいる学校がいい」と嬉しそうに話していました。

過去問は13回分を解き、8月に1回、9月以降は約2週に1回のペースで進めました。娘のペースに合わせていたため、2019~2025年度の1回・2回入試分を終えるのに1月上旬までかかりました。最新の赤本に加え、アントレから古い年度の赤本もお借りしました。

秋から始まった入試演習クラスの効果が出てきたのか、12月頃からは合格最低点を数点上回るように。過去問は体力・気力が必要なため、予定のない休日午前実施し、解説のある年度を優先しました。富士見の「事前準備会」で2025年度の解説動画が配信されたため、その年度だけ3回入試を解きました。募集要項巻末の正答率も参考にしました。

解き直しはまず本人に任せましたが、間違えた問題に向き合うのが苦手でなかなか進まず、算数や理科(物理)は個別の先生にも助けいただきました。1月上旬から2周目に入りましたが、1周目より点数

が下がることもあり、そのたびにフンちゃんが「よくあることですよ」と不安を受け止めてくださいました。

・都立大泉

本人は「美味しい給食」「土曜授業が月2回だけ」「歩いて通える距離」に魅力を感じ、いかにも娘らしい選択だと感じました。授業見学では、中1の男女が休み時間に楽しそうに過ごしており、娘の雰囲気には合うと実感。文化祭では先生方は裏方に徹しているのか、生徒さん達の自主性が前面に出ていて印象に残っています。少人数教育を進めるため、今年度から募集人数を段階的に減らしているようです。

フンちゃんのご紹介で高山先生の作文アタックを始めたのは6年7月。受験勉強の合間に作文を書くのは娘にとって新鮮だったようで、良い息抜きにもなっていました。添削で赤が入るたびに悔しがっていましたが、それが「次こそ先生を唸らせたい」という前向きな力につながっていたように思います。ただ11月に過去問に取り組み始めると「意味がわからない」と拒否感が強く、頃合いを見ながら何度か提示。1月中旬になってようやく「やってみるか」という気持ちになり、検査Ⅰ・Ⅱはなんとか答案を作れましたが、検査Ⅲはほぼ白紙のまま本番を迎えることになりました。

・大妻中野

校長先生が生徒さんを尊重している姿勢が印象的で、好感を持ちました。娘は全国トップクラスの合唱部に興味を持ち、大宮での発表会を観に行ったところ、ダンスを取り入れた迫力ある公演に親子で感動。歌が好きな娘にとって魅力的な環境だと感じました。本人は「セーラー服の水色のタイが好き」と話しており、制服にも惹かれていたようです。

11月の「入試問題説明会」では、出題傾向と対策を具体的に教えてもらえ、とても参考になりました。算数の先生が「今年は単位換算と食塩水が出るかも」とつぶやいておられ、実際に大問で単位換算が出題されたようです。過去問は1月下旬に直近2年分(第2回アドバンス)を解きました。国語は大問(2)の語句・知識から解くように伝え、算数は苦手だった単位換算を直前期に急いで対策しました。

・開智所沢

秋の「入試問題説明会」では出題傾向を詳しく教えてもらえ、特に理科は入試回ごとに「銅の加熱」「物体の落下」など具体的でとても参考になりました。アントレでもそれに対応した対策プリントを作ってくれたため、大いに助かりました。

初めての埼玉受験で出願は緊張しましたが、開始直後はアクセス集中でなかなかつながらず、少し時間を置いてから無事に完了。希望会場がある場合は早めの出願が良さそうです。我が家は南浦和会場を希望していましたが、初日はすでに満席で、開智所沢会場になりました。保護者控室がないため、送りは母、迎えは父と分担しました。当日の受験者数は約3000名とされ、圧倒されるほどの規模でした。試験終了後は混雑するため、合流場所を事前に決めておくことをおすすめします。

【直前期】

直前期は富士見の過去問を中心に、苦手分野は最低限に絞り、得意分野で確実に点を取る方針に切り替えました。

算数：計算の工夫・単位換算の最終確認。冬期白板の「平面図形・立体図形・速さ」を重点的に。

国語：漢字・知識の間違いを辞書で確認しながら反復。頻出作家の読書も継続。

理科：生物・化学・地学の100問プリントで基礎固め。物理計算は個別で対応。

社会：苦手な地理を中心にコアプラステストを繰り返し、歴史は資料・写真を眺めて確認。

1月は本人の希望で学校を休み、睡眠が十分に取れるようになったことで体調が安定。とはいえ試験が迫っている実感が薄く、やらされ感が強い娘に、親としてもどかしさを感じる時期でした。そんな中、Zoom自習室で仲間が集中して取り組む姿は、娘にとって大きな刺激になっていたようです。

インドアな娘の運動不足を補うため、散歩を促し、スマホアプリ「ピクミンブルーム」で歩く楽しみを作りました。時には近所の友達と約束して、朝早く散歩することもありました。一緒に歩くと会話が弾み、良い気分転換に。家では音楽に合わせてトランポリンを跳ぶことを日課にし、運動後は集中力も上がっていたようです。

生活リズムは1月最終授業後から朝型に調整し、6時起床に。インフルエンザ予防としてリレンザを服用しました。休憩時間には絵を描いたりアニメを観たり、好きな作家の本を読んでリラックス。母は受験体験記を読み、心を整えていました。

【さいごに】

1月末の最終授業の日、迎えに行くと、子どもたちがコバト先生と一緒に楽しそうにコンビニへ向かっていました。先生がジュースを買ってくれたようで、まるで部活の引退前のような、あたたかい光景でした。帰り道にお疲れさまと声をかけると「アントレが終わっちゃった…さみしい」と一言。受験が終わった今は、仲間と先生方に会える卒業パーティーを心待ちにしています。

フンちゃん、個別の小川先生をはじめ、アントレの先生方、そして一緒に頑張ったお友達と保護者の皆さま、本当にありがとうございました。楽しい授業、先生方の励ましや、友達との何気ない時間が、娘の背中をそっと押し続けてくれたのだと思います。アントレの益々のご繁栄と、かかわってくださった皆様のご多幸を心より願い、ご挨拶にかえさせていただきます。

K.Y.さんのお父様、お母様

我が家では3人目の中学受験で、3人ともアントレでお世話になりました。アントレに通塾できて本当に良かったと思っています。アントレの先生方、高山先生、お友達の皆様、お世話になりありがとうございました。

【入塾、クラス】兄達の姿もみて中学受験は本人も考えており、塾はアントレが楽しいイメージもあり一択に近い状況でした（親としては本人が楽しく通えるのが一番ですが、3人目の兄弟割も有り難く、運営にも感謝です）。

新4年生のタイミングで入塾し、入塾後はBクラスからスタートして、兄達の経験から理社も最初から受講の方が良かったので、本人も納得して4科目受講で開始しました。5年、6年はAクラス、入試演習は女子上位でした。

【習い事、普段の生活】習い事は、チアリーディングと英会話を4年生まで、ピアノは週1回継続し、入試前日も気分転換に弾いていました。アントレでの勉強の分からない問題は兄達が説明してくれることもあり、4年の前半では予習シリーズと兄達の白板ノートを予習で一緒にしていましたが、後半からは、予習シリーズは自分でやる、白板はアントレ授業でやりたいとの本人希望で、家庭では自学学習がメインでした。兄達の進み方も変わっているところもあり、保護者会で家庭での確認点を説明してくれて有り難かったです。読書は好きな方で、国語はあまり家庭でみられませんでしたが、授業で力がついたと思います。毎日プリントは毎日できなかった時が多く、本人に任せすぎたところが反省点でした。朝起きるのが苦手で登校前の勉強はできませんでしたが、マイペースでコツコツ型でした。

【性格】負けず嫌いで、チーム対抗のポイントで勝つと塾からの帰りの最初の一言は「今日は〇点で勝った!」「〇点足りず負けて悔しかった」と楽しんでいる様子でした。すぐに答え合わせをしたい性格で、合不合テストの帰りは、電車の中で解答みながら、「よっしゃー」「あーミスった」を連呼していました。入試演習は名前が載ることを楽しみに受け、載らない時は点数の自己分析や復習も自発的にしていました。入試当日は、各学校その場で解答が配られると思っていたようで残念がっていました。

【得意・苦手科目】算数は好きだったようで、特にてんびん、速さ、旅人算は好きと言っていました。国語も記述で要点をおさえることができるようになり、得意になっていました（合不合の算数50後半~60前半、第6回が最高で65、4科で58、国語は50台前半~後半推移）。社会は6年前半までは苦手意識（特に近代）があり、合不合でも偏差値50を下回ることもありましたが、理社ともに6年後半には入試演習や合不合、過去問で手こたえがでてきて、過去問では合格者平均点付近で安定しました。計算ミス、問題の読み間違いを減らすことは最後まで意識していました。

【志望校】本人の一番の拘りは家からの近さで、4年の時から最後まで変わりませんでした。私立では富士見が一番近く、吉祥女子、埼玉では開智所沢も通学圏でした。都立大泉は電車に乗らずに通える場所だったため6年で候補になりました。4年時の村上先生との面談で、他に学習院女子なども挙げていただき、本人と見学の話もしましたが、池袋よりも近いところが本人の希望で優先することとしました。学校見学・文化祭は、4年の富士見と吉祥女子、6年の都立大泉のみで、開智所沢は合不合の試験会場で行きました（開智所沢は合不合の際は通えそうと言っていたのですが、入試当日の帰り道でちょっと遠いかも・・・となりました）。吉祥女子はバスの時間と難易度から受けたくないとのことで、富士見、都立大泉、開智所沢の3校を志望校として、第1希望を富士見と都立大泉、第2希望を開智所沢、進学先は結果が出てから決めることとしました。

【志望校対策・過去問・模試】

・富士見：6年夏休みから過去問を少しずつ古い年度から開始して、1月中旬~下旬に直近2年分をとっておきました。2冊分で第1回と第2回の8年分、算数1科は2回分、学校説明会で配布された第3回を1回分実施しました。8月に2021年第2回で合格者最低点を4点下回り大泣きました。その後は徐々に安定してきて、合格者平均点は超えることが多く、合格者最高点を1回超えたこともあり、どれだけ最高点に近づけられるかが目標となり自信も付いてきた様子でした。本人は「2/1で絶対合格する!」と意識して、第2回の過去問はやりたくない感じでしたが、傾向は似ているからと話しして、一通り実施しま

した。

・開智所沢：11月～1月に第1回を3年分実施して傾向も確認しました。特待入試回は第1回、2回で合格したら受験したくないとのことで、過去問も絞りました。

・都立大泉：近さの拘りや、本人の性格、小学校の様子から都立大泉も候補となり、永田先生との個人面談で相談して、高山先生をご紹介いただき、作文対策を受講（5月～12月の月1回）しました。お陰で作文の要領はつかめてきた様子でした。これまで都立受験は我が家ではしたことがなく、適性検査の対策も想定してなかったこともあり、もし合格できたらのイメージで、過去問は5年分実施しました。合格者平均点が分からないため、なかなか掴みどころが難しかった状況でした。作文や図表などから自分の考えをまとめることは、今後の学校生活にもプラスになってくると感じています。

・模試：合不合のみを受け、富士見（第1回、算数1科）：80%、開智所沢（第1回：80%、特待A：20～50%）、都立大泉：30～60%付近、システム上で吉祥女子も確認して20～30%でした。

【受験直前】

小学校の行事にも参加したい希望があり、埼玉入試では当日以外は休まず登校しましたが、1月最終週は体調管理も兼ねて休み、過去問対策に集中しました。兄達の学校でインフルエンザのため学級閉鎖もあり、部屋は分け、家の中でもマスク、手洗いうがいは全員で注意しました。

1月受験校は開智所沢のみとしましたが、出願者数が昨年よりもやや多いということで、もし残念だった場合、1月合格が1つもないとプレッシャーかもとのことで急遽他の学校も考えましたが、距離から通学圏希望の学校はなかったため、1月合格がなくとも2/1富士見受験することとなりました。1/31は復習をして過ごす予定でしたが、富士見の過去問をもう一度やりたいとのことで、8月の時点からどれくらい伸びるかを楽しみながら4教科1年分と理社1年分を解いていました。

【受験日程、結果】

1/10：開智所沢は受験者数が多く、駅も混雑して合不合の時と状況が違っていました。Zoomで永田先生に応援していただき、笑顔で話をする姿も見られてほっとしました。開始時間が遅れ、朝早くの疲れから、算数では解き終わった後に寝たとのことでした。夜、本人が結果を確認して、無事合格、家族で喜びました。

2/1：3日前から早寝早起きのリズムに調整し、体調も問題なく、前日は持ち物を入念にチェックして本番に臨みました。事前の学校説明会で当日の流れの説明もあり、丁寧な対応してくれる学校で本人も安心できたようで、永田先生とも朝お話できて落ち着いて試験会場に向かえました。終わった後は、算数は手ごたえがあり、社会は前日にやり直した過去問の歴史が出たと喜んでいました。本人の様子から大丈夫そうかなと感じつつ、発表まではそわそわしていましたが、無事合格で安堵しました。

2/3：朝は一番余裕があり、先生方にも応援していただき向かいました。適性検査2で埋めきれなかったようですが、作文、検査3はできた様子でした。発表時、本人は学校だったので親のみが不合格を確認しました。本人に伝えた時には号泣していましたが、翌日には富士見への進学を決め、都立受験も良い経験になったと感じています。

日程	学校	出願	結果 (進学)	メモ
1/10 AM	開智所沢 (第1回)	有	一般合格	
1/12 AM	開智所沢 (第2回)	無	-	1/10 不合格の場合、出願予定
2/1 AM	富士見 (第1回)	有	合格 (進学)	
2/2 AM	富士見 (第2回)	無	-	
2/2 PM	富士見 (算数1科)	無	-	
2/3 AM	都立大泉	有	不合格	繰り上げ候補者連絡なし
2/3 AM	富士見 (第3回)	無	-	富士見 2/1, 2/2 不合格の場合、都立は受験せずに出願予定
2/4 AM	開智所沢 (日本橋併願)	無	-	1月開智所沢、富士見が不合格の場合、出願予定

【受験を終えて】

先生方、3年間お世話になり本当にありがとうございました。3人の子供達を合わせると、合計8年間通わせていただき、一度も転塾を考えることはなく、アントレに通塾して本当に良かったと思います。本人は受験後の小学校生活も満喫しており、中学生活も楽しみに過ごしています。先生方のご健康とアントレの益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

M . I . くんのお母様

家族全員中学受験経験者だったので、新五年から中学受験塾に通塾することにしました。

姉が新五年から某大手塾に入って、宿題の多さに疲弊して、勉強嫌いになったと感じたため、弟は、宿題が少なく自主性を重視する塾を探しました。評判も良いアントレを最初に体験しました。

アントレを体験してみて私が学習指導会卒で、あだ名で呼ぶこと、明るい活気のある雰囲気、学習指導会の面影もあり気に入りました(若くてキラキライケメンのらっきょ先生に教えていただいていた。今の姿も拝みたかったです)体験では、息子も予習の成果で、割と白板の○がもらえて、フンちゃんにも褒められて楽しかったみたいです。入塾しました。

Bクラススタート → 一カ月後 Cクラス → 夏休み明けから卒業までBクラス

算数

予習シリーズで予習して、予習段階では理解できない問題の認識をして授業に挑みました。授業でなるべく理解できるようにし、理解できないときは父親に教えてもらっていました。

理科

基本的に復習がメインでした。

コアプラステストやまとめテストや土曜日授業の復習をしていました。テスト解説で、理解できなかった問題はYouTubeのリトライ 高橋先生の動画見ていました。それでもわからないところは父親に教えてもらっていました。

国語

漢字は小テストの範囲をテキストに書きこみ、後は読んで、暗記。

知識は読むだけでした。小テストの点数は悪かったので、復習メインにしていました。

記述は6年秋までほとんど白紙だったのですが、入試直前には頑張って書くようになっていました。

我が家は国語の文章題の直しをやりこむよりも色々な問題解くことが効果的だったかもしれません。

社会

保護者会で、フンちゃんが社会は早々やるようにと毎回強調されていたので、重要性はわかってはいました。結局克服はできなかったです。どうしたらよかったのか。未だにわかりません。

息子はダンディの重要ポイントをメモして暗記することが大事と言っています。

コアプラステストの復習に力を入れてました。

算数は六年生夏期講習までは息子の中では得意だったのですが、秋以降は苦手な単元が克服しようともせず、投げやりな態度のせいか、普通だったり相性がいいとよくできたり…不安定になりました。

国語、理科、社会は苦手でした。

社会は特に苦手です。四谷偏差値 36 とかでした。

四谷大塚の合不合の偏差値は発熱した体温レベルでした。

四谷大塚の復習動画がわかりやすいらしく、復習動画を毎回閲覧していました。四谷の成績表を確認して大事そうな問題は、解き直しさせていました。嫌がってあまりやらなかったような気がします。

Bクラスの上位より下の子たちには、四谷の合不合は難しくて自信なくするような気がしました。首都模試と四谷の合不合、毎回どちらを受けるか選択できたら良いかもしれません。

土曜日演習クラスは中堅上位校でした。

合格 2 回 補欠 1 回 匿名がほとんどという感じでした。

算数、理科は重要そうな問題は父親に印をつけてもらい、復讐していました。社会は一応全部復習していました。国語は知識漢字をメインに復習しました。

秋からの過去問も丸 1 日あっても二科目解いて、直するのが限界でした。

どの学校も四科や二科で合格者最低点超えたことはなかったです。

家だと集中できないようでした。

zoom 自習室に入り、みんなが頑張っている姿が眩しかったです。うちは、寝転がりながら、ダラダラと…何でしょ？とっていました…

1 月 10 開智所沢 ✕ 開智望○

1 月 11 開智所沢午前午後 ✕

1 月 12 開智所沢 ✕ 同時判定開智中学○

1 月 13 開智所沢 ✕

開智所沢は 1 月全部受けましたが、算数が点数よくても社会が足を引っ張ったり、国語が足を引っ張ったり、

全科目イマイチだったりで全滅しました。

これだけ開智所沢で不合格続きで 12 日の開智所沢の第二回試験はメンタル弱って、点数激悪になるかと思っていました。算数は 120 点中 110 点とれました。それと理社が平均に近かったりで、粘り強く頑張っていました。第二回では岩槻の開智中学には併願合格しました。

長引く不合格で落ち込んでしまい自信なくす弱いタイプかなと思っていたので、粘り強く頑張る姿に感動しました。

2月1日午前成城✕午後淑徳東大選抜✕

2月2日午前東京電機✕午後 淑徳東大選抜✕

1月から2月2日まで(通える距離の中学)全部不合格！ダメージ、大きかったです。

受験中もかかさず、毎日ゲーム、受験前に小学校を休んでいるときも、コタツムリスタイルでタブレットいじりばかり。計算は嫌がり、毎日5問解くのが限界

復習もプリントや白板ざっくり読むだけ…絶対書かない。

そんな努力しないし、当たり前の結果。でも2年間、中学受験塾に通ったのに可哀想と言う気持ちもありました。

「嫌だな」といいつつ毎日試験受け続けました。

2月3日午前淑徳スーパー特進○午後淑徳東大選抜○

久しぶりにピンク色の合格画面が嬉しかったです。

2月4日開智日本橋✕

まさかの開智所沢中学一般合格○

息子の強みはな粘り強さなのだと初めて気づきました。

四谷大塚の合不合では毎回開智所沢も淑徳東大選抜もE判定でした。土曜日演習も匿名ばかりでしたし、フンちゃんのアドバイスに従わず危険な綱渡りみたいな入試プランにしてみました。

後半で合格いただけたのは想定外でした。

人数調整の関係で、後半は逆に受かりやすいのかもと思いました。

読書もしない息子は中学受験を通し様々な文章を読むことができました。

教養に繋がりのいい経験でした。

大手だと上クラスに教え方がうまい先生があてがわれますが、アントレはクラス関係なくどの先生も指導が上手いと思いました！

2年間、ご指導と書類の準備や相談にのっていただき

ありがとうございました！本当にいい塾でした！

M・K・くんのお母様

本人は友達と遊ぶのが大好きで、良く言えば小学生らしい小学生。

そんな息子を中高の6年間、のびのびと過ごせる環境で学んでほしいという思いから中学受験をすることに決めました。ただ本人始動ではないことで、息子を導くにあたり最後まで苦労しました。

いつになったら彼は本気になるのか、いつの日か受験体験記に書かれた卒業生のような凄まじい集中力、合格するぞという強い意志は現れるのだろうか。我が家の受験生活は中学受験に挑むには幼すぎる息子の成長を、ひたすら待ち続けた4年間でした。

【一つ上の姉、和子について】

娘は3年の2月から6年の10月までお世話になっておりましたが、受験体験記を書けなかったのでここで少し触れさせてください。娘はアントレに通いながらバレーボールをしていました。6年の1学期を目処に受験勉強に集中するつもりでしたが、8月の全国大会への出場が決まり、夏期講習や授業の日程調整など柔軟に対応をしていただきながらバレーボールも継続していました。大会終了後、思いがけず強豪校から声をかけていただき、本人がバレーボールでの進学を希望した為、アントレを退塾をすることになりました。フンちゃんからは娘の決断を「素晴らしいことなので応援しています」と言って送り出していました。バレーボールとの両立で大変な日々でしたが、アントレで先生方や友達と過ごす時間は楽しかったようです。受験をすることはありませんでしたが、大変お世話になり、ありがとうございました。

【本人について】

さて、本題の本人とは言いますと、姉と同時に体験授業を受け、タケノコの授業が楽しかったので入塾しました。

3、4年Aクラス

今思えば、彼のアントレ生活の中では一番素直に取り組んでいて、親バカながらいつか化けるのではという期待も少なからずあった頃。ただ、白板の字は全てひらがなで雑なため、読めませんでした。

5年 Sクラス

この頃から、小学校の友達と遊ぶのが楽しく、自分だけ遊びを切り上げて塾に行ったりすることに強いストレスを感じ、家での勉強にも身が入らなくなり始めました。

一方、勉強のボリュームは増え始め、予習復習と宿題が消化しきれないまま塾に行くという悪循環に陥りました。塾に行きたくないと言うようになり、明らかに精神的に不安定なようでした。知らず知らずのうちに親主導の中学受験生活が始まり、遊びたい盛りに我慢せざるを得ない状況にも限界が来てしまったようでした。カッシーに相談に乗っていただき、大幅に負担を減らし算数一教科にして様子を見ることになりました。後期が始まっても改善する様子もなく、このまま無理を強いても精神的によくないので、アントレを辞めるという決断をしました。

6年 Aクラス→Bクラス

6年の4月、本人がやっぱり受験がしたいということで、受験勉強をするなら通い慣れたアントレがいいと、半年以上のブランクを経て、またアントレにお世話になることになりました。カッシーに相談したところ、再入塾を快く受け入れてくださいました。

みんなと同じ通常のカリキュラムを進めながら、通塾していない期間の勉強を補うのは、想像以上に大変で、Aクラスからの再スタートでしたが、夏期講習からは基礎の徹底に重点を置くことを目的に、Bクラスでお世話になることになりました。実際はBクラスでついていくのも大変でした。

受験直前期

冬になっても勉強のペースは上がらず、冬期講習前の面談で、フンちゃんに『あの子は一体いつになったらやるんでしょうね？前ほど喰らいつくような感じもなく諦めているような感じ。』と。

この時期になっても、エンジンもかからなければやる気スイッチもどこにも見つかりませんでした。

息子は塾から帰っても、復習もなかなかせず、プチ反抗期も始まって勉強も思ったように進まず停滞していました。

理社の知識も詰まってない状態で、このまま受験に突入してしまう前に手を打たなければと、冬期講習は受けずに、コアプラスで基礎知識をやり直す決断をしました。試験まで2週間ということをややく認識し、勉強にも意識が向くようになりました。

【1月受験】

- 1/10 AM 開智所沢 残念…ケアレミスが出ってしまった。アントレの理科開智対策プリントは必須
PM 西武文理特待 合格…一般合格、過去問は直前に1回
- 1/11 城北埼玉 合格…過去問は直前に1回
- 1/12 開智所沢2回目 合格…1回目か数点で不合格となってしまう為、ケアレミス対策として時間内に算数は2回解き直したそう。

2月は午前午後試験、連日の試験になるので、体感できるよう受験日程を組みました。

開智所沢は通学圏内でもあったため、2月1日AMはチャレンジ校を受験する予定を組みましたが、本人はチャレンジ校の過去問を解いても手応えもなく、不安になってしまい勉強に手がつかない日が多くありました。精神面、体調面を考慮し、結局チャレンジ校を受験することは諦め、2月の受験を迎えることになりました。

【2月受験】

- 2/1 AM 獨協 残念…20時発表。かなり手応えがあったのでショックを受けていた。午後は自信がないため、明日の獨協に切り替えて就寝。でも本当は気になって眠れず、22時の発表も確認した。
- PM 獨協 残念…自信なかったのてやっぱりという様子。
- 2/2 獨協 残念…試験終わって合流時、算数100点だと思う！とかなりの自信。足を引っ張りがない国語も今回は自信あったが不合格。暗雲立ち込めファンちゃんに電話して、4日の獨協も受ける意思を伝える。
- 2/3 対策 明日の獨協最後の試験に備えて、理社の解けなかった問題の傾向を確認。
- 2/4 獨協 残念…憔悴している息子をなんとか奮い立たせて学校へ向かう。この道は何度目だろうと思いつつながら最後の獨協に挑戦。結果不合格。本当に縁がなく、獨協惨敗。もう嫌だ、明日は受けたくない。きっと受からないし開智に行くから受けない！と言いつつも、息子の表情や行動からはわずかでも可能性を残して受験終了を決めてしまうことへの不甲斐なさや、いろんな気持ちが混じり合い、泣きじゃくり言葉にできない苛ちが感じられた。この日は本人の12歳の誕生日。もう結果は気にせず、明日は受けに行けたらそこで終了！諦めずに最後まで戦い抜けたことが、今後必ず自信になると伝え就寝。
- 2/5 成城 合格…今までで一番、スッキリとした表情で起床。学校近くの公園で軽く体を動かしてから向かいました。成城対策は十分にはできておらず、高倍率なこともあり本当に期待はしていなかったというのが正直なところ。合流した息子はやり切ったような清々しい表情をしていた。試験の感触を聞くこともなく、昨日お祝いできなかったお誕生日ケーキを買って帰路につく。
- 19時15分発表。
私のスマホを手に取り、本人が慣れた手つきでページを開くと、『えっ？受かってる！』と、桜の咲いたページを見せてくれました。決して順調とは言えなかった長い受験生活が、思わぬ形で終わりを迎えた瞬間でした。
ひとしきり喜んだ後、ファンちゃんに嬉しいご報告。
「成城に入った！？ファンちゃん、ビックリしてる。君は天才だね。おめでとう！本当に最後まで諦めずによくがんばった！」と言っただけでした。これにて我が家の受験は終了しました。

【最後に】

これまで辞める辞めないを繰り返し、何度も心折れていた子が最後の最後に掴んだ合格。本当によくがんばったね、おめでとう！と抱きしめ喜びを分かち合えたことは一生忘れられない経験となりました。幼い我が子には難しいのかと悩み続けた中学受験でしたし、半ば自己流でこれから受験を控えているご家庭の方々に参考になるようなことは何一つ書けないのですが、成長に寄り添い共に勉強し苦悩した時間は本当にかげがえのない時間でした。

一度は、退塾してしまったのですが、またアントレに戻りたいとお願いした時に、カッシーは「本人くん、待っていました。ぜひまた一緒に頑張りましょう」と温かく迎えてくださいました。

SABCクラスを経験した子もあまりいないのではないかと思います。本人は「アントレの人はみんな知ってる」と今では笑って話しています。

我が家の中学受験は娘、息子共に通常のアントレのカリキュラムに乗っかれず、その都度柔軟に対応していただきました。二人を支えてくださった先生方、またアントレのクラスメートの皆さんにも心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

S . A . さんのお母様

難関校を志望し合格を勝ち取った華々しい中学受験の体験記ではありませんが、ゼロからスタートしたCクラスからの中堅校の受験の一例として体験記を書かせていただきます。

【アントレへの入塾】

中学受験をすることを決めたのが娘が小3の冬でした。もともと中学受験は予定しておらず、ほぼ準備ゼロの状態です。中学受験を決めたということもあり塾の情報も皆無の状況でした。アントレ入塾の決め手になったのは、同じ小学校の幼馴染のお子さんが通塾を決めたこと、また、説明会とその後の面談でふんちゃんとお話しして、ここであれば安心して娘を預けられると感じたためです。その後、娘はアントレに6年生になるまでの3年間通うことになりましたが、アントレで中学受験ができたことは、結果、娘にとっても私にとってもベストな選択だったと感じています。

【4年生・5年生の学習】

新4年生はCクラスからのスタートで授業は週2回、4科目の受講でした。初日に大量のテキストを持って帰ってきて、「とんでもないものを始めてしまったな……」と途方に暮れたのをよく覚えています。とにかく毎週の予習と復習を回すので手一杯で、スケジュールを立てては達成できず、またスケジュールを組み直し……というのを繰り返し、塾のある1週間の生活リズムが整うまでに時間がかかったように思います。特に予習が大変で、土日は算数・理科・社会の予習でほぼ1日がつぶれてしまうという状況でした。特に我が家は中学受験に向けた早期学習や準備をほとんどしていなかったため、ゼロからすべての教科の勉強をしなければならず、他のお子さんよりも予習に時間がかかったというところもあるかと思います。そのような中でも早い段階で習慣化して良かったのが朝学習です。計算、漢字と理社の授業プリントの復習はルーティーン学習として、毎朝1時間ほど時間を設けて毎日取り組むことにしました。一方、塾の復習は最後まで苦戦しました。塾からは帰宅後に算数白板の見直しだけは必ずするようにと言われていたものの、塾の日は塾から帰宅後に白板を解き直すという気力と集中力はほとんど残っておらず、当日まともに復習ができた日は多くありませんでした。また、特に算数は進行が早く、何とか追いつかなければと予習にばかり時間を割いていましたが、結果、復習が甘いので基礎が定着せず、ただただ走り続ける状況でした。今思えば、4年生の頃はもう少し予習の分量を減らし、白板の復習に時間を割くべきだったように思います。

5年生になるタイミングで、塾のご厚意もあり、算数をBクラスに上げていただきました。娘としては、アントレに通う小学校の友達や、アントレで知り合った新しい友達がどんどん上のクラスに進級していく中でもどかしい思いをしていたところもあったようで、算数がBクラスに上がったことを喜んでいました。しかしBクラスになると、算数は基礎から応用レベルに一気に難易度が上がり、4年生の頃は予習をすれば半分くらいは取れていた白板も、○がつかない問題がどんどん増え、何とか白板での○を増やすべく、予習も予習シリーズの練習問題までとにかく問題数を増やして取り組むということを繰り返すうちに、完全に消化不良に陥ってしまっていました。特に5年生に入ると、理科と社会も計算や歴史等の重たい暗

記単元が続き、週末はずっと付き切りで算数・理科・社会の予習をやり、理解しきれないまま授業に向かうという状況が続いていました。5年生からはアントレの個別も併用し算数の強化を図りましたが、時間こそかけていたものの、ただやっただけで理解が追いついていないという期間が続き、どれだけ時間をかけて問題を解いても5年生の間の成績は振るわず、Bクラスにはいながらもまったく浮上する様子が見られませんでした。私自身も、問題の難易度や分量にかなり負担を感じていたため、ふんちゃんに相談の上、6年の春期講習からCクラスに再度下げてもらうことになりました。

【6年生の学習】

再びCクラスからのスタートとなった6年生、娘はBクラスの友達と別れてしまったことや、一人だけクラス落ちしてしまったことをしばらく引きずっていました。しかし、6年前期終了時の算数の白板の振り返りの結果を見ても、ほぼ全単元でクラス平均よりも圧倒的に低い正解率という目も当てられない状況で、4・5年とあれだけ算数に時間を割いたのに、得意単元ができることもないまま6年の前期が終わってしまうといった状況でした。ただ、6年でCクラスになり、算数が基礎中心に戻ったことで、6年の夏期講習以降は授業で○をもらえる数も徐々に増えていき、少しずつ自信を取り戻すことができたように思います。

6年後期からは土曜日にアントレの入試演習クラスが始まることに加え、日曜日は志望校の過去問に取り組む必要があったため、週末の時間がほとんどなくなってしまいました。よって、アントレの復習は平日アントレがない日にこなす必要がありました。しかし、アントレの個別も6年生からは算数2コマで申し込みをしていたものの、担当の先生とのスケジュールが合わず日曜日の受講になってしまったこと、私も仕事があるため平日の伴走は時間的に難しく、平日の算数の復習の時間をどのようにとるか頭を悩ませていました。そこで、小6の5月頃からアントレの個別とは別に、近隣の個別指導塾に週1で通い始め算数のフォローをしてもらうことにしました。個別指導塾には、あくまでアントレの学習スケジュールに沿ったフォローの範囲でお願いし、新しいことは一切せず、白板の復習や四科のまとめの予習のサポートをしていただきました。幸い、通っていた個別指導塾にもアントレ卒業生の指導員の方がいらっしゃり、アントレOB・OGの指導員の方をつけていただけたので、アントレのやり方と大きく外れることなく個別指導の受講ができたように思います。個別指導塾との併用は時間的にも金銭的にも負担が大きかったので、6年の夏期講習までで想定していましたが、結局、6年後期から算数・理科の2科目の受講と継続し、受験本番までアントレと併用することになりました。娘としては体力的にも精神的にも大変だったと思いますし、親としても当然費用の負担は大きくはあったのですが、特に受験直前で小学校を休んだ1月昼間の勉強場所としてもかなり助けられました。

このように、苦手単元の算数と理科については個別指導も受講するなど引き続き一番時間を割いて取り組みましたが、残念ながらどうしても最後の最後まで苦手意識がなくなることはなく、目覚ましい伸びはみられませんでした。よって、国語と社会で点数を稼ぎながら、算数と理科は計算や一行問題などの基礎で点を取る（落とさない）ことを目標に取り組むことになりました。

【過去問の取り組み】

アントレでは小6の夏期講習または9月頃から過去問への取り組み開始が推奨されます。わが子は小6前

期の時点で少なくとも算数の基礎が固まっているという状況ではなかったため、早い段階に過去問に取り組むべきか悩みましたが、一方で刻一刻と迫る受験本番に対する焦燥感もあり、当時の第一志望であった富士見中学校と大妻中野中学校の過去問を夏休みから少しずつ取り組み始めました。もちろん、取り組み始めの結果は惨憺たるもので、こんな状態で半年後に本番を迎えられるのかしらと途方に暮れたのを覚えています。後述の通り、我が家は小6の11月に第一志望を切り替えることになったため、最終的な第一志望校の過去問は小6の12月から集中的に取り組むことになりました。最終的には、本番までに第一志望校の過去問は9年分（各年2回日程分）を1.5周程度回し、第二・第三志望校や埼玉校は第一志望校の過去問取り組みの合間に、各校3~5年分程度、国算の2科目を中心に取り組みました。点数こそ、はじめのうちは合格最低点に遠く及ばない点数でしたが、小6の12月に入ると第一志望校で合格最低点を超えられる回も徐々に出てきました。我が家は第一志望校の決定が遅かったこともあり、第一志望校以外の受験校の過去問演習の時間が取れず手薄になってしまいました。しかし、第一志望校が幸い出題範囲・分野が広く、かつ、基本問題を中心とした出題だったということもあり、第一志望校の過去問演習を通じて、直前期に各分野の基礎演習の見直しができ、結果として、第二志望校以降の出題範囲もある程度カバーできたことが幸いでした。

【受験校の選択と結果】

受験校については、とにかく自宅から通いやすい学校（ドアツードアで1時間以内）かつ手の届く偏差値帯か、という条件で探したため、自ずと選択肢は絞られていきました。また、アントレの面談の際に、過去のBCクラスのお子さんがどういった学校を受験されたかを聞き、その中から実際に学校見学や説明会等に参加して最終的に絞り込んでいきました。学校見学や説明会は、我が家は6年生の秋頃に一番多く参加しました。4・5年の、親子ともに時間の余裕がある時期に参加しておけばよかったと思う一方、当時は当時なりに予習・復習で週末に時間が取れなかったことや、親としても本人が6年生の時点でどこまで成績を伸ばせるのかの見通しも立っておらず、また、過去問との相性等の志望校選定の具体的な判断材料がそろっていなかったこと、また、本人としても、4・5年生の頃はまだ受験や中学校生活をそれほど具体的にイメージできていなかったであろうと思うので、時間の調整は大変ではありましたが、6年生の秋に参加してよかった面もありました。実際に受験する学校は、説明会のほかに親子で文化祭にも参加し、通っているお子さんの様子を通じて学校の雰囲気を見る機会を作りました。説明会と文化祭とで印象が大きく変わった学校もあったので、やはり複数回足を運び、いろいろな角度から学校選びをすることをお勧めします。

上記の条件で、我が家の当初の第一志望校は富士見中学校でした。何より自宅から近いということや、アントレからの進学実績も多く、昨年はCクラスからの合格実績もあったとのことで、挑戦するようふんちゃんからも早い段階でアドバイスをいただいていた。実際、説明会や文化祭に参加し学校の雰囲気もとてもよく、また、アントレのお友達も多く受験することから、本人も富士見の受験に前向きでした。しかし、理系を重視したカリキュラムで入学後の数学の進度も早いこと、入試問題でもやはり理科と算数が娘にはボトルネックになり、文系寄りの娘には入試だけでなく入学後も授業についていくのが厳しいのではないかと感じ、小6の秋頃に受験校の再検討をすることになりました。そのうえで、それまで第二志

望に設定していた大妻中野中学校と、11月に親子で初めて参加した学園祭で、明るい雰囲気と広いキャンパス、比較的緩やかな学習進度、活発な部活動の様子等を子供も気に入った、日本大学第二中学校（日大第二）を第一志望校として設定することになりました。また、安全校として、受験日程が充実しており、女子校で穏やかな雰囲気を娘も気に入った十文字中学の受験を決めました。

1月の埼玉校は合格をもらっておきたかったのでレベルは上げず、Cクラスのアントレ生が過去にも受験していると聞いていた西武文理中学校を受験することにしました。西武文理中学校は過去問が想定していたよりも難しく合格をいただけるか不安でしたが、幸い今年の1日目の試験は苦手な算数が過去問よりも易しかったこと、また、例年比較的多く合格者を出してくださる学校だったこともあり、無事初日で合格をいただくことができました（埼玉校の受験を経て、倍率が勝敗に大きく影響するため例年の倍率を把握したうえで受験校を選定することも重要だということを恥ずかしながら初めて知るに至りました。なお、毎年12月頃に市進学院や複数の受験機関から倍率速報が公開されます）。親としては、1月は西武文理1校のみで終了の予定でしたが、アントレのクラスメイトの多くが開智所沢を受験するとのことで、本人の希望により急遽開智所沢の2日目の日程を1回だけ受験することになりました。ただ、開智所沢は対策は全くしておらず、また、やはり問題も難しかったとのことで残念な結果となりました。

2月の東京の受験校は、日大二中を第一志望に設定し、十文字で合格を確実にとれるよう十文字の受験日程多めに設定したスケジュールを立てました。日大二中の受験日が2月1日午前と3日午前の2日程しかないため、日大二中の受験を軸に、初日午後十文字中学、2日目以降は初日の日大二中の結果を見て、日大二中が不合格であれば午前午後で十文字を受験する予定でした。2月1日の午前の日大二中の初回受験は苦手な算数で躓いたようで試験中こそ焦ったようですが、本人は比較的落ち着いた様子で、さらに同日午後の十文字が手ごたえがあったこともあり、初日の夜には、仮に初日の日大二中が不合格でも絶対に3日の二次は合格取りに行く、また、今日の十文字が合格できれば二中の試験がない2日は大妻中野にチャレンジし、二中か妻中のどちらかは確実にとりに行くと一気にやる気に火が付いた様子でした。怒涛の初日ではありましたが、幸い、初日に日大二中と十文字の2校の合格をいただくことができ、想定よりも早く一区切りつけることができました。最終的に日大二中への進学が濃厚だったため、親としては初日で終了でもよかったのですが、本人の強い希望もあり、2日目は大妻中野を国算2科目で受験することになりました。本人としては、良い流れで初日を終えられたこともあり、最初で最後の中学受験、できるころまでやってみたいという気持ちがあったのだと思います。結果、大妻中野も合格をいただくことができ、我が家の中学受験は想定よりもだいぶ早く、2月2日で終了となりました。

【反省点】

娘の中学受験を振り返り、反省点を挙げるとすれば以下の通りです。

- ・基礎をおろそかにしないこと：基礎の定着に不安がある場合、4・5年の間は焦って無理に手を広げたり応用に手を出したりせず、基礎の定着に集中するべきでした。
- ・外部模試について：アントレでは外部模試は小6に入ってから受験することになりますが、志望校が中堅クラス以下の場合、アントレで推奨される四谷大塚の合不合テストよりも首都圏模試のほうが合否判定も正確に出やすく、また、弱点分野の把握という模試の活用という点でも価値があると感じました。我

が家には合不合テストは難しすぎて、小6の最後まで受験はしたものの、後半はただ受けるだけになってしまい、復習もままならず、合否判定も実際の結果と乖離しており、もったいなかったように思います。Cクラスの場合は、小6の前半で合不合を受験してみて、あまり点数が取れない場合は首都圏模試に切り替えて受験されてもよいと思います。

・過去問偏重の学習：小6の11月以降は週末や休日を利用してひたすら過去問を解き続けていました。最低5年分を2周する、最低合格点を超える等、過去問をこなすことに一生懸命になってしまっていました。過去問と同じ問題が出ることはなく、また、難度がいきなり上がるという例もあるようなので、過去問はあくまで出題傾向の把握と学校別の試験時間に体を慣らすという目的で取り組み、過去問だけに偏重した学習とせず、基礎をおろそかにしないことが重要だと感じました。

・受験校の選定：受験校は娘とも相談して決めたものの、親の心配から安全策をとった受験校の設定だったため、本人としてはもう少しチャレンジする機会も欲しかったようです（実際、チャレンジ校のみとしていたらそんな悠長なことも言っていられなかったと思いますが…）。親子ともに、悔いのない受験となるよう、よく話し合いの上受験校を決めることが大事だと思います。

【おわりに】

小3の冬からアントレにお世話になり、親子で二人三脚の中学受験でした。急遽決めた中学受験ということもあり、親も準備や研究がままならない中で、娘には必要以上の負担を強いてしまったようにも思います。できないことや思い通りにならないことがどうしても目についてしまいますが、手探りの中で娘なりによく頑張り、大きく成長した3年間でした。アントレでの受験勉強は親としても大変な面も多くなりましたが、アントレで中学受験ができたことは娘にとってもかけがえのない経験になったと思います。中学生になり、これからは、これまでのように二人三脚で伴走するということは、寂しくも徐々になくなっていくのだと思います。これからは、娘が自分で頑張っ勝ち取った新しい環境で、たくさんの先生方や友人たちに支えられながら一歩ずつ成長していく姿を、一歩後ろから見守りたいと思います。

改めまして、アントレの先生方、不甲斐ない親子ではありましたが、3年間ご指導くださりありがとうございました。

S . S . くんのお父様、お母様

中学受験のきっかけ

物心ついた頃から電車が大好きだった我が息子。4年生になった頃、鉄道研究部がある中学校があることを知り、「中学受験したい」と言うようになりました。じゃあ文化祭に行ってみようか、と武蔵中学の文化祭を見に行きました。教室2つ使って展示してるよ、すごいね。じゃあ塾に通ってみるか、とまずは早稲田アカデミーに通い始めました。その後、城北中学の文化祭を見に行ったら、こちらは講堂を丸々使って展示していて、規模が段違いでした。展示も様々で電子工作の行先表示器もありま、こんなこともできるのかと感心しました。「城北に行きたい」と、城北中学を目指して4年の秋ころに早稲アカに入塾しました。

アントレに転塾

早稲アカですっと頑張ってみたものの、週末の試験に追われてろくに復習もできず、成績も一向に上がりませんでした。「一所懸命覚えても忘れちゃうんだよ。昔はこんなじゃなかった(泣)」と、とひたすら詰め込ませるやり方も不満でした。算数も予習シリーズに書いてあることを理解することはできても、自分で考えて問題を解くことができませんでした。計算用紙に図を描いて解き方を考えるんだよと言っても、それができなかつたのです。転塾を考えて、アントレを体験したところ、白板問題を自分でノートに取りせるといった学習の進め方が気に入りました。また友達もいたのでここに決めました。週末の試験に追われることが無くなり精神的に楽にはなりました。

鉄道部の調査

早稲アカに1年くらい通っていたのですが成績が上がらず、城北だけに絞るのはきつい。もっと色々な学校も見よう、と鉄道部の調査を始めました。まず、ネットで鉄道部の活動が活発な学校に目星をつけて、5年生の頃に夏のジオラマコンテストやあちこちの文化祭を見て回りました。以下の学校が候補になりました。

- | | |
|-----|--|
| 城北 | 部員数が非常に多く文化祭の展示を体育館で行うなど、規模が極めて大きい。 |
| 成城 | 部員数は30名で若干少なめ。夏のジオラマコンテストに出展しており、高校生地方鉄道交流会にも参加していて、活動は充実している。 |
| 獨協 | 部員は50名。創部50年を超え、OB会もある。文化祭が充実していた。ジオラマコンテストや合宿、電車貸し切りなども行っている。 |
| 京華 | 部員50名。文化祭が非常ににぎやか。合宿、ジオラマコンテストなど活動しており、活動が充実している。安全校として検討。 |
| 聖学院 | 部員60名。合宿やジオラマコンテストに参加している。図書館の受付のそばに、鉄道部向け |

に鉄道関連の本を集めた棚があった。校風、教育方針、施設の充実具合など、個人的には非常に気に入っていた。安全校として検討。

城北埼玉 50名程度。合宿あり。ジオラマコンテストで何度も賞を取っている。ジオラマコンテスト以外にも各種イベントに出展していて活動が活発。

どこに行っても楽しそうだね。でも、やっぱり城北が一番だ、という事で城北が第一志望になりました。

算数について

アントレの白板問題のノートは、最初の頃は何が書いてあるのか全くわかりませんでした。字が汚くて読めないというだけではなく、消しゴムで消しても前の字が残っていて字が重なるなど、見る人に伝えたいという意思が全く感じられないものでした。しかし、これは根気強く続けて改善させるしかない。問題を解くときに必ず計算用紙に途中の計算や図を書かせるようにして、なぜそう考えたのか理由をしっかりと確認するようにしました。次第に上達していき、自ら手を動かして説明できるようになりました。早稲アカの頃は、算数の問題を解くときに自分で図を書いて考えることができなかったので、白板問題で自分で図を書く訓練ができたのはよかったです。

また、解き方がわかっていたのに、字が汚くて計算ミスしたり、問題を勘違いしたりなどのケアレスミスが多かったので、ミスした原因を分析し改善策を考えて、ミスをしないようにしました。

国語について

中学受験を志す前から、算数の出来に比べて国語が得意ではないなということは薄々感じていました。もうちょっとなんとかしたいなとずっと思いつつ、学校の授業はついていけるしなあとそのままになっていたところ、息子より塾に通いたいという話があり、とりあえず四谷大塚の全国統一小学生テストを受けました。国語の偏差値は壊滅的に悪く、本来なら中学受験なんて考えるレベルではりませんでした。それでも走り始めてしまった中学受験。絶対に逃げられない国語。いつもいつもどのテストも国語が足をひっぱりました。国語への苦手意識、だから勉強したくない、ゆえに次のテストもまた悪い…悪循環です。他の教科のようにどこか得意分野があればそこから足がかりに得意を増やすこともできるでしょうが、毎回違う問題文、公式のようにあてはめれば正解にかならずたどり着くこともない、自分で考えて記述するという国語の特徴が息子の国語に対する苦手意識をさらに強化していきました。先生方には語彙や漢字の知識不足を指摘されましたが、本人としてはつまらないからやりたくないし、やってもただの作業で頭にしみこんでいけない様子はみてとれました。

新6年生になったとき、息子と2人で話し合いました。今まで国語が苦手の後回しにしがちだったけど、もう逃げられないよ、どうにかして受験までに間に合わせようと。国語の先生にもご相談しましたが、お

すすめの問題集が息子には難しすぎるように感じました。そこで、家庭でまとめ方や言い換えかたをトレーニングする問題集、文章に線を引きながら読む参考書、文章の読み方を解説する参考書…を家で一緒に取り組んでみました。易しい問題なら自信もつくだらうと選んだ低学年向けの問題集でも間違えることもあり、むしろ見ている私が投げ出しそうになったり、こういう風に読解していたのか、そりゃ間違えるはずだと愕然としたこともしばしばありました。1学期が終わるころには参考書も2周し、選択問題は正答できるようになってきたなど感じられるようになりました。

しかし記述がどうしても書けません。お盆頃から過去問も取り組み始めましたが基本白紙、珍しく書けたと思ったら全然要素がとれていなくて先生に添削をお願いするまでもなく、これは点数は上げられないというものばかりでした。このころには春におすすめされた銀本を口頭で要約することも取り入れて、文章の大意をつかめるようにトレーニングしました。しかしマス目を目の前にすると考えもわからないし文章も組み立てられない状態でした。どうしようかと考えたときに、予習シリーズを最初から復習することにしました。志望校どこも物語文と説明文のみで、特に物語文の比重が重いので、予習シリーズの物語文の回だけを抜き出して、中学受験の勉強を始めた4年下から類題と基本問題の記述のみを解いていきました。6年と4年はたった2年の差ですが文章の内容も易しく感じられ、少しずつ記述が書けるようになりました。基本問題が正解できるようになってきたので発展問題を中心に勉強をすすめました。

晩秋にはいまさらかと思いましたが国語の個別も受講をはじめました。担当してくださったいちけんのオリジナルの記述の解答方法のプリントは、問題を解く前に必ず一読していました。

アントレに入って1年くらい頑張りましたが成績は横這いでした。親として息子の成績アップに貢献できず申し訳なかった。今振り返って問題だったなと思った点を挙げると

- 毎週塾の勉強をちゃんと理解できたかどうか、息子に聞いて判断していたのですが、ちゃんと親の目で確認するべきでした。そして、できていないところは確実に復習して理解させるべきでした。
- きちんと学習計画を立てて勉強を進めるべきでした。時間を決めてメリハリをつけないとずるずると時間が伸びてしまい、結果、その日にやりたいと思っていたことができなかった。
- 国語がすごく苦手で最後まで足を引っ張っていました。他の勉強時間が犠牲になったとしても本を読む時間を作って毎日読ませるべきでした。また、個別を早く受けさせるべきでした。そして、もっと塾に相談をすればよかった。

志望校の検討

6年の秋になって、受験校を本格的に検討することになりました。京華や聖学院でもいいのですが、それぞれに不満な点があります。合不合の偏差値では、獨協と京華の間が空いているので、この隙間に入るいい学校はないのか…本人の希望もあり男子校しか見ていなかったのですが、共学も探してみると淑徳を見つけました。合宿は無いが、年3回の巡見旅行があってジオラマコンテストにも参加している。しかも、部室にNゲージが置いてある。これいつでも遊べるのかな？Nゲージをいつでも遊べる学校なんて、他

には無いぞ…部活体験があったので真偽を確認すべく早速申し込んでみました。Nゲージ大きくてすごい！本当にいつでも遊べる！先輩もやさしかった！「男子校希望してたけど共学でもいい？」「いいよ」進学実績を調べてみると、同程度の偏差値の他の学校に比べるとかなり良い。施設もきれいでグローバル教育が充実している。家から自転車で通えるくらいに近い。私としてもかなり魅力を感じてここを第2志望に決めました。

第6回の合不合格が終わり、受験校を決定する時期になりました。合不合格の結果からすると、正直淑徳もかなり厳しい…幸い、城北と淑徳は試験日程の相性が非常に良い。城北はずっと目指していた学校なので、心残りの無いよう全日程を受けさせることにしました。空いているマスは淑徳をできるだけ入れて、安全校として京華か聖学院を1回受けさせる予定でした。

1月 埼玉受験

1月10日 午前 城北埼玉一般 合格 午後 城北埼玉特待 合格

息子の学力と鉄道部の充実具合から考えて、城北埼玉の一択でした。城北埼玉は入試説明会の内容が充実していて、非常に詳細に試験内容を教えてくれます。国語は題材のあらすじを教えてくれたので、本を特定して事前に読ませることができました。そして、無事特待コースに合格できました。合不合格や過去問の出来具合から特待も取れそうだとは思っていましたが、実際取れると嬉しい。城北埼玉の鉄道部はかなり充実しているし、特待コースに行けるなら京華と聖学院は不要と考えて、結局東京の受験は城北と淑徳の2校になりました。

1月に入ってからはずっと学校を休んで家で勉強を続けました。算数は、四科のまとめの問題を解けるようにし、苦手分野は予習シリーズを見直して考え方を理解し、演習問題集で補強しました。理科はコアプラスと夏期講習のテキストで抜けがないか確認。国語に関しては、うまくいく日もあれば全然ダメな日もあり、1月の城北埼玉は国語に記述がなかったため、1月上旬は記述の練習をせずにいたら受験後には記述が書けなくなっていました。追い込みで頑張っている様子は痛いほどわかりました。でも筆がどうしても進まない。本人曰く、試験も近くなって怖くなってきたと。そこでまた予習シリーズの基本問題を見たり、過去問も2回目のものを解いたり、なるべくポジティブになれるようにしていましたが、1月最終週は絶望と希望を繰り返しながら勉強していたことを思い出します。

しかし、本人のやる気がみなぎっていて、ずっと勉強を見てきて淑徳に合格するくらいの学力はついていると思ったので、最終的には精神的にポジティブな状況で本番を迎えることができました。

2月 東京受験

2月1日 午前 城北 不合格 午後 淑徳東大選抜 不合格

2月2日 午前 城北 不合格 午後 淑徳東大選抜 不合格

淑徳の東大選抜の問題は、スーパー特進に比べて難しく、この2日間は全滅かもしれないことは思っていました。しかし、前々から「城北埼玉の特待を取れているので、2月の結果は気にしないでいい。東大選

抜は難しいから、2月3日のスーパー特進が本番だ。」と言いつけてきたので、精神的にそれほど落ち込んでないようでした。

2月3日 午前 淑徳スーパー特進 午後 淑徳東大選抜 スーパー特進コースで合格

朝家を出る時は元気な様子でしたが、日中は落ち込んでいたとのこと。この日の淑徳の試験は書いていたとのことですが、城北の不合格で精神的にダメージを受けていたようです。しかし、夜中に淑徳の合格を確認して家の中が一気に明るくなりました。

2月4日 午前 城北 不合格

試験会場を出てきたとき、本人は悔いはないと言っていたので、自分なりにやり切ったのだと思いました。

最後に

2月3日の淑徳の合格は本当に嬉しく、夜遅くまで合格を喜び合いました。しかし、城北を目標に2年間以上ずっと頑張って勉強してきたのに、不合格となり泣き伏せる息子の姿を思い出すと、悲しくなって今でも涙が出ます。それでも、中学受験をさせて努力することを経験させることができ本当に良かった。親がわからないような色んなことがわかるようになり、成長したな、よく頑張ってくれたな、と思います。第2希望ではありますが、十分に調査して選んだ学校であり、中高の6年間を楽しく過ごすことができると思います。家族みんなで充実した日々を過ごすことができました。受験が終わった今、少し寂しく感じることもあります。最後の最後まで国語が足を引っ張っていましたがどうにか合格をいただけて安堵しています。

息子を支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

これから受験に向かう皆様、後悔することのないよう、どうか愛する我が子のために自分の時間を惜しみなく使ってあげてください。皆様のお子様が充実した中学高校の6年間を過ごせることを祈っています。

S . M . さんのお母様

■はじめに

まずは小学3年生からの3年間、娘を導いてくださったアントレの先生方、個別指導の先生方に感謝を申し上げます。本当にお世話になりました。

娘は一度もアントレに行くことを嫌がることは無く、最後まで楽しく通い切ることができました。楽しく元気に学べるアントレという場所に会うことが出来て本当に良かったと思っています。受験体験記は、日々の勉強に迷い、苦しくなった時に読ませていただきました。娘はCクラスから富士見を目指していたので、同じような受験を目指す方に我が家の体験が少しでもお役に立てるならば幸いです。

■家族構成と娘の性格

夫と私、娘の3人家族

娘の性格は目立つタイプではないけれど、大人しいタイプでも無く、あまり人に左右されず自分の思ったことに突き進む我が道をいくタイプです。本、漫画、アニメ、YouTube、イラストを描くことが大好きで、その時間を得るために勉強をするような感じでした。「この目標を絶対クリアする！」「この学校に絶対入りたい！」という競争に勝ち抜く熱意のようなものは表に出ることは無かったのですが、何故か「地元の公立には行きたくない」という思いだけは根底に強くあり、静かに淡々と勉強を進めていました。

■中学受験の経験

夫婦共に未経験。周囲で受験の話を書く事はあれど、我が事と捉えた事はなかったです。

■受験を始めた経緯

3年生も終盤になると、周囲で通塾を始める子や既に通塾の始まっている子がちらほら。

娘に塾のことを質問されたのがきっかけでした。受験について調べていくうちに、子供にとってより良い環境で学び、思春期の6年間を通して深い友人関係を作ることができたら、子供の人生がもっと豊かなものになるのではないかと考えるようになりました。ですが、その代わり小学生の3年間は多くの時間を勉強に割り当てていく事になります。その覚悟を本人が持ち続けられるかどうかが問題でした。中学受験について思っていることを娘に全て話し、本人の気持ちを聞いたところ、「やってみたい」との娘の返事から我が家の中学受験がスタートしました。受験を始めるにあたり夫婦で決めたことは、子供が精神的に激しく追い詰められるような無理な受験はしない。また、もし本人に受験の意思がなくなった時は、例え受験直前だろうといつでも受験はすっぱり辞めるという事です。親の受験では無く子供の受験である、という気持ちで折々に本人の意思を確認しながら最後まで臨みました。

■アントレ入塾の経緯

元々アントレのことは、娘の友達が通塾していたので知っており興味がありました。ですが、友達が通塾しているという理由で塾選びをするのは嫌だったので、いくつかの塾の体験に行き、友達が通塾していることは言わずにアントレも体験に行きました。

その中で、娘が楽しくアントレの体験が出来たことと、予習型の勉強スタイルや成績順での座席決めなどに競わせるようなことが無いことが気に入り通塾を決めました。

■アントレでのクラス

4年生/Bクラス

5年生/Cクラス（国語はB、理社はBとCを行ったり来たり）

6年生/Cクラス（国語はB、理社はBとCを行ったり来たり）

6年生入試演習/中堅上位校クラス

5年生当初はBクラスに戻りたいと思う気持ちが本人にありましたが、算数の壁は高かったです。段々とただルーティンをごなすような目標のない勉強になっていったように思います。中々結果が出ない状況のまま6年生になり、フンちゃんから「Cクラスの上位にいれば十分に富士見は狙えますよ」との言葉を受けて、本人に少し熱意が戻ったように思います。

6年後期の入試演習クラスは、フンちゃんと娘の面談の際に勧められた中堅上位校クラスに最初から最後まで所属しました。中堅上位校クラスはA、Bクラスが大半で、Cクラスは最初2～3人のみで肩身が狭い

と言いつつ、その中で順位が明確になることで自分の位置を把握し、自信を持つ事ができたようです。順位は数回、合格点となり中ほどの順位でしたが、あとは下位から中位の間を行き来していました。

■勉強について

計算や漢字、理社の毎日プリントなどは朝学習として登校前に毎日勉強するようにしました。日々の予習復習サイクルは塾の保護者会資料のスケジュールを参考に進めました。算数の予習は親子と一緒に勉強することを勧められていましたが、独立心の強い娘が私と一緒に勉強を嫌がったので、我が家では4年初期早々に親子勉強はリタイヤし、一人でテキストの予習を行う事になりました。うまく親子で勉強出来ないことをフンちゃんに相談したところ「いいんじゃないですか。勉強には取り組んでいるのだから本人のやりたい方法で勉強しましょう」とアドバイスをいただき、私もすっきり手放す事になりました。フンちゃんの優しい「いいんじゃないですか。」という言葉に、「これでいいのか?!このままじゃダメなのでは?!」とネガティブになりがちな私は何度も何度も助けられました。

【算数】

とにかく苦手だったので、白板の復習は週末しっかり行うようにしていましたが、成績は中々伸びず。5年になってプーさんと面談で色々を探る中、白板の復習の精度が低いことがわかりました。その対策として、5年生10月から個別指導をお願いする事になりました。娘の性格的に先生に質問に行けるようなタイプでは無かったので、個別をお願いしたことで有耶無耶になっていた問題も丁寧に教えてもらい理解も深まったと思います。個別の開始の時期は勉強面ではもっと早い方が良かったと思いますが、娘は一人で大丈夫と言って個別を渋っていたので、早い時期から娘の自由な時間が減り、モチベーションが下がるよりは、このタイミングで良かったのかと今は思っています。

また、白板の復習時に解説を見ながら解いて分かった気になっただけだったり、解説の解き方では無く自分の解き方に固執するという事もあったようです。それに気づいてからは、白板の解答欄を全て隠して全ページを毎回コピーし、大きめの付箋に答えを書くようにしました。解き直しまで終わった付箋はその都度白板ノートに貼り付けて、自分で解いた答えの変遷もわかるようにし、問題文だけのコピーでズルが出来ない状況で復習を繰り返す事になりました。季節講習などは膨大な量のコピーになりましたが、私が娘の勉強についてズルをしていないか疑心暗鬼になるより精神衛生上すっきり勉強できたと思います。この方法は最後まで続け、我が家にはとても良い方法だったと思っています。でも6年生後半に、コピーしすぎたのか決して古くはないプリンターが壊れました。プリンターも頑張りきったようです。

【国語】

読書好きのためか得意科目でした。低学年の頃から自分が読んだ本や漫画、アニメなどのあらすじを話すのが好きで、よく長い物語も上手に話してくれました。物語のポイントを押さえて流れを伝えるということが文章を捉えるのに役立つのかもしれませんが。記述に関しては授業のみで特別な対策はしませんでした。漢字とことば、漢字1580の問題集は受験前日までスケジュールを組んで朝学習として何周も取り組みました。

【理社】

理社ともに苦手でした。いつもまとめテストでは半分の点数を目標にしていたのですが、あまり達成できていなかったように思います。好きな漫画のキャラクターの誕生日や身長などは数十人全て暗記できるのに、理社の暗記はからっきし苦手で特に社会には中々興味が持てず苦労しました。

授業ごとに予習復習はしていましたが、勉強の大半は算数に充てていたこともあり、最後まで苦手意識のある教科でした。理社は富士見の受験のためだけにやっていたのですが、富士見の理社は暗記重視というよりも長文から読み解くタイプだったので、娘にとっては比較的相性の良い問題だったことに助けられました。

■親がやっていたこと

- ・朝学習と放課後の勉強スケジュール表の作成（1日ごとの勉強内容を細かく決めておきました）
- ・朝学習や過去問の採点
- ・塾への車での送迎
- ・健康管理

（とは言え元来健康で、インフルやコロナには今まで罹ったことがなく、風邪もあまり引かないため、特別なことは一つもしませんでした。念の為、6年生秋にインフル予防でフルミストを初めて接種しまし

た。でも返って副反応が強く出て1〜2か月コンディションが乱れました。今思えば、初めてのフルミストをいきなり接種しないで、通常の注射での接種の方が良かったのかもしれない。)

■学校見学、志望校選び

女子校、共学のこだわりはなく、当初はミッションスクール、室内プールがある、校舎が綺麗、通学は1時間以内という希望で学校を探しました。

見学したのは下記の通りです。

【東京】立教女学院、富士見、共立女子、晃華学園、大妻中野、光塩女子、明治学院、十文字、日大二中、跡見学園

【埼玉】開智所沢、星野学園、西武文理

6年に入り最終的な本人の希望は制服がセーラー服、校舎が綺麗ということでした。通学のしやすさ、学校の雰囲気や特色、また無謀な挑戦となりすぎないなどの全体的バランスを考え、

第1志望 富士見

第2志望 大妻中野

両校が不合格になった場合は十文字を受験することに決めました。志望校を決めつつも、成績を見ると、やはりCクラスで富士見は厳しいのかと何度も何度も悩みましたが、前年度はCクラスから富士見の合格者が2名出ていたことを心の支えにし、また不安になったら精神安定のカンフル剤としてフンちゃんとの面談で大いに励まされ、最後まで第一志望は変更せずに走り切る事ができました。

■四谷合不合格判定テスト

外部模試はアンブレで申し込むまで一度も受ける事なく、6年春の第1回合不合格判定テストから開始しました。1回目の偏差値は4教科で46.7、2教科で49.6でした。それまで自分の偏差値がどのくらいか全く分からず本人はもっと低いと思っていたようで、結果にとりあえず安心していました。

第1志望の富士見は2回目まではC判定でしたが、夏期講習明けの第3回から最後まで成績は緩やかに下降し、全てE判定でした。夏期講習のまとめテストではCクラスの上位に入り、手応えを感じていただけに、E判定に最初は落ち込みました。ですが数回目には「あくまでもこれは模試。実際の受験とは別物」と思い、とりあえず間違った問題の直しだけして模試の結果についてはあまり気にしない事にしました。

■過去問

【富士見】

8月から富士見の過去問を解き始めました。前年1回目は合格最低点から驚愕の-80点ほど。ちょっと震えましたが、保護者会で先生が過去問の最初は取れなくて当たり前と言われていたことを思い出し、気にせず次！と気持ちを切り替えました。1週間に1回か、2週間に1回などのペースで進めていくと、間を空けずに2周目を解く事になるので、2023年度版の過去問も追加購入して解きました。その後2026年度版のみ2周目を解き、最後に前年の問題だけ3周目を解きました。回を重ねると、国語が安定して合格平均点を上回る大きな得点源となり、本人も「富士見の国語は相性が良い！」と自信を持つようになりました。算数も同様に徐々に上がってきました。理社は最後まで半分の30点周辺でした。理社は国語と算数さえしっかり取ればカバー出来る範囲内と思ったので、とにかく算数を中心に最後まで勉強しました。また、過去問2冊分の頻出単元を見て傾向を掴み、算数は間違いの多い単元は四科のまとめに戻って勉強し、苦手な理社は、頻出単元の中でも特に得意な分野に絞り込み、理科の知識プリントや社会のコアプラステストで勉強しました。

【大妻中野】

大妻中野は2教科受験のみの予定だったので、2026年度版の2教科の回を2周解きました。大妻中野は意外にも国語の得点に苦戦し、逆に算数の方の得点が高くなり、学校との相性があるのだとつくづく実感しました。2回目には合格最低点は大体クリア出来るようになりました。

【十文字】

十文字は受験するか未定だったので、間際になって過去問を解くのは難しいと考え、早い段階で2回分ほど解いて合格最低点がクリア出来るかどうか確認しておきました。

【開智所沢・星野学園】

12月～1月初旬にそれぞれの過去問を一回ずつ解きました。星野進学クラス以外はやはり苦戦し、合格最低点をクリア出来ないまま試験に臨みました。

■1月の学校

本人の希望で始業式から受験が終わるまで学校は欠席としました。学校を休んだことで、落ち着いて過去問や最後の仕上げが出来たと思います。また、これまで学校、塾、自宅学習とやる事が盛りだくさんで寝不足気味だった生活から抜け出し、睡眠時間をしっかり確保するために朝は少し遅めにしました。(本当は早寝早起きが理想ですが、) 余裕を持った勉強スケジュールの日々を送ることで、受験間近とは思えないほどリラックスした日々となったのは良かったと思います。とは言え、あまりにも穏やかすぎて大丈夫なのか不安になる事もありましたが、落ち着いていた環境もあってか1月の過去問の得点は確実に上がっていました。

■埼玉受験

1月10日	午前／開智所沢	不合格
	午後／星野理数選抜特待	不合格 ※星野は会場に時計無し！腕時計を忘れずに！
1月11日	午前／星野理数選抜	不合格
	午後／星野進学クラス	合格
1月12日	午前／開智所沢	不合格

最初、娘は不合格でもいいから開智所沢だけ受験すると言っていますが、やはり一つでも合格をもらえた方が安心だと思い、星野学園の受験も追加する事にしました。星野を受験すると決めたら娘に謎のスイッチが入り、星野理数選抜や特待も合わせて受験することに。理数系は不得意にもかかわらずチャレンジしたことには感心しました。また、東京受験が連日になる可能性もあったので、埼玉の連日受験が東京の予行演習と考えて臨みました。当日のzoom応援は娘が普段と違うことをすると緊張するとのことで、事前に先生にお断りを伝えておきました。

1月10日午前の開智所沢は南浦和会場(大宮希望だったが取れなかった)、午後の星野は大宮会場で移動があったため、私が娘を南浦和まで迎えに行き大宮に移動し、主人は事前に大宮で昼食を食べる場所を確保することにしました。当日の昼は土曜日でもありどこも混んでいたのも、この方法は良かったです。翌日以降は午前午後での移動もなく、落ち着いて受験に臨めました。

埼玉の結果は星野進学クラスの合格をもらえ、東京で万が一のことがあっても行くところがある！と本人も相当ホッとした気持ちで東京受験を目指せました。

ところで、、、上にも記載しましたが、星野は受験の持ち物に腕時計があります。私は自分の時計を使いたい人のためかなと安易に考え、娘にも腕時計を持参するよう伝えただけで最終確認しませんでした。娘は2日目の午前受験が終わった昼休憩時に「そういえば星野は時計が無いんだよ～」と突然言われてびっくりしました。どうやら初日から時計無しで受験していたようで、ラスト10分で声がけがあったのでそれを目安にやったとの事。ならば何故、初日に私にすぐ言ったり、自分で2日目の持ち物に腕時計を入れなかったのか、、、絶句しました。結局、2日目の午後も「10分前に声がけがあるから時計はいらない」と言われ、そのまま時計無しで受験しました。娘は肝が据わっているなあと思いつつ、東京受験で忘れ物が無いよう気を引き締めました。

■東京受験

2月1日	午前／富士見	不合格
	午後／大妻中野	合格
2月2日	午前／富士見	合格 受験終了！

【2月1日午前／富士見】

珍しく国語が思い通りに進められず、全問記入できなかったそうです。でも理科では直前に復習した2023年過去問と同じような問題が出題されたようで、娘はやや興奮気味でした。私も良い流れが来ている！？と気持ちが上がる思いでしたが結果は不合格。娘は大きな動揺は見せず、まだまだチャンスがあるから大丈夫だよ、との声がけにしっかり頷いていました。

【2月1日午後／大妻中野】

午後の大妻中野は本人もまずまずの感触だったようで合格をもらえました。初日に大妻中野の合格をもらったことで、翌日以降は午前の富士見だけに集中できるようになったので、この合格は心に余裕を持って富士見に臨める大きな助けになりました。

【2月2日の午前／富士見】

埼玉受験から2月1日までの受験ではzoom応援はしなかったのですが、1日の合否連絡をアントレに入れた際に、フンちゃんから「zoom応援が昨日は少なくて淋しかったよ。2日の朝はぜひ連絡してね。」と誘っていただき、恥ずかしがり屋の娘もフンちゃんと話す気持ちになり、この受験初めてのzoom応援を受けました。短時間ですが先生方からの温かい励ましを受けて落ち着いて試験に臨みました。今回は国語も全問解く事ができ、そして何よりも算数の試験で数少ない娘の大好きな超得意単元の『水量とグラフ』より出題があったそうで、校舎から出てきた娘は「算数が出来た！楽しかった！」と大興奮でした。算数が苦手だった娘から、算数が楽しかったという言葉をもとに本命受験で聞くとは！！とても感動しました。午後の受験予定がなかったのでゆっくり娘の食べたいものを食べようということになり、聞くと「お寿司が食べたい！」とのこと。な、生もの、、、。翌日3日目の富士見があるかもしれない状況なので躊躇し、娘に翌日の受験の可能性と生ものは万が一ということがあることを伝えましたが「大丈夫！私は当たらない！」と謎の自信。本人が食べたい物が一番の活力源と割り切りお寿司を堪能し、午後はリラックスして過ごしました。午後7時に合格発表で、見事合格！！家族3人で抱き合って喜び、アントレに喜びの報告をして娘の中学受験が終了しました。

■終わりに

親子で未知の中学受験に挑んだ3年間、月並みではありますが、終わってみればあつという間の3年間に感じます。本人主体で無理のない受験で行くと決めていましたが、始まってみれば、親の欲のような気持ちが出てくることもしばしばで、娘の足りない部分にばかり目が行き、時には厳しい口調で責めるような言葉もありました。子供には前向きなことを言いつつ、内心は親の役割を中々上手に出来ずに成績と共に私の心もアップダウンを繰り返し、状況に振り回されてばかりの力不足の伴走者でした。不安と迷いが深まるたびにフンちゃんに面談を申し込み、同じようなネガティブな話をする事も多かったと思いますが、嫌な顔一つせず、いつも温かく励ましとアドバイスをくださり、最後には「また、いつでもどうぞ」という言葉と微笑みに何度も何度も支えられました。本当にありがとうございました。この受験を通して多くのことを経験し、乗り越えていく中で、親子共に成長することができたと思います。6年夏のフンちゃんと娘の面談で「富士見は現状だと五分五分ぐらいかな」と言われ、娘は五分あるんだ！と前向きに捉えました。ともすると後ろ向きに捉えそうな数字ですが、娘は既に五分あるなら後は増やせば良いと前向きに考えられたことが、後半の原動力だったように思います。リアルで、そして良い言葉をかけていただきました。2月の本番直前に「この3年間は辛かった？」と娘に聞いたら、「全然辛く無かった！」と笑顔で答えてくれました。私は、もうこの答えだけで、我が家の中学受験は大満足の大成でした。例えどの学校へ行く事になろうとも、娘が自分で決めた中学受験を自分の意思でしっかり走り抜いたことが、娘の人生にとって最高の良い経験と自信になったと思いました。そして更なるご褒美として富士見に無事合格をいただけたことは本当に幸せなことでした。アントレで娘と関わってくださった多くの方々に、重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。

S . W . くんのお母様

●入塾まで

ゲーム、動画、外遊びが大好き、勉強は好きでない、根拠のない自信だけはたっぷりある、親のいう事は基本聞かない、ルールは踏み倒してなんぼの息子。3歳上の兄がアントレ生だったため、当たり前のように通うことになりました。

入塾前に、6年生までの漢字と計算は一通り終わらせましたが、この時から、本人すら読み間違える解読不能な文字を書く（0と6、1と7、偏と作りが離れすぎな漢字など）、やたら暗算しようとする（式を書こうとしない）、筆算は桁がずれる、よって計算ミスが多発、漢字もなかなか覚えられない、指摘すると怒る or ふてくされて寝る状態で、習熟度も低く、アントレで初見となるよりは・・・という状態でした。

●小4～小5前期・夏期講習

Aクラスでスタートしたものの、算数に全くついていけず、GW明けにBクラスに移りました。兄の時と同様、算数の復習は、本人に解き方を説明させる形を取りたかったのですが、ただノートに書かれた式を読み上げるだけになりがちで、こちらがつっこんで聞くと怒る or ふてくされるため、全てノートに解き直す形にし、丸になるまで繰り返し解かせました。2、3回やっても理解できるようにならないものは諦めました。

兄も教えようとしてくれましたが、本人は誘導してもらっても考えようとしませんでした。兄が答えを言うまで「分からない」を連発するため、お役御免にしました。

ゲームと動画（1日2、3時間ほど）、外遊びが最優先なので、予習、復習がどんどんたまる、早すぎる反抗期に突入し、何でも親のせいにする、アドバイスを批判と捉える、常識的にあり得ない言い訳をする、ふてくされて昼寝を始めると2時間は起きない、起こしても起こさなくても怒る、などで言い争いばかりしていました。

小5はAクラスでしたが、どの科目も中途半端な取り組み方だったので、いったん算数だけに絞ろうという話が出て、前期3回目のまとめテストの後、算数と本人希望で社会だけの受講にしました。アントレで復習し、分からないところを先生に教えて頂いたり、遊ぶ時間が増えたりしたことで、メンタル面は少しばかり落ち着きました。国語の漢字はカリキュラム通りに家で取り組みました。

夏期講習は4科目受講の方がよいとのことだったので、理科の未習単元に自宅で取り組みました。4回分とは言えしんどい内容とボリュームだったため、本人も後期からは理科も出ると言い出しました。

講習会前に、算数は白板を解き直し、理社は該当単元の毎日プリントをやってから参加するようにしました。

●小5後期

算数は2回、国語は予習シリーズの回だけ、理科・社会は1回目の講義の回だけを受講することにしまし

た。国語の記述の回にも出るべきことは、兄の経験から痛いほど分かっていたのですが、本人が遊ぶ時間を減らせない中、何とか前に進むためには、こうするしかありませんでした。(国語の取り組み不足は後からポディーブローのように効いてきて、本人も受験終了後、記述はちゃんとやっておけばよかったと言っていました。)

夏期講習終盤から始まった「比」に躓き、算数を極度に嫌がるようになりました。ごく簡単な例題でも拒否反応が酷かったため、個別をお願いすることにしました。国語に対しても苦手意識が一層強くなったので、個別をもう1コマ増やし、前期の記述を音読から解き直してもらいました。(親相手だと音読すら拒否します。)個別の先生方のお話は素直に聞けるようで、1対1で集中せざるを得ないのもプラスに働き、自宅で取り組むより圧倒的に効率も吸収率もよく、理解度が上がりました。

●小6前期～夏期講習

6年生になっても平日週3日は遊びに出掛け、ゲームも変わらず2時間はやっていました。もう受験学年なんだからと言っても通じない、遊びをカットするとストレスがたまり、かえって前に進めなくなる。そのため、いかにやるべき課題を絞り、繰り返すかに気を配りました。

土曜に個別を2コマ入れ、国語の解き直し、算数の予習と復習をお願いし、時間がある時は、苦手単元の5年白板を解き直してもらいました。

4月最初の合不合やまとめテストで、算数の一行問題、小問集合での失点があり、対策として4まとを前倒しで始めました。最終的には4周取り組みました。

国語はらくだ先生に相談し、5年後期の記述問題をアントレのない日に1題解いて提出、その場で解説していただきました。

余談→3月ぐらいに兄弟喧嘩のはずみで、兄がテレビ画面を割りました。(普段は、ごくまれな口喧嘩くらいです。)それまでゲームが終わるとそのままダラダラテレビや録画を見てしまうことが多く、親の注意も聞かないので、壊してくれて正直助かりました。

夏休みは、朝起きるのが遅い上に昼寝(朝寝?)をすることも多く、ゲームをしたら勉強するという状態で、家ではゲームと勉強どちらがメインなのかわからないような状態でしたが、4年5年の時よりは頑張っていたので、多少は目をつぶりました。やはり毎日2時間はゲームをしていたと思います。夏期講習の予習と復習を回すことで手一杯でした。この期に及んでも、社会の勉強をする時に漢字を書かず、ゴロゴロ横になりながら口頭で答えるのをやめなかったため、後期の入試演習や模試で漢字ミスによる5点以上の失点はザラでした。

●志望校

兄校で行く機会が多かったこと、自宅から40分ほどで着く、広いグラウンド、私服と、本人好みのポイントが多いことから、4年の時は武蔵に行きたいと言っていました。相応の努力をする姿は見られませんでした。そのため現実問題として行きたいと思える学校を他に見つける必要がありましたが、偏差値以外の部分で武蔵が基準になってしまっているため難航し、幅広く説明会や文化祭に行くようにしました。

5年前期に明大中野の説明会で、射撃部に興味を持ち、武蔵以外によく目が向くようになりました。グラウンドの広さで国学院久我山も気に入っていました。

6年GWに突然、中学受験はするけど、高校からはe-sportsの専門学校に行くと言い出しました。勉強から逃げたかったのかもしれませんが。e-sportsで生活していけるのは一握りの厳しい世界で、現実的ではないと思うと話しましたが、せめてe-sports部のある私立中学はないものか探しました。すると、当初より受験予定だった開智所沢にあることが判明、本人に話したところ、第一志望となりました。

夏期講習前、今度は中央大学附属を第一志望に言い出しました。5年でオープンキャンパスに行った時は、「バス電車バスで通学なんてあり得ない」と言っていたのに、本人の言い分は外部のグラウンドに行かずにサッカーができるからとのことでした。

興味の幅が広いため、また第一志望が変わることもあるかと思っていましたが、これ以降は中附一筋で変わることはありませんでした。

1月開智所沢に合格したら、2月は中附(2/1、2/4)と国学院久我山(2/1PM・2/3PM・2/5のST、2/2の一般)のみ受験することにしました。共通項はグラウンドの広さです。受験校数が少なく絞って対策できたのは、ゲーム・動画・外遊びを最後までやめられなかった息子にとって、結果的によい選択だったと思います。

11月、法政も受験してみたいと言い出したため過去問1回分解いたところ、苦手の国語の相性が悪くなかったため、開智所沢に合格したら過去問を始め、受けることにしました。

11月下旬、プーさん先生との面談で、開智所沢が残念だった場合に2月に受験する安全校を決め、国学院久我山STは、算国2科目勝負が息子には厳しく、連戦になった時の疲労を考え、辞めることにしました。

●小6後期・冬期講習・直前期

後期になっても、水曜の4時間or5時間授業の後アントレに行くまで遊びに行き、ゲームも変わらず毎日2時間はやっていました。

土曜日の入試演習は中堅上位を受講し、10回合格、4回不合格でした。

日曜に個別を2コマ入れ、日曜午前に解いた過去問の見直し(算・国・理)、平日授業や入試演習の不明点をつぶしてもらいました。苦手な理科の計算単元をまとめてやっていただいたのも助かりました。

夏期講習の白板は、間違ったものは2回、正解だったものは1回解き直しました。

過去問は、

中附 : 2回×5年分。国語のみ+2回。合格最低点-4点が最高値(1/27)。

久我山 : 一般5年分、ST2年分。合格最低点+17点が最高値(1/11)。

開智所沢 : 4年分(開智中学の問題が2年分)。合格最低点+12点が最高値(12/6)。

法政 : 2回×2年分。算数と社会のみ+3回。合格最低点-15点が最高値(1/13)。

中附の国語は文章量が非常に多く、速く読まなくてはなりません。スピード感を維持するため、1月には既に解き終わっている過去問から、15分で大問1つ文章を読み、最後の問題(その文章のまとめ

的な問題)を解くようにしました。大問5コ分ぐらいやったかと思います。

理社は、合不合の度に全範囲見直しをするようにしました。息子には、コアプラスは分量が多すぎて見るだけで嫌そうにしていたので、理科は6年後期の知識プリント(生物総合、地学総合、化学総合)、10分100題知識テスト(生物、地学、化学)、物理は6年前期までの小テスト、社会は6年後期のチェックテスト(地理、歴史、公民それぞれのまとめ回)に取り組むようにしました。取っておいた兄のプリントも使いました。これは、開智所沢の前と1月下旬にも取り組みました。前後しますが、冬期講習前には単元別の知識プリント(理科)とチェックテスト(社会)も全て解き直しました。プリントの方が1枚終わったという小さな達成感を積み重ねられたので、息子にはやりやすいようでした。

合不合は、一番良かったのが7月の4科56.1、12月最後は47.4まで落ち込み、中附は両日ともE判定、国学院久我山も開智所沢もD判定でした。ここまできると、連日ゲームを2時間やっているのだから、真面目に取り組んでいる子たちに追いつくわけがないのだと達観するしかなくなってきました。1日2時間のゲームを12日続けたら丸1日差がつくんだよ、という話もよくしましたが、意に介していない様子でした。

冬期講習が始まったところ、ようやく受験が自分事になってきたようでした。それまで学校タブレットで動画を見るなどしてダラダラ23時過ぎまで起きていたものが遅くても2時半までには寝ようになり、朝も登校ギリギリに慌てて起きていたものが、遅くても7時半までには起きようになりました。わずかでも早寝早起きができるようになり、機嫌がよくなり昼寝もしないという変化があり、お互い接しやすくなりました。それでもゲームは変わらず2時間はやっていました。

健康管理としては、起床時と帰宅時に紅茶でうがい、兄が日帰り旅行で買ってきてくれたはちみつを毎朝小さじ1杯とお風呂の前にヤクルトを飲みました。

●入試結果

1/10 開智所沢 → 合格

前日、アントレに弁当箱と消しゴムを忘れて帰ってきました。

満員電車での人酔いを避けたかったため、最寄りの東所沢駅近くまで車で行くことにしました。(学校説明会では路上駐停車は禁止と明言していましたが、車の使用を全面的に禁止はしていませんでした。)ゲームを15分やって予定通り出発し東久留米市を走っていた時、虫の知らせがあったのでしょうか、「本人、リュックは?」と聞きました。「え、無いよ!」まさかの本人荷物を忘れる失態。普段本人が寒くてもジャンパーを着ないのですが、受験日はさすがに持っていかなくてはと、ジャンパーばかりに気が向いてしまっていました。本人も荷物は親が持ってきているものと思い込んでいました。受験票の予備も筆記具も持っていたのでそのまま行くこともできたのですが、何とか間に合う時間だったので、いったん自宅に戻りました。20分はロスしたと思います。東所沢駅近くのコンビニでおにぎりを食べて(兄の時からルーティン)、学校まで歩き始めてzoom応援につないだのが7:50ぐらいだったと思います。8:20着席でしたが8時前後でも学校までの道は行列しており、流れが詰まる時もありました。今年度は入場順着席で、まず1000~2000人ぐらいは体育館とのことでした。教室で試験を受けたいとのことだったの

で、ちょうどいい塩梅に到着できたと前向きにとらえることにしました。なお、本人が着席できたのは8:50ぐらいで、試験開始自体が遅れました。

リュックを忘れるという事態に本人も動揺したようですが、かえって邪念が無くなったとの事でした。夜、無事一般合格を確認、最低点+26点でした。算数で(1)から間違えている事に気付いて、大問一つ丸々直した！と言っていましたので、これを直せてなければ残念になっていたはずです。心底ほっとしました。

行きたい学校の一つである開智所沢に合格し、腑抜けるに違いないと思っていましたが、ゲームを削れないながらも、生活リズムを乱すことなく、本人なりに頑張っていました。法政の過去問に本格的に取り組み始め、その直しのために個別も増やして頂きました。算数は、冬期講習の白板を、間違っものは2回、正解だったものは1回解き直しました。理社も、コアプラスよりアントレの6年後期プリントを使い倒す勢いで取り組みました。ゲームをせめて1時間削れたらなど何度も思いましたが、大好きな学校の友達に会えない遊べない中、本人にはこれが限界だったと思います。時々お友達が家の外まで来て窓越しに声をかけてくれ、嬉しそうにしていました。

2/1 中附 → 合格

一度も合格最低点を越えることなく臨むことになりました。

試験後「前の方は試験中寝てた、隣は貧乏ゆすりがるさかった、後ろの方は試験中「合格、合格」と何度も呟いていた。」と報告してきました。試験官に訴えもしなかったとのことで、出願のタイミングを悔やみました（こればかりは運ですが）。その一方で、国語の物語文の主人公が本人と同じ「ワタル」という名前で（こういうちょっとした事で読む気力がアップする息子）、なおかつ男子が共感しやすい内容だったと分かり、苦手の国語でドボンしていないことを祈りました。

合格発表は翌朝6時なので、2/2の国学院久我山を受験しに行くつもりで就寝・起床しました。

6時、本人がスマホで結果を確認し、私にスマホを返しに来ました。無表情だったのでダメだったかなと思いましたがそれはポーズで、無事合格でした。泣いて喜びました。これをもって受験を終了しました。

本人も、ゲームをやめなければならぬのは分かっているけどやめられない。こんなにゲームしちゃってたから合格できないかもしれない。と不安は感じていたそうです。

リュックを忘れても、周りがるさくても、問題に集中できたメンタルの強さは母にはないもので、本人の力と言えるかもしれませんが、今後はその強さとともに、自由には責任が伴うことを認識し、自制心を持って、やるべきことはやるべき時にやった上で、楽しく過ごしてほしいと思います。

兄が小3で講習会のみ参加した時から7年間、真逆な二人を温かくご指導いただきました。

次男は、個別の先生方にもたくさんお世話になりました。おしゃべりしたり、掃除を一緒にしたりするのも楽しかったそうです。

一緒に頑張ったお友達のおかげで、通いきることができました。
たくさんの方に支えられた受験でした。本当にありがとうございました。

おすすめの市販教材

・ポカロで覚える中学歴史（学研）

→兄の時も使いました。5年歴史が始まる前に特におすすめです。

「千本桜 日本歴史 ver . 」と「歴史の人物おぼえま SHOW!」で流れがつかみやすくなります。

・まんが攻略BON! 中学歴史年代暗記141（学研）

→6年11月ぐらいから使いました。語呂合わせで年号が覚えられます。「年表式さくいん」から中学受験

で出やすいものをピックアップし、毎晩寝る前にクイズ形式で練習しました。

S . Y . くんのお父様

1. はじめに

2022年の2月から4年もの間、アントレの先生方、個別指導の先生方には大変お世話になりました。あらためて篤くお礼申し上げます。

4年前、小学校の学習内容にやや飽いている様子を見せていたこと、本人が入りたいと思える文化館がない地元の公立中学校との相性に懸念を抱いたことなどを背景として中学受験を思い立ちました。ただ、父親(私)自身が大手の進学塾に通塾した際に相性が合わず、その後、学習すること自体が嫌いになってしまった経験があったことから、安易に大手塾を選択することには躊躇がありました。ある日、母親(妻)がネット上の広告からアントレにたどり着き、この塾であれば学習することの楽しさ、面白さを失うことなく受験の準備が進められるように思い、入塾を希望いたしました。

受験が終了した現時点において、学習すること自体に対する拒否感がないところを見ると、アントレの学習方針は本人には合っていたように思います。もちろん、大手の進学塾に通塾した世界線は現実には存在せず、厳密な比較はできないので確たることはいえません。それでも、大手の進学塾であれば早い段階で相性面の不一致が生じて、受験を取りやめていた可能性もあったように感じます。何事にもマイペースで、アントレの先生や個別指導の先生に教わったことが定着するまでに時間がかかり、一部は定着しないまま受験を終えることになりましたが、その間、辛抱強く向き合ってくださった先生方には感謝の言葉もありません。

以下、受験に際して父親が感じたことをいくつか、アントレの印刷費を気にしつつ記述できればと思います。学習内容について父親の関与は最小限でしたので、記述することはほぼありません。以下主要内容としては、中学受験を振り返った時に学習内容以外で父親の印象に残ったこと、そして、受験日直前や受験当日に父親が何を考えて何をしたか、などです。なお、お読みいただく際の前提条件は下記の通りです。これらの前提条件に一部でも当てはまるご家庭にとって参考となる情報があれば幸いです。

本人の性格：どこまでもマイペース。やりたいことが他にある場合、アントレの学習が後回しになりがち。アントレの学習を無理に優先するとモチベーションが下がり進捗、理解度が低下する。気分が乗っているときの進捗、理解度は高い。よくも悪くもモチベーション次第。

受験する学校の選定基準：偏差値の高低よりも、校風が本人の性格に合っているか否かを重視。

きょうだい：6年生の時に幼稚園児が1名。家庭で学習に集中することが難しい環境。両親が受験対応に割ける時間にだいぶ制限がある状況。

2. 中学受験で印象に残ったこと

受験が終わってみて感じたことの1つは、大学受験などの他の受験と同様に、中学受験も体力面、精神面の持久力が試される場面が多くある、ということです。特に通塾日が週3日に増えた5年生の1年間は本人も親もだいぶ疲弊して、復習や予習の程度も、算数は最低限度すれすれで推移、国語と社会と理科は最低限度を下回っていたように思います。この間、本人は精一杯やっていましたが、学習のモチベーショ

ンを引き出すために、まず自分のやりたいことを少しでもやって心を落ち着けるところから始まるので、時間は常に不足していました。同時に、もしここで学習内容の消化を無理に進めていたら、本人が許容できる量を超えてパンクし、受験は終了、学習に対しても苦手意識が残ったかもしれません。

苦しい状況の下でぎりぎりのラインで踏みとどまることができるか否かは、月並みですが、それまでに苦しいことをやり遂げた経験がどれだけあるかに左右されるように思います。学習か学習以外かは問わず、です。アトリエで試行錯誤しながら作品を仕上げたこと、水泳で4泳法で泳げるようになったこと、などの経験は、やり遂げたという身体的な感覚とあまって苦しい時期を支える柱の1つになっていたと思います。子どもの性格にもよりますが、3、4、5年生の間に学習以外に多様な経験を積み、精神面の持久力を培うというやり方はそれなりに意味があるのではないかと考えています。

加えて、体力面の持久力もどこかで鍛えておくとういように思います。連続した3から4日の試験を集中力を切らさずに乗り切るのは大人でも大変です。鍛えるといっても、日頃から歩く量を一定程度維持するなどのやり方でよいのではないかと思います。個別指導も含めて週6日通塾していた時期に、1か月にどれくらいの距離を歩いているのだろうかという話になり、小学校の行き帰りも含めて計算したらおおよそ100km/月でした。歩いたら体力がついたのか、体力があるから歩けたのかはわかりませんが、このときに稼いだ歩数は体力面の持久力向上に少なからぬ貢献があったのではと考えています。

それでも体力面、精神面の持久力はやや不足気味だったのでしょうか、前述の通り、特に5年生の1年間は本人も親も疲弊した状態が続いていました。6年生の前半もやや疲弊していたように思います。調子が上向かないまま受験日を迎えるのは避けたかったので、6年生の後半は、休息できる時間を少しでも多く確保すべく、日曜日に受ける模試を最小限にとどめて、模試がない日を休息とアントレの予習復習の時間に充てました。ぼんやりとした不安から、できるだけ模試を詰め込みたくなるのですが、コンピュータゲームのキャラクターと異なり、生身の人間は動けば動いた分だけ心身共に疲弊します。元来の性格も千差万別です。学習の内容も含めて、受験においては何かを加えることばかり考えがちなのですが、状況次第では、何を引くことができるかを真剣に考えることも大事なように思います。

模試以外に引いたものとしては、午後受験の学校を回避しました。昨今は早い段階で合格を確保すべく受験日程に午後受験を組み込むことが一般的になっていますが、合格の早期確保よりも翌日に向けた心身の疲労の回復を優先しました。

3. 受験日直前や受験当日のこと

先に触れたように、校風が本人の性格に合っているか否かを重視して受験する学校を決めましたが、受験校が少ない分、受験当日に風邪などを引かず心身共に万全の状態を受験できる状態に持って行くことに注力しました。1月の小学校は全休しましたが、2026年は1月にインフルエンザが流行していたので、結果としては全休で正解だったと思います。全休の間は難度の高い問題をこなすのはほどほどにして、6年生夏休みの白板問題まで戻って解き筋を再確認して、基本的な問題が確実に解けるように努めました。

2月1日の4日前から起床時間を徐々に早くして、最終的には5時ないし5時半の起床とし、朝食後に近くの公園を散歩していました。ふだん出会わない野鳥やシモバシラにできた霜柱などを見ることができ

て、本人はいい気分転換になったようです。

付き添い時に印象に残ったことを挙げると、開智所沢は東所沢駅から校舎まで列がつながり屋外にいる時間が長いので、防寒は万全にして(桐朋も防寒重要。国立駅 or 谷保駅から校舎までの間で冷えます)、途中で口に入れる軽食や温かい飲み物があると体調を崩さずに済みますし落ち着いて行動できます。結局15分遅れて開始したので、受験生が全員校舎内に入るのを待ったようです。また試験終了後に受験生が出てくるまで時間がかかり、合流するのも少し大変でした。成城と芝も受験生が多いですが、先生方と在校生による誘導が手慣れていて試験終了後にすぐに本人と合流できました。試験中は校舎外で待機し、開智所沢は所沢駅、桐朋は立川駅まで移動してリモートで作業、成城と芝は勤務先に移動しました。平日でも父親が付添人をしている姿を多く見かけたのが非常に印象的でした。

4. おわりに

「できた!」と言って校舎から出てきた学校は縁がなく難しい顔をして出てきた学校には縁がありました。模試で80%の学校に縁がなく50%の学校に縁がありました。過去問を解いた際に初見で比較的点数がとれた学校は縁がありました。校風とは別に試験問題の相性が合う/合わないがあるように感じました。マイペースな本人がいずれかの学校から合格をいただいた形で受験を完走するために受験校を絞って臨みましたが、本人の性格や体力に合わせた結果ですので、状況次第では別の形があってもよいと思います。大事なのは、巷間の言説に過度に依存することなく、受験生本人の性格や希望、体力に合わせた準備ができるかどうかだと思います。受験生、ご家族の皆様が最善の準備を整えて受験当日を迎えるための一助となれば大変嬉しく存じます。

S . Y . くんのお母様

我が家は3年生から4年間アントレにお世話になりました。

マイペースな我が子を温かく見守り、ご指導くださったアントレの先生方と個別指導の新本先生、清水先生に心より御礼申し上げます。

アントレの体験授業を受けた日の帰り道、授業があまりに楽しくて、本人は飛んだり跳ねたり小躍り状態で帰ってきました。水を得た魚のようにとでも生き生きとしていました。

学校の授業だけでは退屈で、でも大手塾は性格的に絶対に合わない我が子になんとかびったりの居場所はないかと探してたどり着いたのがアントレでしたので、嬉しそうな様子を見てホッとしました。アントレ楽しい！という気持ちは4年間変わらなかったと思います。

中学受験について右も左もわからない状態で始めたので、保護者会で勉強の進め方やその時期に大切なことを詳しく教えてくださり大変ありがたかったです。何を優先すればいいのかわからない、親子で煮詰まった、そんな時は何度も面談していただき、最後までアントレがいてくれる！という心の支えになりました。

「本人がどうにもやらないのですが…」と何度もご相談し、その度にカッシー先生は「本人がやる気になるのを待ちましょう」とおっしゃっていました。最後の方は夫婦で「カッシー先生ならやる気になるのを待ちましょうって言うね」と合言葉のようになっていました。焦る親に冷静にブレーキをかけてくださったおかげで、本人が息切れせず最後まで頑張れたのだと思います。

5年生の後半は成績が落ち込み気味で、家族と衝突することも多々ありました。少し休ませようかと夫と相談し、冬季講習は全休するつもりでカッシー先生にご相談申し上げたところ、算数だけでも受講したらどうかと提案してくださり、本人もそうするとのことと算数だけ参加させていただきました。おかげさまで気持ちが切れることなく、新6年生に繋がれたと思います。

5年生の冬休みがこういった状況でしたので、6年生から始まる武蔵算数は当初は受講せずにおりました。前期も残すところあと2ヶ月という頃、本人が武蔵算数を受講したいと言い出しました。だいぶ迷いましたが、受講しないで本人が後悔するのはよくないと参加することにしました。アントレ通いが週6となり本人も家族も本当に大変でしたが、やめるとは一度も言いませんでした。あの時はよく頑張ったと思います。柔軟に対応してくださり、本当にありがたかったです。

我が家は国語にだいぶ苦しめられました。私が見た限りでは、問題文を流し読みして解答の形を具体的に決めないままなんとなく解答を書き始めていました。どの視点から解答するかわからないため、答案に主語がなく、主語がないために文章の始まりと結びがなんだか不自然なことが多かったです。

入試演習クラスやGCで配布された武蔵の過去問解説プリントの、問題文から解答の形を導き出す部分がとてもわかりやすかったので、蛍光ペンでぐるぐる囲み嫌でも目に入るようにしました。

宿題や復習をもっと家で見てあげられればもう少しスムーズに学習が進められたのではないかと悔いしつつも、あの時の状況ではそれもかなわず、個別の新本先生には大変なご苦勞をおかけして申し訳ない気持ちでいっぱいです。

本人が受験結果を電話で報告した際にアントレにいらした新本先生とお話しできたようです。「すごい頑張った」と話す言葉の調子から、最後まで諦めずにやりきって自分が納得できる試験になったのだなと感じました。これも最後まで励まし、丁寧に指導してくださったおかげです。

個別指導では授業後に報告書をくださいます。個別の先生が間違えた箇所の解説やアドバイスなどを書いてくださるので、自分の弱点を見直すのに重宝します。報告書をまとめてファイルしておき、入試当日に国語と算数の分を持っていきました。国語の過去問解説プリントも併せて持参しました。付き添った夫によれば試験の休み時間などに見ていたようです。

受験にまったく向いていない家族が最後までやりきることができたのも、ひとえにアントレの先生方、個別指導でお世話になった先生方のおかげです。アントレでなければ受験当日までたどり着けなかったと思いますし、中学受験が辛い思い出になってしまっていたことと思います。

受験はゴールが決まっていて、それまでになるべく効率よくカリキュラムをこなし、試験日までに間に合わせなければなりません。それは我が家の家族全員が苦手とするところでした。子どもにやりなさいと

言いつつ親も下調べや学習計画の段取りに追われ、ときに破綻し、一緒にジタバタもがく中で親自身も苦手なことに向き合って少しは成長できたように思います。

中学受験を終えてみて、予想以上によかったことは受験勉強を通して父親との接点が増えたことでした。わからない算数の問題を聞いたり、塾のお迎えの時に何か美味しいものを買ってもらったり、いろいろと話をする機会が増えたことで親もそれぞれ違うんだなと物の見方が増えたかもしれません。こっそりお菓子を買って置いておく父心が伝わっているといいのですが（母に比べてだいぶ甘い気がします。お父さんは心配性）。

受験が終わり、本人がこれからやりたい事や将来について自然と口にするようになりました。自分の将来について6年間じっくり考える時間があることはありがたいことです。さっそく中高一貫校のメリットを感じています。

受験が始まる前は、受験勉強の型にはまって本人の良さがなくなることを心配していました。終わってみて、変わらずマイペースではあるものの、やることに優先順位をつけてメリハリよくできるようになって成長したように思います（当社比）。

今まで時間がなくてできなかった趣味など、やりたいことがたくさんあるようです。元気よく過ごす姿を見て、無事に終わってよかったと安堵しています。

100%自分のためだけに時間を使える時期は短いです。中高の6年間はその貴重な時期だと思います。己の心の赴くままに元気に過ごしてほしいです。

最後になりましたが、アントレの先生方、個別指導の新本先生、清水先生に重ねて御礼申し上げます。また、仲良くして下さったアントレ28期生の皆さま、本当にありがとうございました。アントレのますますのご発展と、先生方、28期生皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

S . Y . さんのお母様

入塾から、受験校全勝（開智所沢、富士見、都立大泉高校付属中）までの道のりで母がサポートしたことは下記のみです。

- 1、娘の叱咤激励（ほとんどが激怒）
- 2、おいしいごはん、おやつを用意する
- 3、学習計画チェック

幼稚園の時に下に弟が生まれたことを機に「ママを助けるお医者さんになる」と産婦人科医を目指している娘は、自分で中学受験をすることを決めてきました。母一人で子供3人を育てているので、仕事も家事も、受験勉強の寄り添いもこなすことはできないため、受験するなら、お金は出すけれど「休まず通う」「自分で意志をもってやり切ること」が母子の約束で、4年の後期から入塾しました。2年ちよつとの通塾の間、母が勉強を隣で見たのはトータルで3時間ほど。むしろ娘から勉強は見てくれるな！と要望をいただいていたので、塾と個別指導の先生にお任せ。土日は理系科目の得意な祖父母の家に合宿にいき、算数の考え方の基本や、日常にあふれる理科系科目への興味を広げる教育（お風呂で体積の勉強、料理で食塩水の濃度の学び）で楽しんで学んでいました。都立対策は、アントレにご紹介いただいた作文添削指導の先生に受験前2か月サポートいただきました。学習については全くノータッチで受験を終えましたので、上記に挙げた母がしてきたサポートについて体験記として記します。

娘は自己肯定感が高すぎる故、なかなか自分のできないところに目を向けることができない性格です。塾から帰ってきても「今日は白版で@問できた！」「前回のテストより5点も上がった！」とできたことしか報告されない。そのたびに「白版で困ったのはどこ？」「そのテストは何点満点？できなかった@点はどこに置いてきた？」とできなかったことに目を向ける声かけをし続け、受け止めるように指導しました。受験を通じて「できないこと」を受け止める強さと、それを乗り越える面白さを学んでほしいというのが母の願いでした。受験はできないことを埋めなければ点数は伸びません。娘は6年の夏まで、根拠のない自信に満ち、復習は疎かで、模試でもE判定が通例で成績も思うように伸びませんでした。6年の夏休みから、学習スケジュールを本人に手帳に記してもらい、チェック、反復学習のリズムを少しずつ見直しました。自分で計画を立てて学ぶリズムが徐々に育ったと思います。それでも、冬まで遊んでいるのか勉強しているのかわからないような学び方で、幾度となく「まじめにやらないならいつ辞めてもいい！ママのお金を溝にすてるな~！！」と怒鳴りました。親子でこれは本当に全落ちかもと腹をくくったのは、クラス担任のフンちゃんとう冬休み中の面談でした。「受験モードでないのはユリさんくらいです。富士見に困る子ではないと思ってましたがこのままでは難しいかもしれません。埼玉を受けて落ちたら2月の本命富士見までにスイッチが入るかもですね」と伝えていただいたことで、親子で話し合いをしました。自信のないところ、白版で復習しきれていないところはどこか洗い出し学習、私もマルつけ、できないところを復習したかのチェックを行いサポートしました。演習テストでは、いつも成績の近い子をベンチマークとさせていただき、この子を超えよう！と声をかけ競争心にも火をつけました。1月以降は受験演習でも安定して合格ラインに乗るようになり、自分が4教科合わせて何点くらいとれているかの所感が、戻ってき

たテストとズレがなくなってくるなど、勉強が整った人の感覚に近づいているのが親としても感じられるようになってきました。とはいっても本人に受験生らしい必死さは全くなく、踊ったり、歌ったり、本を読んだり、好きなことも楽しみすぎて、心配で心配で「受験生？何してますか？」が口癖でした。いよいよ埼玉開智の受験日、落ちても、気合が入ればいい！くらいに思って送りだしました。ウキウキ余裕をもって会場に入る娘に、「なんか受かる気がする」といって見送りました。試験後「ワンチャン受かる」と言って帰ってきた娘の言葉は本物で、今まで見たことのない良い点で合格、抱き合っただけで泣いて喜びました。その後、特待合格も勝ち取り、返って2月の本番まで保たないかもとの不安にも襲われました。本命の富士見1日目。「算数が死んだ」と言って帰ってきて「復習なさい！！」と心配な母を横目に本人はいたって普段通りで、机に向かうどころか、韓国アイドルのグッズを買いに出かける始末。案の定の不合格。この不合格で、やっぱり富士見に行きたい！と気持ちを切り替えて2日目に挑みました。大好きなおやつを休み時間に食べられるようにたっぷり用意して出陣！！おやつを食べるのを楽しみにウキウキ会場入り、午前「楽勝、絶対受かった」午後算数1科も「できた！」自信に満ちた顔でした。子供の所感にズレがないとわかっていたので、安心して発表を待ってられました。第一志望の合格でノリノリウキウキ、都立は受かったら最高！という楽な気持ちで受験に送りだしました。どんな時も平常心で楽しそうに受験会場に向かう娘の肝の据わり方に完敗です。最後までこんなに楽しく受験をのり超えた受験生はどこを探してもいないというほどの向き合い方でしたが、受験を通じて得てほしかった苦手に向き合い、努力の先に勝ち得る喜びを存分に経験してくれたことをうれしく思っています。受験がゴールではありません。将来の夢に向かってこれからの娘がどう自律して成長していくのか楽しみたいと思います。アントレの先生方、温かいご指導本当にありがとうございました。

T・D・くんのお父様、お母様

子供と一緒に暮らす期間は短いと18年で終わる、そう思って過ごしてきた。今回の主人公、次男の学童期が終わろうとしている。つまり彼はあと6年で成人になり、この家から巣立っていくかもしれない。その準備期間の6年を過ごす学校が決まった。彼が行きたいと言っていたところだ。その学校の何を知っていてどんな基準で選んだのかは知る由もないが、彼が複数回足を運んだ2校のひとつだ。彼を感じる何かがあったのだろう。

彼には6歳離れた私立高校に通う兄がいる。兄と同じく彼も就学前から音楽教室、体操教室、野球に通わせていた。このまましばらく続くと思っていた。しかし、就学後は状況が一変する。1年生の2学期後半、笑顔が少なくなる。3学期には登校を嫌がり始め、数日不登校になる。共働きの私たちは右往左往するばかりだった。

2年生になると、音楽教室と体操教室は行かないとやめてしまった。やめたい理由を聞くと「僕はひとこともやりたいと言ってない」という。この頑なさは何だ、と戸惑う私たちと対照的に、スッキリ顔の次男である。彼は何に興味があるのだろうか。それは、兄の影響もあると思うが、YouTubeとゲームだった。

そんなある日、転機が訪れる。彼から「プログラミングに行ってみよう」と申し出がある。チャンスだ、まずは体験に行ってみよう。相性が良さそうだ。彼も気に入ったようで入会したいらしい。初めての『やってみよう』、この機会を活かそう！と入会し3回通い始めた。

3年生の夏には野球チームを退団した。やってみようと言ったプログラミングは続いている。そしていつのころからか、公立中学には行きたくないと言い始める。彼は過集中の傾向があり、自由な校風の学校がよいのではないかと私たちも思い始めていた頃だった。ただ、塾選びは慎重になるし、彼の行ってみようという自主性を尊重する必要がある。そのため、もう少し待たなくてはならない。近場で通えそうな塾の情報を集め、そのときを待つ。

4年生になりGWをすぎたころアントレの体験に行きたいと言う。理由はわからないが『アントレ』を指名した。他の塾も提示するが興味を示さない。そして、体験授業を受けた帰り道、彼は「アントレに行きたい」と自ら発した。

ついにアントレ生活が始まった。塾に通い始めたことに安堵する反面、これからの2年半、飽きずに最後まで続けられるのか？と不安もあった。

4年生：はじめは予習に苦労していた。しかし知的好奇心が満たされるのか通塾は楽しそうだった。「学校行かずに塾だけで良いのに・・・」とも言っていた。しかし予習は気が進まないらしく、机に向かうのは0時前後になることもあった。想定より難しく泣くこともあった。算数で解けない問題があると彼から父に声がかかる。1時を過ぎることもあるので堪らない。「22時30分には始めよう」と何度言ったことかしかない。

5年生：予習に慣れてきたのか、以前ほど時間がかからなくなった。すると、問題の傾向と量からどのくらいの時間でできるか逆算し、ギリギリまでやらなくなった。なので、読み違えると寝る時間が遅くなる。言って変わることはなかったが、今では前日に取り組んでいたこと自体がすばらしいと思える。春休みになって、深夜までのYouTubeやゲーム、テレビの視聴が続くのでWi-Fi設定などを制限した。すると父に対してあからさまに拒絶反応を示した。それは、夏休み前まで続く。かなり意固地だ。

6年生：きちんと週3日と武蔵算数、夏季講習、冬季講習に通った。ただ、予習がないので、家で机に向かうことがかなり減った。向かったとしても0時過ぎることが多い。母は睡眠不足が心配だ、気が気でない。

土曜日の武蔵演習が始まった頃から、塾から帰ってYouTube、録画したアニメやドラマを観ている姿は抜け殻のように見えた。夏休みが終わるころ、彼の意思でスイッチを封印する。秋になると、「塾に行きたくない」と言うことが増える。「1月になったら学校に行かない」と宣言、母は困惑する。模試を受けなかったことや、塾を休んだこともあった。

その時は、ほんとに嫌だったのだと思う。しかし「ジュースゲット！」とニコニコしながら帰ってくることもあった。

12月は受験校を絞って行く。彼の希望は、近場（乗り物嫌い。特にバス）。男子校（女子は面倒だと言う）。探求ができる自由な校風。トイレの清潔さだ。

1月はプログラミングは休むことなく通った。最終的に受験休みは24日からだった。両親の思いはこの休み期間に過去問をやり、受験日の起床時間に合わせた生活をするを期待したかった。しかし、過去問を解いたのは30日と31日だけだった。そして前日以外は0時前まで起きていた。夜型から朝型へと変えることはできなかった。

さらに想定外だったのは、この休み期間に兄がインフルエンザに罹患してしまった。幸いなことに家庭内感染は起こらず1月28日の最終日まで通い切った。やり切ったのだ。

志望校の選択：彼が文化祭に行ったのは武蔵と筑駒と桐朋の3校、説明会に行ったのは武蔵、筑駒、城北、開智所沢の4校だった。城北は駅から遠いため、本人の中で受験対象校から除外された。両親は、成城と海城の文化祭と桐朋の説明会に行き彼のマッチングを確認してきた。

最終的には、カッシーと相談して1月は開智所沢、2月は武蔵、巣鴨算数、桐朋、筑駒に決定した。選択基準は、自由な校風と男子校を優先した。

試験当日：どの日も変わらず落ち着いて見えた。1日、武蔵の試験が終わったら、予想点数とおみやげ問題について話してくれた。その後「巣鴨、受けなきゃダメ？受かっても行かないよ」と言う。「今日の夜に結果がわかるよ」と言って連れて行く。巣鴨の試験が終わった帰り道、気になる問題を再計算した。どうやら、やらかしたらしい。

2日、桐朋の試験は手応えがあったようだ。帰宅したらいつも通りYouTubeを見て過ごす。寝る前に筑駒の過去問を見ていた。

3日、筑駒に向かう満員電車で圧倒された。そして「武蔵の結果は先に見ないで」と念を押し、試験会場に向かって行った。

帰り道「もうここには二度と来ない」と言う。電車の混雑が理由なのか、試験の手応えがないのか、理由は聞かなかった。

合否の発表：「武蔵の合否を見たい、早く早く」と急かされる。筑駒の最寄り駅のホームでスマホから合否サイトにアクセスした。母子で『合格』の2文字も確認できた。最後の試験を終えたこともあり安堵したのだろう、その後は珍しく言葉数が多かった。

帰宅前に桐朋の合否サイトにアクセスし、合格の2文字を見た。荷物を下ろすと「今日は僕、機嫌良いから何でも言うこと聞くよー」と満面の笑顔だった。いつぶりを見る笑顔だろうか。小学生になってから見たことのないような気がする。16時頃彼はアントレに電話して合格の報告をした。

筑駒の合否は、父が専用のサイトで確認してスクショを彼に送った。19時頃彼はアントレに電話して結果を報告した。これで彼の受験が終わった。

受験を終えてからの様子：彼は学校があまり好きではないと両親は思っていた。年末まで「受験終わったあとも学校行かなくて良いでしょ」と言っていたからだ。しかし、筑駒の試験が終わった帰り道で、彼は「僕は学校が息抜きなんだ。明日から学校行くよ」と言う。拍子抜けだ。母からするとあまりにマイペースすぎて、『こんな受験生いるのか』と思わずにはいられなかった。これまでの発言や態度は、彼なりに重圧を感じていたのだろう。今は放課後、友達と楽しそうに遊んでいる。その姿に母と兄は「すごく楽しそうだねー」と微笑んでいる。卒業を控えた今、ようやく小学生らしい彼の姿を見ることができている。

受験を通じた学び：3年間、彼の知的好奇心を刺激してくださった先生方に感謝いたします。たくさんのお子さんを指導してくださった経験は随所に感じている。彼は先生方の手のひらの上で気持ちよく踊り、私たち両親も導かれたと思っている。

幾度も面談させていただき気がついたことは、家で見る彼の姿と塾での彼の姿に乖離があることだった。塾ではonの状態、家ではoffの状態。学校での姿も違うようだ。彼は自分のことをあまり話さないの、両親の理解が追いつかないのは事実だ。これらを考慮すると、塾でフル回転させた脳をクールダウンするには、毎回かなりの時間が必要だったと思える。武蔵演習の結果と家の姿が全くリンクしなかったのが、今なら少し理解できる。私たちが見ていた彼の『何もやらない』姿は、『何もやれない』姿だったのだ。事情を理解していない私たちは、カッシーに『何もやらない』姿にどう対処するか相談する。すると意外にも「塾ではほんとに集中しています。」と教えられる。信じがたいが事実のようだ。「本人がやる気に

なるのを待ちましょう。受験生らしい姿が見られる時期は子どもによって違いますから」が最後のアドバイスだった。そう、私たちに出来ることはただ待つことだった。そして、受験生らしさを見たのは前述の通り前々日だった。

一緒に算数や理科の問題を解く過程で知らなかった見方に出会えた。国語のテキストを読み、問いに向きあうと国語ってこんなに理論的だったのかと気がつく。社会の問いで世界の変化を知る。中学受験をしていない私たちにとってこれらはとても刺激的だった。

1年は8760時間だ。睡眠時間と子供だけで過ごす私たちの帰宅までの時間を除くと親子と過ごせる時間は約3000時間、学校や塾の子供の世界で過ごしている時間は約2000時間と算出された。もちろんご家庭によって時間数に差異はある。ただ、親子で過ごしている時間と同じくらい様子が見えない彼の時間が確実に存在している。父や母が職場で何をしているか、子供たちが知らないのと同じだ。

彼の全てを家の姿で判断できない。これが最大の学びだった。ただ、理屈はわかるが感情は未だに追いつかない。

彼と一緒に学んでくださった皆さん、これからもご一緒して下さる皆さんに夢多きことを祈念しています。

U . A . さんのお父様、お母様

1. 受験結果

- 1月10日：開智所沢中学校（合格）
- 2月1日：富士見中学校（合格）
- 2月2日：吉祥女子中学校（不合格）
- 2月3日：都立大泉高等学校附属中学校（合格・進学）
- 2月4日：中央大学附属中学校（合格）

2. 「サンデーショック」を考慮した受験校の決定

2026年度は2月1日が日曜日となり、ミッション系の入試日が重なる「サンデーショック」の年でした。第一志望の吉祥女子中学校が2日にずれたため、1日の受験校選びが鍵となりました。

塾の先生と相談し、模試の結果を冷静に分析した上で「まずは2月1日に富士見中学校の合格を確実に勝ち取り、勢いをつける」という戦略を選択しました。また、父は不要と考えていた1月校についても、母と娘の「まずは1勝して安心したい」という希望を尊重して開智所沢中学校を受験し、合格をいただけたことが精神的な支えとなりました。

3. 本人の強い意志による合格

吉祥女子中学の不合格を受け、急遽2月4日の中央大学附属中学校（第2回）への出願を決めました。女子の倍率は申込時点で約8倍と高く、親としては「富士見の合格があるのだから、無理をしなくても」と話しましたが、本人の「どうしても挑戦して合格したい」という意志は揺らぎませんでした。

結果、この熱意が合格をたぐり寄せました。高倍率であっても最後まで諦めずに挑んだことは、娘にとって大きな成功体験となりました。

4. アントレでの学習と家庭でのサポート

兄が通っていた縁で4年生からアントレに入塾しました。

学習体制：4年生は国語と算数の2科目で、5年生から4科目に増やしましたが、理科・社会の偏差値が伸び悩む時期もありました。6年生では都立対策として通信教育の作文・適性検査講座も取り入れましたが、塾の学習で十分対応できると判断し、状況に合わせて取捨選択を行いました。

生活習慣：「22時就寝」の徹底を意識し、入試直前期は「21時就寝・5時起床」の朝型に切り替えました。

健康管理：直前期のインフルエンザ流行に対し、感染予防として保険適用外でタミフルを処方してもらするなど、万全の体制で臨みました。

5. 振り返って思うこと

長男の受験時（コロナ禍での在宅勤務）とは異なり、今回は父が通常出社だったため、娘が独力で学習を進める時間が長くなりました。リビング学習での親のちょっかいや、休憩時間のスマホ使用など、時間管理には苦労した面もあります。親が上の子の経験から楽観的になりすぎたり、娘の性格に合わせて強く言えなかったりと反省点もありますが、塾の先生や仲間の存在が娘を支えてくれました。

6. 進学先の決定にあたって

最終的に、合格をいただいた中から都立大泉高等学校附属中学校への進学を決めました。校風、通学時間、学費、そして2026年から制服が刷新される点など、本人が納得して選んだ道です。

中学受験は、偏差値だけでなく「本人がその学校でどう過ごしたいか」という意志が、結果を生むのだと実感しました。親身にご指導いただいた先生方、共に競い合ったお友達に心より感謝申し上げます。

U. S. さんのお母様

【はじめに】

2歳差の兄妹でアントレに通い、6年間お世話になりました。

ちょっと癖の強めな(?)兄妹と夫にとって、ここ以外は考えられないというくらい相性の良い塾でした。先生方の熟練のご指導、生徒の各科目の実力に応じた柔軟なクラス設定、そこに集う個性豊かで優秀なお友達。

アントレの長所を数え上げたらきりがありませんが、困難なコロナ禍を乗り越え充実した6年間を過ごすことが出来たのは、アントレの存在あってこそです。

ありがとうございました。

【アントレに通ったきっかけ】

中学受験に関しては、息子同様に娘本人の希望があればと思っていましたが、入塾前に用事で富士見中学の横を通りがかった際に、なぜか娘が「綺麗な学校だね、ここに通いたい。」と言いました。

アントレ大好きな兄(詳細は2年前の受験体験記にあります)の楽しそうな様子を見ていたこともあり、2年生の2月に気軽に入塾しました。

息子の中学受験のフォローに追われる日々で、終わってほっとして気が付いたら娘は5年生になっていたように思います。

最低限の指示で黙々と勉強に取り組んでいた娘には、申し訳ない気持ちです。

【我が家の受験サポート体制】

勉強面(主に算国)は夫が主体で担当、その他にも帰りのお迎えや過去問の採点、受験当日の付き添いなど、多くのことを担ってくれました。

点数で感情的に怒ることはなく、簡潔でちょっと毒気のある助言をする夫ですが、兄妹で信頼を寄せている様子を見て、安心して任せていました。

私は国社の漢字や用語などの暗記ものの採点、お弁当や夫不在時の送迎、生活全般のサポート担当でした。面談は半年に1回のペースで、普段の様子や疑問点などをA4用紙にまとめたものを持参の上、夫婦で伺いました。

息子もたまに妹の勉強を見てくれました。

2歳差で慌ただしさはありましたが、アントレに支えられて家族全員で中学受験に向かった日々はとても貴重な時間でした。

【娘のこと】

おしゃべりで手のかかる息子とは対照的に、娘は小さな頃から口数少なくいつも落ち着いていて、感情的になることがほとんどありません。

特定のお友達を作ることはないけれど決して人嫌いという訳でもなく、来るもの拒まず去るもの追わずのスタンスで、学校でも塾でも基本的には一人で過ごすことを好んでいるようです。

性格は繊細さと大胆さが同居し、実はちょっと皮肉の効いた表現が好きで、シレッと毒を吐いたりします。でも心根は優しいので面白いお友達や出来事には愛着を持ち、こっそり人間観察をしたことをヒントに小説を書くことが趣味のようです。

勉強中のはずの様子をふと見るとなぜか読書や執筆に没頭し、勉強が忙しくなったらは隙あらばサッと読める小学生新聞(注意されづらい)を眺めているという活字好きです。

【娘と国語】

幼少期の娘は思っていることを上手く言葉に出来ない様子だったので、心配でした。

何も喋らず読書に没頭していた私自身の幼少期と重なる部分があったことから、平仮名に始まり簡単な文章を読んで話せるところまでひとまず導こうと考えました。

もし本が好きならそこから自由に娘自身で世界を広げていこう、という思いもありました。

あくまで私見ですが、国語力はあらゆる学習の土台であり、第一言語の強化なくして第二言語のレベル向上もないと思っています。

娘も楽しそうに取り組んでくれたので、アントレ入塾前は市販の問題集で論理国語、その他にもごく短い読み物的な文章題などをやり、読解の基本を身につけました。

話す力については、日々の出来事、世間の本音と建前なこと、時事ニュース、どこかで見かけた人生相談、私が読んだ本や観た映画の感想など、あまり子供向けではないように思える内容でも、表現や語彙を選

びながら話題を振り、娘の返答を待ちました。

ただ私が娘と話したかったことが理由ですが、振り返るとこういったやり取りの積み重ねがのちのち役に立ったように思います。

4年生の頃の初面談で、入塾当初からの担任だったフンチャン先生から「国語が得意ですねえ。」とお褒め頂きました。

その時はあまりピンと来ませんでしたでしたが、娘の表現はどんどん洗練されていき、一番得意な科目になりました。

先生方のご指導は素晴らしいです。

【学校見学】

3年生の頃に本人が気になる富士見を早々に見た上で、成績のレベル感が見えてくる4～5年生にかけて、自宅からの通学が1時間位までの学校(跡見、学習院女子、大妻、立教女学院、吉祥女子、都立大泉)の説明会に参加しました。

それらの中で娘が同じくらい気に入った学校が富士見と学習院女子で、6年生の春頃にはこの2校の受験を意識するようになりました。

【受験プラン決定】

学習院女子は娘にとってちょっと厳しいかな?と思っていたので、大事な2月1日にどちらを受けるか悩ましいところでした。

過去問を進めると同時に、折に触れて富士見(管理型)と学習院女子(生徒の自主性重視)について話し合いました。

娘の気持ちは揺れ動いているようでしたが、入試が近づくにつれて「面倒見の良い学校が良いな。」と言うようになっていきました。

この時期、自己管理の求められる学校で成績が低迷している兄の姿を見ていたことも、少なからず影響したのではないかと思います。

そして1月に開智所沢の合格を頂いたことが娘の自信となったのか、「気持ちはどちらかと言えば富士見にある。でもここまで学習院女子のしんどい対策を頑張ってきたから、2月1日は学習院女子を受験したい。2月2日は富士見を取りに行く。どちらに行くかは合格をもらえたときに考える。」と言ったので、受験プランが決まりました。

【進路の決断】

幸運なことに両校から合格を頂き決断のときがやって来ましたが、事前の想定通り悩む時間は一晩しかありません。

両校の比較表を作り改めて様々な観点から考えるように伝えましたが、通学時間が短いことに加え、全員が大学受験するところが特に良いとのことで、最終的な娘の選択は富士見でした。

学習院女子対策をずっと頑張ってきたのに本当に良いの?と何度か問いかけましたが、手続き期限まで娘の意思は変わりませんでした。

親として葛藤がなかったと言えば嘘になりますが、娘自身で得た選ぶ権利です。

娘が通う学校なので、何よりも本人の決断を尊重しました。

娘の決断に寄り添い、これからも応援していきます。

【アントレでの心に残る言葉】

面談で担任のフンチャン先生にいつも一人でいる娘が心配だと相談したところ、「弱いから群れるんです、一人でいられるのは強いからです。」という娘に寄り添ったお言葉を頂きとても救われました。

この言葉を私から聞いたとき、娘もとても嬉しかったそうです。

あと、学習院女子の国語の件でラクダ先生に相談したときに、娘の答案を見ながら「解答の日本語に破綻がないから、国語が独特な学習院女子も可能性があるのでは。」と言って頂いたことも有り難かったです。

そして受験当日にプーサン先生に「Aクラスで特に落ち着いている。」と笑顔で送り出して頂いたことが、娘の心に響いたそうです。

娘にアントレ名言を聞いたところ、息子の最後の保護者会でのタケノコ先生の「最後はパッションです!」を挙げました。

いつも冷静なタケノコ先生の激励には心が熱くなりました。

他にも沢山ありますが、先生方の生徒をよく見て掛けて下さる言葉に、何度も助けられました。

【おわりに】

アントレでの6年間を振り返りながらこの受験体験記を書き綴ってきましたが、最後に何を書こうか思案していたところ、受験直前に娘がつぶやいた言葉を思い出しました。

「何年もかけてやってきたことの結果が、たった数日で決まってしまうのは物悲しいよね。」

この言葉を聞いたとき、「例え結果が出なくても、今まで頑張ったことが消えてなくなるわけじゃない。ずっと自分の中に残るんだよ。」と私は答えました。

言うまでもなく、中学受験は一つの区切りであり、これからも人生は続いていきます。

アントレと共に歩んだ日々は段々と過去のものとなっていきますが、この濃密だった時間は人生の折々で私達家族の心にふと浮かんでくるのだらうと思います。

アントレの先生方、大変お世話になりました。

6年間ありがとうございました。

末筆ながら、先生方のご健康と、新校舎での益々のご発展をお祈り申し上げます。

U. S. さんのお父様

2年前に卒業した息子も含めて6年間、アントレの先生方には大変お世話になりました。

中学受験を通じて子供が大きく成長しただけでなく、親としても気付かされることが多く、自らを見つめ直す機会もいただいたように思います。本当にありがとうございました。

自らを見つめ直した結果、自分の経験を一般化するのは無理があると気がきました。と申しますのは、2年前の息子の受験でSクラスの白板は履修済みです。四谷大塚の過去問データベースで算数は数十校解いています。作問もしました。受験業界ではないですが、仕事でテストを作って大量に採点したこともあります。特に資格マニアではありませんが、試験は好きです（ちなみに、覚えることは全く得意ではありません。自分の記憶は信用しない）。

そういう人間が自分の中の普通を書き連ねますが、普通ってなんなんですかね。

というわけで、以下の内容も、偉そうに知った風な口を利いたり、議論のある内容を持ち出ししたりしますが、その度に断りを入れるのもテンポが悪いのであらかじめ申し上げておきます。お気を悪くされたら申し訳ありません。

合いそうなご家庭の参考になれば幸いです。

クラス：3B→4B→5A→6A（国語S）、入試演習は中堅上位→女子上位

入塾理由：兄が通っていた←そもそもはカッシー先生のブログ（倉庫）を読んで

受験校：開智所沢、学習院女子、富士見

趣味：文芸。ゲームはしない

習い事：ピアノは6年の12月まで継続、1月はお休み

父の担当：月水金の迎え、模試と入試の送迎、算数、国語の採点、模試と過去問の直しなど

【目次】

手間をかけるとは／模試の使い方／受験校選定／学習院女子の国語と算数／入試演習のクラス／1月の開智所沢／2月の受験と進学先／受験体験記Extra…2年前に卒業した武蔵の子は今

【手間をかけるとは】

「手間をかけるか金をかけるか、そうでなければ諦めるか」。

言葉はもう少し選んでいます、私は普段からよく口にしています。

いきなり何の話なのでしょうかね？ちなみに、今回は子供の教育の話です。

「手間をかける」と、「苦勞する」は同義ではないことに注意してください。

苦勞したところで、努力の方向性が違えば成果は薄い。

では、手間はいつ、どこでかけるのか？

まずは、勉強習慣を作るところ。

幼少期から小3～小4あたり。机に向かうことではなく、探求心を育てる、本を読むなど。

次に、算数とともに成長するところ。これは2年前に詳しく書きました。

親もある程度白板ができると便利ですが、できなくても心がけたいのは、○の数では評価せず、書いた跡に着目することです。

5年後期や6年前期に1行で止まっていた解答が、6年夏期講習では惜しいところまで書けていたり、6年の冬には○がもらえたりしている。

これらの変化を見守ることは、客観的に成長を実感できるうちのひとつだと思います。

そして、模試や過去問を直すところ。これも上に同じです。後で書きますが、まあ時間がかかります。午前に4教科をやれば、その日の午後は確実につぶします。

これらの手間が苦痛かどうかは人によって差があるでしょうが、私の中では、「子供のため」という言葉は使わないことにしています。

「そうあった方がよさそうだから」そうすると決めている。

こう考えると、自分のとる行動は子供の態度に左右されません。

まあ、完璧超人ではないので怒ることももちろんあるのですが、親もまた成長の途上ということで。

お金をかけることについては、上記を外注することとらえていますが、アントレ以外にかけていないのでコメントできる立場にありません。

個別もとっていません。特に勧められてもいません。

【模試の使い方】

親自身も、データの扱い方を学ぶ「手間」をかけると、心穏やかに過ごせると思います。

模試（以下四谷大塚の合不合判定テストを指す）は、生かすも殺すも親次第です。

持ち偏差値だとか、3ポイント上がったとか、下がったとか、爆死だとか、SNSには悲喜こもごも。あれは遠巻きに見て愉しむもの。

いいですか、模試の得点は、あなたのお子さんを格付けするものではありません。

もちろん、取れた人はすごい！よかったね！でいいと思います。たぶん。

お子さんの「現時点の到達度」で、取れるだけの点を取ってくるゲームです。

500点が満点とはされていますが、実際には400点取れる子は稀有です（偏差値70前後、当該模試における上位2%。「中学受験をする全体の」ではない）。

Aクラスで算数ができる子だと、たぶん算数は120点満点くらい。そうでなければ100点満点くらいのもので、差分の30~50点分は、「50分という時間設定では」解けない、あるいは「現段階では」解けない、ごく一部は「大多数の中学受験生は」解けない問題群です。バカにしているのではなく、正答率1%の問題を平気で出してくる四谷大塚が××××（検閲されました）。

さて、それにひきかえ四谷大塚のレポートは割と優秀だと思っていて、同じ学校を受けた子の正答率も載っていますから、それが判明してから「みんなの正答率が高いのに間違えてしまった問題」をもう一度やるのがいいでしょう。

通常、正答率が低い問題では差がつきません。

復習しない模試は金と時間の無駄です。

当然、各回の偏差値も気にしていませんでしたが、四谷大塚であれば「6回の平均」はある程度受け止めた方がいいです。まんべんなく問題を出しているはずなので。

我が家は見事に6回ともほとんど変わりませんでした。つまり、上振れも下振れも少ないので、いわゆるジャイアントキリングも取りこぼしも起こりにくいと見積もられる。

実際の試験でどう転ぶかは、その後の伸びや、学校との相性などもあります。

模試と同じ難易度構成で出題される学校もありません。

【受験校選定】

偏差値で学校の良し悪しを語る意図はないことははじめに申し上げておきます。

当初から富士見を目指していましたが、3・4年の面談ではフンチャン先生にもっと上を狙えるよと仰っていただきました。

アントレに通わせる主眼は「中学受験を通した成長」ととらえていて、そうすると、Aクラスで富士見を目指すのはいわゆる「コンフォートゾーン」での勉強になってしまい、伸びが悪くなるおそれがある（注：アントレのカリキュラムは、生徒により感じ方が違うはずですが、そもそも娘は算数で白板の○が少なくまとめテストで点が伸びなかった時期に、Bクラスへの移動を勧められたことがあります。国語Sがもったいなかったのと、本人の静かに強気な性格から、Aでお願いしましたが）。

「ストレッチゾーン」での勉強を促すためには、もう少し「受験難易度として」目標は高い方がいい。かといって、ちょうどいい志望校候補が通学範囲には少なく、Sクラスで目指すような学校を目指すのは明らかに「パニックゾーン」での勉強になりよくない。

いくつかの学校見学の末、得意な国語で勝負できそう、文芸部がある、敷地が広いなど、憧れる点も多い学習院女子中等科を目指してみようということになりました。

【学習院女子中等科の国語】

過去問をご覧になればお分かりになるように、学習院女子中等科はとにかく国語の記述が書けないと話になりません。

そして、学校説明会では、「入学してからはより一層書かせますよ」と、定期試験の解答用紙のスライドが示されます。これは、書くのが好きじゃない子はご遠慮くださいね！という、学校からのメッセージと受け取りました。

（注：桜蔭も「弁当箱」で知られるようにほぼ記述ですが、そちらは分析していません）

先ほど娘は国語が得意と申しましたが、小4くらいまでは、娘とは毎週のように図書館に行っていて、私と娘の借りられる上限くらいまで本を借りてきて読んでいました。

おそらく、いい影響があったことでしょう。

しかし、本を読むだけでそうなるわけではないことには注意してください。

小学校の早い段階で、妻が論理国語をやってくれていたことはかなり大きいと思います。

さて、説明会で学校の先生に採点について聞いてみたところ、

- ・幅がある採点で、減点よりも加点方式（注：減点しないとは言っていない）
 - ・抜き出しは評価が低い（＝自分の言葉で書く）
- とのことでした。詳細は一切答えられないようです。

私たちの解釈では、

- ・聞かれたことに適切な形で答える
- ・主語と述語を対応させる
- ・論理を破綻させない
- ・自分の表現で言いかえる

これらに注意して答案を作ることが求められていると判断しました。アントレで習いますね。大人びた考えを読み取って書ける女子はポイント高いと思います。

アントレとの面談はだいたい半年に1回、担任の先生（3・4年はフンチャン先生、5年からはプーサン先生）にお会いするだけだったのですが、今回ばかりはラクダ先生にもお会いする必要があると思い、面談して教えていただきました。

なんと、過去問を出している会社ごとに解答が違うということです。は？

学校配布の冊子で解答が一部の問題だけについていますが、全部ではありません。しかしよく読めば、他の問題のヒントらしきものも書いてあります。「問題を解き進めることで理解が進んでいく」ように作問されているとのことなので、採点する親は読まねばなりません。

手に入るなら学校配布の冊子を早めに手に入れましょう（過去分はアントレに相談）。

また、アントレでは記述を「要素ごとに採点」するように訓練されます。

以下は、子供がよく訓練されていることを前提としての話です（加えて、採点者も要素採点を理解していることと、ある程度受験に長けていること。現代文が不得意だったという方は厳しいと思います）。

学習院女子では、あえて「雰囲気採点」を取り入れました。

学校解答では、要素採点が成り立ちにくいのです。このくらいでもいいのか、こんなことまで読み取ってしまっているのかと思うことが頻発します。ただし、最大公約数的に、最低限入っていないといけないニュアンスはある。

「この言い回しは秀逸だし、解答にはないけどそういう考え方もあるよね、矛盾してないよね、感情と要点は押さえているよね、じゃあよし！」

「ここからここまでは評価できる、しかしこのポイントは触れたほうがいい、何より聞かれたことに答えられてないから半分以下だな」

「誤字があるし、ここは本文から明らかに間違いだから、要素は全部入ってるけど満点にはできないね」

〇〇ちゃんかわいいから満点ね！とかキモいことは論外。

子供には学校解答優先＋声教解答（±四谷データベース）の複数の解答から要素採点をしてもらい、私の採点とすり合わせて、最終的には子供に点数を決めさせました。結局中間をとることが多く、差し引きはそこまでずれません。

そもそも、採点基準も配点も公開されてないんです。

アントレで学んだ技術を使い、表現は洗練させていく。あとは潔く採点者に委ねる。

ですから、採点の際はお覚悟なさってください。読むのがしんどい回もあります（平均点も低くなりがち）。問いには学校の意図が感じられる気がしますし、大人も考えさせられるところがあります。

また、大変だからといって、全ての採点を教員に丸投げしないように！自分たちでやった採点の、自信のない部分を持っていくようにしましょう（保護者会でも言われます）。

ちなみに、学習院女子をやった翌週に他校の問題をやると、採点が一瞬で終わるので幸せな気持ちになります。人生には適度なストレスが必要。

【学習院女子中等科の算数】

2009年まで遡って解いた上での感想では、難易度のブレが結構ある印象ですが、6年夏季講習の白板を固めれば十分対応可能なレベルというか、この問題白板で見たことある！が散見されます。

算数でAクラス上位以上だったら8割くらいは余裕で取れそうですが、うちの子は不得意な分野もちょこちょこあったので、相性の悪いセットでは若干不機嫌そうにしていました。

特徴的なのは、

- ・コンパスと三角定規で図形の作図+計算の問題

作図は、図形を点中心に回転させたものは頻出です。

作図は大人がみてください。垂直、二等分線がコンパスでとれますか？そもそもコンパス回せてますか？時間をかけずにできますか？フリーハンドで書いた方がうまくできるのがアントレ生かもしれません。

- ・グラフを書く問題
- ・調べ問題

これらがいくつか出る年もあれば、今年（2026年）のA日程のようにほとんど出ない年もあります。作業量も年によってまちまちです。

また、

- ・部分点がある：「補助線1本でも加点する」とのことでした
- ・丁寧な答案：①算を使うにしても何を①としたとか、全体の仕事を④とするとかは書いた方がよさそう
- ・1問当たりの配点が高めなのに難易度が極端なことがある

誰が間違えるんだ？なんか見落としてないか？と困惑するレベルの簡単な問題がある一方で、たまに受験層から大幅にずれていそうな高難易度の問題が置かれることもあります（連問の最後が多いです）。合格最高点からすると数人も解けていないのでは？と思います。捨てましょう。どれか分からなければ、子供からアントレに質問してください。

書いてて思ったのですが、自分が算数をやりすぎるせいで、子供が指導員に質問する機会を奪ってしまっていたかもという可能性に気がきました。

どうしても学習院女子に行きたいけど国語が苦手、算数で戦いたい！という子は、12月ごろに難問以外でフルスコア近くを目指したいところです（各回合格最高点）。算数のAクラス上位以上ならいけると思います。

もっともその場合、受験者平均が高くなってしまった年はピンチですが…

ちなみに、理社はアントレにお任せでした。コアプラスを回すのもいいのですが、まともな流れの点では夏期講習のプリントもよいかもかもしれません。

【入試演習クラスの選定】

はじめは富士見が目標+初回から打ちのめされてもとは思ったので中堅上位クラスを選定しましたが、学習院女子を本気で考えるなら記述の多い回は女子上位に出たいと思い、アントレに相談しました。

記述の多い回のみに出るつもりでしたが、結局6回目くらいからは全部女子上位を受けてもらいました。

女子上位は吉祥女子あたりの想定のように、合格判定をもらえないことも当然多かったです。本人の悔しさは別として、親としては本人の得点力が上がっているならそれでよしとしていました。

具体的には、算数は他の子と比べてできなろうが、致命的な点数でなければたぶん国語で取り返せる。ダメージコントロール算数とでもいいでしょうか。50点でもなんとかなる。それ以下だと、平均にはよるがちょっと厳しい。

とにかく国語の出来だけは安定していたので思えたことでもありますが。

この心境は、2年前の息子の武蔵演習クラスとは全然違いました。あっちは合格率に直結です。

【1月の埼玉入試：開智所沢】

上の子は栄東でしたが、学力的にも通学距離的にも、開智所沢の1回目（±2回目入試）を受験することとしました。受験方式は毎年細部が変わりますから学校の案内をご参照ください。難易度がそれぞれ違います。一度は模試で会場に選び、説明会も聞かれるとよろしいでしょう。

埼玉入試の出願開始日は、ミライコンパスも重くなるどころか順番待ちが発生して、決済画面をクリックしてから追い出される始末でしたので（申し込みは完了していたようですが）、仕事に出願するのはちょっと難しいかもしれません。

2年前の栄東は試験終了後の退場が受験番号順でしたが、開智所沢は会場到着順でした（朝に入った順に

席が指示される)。早く出した意味があんまりなくて残念。

3000人も来るので、混雑は予想されていましたが、なんと当日は時間に全員が揃わず試験開始時間が遅れる始末でした。ちなみに終了時の退出オペレーションも悪く、東所沢駅も入場制限になるくらいなので(運よく免れましたが)、さいたまスーパーアリーナにすればよかったですと悔やみました。

それも含めて1月校の受験ですから、「何があっても想定内」と大きく構えましょう。

得点開示+全体の得点分布が出るので、難易度の調整された合判#7くらいに感じます。国語でアドバンテージをとっていくスタイルを再確認した回でした。娘自身も、進学先としてそこまで悪くないと思っていたようなので、その点はよかったです。

【1月受験後から2月の受験】

3学期の小学校は、始業式に出てからお休みさせていただきました。

直前に胃腸炎やインフルエンザが流行りました。息子の中学でも休みがちらほら出て、学校を休ませるか悩ましかったのですが、ちょうど学級閉鎖となっていました。我が家は特に罹患しませんでした。

アントレでご用意いただいたZoom自習室も活用しました。

学習院女子の出願は少し早く、かつ面接代わり?の志望者シートがあります。説明会に行けば書き方を教えてくれます。特にかしこまりすぎる必要はなさそうです。

富士見は直前まで出願できますが、初日のみ少し締め切りが早いです。

出願に際してのタイムスケジュールは、12月までにはまとめておきましょう。

また、娘には、「2月3日まで必ず受験するものだと思いなさい」と言いました(志望校によって日付は変わります)。

武道では「残心」という言葉があるように、決まった!と思っても油断せず、次の動作に向けて構えを取る。1・2日で終わらすすもりで臨んだとして、そうならなかったときに立て直すのは大変でしょう。リラックスはしてよいが、緩め過ぎない。結果的に2/3を受験しなくて済むならそれでよし。

そして、勝利を確信して送り出す。しかし最悪の事態は想定する。それは親の仕事。

2月1日は日曜日で、サンデーショックとは言われますが、特に悪影響はありませんでした。電車も座れていい感じです。Zoom応援では、プーサン先生とカピバラ先生に笑顔で送り出していただきました。

学習院女子は問題の縮小版をもらえます。もちろん答え合わせはせず、娘には何も告げずですが、帰ってから勝手に解きました。なんと作図なし、場合の数なしと、苦手分野がほぼないという理想的なセットでした。結果が出るまで何も言いませんでしたが、娘もそう感じていたようです。

2月2日の午前は富士見の2日目入試を受けています。午後に算数1教科も受けるのですが、体育館に用意された昼食場所は使わず、歩いて10分少々位置する富士見台のジョナサンまで行きました。妻に先に入ってもらっていたのでスムーズでしたが、そもそも近くに私立中学がないので受験生もほぼおらずゆっくりできます。人の少ないほうが好きな方、歩くのに抵抗がない方はおすすめです。

富士見の算数1教科の開始前に学習院女子の発表がありますが、それは見ずに算数1教科に行きました。これもたまたま相性がいい回だったようですが、過去問では30点台も叩き出していたのと、学校は違いますが2年前の息子の巣鴨の算数1教科で異常に高い合格最低点・平均点だった経験もあったので、合否は学校の匙加減ひとつだから期待しすぎず、謎解き感覚でやっておいでと話しました。

結果としてはいずれも入学の許可をいただき、ありがたいことでした。

家が近ければ学習院女子に行っていたと思いますが、やはり通学距離・通学時間はかなりのネックです。電車が別に好きなわけでもないのに、2倍以上違うのはしんどい。

また、学習院女子は親も含めて自分で考えて動くことが主体で、富士見はいろいろと面倒見がよさそうなのは分かっているつもりでした。そしてそれは、入学試験時の学校の先生方のあり方や、入学手続きの書類を通して、一層色濃く感じられました。もちろん是非はないですが、個々の合う合わないはあるでしょう。

最終的には本人が選んで、私は入金するのみです。そして、一連の手続きが終わらないと受験は終わりません。合格発表をみて喜ぶのは一瞬で、入学手続きを完了するまでは気を緩めないでください。これだけは失敗が許されません。

制服の採寸もあるので、学校での手続きは妻に行ってもらいました。そこから妻と娘が帰ってきて、ようやく一区切りです。

受験が終わり学校に行きはじめ、さっそく娘の図書館行きが解禁され、また大量に本を借りてきました。娘には、己の選択に恥じぬよう、楽しみながら学んでくれることを期待します。

【受験体験記 Extra 2年前にアントレを卒業した武蔵の子の今】

最後に、2年前にアントレを卒業して武蔵に入った息子の話をします。一言で言うと、「志望校に入れたら終わりじゃない」。

親の最目目ですが、彼には多彩な能力があると思っています。しかし、それはだいたい試験で測れない。そして、試験で測れる能力が低いと、大変困るわけです。本当に。

中学くらいだと、勉強ができる「だけ」では一目置かれぬ風潮があるだろうことも、なんとなく分かります。一芸に秀でた奴がすげえ、みたいな。

武蔵は管理型教育ではありません。武蔵があまりうるさく言わないのは、武蔵に入れるくらいの成績の間であれば、自分で勉強しないとイケないことくらい、黙ってても分かるよね？ということでしょう。

私の経験からすると、中学ごときで追いつけないことがあるものか？と当初は思っていたのですが、昔と今は教材の質も量も違います。今は良質な教材にみんながアクセスできる分、最低限やるべきラインはかなり上がっている。

そして、量が多いせいか、定着に必要な反復は学校ではできないと思われ、これはもう自分でやるしかない。田舎の公立中でテキスト見開きに1週間かけていた時代とは違うのだなあと感じます。

私が中高で期待することは概ね下記のように考えていて、どれも欠けてほしくはない。

- ・体力をつける
- ・仲間に出会う
- ・それなりの学力をつける
- ・その年代で履修すべき体験を履修する（いいこともそうでないことも、社会のルールを範疇で）

そして、積み上げ教科の勉強は習慣によるものが大きい。

彼が中学受験を頑張ったのは武蔵に入りた一心だった。じゃあ次は？となると、今のところ学習動機が弱いのが問題ではあります。しかし、動機が降りてくるのを待ってはいは再起不能です。

勉強面で切磋琢磨できる友人に恵まれるのは完全に運で他力本願です。

動機がなからうが、最低限の仕事はしないとイケない。

そういうわけで、親が手を放すタイミングは注意です。

補助輪をつければ、遅いかもしれないけどある程度まっすぐ進む。

補助輪がなければ、武蔵生は自由で速いです。とんでもないところに行きうる（行った）。

彼は今まさに、猿山の奥地から補助輪をつけて道に戻ろうとしているところです。

早くメインルートを見つけれられますように。

武蔵ディスと感じた方がいらっしやいましたら、そうではないことをお断りしておきます。むしろ、環境と先生方の対応はととも好ましいと感じています。可愛い子には旅をさせよ、みたいなのを地で行きます。

【おわりに】

いろいろと偉そうに書いてきましたが、私自身は日々の「実行の監督」を課題とするところがあり、思いつきはするのだけれど、例えばそれを子供にやらせて直しまでさせたか、というのを毎日毎日繰り返して確認するコマンドは弱いです。

あと、食事と睡眠は十分に。睡眠時間を削って何かをやらせることは、パフォーマンスが落ちるだけでなく、成長の問題にも関わります。

また、自分は大した苦勞もせず（時間は費やしてはいますが）、中学受験のおいしいところだけをさらっていったような気がしていて、普段から生活と塾通いを支えてくれていた妻にはとても感謝しています。

長々と乱筆乱文で失礼いたしました。

最後になりますが、アントレの指導員の皆様のご健康をお祈りしております。

W . R . くんのお母様

4年生から今まで長かったような、あっという間だったような中学受験生活が終わり、宿題はやったの？計算は？テスト勉強は？漢字は？！と息子に当たり前のように言っていた毎日がなんだか懐かしいような寂しいような気持ちです。

本人は、塾に行くのを一度も嫌と言ったことがなく、楽しくアントレに通っていました。

長い夏期講習、冬季講習も嫌がることなく楽しく通えたのは、アントレの仲間、先生方のお陰だと心から感謝しております。

ありがとうございました。

【中学受験・入塾のきっかけ】

私は中学受験は経験したことがなく、むしろ勉強嫌いな小学生でした。

毎日、公園で遊んでいた私にとって、我が子が中学受験をするなんて思ってもいませんでした。

旦那は中学受験経験者で、受験してよかったと以前から言っていました、

私は反対。

当時、少年野球を頑張っていたのもあり、中学から勉強を頑張って高校受験すればいいのでは？と思っていました。

そんな中、周りのお友達のお子さんが中学受験をして私立での学校生活の話を知ったり、色々中学受験について調べていくうちに、

多感な時期に、のびのびと学校生活を楽しんでほしいな。可能性を広げられる学校に中学から通ってほしいなと思うようになりました。

私の1番仲の良いお友達のお子さんが、楽しくアントレに通って受験をしたのをずっと近くで見っていたので、中学受験するならアントレ以外考えられませんでした。

他の塾は調べもせず、すぐにアントレに電話。

そして、授業体験を申し込みました。

本人は言われるがまま、私に連れられ、アントレへ。

教室に入り、私と別れる時は、塾という雰囲気へのまれ、半泣き状態。むしろ泣いていました。

体験が終わって「どうだった？」と聞いても、「まあーねー」とわかっていない様子。

これは行きたくない！って言うかな？と思っていましたが、なんと一くだしまだまし入塾させました。まずは塾に慣れること。野球をやりたいということ優先で、4年生の冬までは、国語と算数の2科のみ。5年生になるタイミングで、4科に切り替えました。

【4年生～5年生】

最初の頃はまず、白板に慣れることが親子共々大変でした。本人はまず、字が汚い。本当に雑で、これは最後まで悩みました。

1なのか7なのか、4なのか9なのか。

本人もわからない。だから計算ミスをする。白板問題を持って帰ってきても、大人が読めないの、何て書いてあるのか、まずはそこから。まるで謎解き。

本人もなんだっけ？となる。急いで書かないと間に合わないからゆっくり書けない。しょうがないんだよ。という本人の言葉を信じていましたが、

お休みした日に、同じクラスの子の白板のコピーを貰ってきた時、あまりの綺麗さにびっくり。何回言っても最後まで直りませんでした。

4年生の終わりまで、少年野球をやっていてキャプテンを任せていただいたこともあり、土日は朝から晩まで野球。旦那もコーチとして同行していたので、2人してクタクタ。土日に白板のやり直しなんてできる元気もない。平日にちょこちょこやるだけで、振り返ってみると全然、4年生は勉強に向き合っていなかったなと思います。

5年生になり、野球を辞めて、何となく勉強のペースが掴めてきました。

土日は白板のやり直しと算数予習に丸一日使いました。算数は旦那担当。

平日は計算、漢字や理社の予習やテスト対策。こちらは母が担当。

ここで問題が。

土日の算数の白板やり直し、予習は旦那の役目なのですが、2人の関係が最悪に。

旦那が本人に普通に教えているだけで、本人が泣く。わからなくて泣く。注意されて泣く。そして泣き止まない本人に旦那がちよっといらつく。

また泣く。。。負の連鎖。

きっと、勉強以外では、同じ目線でゲームをしてくれたりふざけたりしてくれる「パパ」が、勉強になると上から目線になるのが、本人的にはちょっとむかつくし、怖かったんだと思います。

旦那にも反省するところはあったと思います。

私は勉強が出来ないほうなので、

2人の勉強の様子を見て

「さっきやったでしょ？」とか、「また間違ってる。こうじゃない」と言われても、いやいや、分からないから間違えちゃうわけで、そんな強く言わなくても。と感じるところは多々ありました。

そこはまず旦那を教育。

最初こそ、2人の関係はうまくいっていませんでしたが、本人も聞き入ることができるようになり、旦那も言い方を工夫してくれ、何とか2人で算数を頑張れるようになりました。

その頃から、だんだんと白板で丸をもらえることが多くなりました。2問しか間違っていなかったよ！と嬉しそうに帰ってきたり、今日はダメだったなーとやり直しも意欲的にやっていました。旦那が見れる日は、その日のうちに白板をやり直す。そして週末もう一回。そうやって、一個一個確実に理解するようになっていきました。

本人が目指す中学校は、基礎問題がほとんど。あまりひねったような問題は出題されなさそうだったので、とにかく基礎を確実にしていくのが目標でした。

【6年生】

本人は、算数と理科は得意。

社会と国語は苦手なタイプです。

国語の読解力がないので、聞かれてることがわからない。心情が読み取れない。

漢字が嫌い！とどうやったら少しでも国語が伸びるのか？苦手意識がなくなるのか？とずっと悩んでいました。

フンちゃんに相談して、6年から、個別をお願いすることにしました。そこで、短い文章題をやったり、漢字を復習したりと、少し苦手意識がなくなったと思います。

社会は、受験体験記を読むと、みんなコアプラスを何周も！コアプラス大事！と書いてあったのを思い出し、コアプラス中心に、テストをやり直ししたりしました。

覚えたのはいいが、漢字で書けないという問題にもぶつかりました。いつも漢字が嫌いでひらがなばかりで書いていたので、そこにも苦戦しました。

算数は、塾のお友達と白板の正解率を競ったりして、楽しんでいました。

。。。が、いつも授業態度が✖。

私語が多い。うるさかったのだと思います。同じクラスの子に迷惑をかけていないか心配でした。

でも、同じクラスのお友達のおかげで、6年生の長い夏期講習も、土曜の演習クラスも、辛い冬季講習も乗り越えられたのだと思っています。

【1月受験】

1月11日 星野学園 合格

1月13日 狭山ヶ丘中学 合格

我が家の考え方として、安全校とか、お守り校とか、そういうのではなく、どこの中学に行っても第一希望だね！と言えるような学校選びをしました。

なので、埼玉の学校も何校か見て、本人が行きたい学校を選びました。

今から思えば星野学園の合格を見る時が1番緊張したし、合格を頂いた時、1番家族全員大喜びをした合格でした。

初めての受験、合格を取らせてあげたかったので嬉しかったです。

始業式から、学校を休ませていたので、1月の合格をもらってからの約2週間、家でダラダラしていた時間が長い生活になりました。

10時ぐらいまで寝て、過去問やってお昼食べてお昼寝。。。

あれ？最後の1ヶ月が1番勉強する時期じゃないの？1番伸びるんじゃないの？と思っていましたが、我が子は違かったようです。

でも、過去問を11月ごろから始めて、最初は全然点数が取れず、合格最低点まで遠い。これは大丈夫なのか？と心配していましたが、冬季講習を経て、頭の中でパズルが繋がっていくような、ぐんと社会と国語の知識が上がりました。

点数に現れてくると、本人のモチベーションも上がり、理科ではほぼ60点満点取れるような年も出てきました。

【2月受験】

本人の志望校は、共学であること。

雰囲気明るいこと。

親の志望としては、本人が無理して入れる学校ではなく、適正校であること。

家からなるべく近いところ。共学。

5年生のうちに、いくつか、学校見学、学校説明会、文化祭などを見に行き、日大二中、東京電機大、武蔵野大。

この3つに絞られました。

その中でも1番本人が気に入ったところは日大二中だったので、2月1日午前は日大二中に。

午後を武蔵野大にするか、電機大の算数1科にするか迷いました。フンちゃんに相談すると、

1日の午後の電機大は、もっと上のレベルの子が受けにくとのこと。

塾に電機大の2回目の算数の過去問があるのでやってみて点数が取れそうなら電機大にしてみても？と提案して頂きました。

電機大の過去問は本人は相性がとても悪く、いつも合格点ギリギリ、もしくは下だったので、どうかな？と思っていました。

2回目の算数過去問をやってみたところ、

66点。過去の合格を見ると平均72点。

これは難しいと思い、午後は武蔵野大2科にすることにしました。

2月1日 午前 日大二中

午後 武蔵野大

2月2日 午前 電機大

午後 武蔵野大

2月3日 午前 日大二中

2月4日 午前 電機大

2月5日 午後 電機大

このスケジュールで出願しました。

本人は日大二中の次は武蔵野大が第二希望ということだったので、日大二中の次に武蔵野大メインで組みました。

【受験当日】

そしていよいよ2月1日。

付き添いは旦那が行きました。

私がいくと心配性が全面にでて、本人に悪影響ということで私は下の子とお留守番。神社へ行ったりそわそわして過ごしていました。

本人は、アントレの先生のZOOMに元気をもらえたそうです。とにかく落ち着けと、緊張感を持っていつもと同じことを言われたと。

日大二中の試験が終わって出た時は出来た！と言ってたらしいですが、お昼を食べてる時に、旦那が採点をしたら、算数55点。

いつも過去問では70点以上、得意の算数で点数を稼ぎ、苦手な国語をカバーするという対策だったため、ちょっと不安に。

午後の武蔵野大は手応えがあったようです。

その日の夜、合格発表。

日大二中、武蔵野大と無事、合格をいただきました。

本当に嬉しかったです。

2月1日に第一希望の学校の合格をいただきましたが、せっかく2年間、勉強を頑張ってきたんだし、電機大の過去問もたくさんしたから、チャレンジしてみたい!と本人の希望で、3日、5日と電機大を受験しましたが、不合格で終わりました。

本人はやり切った!と満足し、我が家の中学受験生活は終わりました。

【最後に】

アントレの予習型の進め方に、最初は本当に苦労しました。まだ教わってないことを家族が子供に教えるということの難しさ。本人も集中力がないので、少し予習をただけでぐったり。予シリ算数の、例題3.4問までやるのが精一杯でした。わからない。と泣いていた本人も、気がつけば算数が1番の好きな教科、得意な教科になりました。これは本当にアントレの先生方が楽しく授業をして頂いたおかげだと感謝しております。

騒がしくて落ち着きのない本人に寄り添っていただいてありがとうございました。

アントレのお友達、個別の三浦先生、本当にお世話になりました。

これからは自分で選んだ中学で、楽しく、自分の望む道を切り開いていってほしいと思っています。

Y . K . さんのお母様

アントレ最後の日は、「あー！アントレ楽しかった。もう通えないのは寂しいなー」でした。それだけで娘の受験は大成功だったのかもしれませんが。兄からお世話になっている5年間のアントレ生活が終わってしまうと思うと母も寂しいです。兄妹揃って思いっきりアントレ生活を楽しんでいたのは先生たちのおかげです。本当にありがとうございました。勉強面でもサポート面でも胸を張れることは何1つもないのですが、5年間のアントレ生活の区切りとして体験記を書かせていただきます。

娘は、とにかく明るくて元気、ひょうきん、おしゃべり、マイペース。周りに気配りができる反面、集中力はなし。ふんちゃんに「あんなに明るい子が家にいたらお母さん毎日楽しいでしょう」と言われるくらい(笑)アントレ大好きで、勉強というより先生やお友達、個別の後藤先生と話すことが楽しくて行ってきましたが…

一方の母は精神的に本当に辛かったです(笑)一向に上に向かない成績(もはや下がっている?!)。合不合の結果も毎回(ものすごく)ひどくて、母と娘の秘密にして墓場まで持って行こうと約束したのも数知れず。

漫画とか小説みたいに、直前にエンジンがかかって“金の角”が出てくるかなーと期待していましたが結局最後までマイペースは変わらず、Zoom自習室も鼻歌を歌いながらやっているような感じでした。

よって母は入試2週間くらい前から毎晩“落ちる”夢を見て寝不足の日々・・・入試期間中でさえ、問題用紙を見て、「これ娘の苦手単元(あれ全部?)だわ、こんなの解けるわけないし…」と勝手に1人落ち込み胃がキリキリ痛む・・・そんな感じでした。

ただ定例テストや模試の結果が悪くても、母からのNGワード連発にもめげることなく真面目に“机には”向かっていました。やっているフリで理解まで及んでなかったと思いますが、机に長時間座る忍耐力は持っていました。母の心配をよそに、受験もマイペースにやってのけたので、気が付かない間に力を付けていたのかもしれませんが。

■勉強について

両親共働き、在宅&出社のハイブリット勤務、共に残業多め。特に母は、多々ある出張(海外)や土日仕事になることも多く1週間回すので精一杯の状態でした。週末に算数を見る、理社予習の丸付けなど最低限のことは行いましたが、基本は毎月勉強スケジュールを作り、それに沿って進めてもらうスタイルでした。そのため、早いうち(5年)から個別をスタートしました。娘と勉強をするとすぐケンカになってしまっていたので、我が家は個別にお願いして正解だったな、と思っています。

算数：家で白板復習はしていたのですが、ふんちゃんから「家で勉強してないかと思っていました！」と言われるくらい低空飛行。6年途中からB→Cクラスに(国理社はBクラスをキープ)。でも最後は苦手

単元の白板や4まを何周もこなし一生懸命頑張っていました。

国語：父親とよく本屋さんに行くため、家にはたくさん本がありました。勉強をさぼって漫画や小説に夢中になっていることも多々あり。国語が得意までとは言えませんが、文章に対する抵抗力がなかったこと、ことわざや漢字系が好きなのは日々の読書のおかげかな、と思っています。

理社：単元によりばらつきはありますが、過去問では算国2科より理社で点数を取って4科合計で合格最低点を超すことが多かったので、比較的安定していました。暗記系が好きな娘には、（とにかくお風呂が長いので）お風呂に暗記系を貼るのは正解でした。その他、SNSで暗記資料など投稿している人をフォローし、良さそうな単元は印刷してトイレに貼っていました。花まる学習塾「学習ポスター」も分かりやすくおすすめです。歴史はそもそも興味がなく（家に歴史本もたくさんあったのですが）、あまり効果がありませんでしたが…ダンディの年号暗記は覚えやすい！とよく言っていました。

■学校選び

娘は断然共党派。女子校推しのふんちゃんからも「本人さんは、いつも男の子とばかり話しているので、共学向いてそうですね」とお墨付きも？！娘の性格を考えると「のんびり、のびのびと」「先取り学習をしない」「校舎・校庭が広い」「いろんな体験をさせてくれる」こと、そして「通学時間」も重視しました。また、母が急に（英語ができないのに）英語を使う環境になり大苦戦していることや、語学ができると若いうちからチャンスが広がるのを目の当たりにし、「多彩な留学制度がある」学校も候補になりました。

■受験について

当初、娘の第一志望は成蹊でしたが、過去問がなかなか取れず苦戦。そこまで高望みをする必要はあるのか…と思う部分もあり、受験検討校のメリットデメリットを用紙に書き出し、娘の頭の中を整理させました。結果、比較的過去問でも点が取れる日大二中と明治学院が浮上。また都立大泉も受けたいという娘の希望も考慮し、2月1日、2日に合格が取れたら、3日に都立大泉、4日に成蹊にチャレンジすることとしました。

<結果>

- 1月10日 開智所沢・開智 W併願 ×
- 1月11日 AM 細田学園 ○ / PM 星野学園 ×
- 1月12日 開智所沢× 開智○
- 1月15日 開智所沢・開智特待B ×
- 2月1日 AM日大二中 ○ / PM明治学院 ×
- 2月2日 明治学院 ○
- 2月3日 都立大泉 ×
- 2月4日 成蹊 ×

<1月>

開智所沢をチャレンジ校として、説明会や文化祭で好印象だった細田学園（中3～高1にかけて1年の留学制度あり）と星野学園を受験。開智所沢は、合格最低点に数点足りず開智中のみの合格となりましたが、娘のガッツはすごいな、と感心しました。星野学園は過去問も取れていたのですが、移動時間がギリギリだったことや、集中力がない娘にはPM受験まで体力が持たず電池切れしたことも要因かと思います。2月も注意しなければと思えたので、1月受験で色々体験できて良かったです。

<2月>

・日大二中

学校選びの条件から理想的な学校で、活気のある雰囲気娘にぴったりだと思いました。1年の留学制度（留年せずに進級可能）があるのも魅力です。また、勉強面で苦労したので、大学受験を回避したい我が家。日大推薦（3割）以外に他大推薦（4割）が多く、将来の選択肢が広がる点も◎（日大付属校の中で一番他大推薦枠が多いそうです）。娘は学校の雰囲気と制服が気に入っており、実質の第一希望に。途中で志望校を変えたため、過去問は6年分程度ですが、娘が得意な漢字やことわざが多数出る＆理社も暗記系が多いので合格最低点を超えることが多かったです。模試の結果がイマイチだったので過去問が取れてほっとした記憶があります。本人朝から「自信がない」、試験後も「自信がない」と言うので、合格発表まで胃がキリキリしていましたが、無事1回目で合格を勝ち取ってくれました。

・明治学院

こちらも学校選びの条件にぴったりでした。ターム留学があるなど留学制度も充実。過去問6年分程度行い、比較的合格点を取れていたのですが、2科より4科受験の方が合っていることや、PM受験は集中力の問題もあり1回目は不安でした。結果2回目AMで合格。日大二中と迷いましたが、娘が日大二中に惹かれていること、私も両校のHPを見比べ、日大に通っている娘の姿が想像できたので、進学先は日大としました。

・成蹊

キレイで広々した校舎・校庭に生徒の雰囲気がとても良く、娘の憧れ校でした。“色々体験させる”校風が娘に合っているな、とも感じました。ただ過去問に大苦戦。算数が難しいおまけに、理社の記述問題も独特なので、最初の数回は“ぼかん”状態でした。唯一国語の記述は、アントレで鍛えられたこともあり比較的取れていました。個別で過去問直しを見ていただきましたが、なかなか厳しい戦いというのを実感。ただ悔いを残さぬようにチャレンジ校として2回目に受けることに。残念ながら不合格でしたが試験後に「私、成蹊受かって日大二中に行きたいかも」というくらい心が傾いていたので、結果良かったのかもしれません（笑）

・都立大泉

兄が通っていて、ものすごく学校生活を楽しんでいることもあり娘の憧れ校でした。面白い先生が多くて保護者会で声を出して笑ってしまうこともあり、母もとても気に入っています。ただ学力的にかなり難しいのと、私立勉強ですら全然回ってないので、両親大反対でした。しかし本人揺るぎないので、2月1日に合格が取れたら受けてもよい、と条件付きで受験することに。対策はほぼできず、テストの内容、時間配分を把握する意味で、過去問1回、模試2回（首都圏模試、早稲田そっくり模試）を受けました。大泉は結果がどうであれ悔いを残さないように受けたので、娘も満足したと思います。

■おすすめ

- ・宿題スキャナー：筆跡が消せるアプリ。有料ですがとにかく便利。復習対策におすすめです。
- ・A3コピー機：兄の時に購入し、過去問印刷に相当使い倒しました。もう母の愛すべき相棒ですね。
- ・朝日小学生新聞の購読：毎日のニュースがコラム的にまとまっているので、時事問題対策用に主要記事は娘にスクラップさせ、後で見返せるようにしました。
- ・学校情報配信サービス「スクマ」の登録：抜け漏れが多い母には受験直前はとても役立ちました。スクマはいまだに兄の学校も登録しているのですが、随時学校の情報が入ってくるので、受験後も大活躍です。その他、直前期は（お金で釣り）兄に過去問を中心に勉強を見てもらいました。母とはケンカになる勉強も、兄とは仲良く楽しそうに勉強していました。（もっと早く見てもらえばよかった…）

■個別の後藤先生へ

2年間大変お世話になりました。理解度も低く、無駄話も多く、やきもきすることも多かったと思います。でも娘は少し年上の憧れのお姉さんとの個別を心から楽しんでいました。あまりに好きすぎて、先生の大学の文化祭まで押しかけてしまいましたね（笑）娘の人生において、後藤先生と出会えたことはとても大きな意味があり、出会ってくださったことに感謝しています。これからの人生で親には言えないけど、誰かに相談したいこともたくさん出てくると思います。ぜひ力になっていただけると嬉しいです。

■娘へ

電車で高齢者が乗ってきたら即席を譲り、感動したおばあちゃんが（たまたま同じ駅で降りた）、わざわざ追いかけて来てくれて「ありがとね。あなたの気持ちがとても嬉しいわ」と言ってもらえたこと、小学校でヤンチャボーイズたちから、ちょっかいを出されている男の子を守ったり（普通逆ではないかと）、お友達が困っていると自分のことよりお友達のために一生懸命になれること。母が大変な時は「何かお手伝いしようか？」といつも率先してお手伝いをしてくれること。明学の2回目に、1回目も見かけ、2回目も同じ部屋で受験したりベンジ同士の名前も知らない女の子の合格（明学はHPに全合格番号が掲出されます&座席の位置でおそらく番号を把握）を確認し、「あの子も受かっている！良かったー」と心から喜ぶところ、そんな思いやりに溢れているあなたが大好きです。アントレの先生方からポロポロ出る、キコ列伝？！に母は恥ずかしくなっちゃいますが、それはそれで愛すべきキャラクターかなと。アントレの

先生方、こんな娘を暖かく指導くださり大変ありがとうございました。

人はそれぞれ得意不得意があるのに、あなたの性格を褒めるより、口を開けば勉強・勉強と言い続けてしまったこと、反省しています…これからは、あなたのその魅力を思い存分発揮して、楽しい学生生活を送ってください。勉強はそこそこで構いません（笑）

これから受験を迎える親御さんも、きっと不安なことがたくさんあると思います。私も不安だけでした。でも子どもって自分が思っているより、“自分の人生を自分で切り開く力を持っている”かもしれませんね。